

授 業 名	人間と仏教	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「仏教とは何か」	(学修内容) 宗教とは？仏教とはどのような教え？何故仏教を学ぶの？仏教を学ぶ基本中の基本を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) シラバスを読む (事後) 暮らしの中で、仏教に関わることをみつける。
第2回	「仏教から学ぶこと」	(学修内容) 建学の精神を概説します。学校周辺の環境をみつめてみましょう。仏教を学ぶ意義について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 釈尊について教科書を一通り読む (事後) 建学の精神をノートにまとめる
第3回	「インドの文化」	(学修内容) 釈尊誕生の前提としてインドの歴史と文化を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) インドの文化を調べる (事後) 授業内容をまとめる
第4回	「ブッダの生涯—誕生」	(学修内容) 仏教の開祖ブッダの生涯を、誕生とその事蹟、出家以前の生活について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) ブッダ誕生について該当する教科書の範囲(16～18頁)を読む (事後) ノートを整理
第5回	「ブッダの生涯—四門出遊」	(学修内容) ブッダの出家の経緯(四門出遊等)について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 四門出遊について該当する教科書の範囲(18～21頁)を読む (事後) ノートを整理
第6回	「ブッダの生涯—苦行」	(学修内容) ブッダが出家の後、苦しい修行を何度も経験し、三十五歳で悟りを開いたことについて概説します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 出家後のブッダについて該当する教科書の範囲(22～27頁)を読む (事後) ノートを整理
第7回	「ブッダの生涯—悟り」	(学修内容) 悟りの内容である縁起の思想。四諦八正道について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 四諦八正道について該当する教科書の範囲(63～73頁)を読む (事後) ノートを整理する
第8回	「ブッダの生涯—釈尊の伝道」	(学修内容) 釈尊は、35歳で悟りを開いて後、教化伝道の生活を送ります。釈尊の教化伝道の生活を学びます。確認テストを実施します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 釈尊の伝道について該当する教科書の範囲(30～34頁)を読む (事後) ノートを整理する
第9回	「法然の生涯と思想—誕生」	(学修内容) 法然上人の誕生とその背景について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 法然上人の誕生に該当する教科書の範囲(93～96頁)を読む (事後) ノートを整理する
第10回	「法然の生涯と思想—父の死」	(学修内容) 法然上人は9歳で父の死に直面します。その後、僧侶としての道を進んでゆきます。比叡山登山と、延暦寺での修学について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 父の死について該当する教科書の範囲(96～102)を読む (事後) ノートを整理する
第11回	「法然の生涯と思想—比叡山修学・南都遊学」	(学修内容) 法然上人は、比叡山で一定の年月を修行して過ごした後、南都遊学をします。浄土教に出会うまでを概説します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 法然修学について教科書の該当する範囲(100～103頁)を読む (事後) ノートを整理する
第12回	「法然の生涯と思想—立教開宗」	(学修内容) 法然上人の浄土宗開宗と、浄土宗の教えについて学びます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 浄土宗の開宗に該当する教科書の範囲(103～107)を読む (事後) ノートを整理する
第13回	「法然の生涯と思想—大原問答・東大寺講説」	(学修内容) 大原問答と東大寺講説について、概説します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 大原問答の該当する教科書の範囲(108～113頁)を読む。 (事後) ノートを整理する
第14回	「法然の生涯と思想—法難・臨終」	(学修内容) 専修念仏教団の法難と法然上人の臨終について概説します。また知恩院の成立も理解します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 法難、臨終に該当する教科書の範囲(116～124頁)を読む (事後) ノートを整理する
第15回	講義総括	(学修内容) 講義のまとめ、ブッダ・法然の教えが現代の我々とどのように関わるかを考えます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 全授業のノートを読み返す (事後) ブッダの悟り、法然上人の教えをまとめる

授 業 名	基礎ゼミナール		開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CS1102
英 文 名	Freshman Seminar		開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	渋谷 郁子・小川 隆昭・坂口 みゆき・坂本 渉・柴 田 精一・林 静香		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	1 回生春学期の基礎ゼミナール は「初年次教育」と位置づけ、大学での学びの特徴や目的に沿って学ぶ意義を知り、学 びの方法として、講義の受け方やレポート、小論文の書き方などを体験的に学ぶ。また、その中に幼児教育学科としての 取り組みを盛り込んでいく。授業形態としては、10人程度の少人数クラスを専任教員が担当し、ディスカッション、グ ループワーク、プレゼンテーションなどの演習を行う。また、客観的評価としてのPROGテストや主観的評価としての学修 ポートフォリオ等も活用しながら、学生が自分自身と向き合うことができるようゼミナールを運営していく。							
学修成果 到達目標	1) 幼児教育学科のディプロマ・ポリシーを理解できる。 2) プレゼンテーションの仕方を学び、実践することができる。 3) レポートの書き方の基礎を身につけ、実践することができる。 4) 担当教員や学生と良好なコミュニケーションを図ることができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 2 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 (50%) ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 (50%) ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()						
テキスト	必要に応じて資料等を配布する。							
参 考 書	必要に応じて紹介する。							
課題に対する フィードバック の方法	提出物については必ず添削し、授業の運営や個別面談の資料として活用する。また、必要に応じ、コメントして返却す る。							
留意事項	基礎ゼミナールは、授業の 1 つですが、学修や学生生活の基礎を支える役割も果たします。毎回の出席はもちろん、担当 教員や他学生と積極的にコミュニケーションを図ってください。適宜、個別面談を実施します。							
オフィス アワー	各教員が授業時に伝えます。							
実践的教育								

授 業 名	基礎ゼミナール	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーションとゼミへの導入（2年間の流れ、Gメールの使い方など） 全体で授業を実施（スタートブック No.2）	（学修内容）基礎ゼミナールの初年次教育としての位置づけやプログラム等を確認する。Gメール、ポータルサイト、Google Classroomについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：『情報サービスマニュアル』を読み、授業時に持参する。 事後学修：ゼミナール担当教員にメールを送信する。
第2回	大学生活について知る（スタートブック No.3）	（学修内容）グループワークを行い、ゼミのメンバーと知りあう。履修登録についての確認、学校行事や学科行事、ゼミ代表について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：時間割を組んでみる。 事後学修：ポータルサイトにアクセスし掲示板を確認する。
第3回	授業の受け方を学ぶ（スタートブック No.4）	（学修内容）高校までとは違う授業形態や授業の受け方、話の聞き方を学ぶ。適宜、ディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：配布資料の該当箇所を読んでおく。 事後学修：授業ごとに資料をファイリングし、ノートを準備する。
第4回	学内シールラリーを通して学内のことを知る	（学修内容）小グループでの学内シールラリーを実施し、教員研究室や各部署の位置、また各部署の役割などを知る。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：キャンパスライフを読む（特に学内の地図、見取り図）。 事後学修：授業担当教員をオフィスアワーに訪ねる。
第5回	PROGテストについて理解し、実際に取り組む：リテラシー（スタートブック No.13,19）	（学修内容）PROGテスト（リテラシー）について説明を受け理解する。リテラシー45分をゼミ内で実施する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：PROGテストについて説明動画を見ておく。 事後学修：自己採点をする。
第6回	PROGテストについて理解し、実際に取り組む：コンピテンシー（スタートブック No.19）	（学修内容）PROGテスト（コンピテンシー）について説明を受け理解する。コンピテンシーをゼミ内で実施する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：PROGテストについて説明動画を見ておく。 事後学修：自己採点をする。
第7回	プレゼンテーションの方法を学ぶ（スタートブック No.9）	（学修内容）スライドと発表原稿の作り方を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：大学周辺の文化施設等を訪問・見学する。 事後学修：わかった内容を写真や文章で記録しておく。
第8回	プレゼンテーションを実施する（スタートブック No.25）	（学修内容）大学周辺の文化施設等を訪問・見学した内容について、スライドを用いてプレゼンテーションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：訪問の内容を発表するための準備を行う。 事後学修：担当教員や他学生のコメントをもとに、資料を修正する。
第9回	書簡文を作成する（スタートブック No.28）	（学修内容）正式な手紙の書き方を知る。お世話になった人に近況報告の手紙を書く。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：配布資料の該当箇所を読んでおく。 事後学修：手紙を完成させ（あるいは清書をして）投函する。
第10回	正式なEメールの作成	（学修内容）正式なEメールの書き方を知り、作成する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：担当教員が指定する内容のEメールを送る。 事後学修：担当教員のコメントをもとに、修正したEメールを送る。
第11回	保育現場を知る 全体で授業を実施予定	（学修内容）現場の保育者の話を聞き、保育現場について理解を深める（学外講師の都合により日程が前後することがある）。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：学外講師の所属する施設についてホームページで調べる。 事後学修：学んだことを小レポートにまとめ、提出する。
第12回	保育現場体験の説明 全体で授業を実施予定	（学修内容）保育現場体験の説明を聞き、その意義と具体的な実施方法を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：体験をしたい施設を複数考えてくる。 事後学修：保育現場体験の計画を立て、担当教員に報告する。
第13回	レポートの書き方を学ぶ（スタートブック No.5,6）	（学修内容）レポートの体裁、構成、文献の参照の仕方、研究倫理を学び、実際に短いレポートを書いてみる。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学修：短いレポートを書く。
第14回	レポートの見直しと提出の練習をする（スタートブック No.5,6）	（学修内容）提出したレポートを担当教員の助言に従って修正する。定期試験に備えてレポートの提出方法をグループで確認・練習する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前に書いたレポートを見直す。 事後学修：担当教員のコメントをもとにレポートを修正して提出する。
第15回	春学期の振り返り 定期試験の諸注意と夏季休暇に向けて 全体で授業を実施（スタートブック No.22,23）	（学修内容）定期試験について知る（わからないことを解消する）。夏休みに向けて春学期を振り返る。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学修：定期試験の勉強の計画を立てる。

授 業 名	基礎ゼミナール	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	秋学期ゼミへのオリエンテーション 履修登録の確認	(学修内容) 秋学期のゼミの取り組みを確認する。春学期の単位修得状況を確認し、不明点があれば担当教員に質問する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 春学期の単位習得状況を確認しておく。 事後学修: 免許・資格の取得意思を明確にし、履修登録を進める。
第2回	大学での授業の受け方を再確認する (スタートブック No.4)	(学修内容) 春学期に学んだ大学での授業の受け方、ノートの取り方、話の聞き方などを再度確認し、グループワークで理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 春学期に配布した資料の該当箇所を読み復習しておく。 事後学修: 授業ごとに資料をファイリングするなど、準備を進める。
第3回	望む将来像について考える : 自分の強みを理解する (スタートブック No.13,19)	(学修内容) PROGテストの結果を受け取り、個別面談を通して今の自分の強みを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: PROGテストの自己採点結果を見直す。 事後学修: 自分の強みをまとめる。
第4回	望む将来像について考える : 自分の課題を理解する (スタートブック No.13,19)	(学修内容) PROGテストの結果を受け取り、個別面談を通して今の自分の課題を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: PROGテストの自己採点結果を見直す。 事後学修: 自分の課題をまとめる。
第5回	望む将来像について考える : 強みと課題と向き合う (スタートブック No.13,19)	(学修内容) 自分の強みを伸ばし、課題を克服する方法を考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: PROGテストの自己採点結果を見直す。 事後学修: 自分の強みと課題を振りかえり、今後の対策をまとめる。
第6回	望む将来像について考える : 望む将来像を明確にする (スタートブック No.35)	(学修内容) 望む将来像について具体的に考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: PROGテストの結果を見直す。 事後学修: 望む将来像についてのワークを完成させる。
第7回	メンタルヘルスリテラシー : メンタルヘルスの重要性を知る (スタートブック No.14,15)	(学修内容) メンタルヘルスやストレスマネジメントについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 現在の自分の状況を見つめ直す。 事後学修: 自分に合ったストレスマネジメントの方法を考える。
第8回	メンタルヘルスリテラシー : ワーク (スタートブック No.15)	(学修内容) メンタルヘルスについて、グループワークを通してさらに理解を深める。適宜、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: ストレスマネジメントを1週間試した結果をまとめる。 事後学修: グループワークを通して学んだことをまとめる。
第9回	あそび : 体を動かす	(学修内容) 体を動かすあそびについて実践しながら考える(フィールドワークなど学外の学びを含む)。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 体を動かすあそびについて調べてくる。 事後学修: 体を動かすあそびについてまとめる。
第10回	あそび : 手先を使う	(学修内容) 手先を使うあそびについて実践しながら考える(フィールドワークなど学外の学びを含む)。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 手先を使うあそびについて調べてくる。 事後学修: 手先を使うあそびについてまとめる。
第11回	あそび : 共同的にあそぶ	(学修内容) 他者と共同であそぶことについて実践しながら考える(フィールドワークなど学外の学びを含む)。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 他者と一緒に行うあそびについて調べてくる。 事後学修: 他者と一緒に行うあそびについてまとめる。
第12回	絵本の探求 : 絵本大賞に向けて 全体での授業を予定	(学修内容) 2回生で取り組む絵本づくりについて知る。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学修: 絵本のテーマを考える。
第13回	絵本の探求 : 絵本の選び方を学ぶ (スタートブック No.8,31)	(学修内容) 絵本の選び方と読み聞かせを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学修: 子どもに読み聞かせる絵本を選んでくる。
第14回	絵本の探求 : 絵本の読み聞かせ	(学修内容) 子どもに向けて絵本の読み聞かせをすると想定して、ゼミ内で読み聞かせを実践する。自分の選んだ絵本についてプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 読み聞かせをするための準備(下読みと練習)をしておく。 事後学修: 実際に読んでみてどうだったか、留意点をまとめる。
第15回	1年間の振り返り 全体で実施を予定	(学修内容) 基礎ゼミナールで取り組んできた内容を中心に1年間の学生生活を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学修: 説明のあった内容を復習しておく。

授 業 名	総合ゼミナール			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CS2116
英 文 名	Senior Seminar I			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	坂口 みゆき・小川 隆昭・坂本 渉・渋谷 郁子・鈴木 えり子・荘厳 茶茶・野田 隆生・林 静香			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	2年間の学びの集大成の1つとして、オリジナル絵本づくりを行う。これまでの授業や実習での経験を踏まえ、絵本を読む子どもの姿を具体的に思い浮かべながら、今年度の絵本のテーマ「いのち」について、どのように絵本を通して伝えるか深く考え、形にしていく。絵本制作は個々の作業ではあるが、その過程においては、ゼミ生同士が積極的に交流を図り、お互いを高め合い、集団の一人としての時間を持って活動する。								
学修成果 到達目標	1．子どもの姿を具体的に思い浮かべながら、絵本の内容を考えることができる。 2．絵本のテーマに合ったあらすじや登場人物を考案することができる。 3．絵本のストーリーを詳細に考え、下絵を完成することができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 1時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用(双方向型授業) ☐ I C T活用(自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	総合ゼミナール	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス お互いに知り合うワーク 全体で実施予定	(学修内容) 総合ゼミナールのねらいや目的を共有する。新しいメンバーと協同活動を通じてコミュニケーションを図る。 (事前事後学修課題の内容) 1回生の単位修得状況を確認しておく。履修登録を進める。全体クラスルームへの登録を確認する。ゼミの教員とメンバーを確認しておく。
第2回	履修科目の登録確認 学修ポートフォリオを作成する	(学修内容) 履修登録を確認する。2年次の学びの目標を設定し学修ポートフォリオを記入する。 (事前事後学修課題の内容) 履修科目状況を把握し、時間割を作成・持参する。自分のキャリアや卒業後の進路について考えてくる。
第3回	学外フィールドワーク	(学修内容) 保育の視点を意識して、講演や動物園等の近隣施設を訪問・見学する。 (訪問先の都合等により実施日が前後することがある。) (事前事後学修課題の内容) フィールドワークの行先について調べる。
第4回	手作り絵本の作成 : 設定されたテーマに思いをめぐらせる	(学修内容) 今年度の絵本のテーマ「いのち」について個々によく考えたのちに、ディスカッションを通してさらに考えを深める。 (事前事後学修課題の内容) テーマである「いのち」について、その意味や大切さをよく考えてくる。
第5回	PROGテスト(リテラシー)を受験する	(学修内容) 昨年度受けたPROGテスト(リテラシー)について改めて説明を受け思い出す。リテラシー45分をゼミ内で実施する。 (事前事後学修課題の内容) 昨年度受験したリテラシーの結果を見直しておく。
第6回	PROGテスト(コンピテンシー)を受験する	(学修内容) 昨年度受けたPROGテスト(コンピテンシー)について改めて説明を受け思い出す。コンピテンシー45分をゼミ内で実施する。 (事前事後学修課題の内容) 昨年度受験したコンピテンシーの結果を見直しておく。
第7回	手作り絵本の作成 : あらすじや登場人物を考える	(学修内容) 絵本のあらすじや登場人物の案を書き出していく。 (事前事後学修課題の内容) 絵本のあらすじや登場人物について考えておく。
第8回	手作り絵本の作成 : あらすじや登場人物をかく	(学修内容) あらすじを具体的に書く。また登場人物の絵を描く。 (事前事後学修課題の内容) あらすじと登場人物を完成させる。
第9回	手作り絵本の作成 : 絵コンテの作成開始	(学修内容) あらすじを元に絵コンテを作成する。 (事前事後学修課題の内容) 絵コンテを進める。
第10回	手作り絵本の作成 : 絵コンテ(手直し)	(学修内容) 絵コンテを見直したり、書き直したりする。 (事前事後学修課題の内容) 絵コンテを進める。
第11回	手作り絵本の作成 : 絵コンテ(完成)	(学修内容) 絵コンテを再度見直し、完成させる。 (事前事後学修課題の内容) 絵コンテを完成させる。
第12回	手作り絵本の作成 : 下絵の作成開始	(学修内容) 絵コンテを元に、下絵を描く。 (事前事後学修課題の内容) 下絵を進める。
第13回	手作り絵本の作成 : 下絵を進める 秋学期に実施するゼミの企画について知る。	(学修内容) 下絵を描く。 秋学期に実施するゼミの企画について知る。 (事前事後学修課題の内容) 下絵を進める。
第14回	手作り絵本の作成 : 下絵(完成) 秋学期に実施するゼミの企画について考える。	(学修内容) 下絵を描き、完成させる。 秋学期に実施するゼミの企画についてゼミのメンバーと相談する。 (事前事後学修課題の内容) 下絵を完成させる。
第15回	秋学期に実施するゼミの企画について考える。 春学期のまとめ	(学修内容) 秋学期に実施するゼミの企画についてゼミのメンバーと確認する。半年間の絵本制作過程について振り返る。将来について考える。 (事前事後学修課題の内容) 半年間のゼミの活動や学外実習での学びなどを振り返り、自分のキャリアについて考える時間を持つ。

授 業 名	総合ゼミナール	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	履修登録確認及び学修ポートフォリオの入力 絵本づくりの再開	(学修内容) 夏休み中の学び(実習など)を振り返り、秋学期の目標を立てる。 絵本づくりを再開する。 (事前事後学修課題の内容) 各自、履修登録を行い、ゼミ教員が確認できるようにしてくる。 絵本について思い出す。
第2回	手作り絵本の作成10:色塗りを開始する	(学修内容) 春学期に完成させた下絵を見直し、必要に応じて修正する。輪郭をペン などでなぞり、色塗りを開始する。 (事前事後学修課題の内容) 色塗りを進める。
第3回	手作り絵本の作成11:色塗りを進める	(学修内容) 色塗りをする。 (事前事後学修課題の内容) 色塗りを進める。
第4回	手作り絵本の作成12:色塗りの完成	(学修内容) 色塗りを進め、完成させる。 (事前事後学修課題の内容) 色塗りを完成させる。
第5回	ゼミの企画に関する計画と実践(1):計画と役割分担	(学修内容) ゼミの企画に関する計画と実践を行う。 (事前事後学修課題の内容) 企画の流れを確認し自分の役割を確認し準備をしておく。
第6回	ゼミの企画に関する計画と実践(2):実践の準備	(学修内容) ゼミの企画に関する計画と実践を行う。 (事前事後学修課題の内容) それぞれ分担した内容を完成させてくる。
第7回	ゼミの企画の振り返り 手作り絵本の作成13:絵本に入れる言葉を考えて 完成させる。	(学修内容) ゼミの企画の実践について振り返りを行う。手作り絵本に入れる言葉を 考え、付箋に書いて貼る。 (事前事後学修課題の内容) 絵本を完成させておく。
第8回	手作り絵本の発表 (製作意図の確認)	(学修内容) 絵本製作の意図を発表し、ゼミのメンバーに対して読み聞かせをする。 (事前事後学修課題の内容) 読み聞かせの練習をする。
第9回	手作り絵本の発表 (下読み)	(学修内容) 前回に引き続き、絵本製作の意図を発表し、ゼミのメンバーに対して読 み聞かせをする。 (事前事後学修課題の内容) 読み聞かせの練習をする。
第10回	手作り絵本の発表 (読み聞かせ) 手作り絵本の提出	(学修内容) 前回に引き続き、絵本製作の意図を発表し、ゼミのメンバーに対して読 み聞かせをする。 (事前事後学修課題の内容) 読み聞かせの練習をする。
第11回	季節に合った保育の学び	(学修内容) 季節に合った保育について考え実施する。(学外での学びを含む。ゼミ の進行具合や訪問先の都合により実施日が前後することがある。) (事前事後学修課題の内容) 季節に合った保育の活動について考える。
第12回	自分の強みと課題を確認する。	(学修内容) PROGテストの結果を受け取り、個別面談を通して自己理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) PROGテストについて復習する。
第13回	自分の強みと課題を理解し、望む将来像を叶える 方法を考える。	(学修内容) PROGテストの個別面談を通して、強みを生かし、課題を克服しながら、 望む将来像を叶える方法を考える。 (事前事後学修課題の内容) 望む将来像を叶える方法を考えまとめる。
第14回	絵本の製本	(学修内容) 作成した絵本を製本し、文字を書き込む。 (事前事後学修課題の内容) 絵本を読み直し、絵本に入れる言葉を必要に応じて修正しておく。
第15回	まとめ	(学修内容) 絵本製作やその他のゼミの活動を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) 1年間のゼミの活動を思い返しておく。

授 業 名	創作表現演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 課題の発表準備	(学修内容) 授業の進め方について説明する。春休み中の課題の発表準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) 授業内容を整理する。レジュメを作成し指導教員に提出する。
第2回	春休み課題の(1)テーマ・研究概要	(学修内容) 春休みの課題発表と質疑応答 (事前事後学修課題の内容) 発表者はレジュメを作成し指導教員の確認を受ける。発表者以外の学生は気づいた点や感想をまとめる。
第3回	春休み課題の発表(2)テーマ・研究概要	(学修内容) 春休みの課題発表と質疑応答 (事前事後学修課題の内容) 発表者はレジュメを作成し指導教員の確認を受ける。発表者以外の学生は気づいた点や感想をまとめる。
第4回	春休み課題の発表(3)テーマ・研究概要	(学修内容) 受講生による春休みの課題発表と質疑応答。 (事前事後学修課題の内容) 発表者はレジュメを作成し指導教員の確認を受ける。発表者以外の学生は気づいた点や感想をまとめる。
第5回	個別面談(1)進捗状況の確認	(学修内容) 研究の進捗状況に関するレポートを作成する。面談時に指導教員に提出する。 (事前事後学修課題の内容) レポートの作成。指摘された課題を整理する。
第6回	個別面談(2)進捗状況の確認	(学修内容) 研究の進捗状況に関するレポートを作成する、面談時に指導教員に提出する。 (事前事後学修課題の内容) レポートの作成。指摘された課題を再考する。
第7回	個別研究発表の準備—先行研究の整理と発表準備	(学修内容) 卒業研究に関する先行研究を収集・整理しレジュメを作成する。 (事前事後学修課題の内容) レジュメを作成し発表内容について指導教員の確認を受ける。
第8回	研究発表(1)卒業研究テーマに関する先行研究	(学修内容) 卒業研究に関する先行研究を読み自分の意見を発表する。質疑応答を行う。 (事前事後学修課題の内容) 発表内容について指導教員に確認を取る。発表者以外の学生は気づいた点や感想をまとめる。
第9回	研究発表(2)卒業研究テーマに関する先行研究	(学修内容) 卒業研究に関する先行研究を読み自分の意見を発表する。質疑応答を行う。 (事前事後学修課題の内容) 発表内容について指導教員の確認を取る。発表者以外の学生は気づいた点や感想をまとめる。
第10回	研究発表(3)卒業研究テーマに関する先行研究	(学修内容) 卒業研究に関する先行研究を読み自分の意見を発表する。質疑応答を行う。 (事前事後学修課題の内容) 発表内容について指導教員の確認を取る。発表者以外の学生は気づいた点や感想をまとめる。
第11回	個別面談(3)進捗状況の確認	(学修内容) 研究の進捗状況に関するレポートを作成し、面談時に担当教員に提出する。 (事前事後学修課題の内容) レポートを作成する。指摘された課題について再考する。
第12回	個別面談(4)進捗状況の確認	(学修内容) 研究の進捗状況に関するレポートを作成し、面談時に担当教員に提出する。 (事前事後学修課題の内容) レポートを作成する。指摘された課題について再考する。
第13回	研究発表(4)卒業研究テーマの決定と章立て	(学修内容) 研究テーマを決定、章立てを考える発表する。 (事前事後学修課題の内容) レジュメを作成し発表準備をする。発表者以外は発表に対して質疑応答をする、
第14回	研究発表(5)卒業研究テーマの決定と章立て	(学修内容) 研究テーマを決定、章立てを考え発表する。 (事前事後学修課題の内容) レジュメを作成し発表準備をする。発表者以外は発表に対して質疑応答をする、
第15回	授業の振り返り	(学修内容) 夏休み中の卒業研究計画の作成。 (事前事後学修課題の内容) 夏休み中の卒業計画をゼミ担当教員に提出する。

授 業 名	創作表現演習			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CS2127
英 文 名				開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	新矢 昌昭・工藤 美和子・伊藤 茂樹			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	課題発見を通して自らの学修を完成させる。主体的、継続的に探究しようとする意欲をもって、多面的、論理的に考え、適切な表現方法を用いて卒業研究の完成を目指す。								
学修成果 到達目標	自身が解明したい内容を詳しく調査し、考察することが出来る。 卒業研究に関する考察や問題点を説得力をもって人前で話す力や文章表現力を身につけることができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 1 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解	○	汎用的技能					
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (80%) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	創作表現演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 夏期休暇中の進捗状況の確認	(学修内容) 卒業研究の進捗状況を確認する。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 夏期休暇中の課題をまとめる (事後) 課題をまとめる
第2回	個別面談(1) 卒業研究の進捗状況について報告	(学修内容) 研究の進捗状況に関するレポートを作成し面談時に指導教員に提出する。 。担当教員の指導を受ける。 (事前事後学修課題の内容) (事前) レポートを作成し発表の準備をする (事後) 課題をまとめる
第3回	個別面談(2) 卒業研究の進捗状況について報告	(学修内容) 研究の進捗状況に関するレポートを作成し面談時に指導教員に提出する。 (事前事後学修課題の内容) (事前) レポートを作成し発表の準備をする (事後) 課題をまとめる
第4回	卒業研究中間発表会の準備(1)	(学修内容) 中間発表会の準備をする。レジュメの作成、模擬発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (事前) レジュメを作成し指導教員の確認をとる (事後) 発表の練習をする
第5回	卒業研究中間発表会の準備(2)	(学修内容) 間発表会の準備をする。レジュメの作成、模擬発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (事前) レジュメを作成し指導教員の確認をとる (事後) 発表の練習をする
第6回	卒業研究中間発表会(1) 個別発表と質疑応答	(学修内容) 卒業研究中間発表会を行う。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 発表の練習をする (事後) 質疑応答や指導教員のアドバイスをもとに再考する
第7回	卒業研究中間発表会(2) 個別発表と質疑応答	(学修内容) 卒業研究中間発表会を行う。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 発表の練習をする (事後) 質疑応答や指導教員のアドバイスをもとに再考する。
第8回	個別面談(1) 卒業研究の進捗状況の報告	(学修内容) 研究の進捗状況に関するレポートを作成する。面談時に指導教員に提出する。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 研究史をまとめる (事後) レポートを作成する
第9回	個別面談(2) 卒業研究の進捗状況の報告	(学修内容) 研究の進捗状況に関するレポートを作成する。面談時に指導教員に提出する。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 課題をまとめる (事後) レポートを作成する
第10回	草稿の作成(1) 序論を書く	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 草稿を作成する (事後) 指導教員に進捗状況を報告する
第11回	草稿の作成(2) 本論を書く	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 草稿を作成する (事後) 指導教員に進捗状況を報告する
第12回	草稿の作成(3) 本論を書く(前回の続き)	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 草稿を作成する。 (事後) 指導教員に進捗状況を報告する
第13回	草稿の作成(4) 結論を書く	(学修内容) 研究レポート提出に向けて草稿を整え、体裁内容を点検する。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 草稿を作成する (事後) 指導教員に進捗状況を報告する
第14回	卒業研究レポート提出前の点検	(学修内容) 卒業研究レポートを仕上げる。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 研究内容や文章表現の確認を行う (事後) 指導教員の確認を受け。
第15回	卒業研究レポート提出前の点検(前回の続き)	(学修内容) 卒業研究レポートを仕上げる。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 研究内容や文章表現の最終確認をする (事後) 指導教員の確認を受ける

授 業 名	教育実習事前・事後指導 a			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1415
英 文 名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten)			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	鈴木 えり子・渋谷 郁子・柘植 誠子・東野 洋子・ 柴田 精一・坂本 渉			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	幼稚園教諭に求められる知識、技術、態度、職業倫理を学ぶ。また、実習前の事前準備として、教育実習の意義・目的や、保育の計画や内容について学習する。								
学修成果 到達目標	1) 幼稚園教諭に求められる知識、技術、態度、職業倫理を理解できる。 2) 幼稚園における教育実習の意義・目的を理解し、実習に対する高い意識と責任をもつ。 3) 幼稚園教諭として必要な資質や態度を身につけ、幼稚園現場で適切な保育を行うための総合的な力を身につける。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 2 時間)								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	教育実習事前・事後指導 a	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	幼稚園の現在：「教育実習事前・事後指導」を受講するにあたって	（学修内容）授業の進め方や受講上の心構え、附属幼稚園見学についての留意点を理解する。幼稚園・認定こども園の状況や社会的役割などを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：シラバスおよび幼稚園教育要領を読んでおく。 事後学修：自分の出身園についてインターネットを用いて調べる。
第2回	幼稚園教諭・保育教諭の職務・役割	（学修内容）幼稚園教諭・保育教諭の職務や社会的な役割を理解する。幼児教育における「遊びを通した学び」について理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：幼稚園教育要領などを読んでおく。 事後学修：授業の内容をまとめる。
第3回	遊びを通した学びの実際：五感を使って遊ぶ	（学修内容）教員による模擬保育を体験する。五感を使って遊ぶ楽しさを感じる。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：五感を使って遊ぶ方法を調べておく。 事後学修：体験した模擬保育を簡単な指導計画にまとめる。
第4回	目指す「幼稚園教諭・保育教諭」像の明確化 教育実習の意義・目的	（学修内容）グループワークを通して、目指す「幼稚園教諭・保育教諭」像を明確化し、自己課題を発見する。教育実習の意義・目的を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：目指す「幼稚園教諭・保育教諭」像を考え、言葉にする。 事後学修：自己課題をもとに具体的な目標を立て、練習を重ねる。
第5回	幼稚園の一日：教師の配慮	（学修内容）DVD等を視聴し、幼稚園教育の1日の流れを理解する。また、附属幼稚園見学についての留意点を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：教師の配慮のあり方について考える。 事後学修：附属幼稚園見学に向けて準備する。
第6回	教材研究の方法（1）：幼稚園教育要領と保育の目標	（学修内容）附属幼稚園でフィールドワークを行い、遊びや生活の実際、子どもと教師との関わりについて見て学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：附属幼稚園で見学する内容を考えておく。 事後学修：見学してきたことを記録する。
第7回	教材研究の方法（2）：幼児の実際の姿と保育の計画	（学修内容）幼稚園教育要領や認定こども園教育・保育要領をもとに保育の目標を立て、具体的な活動を構想する流れを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：取り上げる保育活動について候補を考えておく。 事後学修：どのような活動を行うか、グループで検討する。
第8回	教材研究の方法（3）：保育の目的に応じた教材の選択	（学修内容）幼児の実際の姿に照らし、どのように保育の計画を立てるかを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：活動を進めていく上でどのような配慮が必要かを考える。 事後学修：グループワークでの成果をまとめる。
第9回	教材研究の方法（4）：教材研究結果の作成	（学修内容）具体的に教材を選択し、使用方法について試行錯誤するプロセスを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：活動に合った教材を自ら入手し、研究しておく。 事後学修：グループ別に、教材となる素材や道具の準備を行う。
第10回	教材研究の方法（5）：教材研究結果の共有	（学修内容）教材研究の結果を文章化する作業を通して、活動を記録することの意義を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：教材研究の成果として何を取り上げるかを考えておく。 事後学修：教材研究の成果をまとめる。
第11回	教材研究の方法（6）：教材研究結果の発表	（学修内容）自分たちのグループの行った教材研究について発表する。他のグループの行った教材研究の結果を聞き、学びを深める。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：行った教材研究に関する反省点や改善点を考える。 事後学修：他のグループの発表から学んだことをまとめる。
第12回	幼稚園の一年：子どもの発達に応じた保育計画	（学修内容）幼稚園に就職した卒業生の話聞き、一年を通した子どもの発達や、季節ごとの子どもの生活や遊びのありようについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：幼稚園・認定こども園における年間の保育について調べる。 事後学修：卒業生の話から感じたこと・考えたことをまとめる。
第13回	教育実習の実際：2回生の体験から学ぶ	（学修内容）2回生の実習体験を聞いて、次年度の教育実習に見通しをもつ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：2回生に聞きたいことをまとめておく。 事後学修：第5回授業で言語化した自己課題を振り返る
第14回	教育実習に向けて	（学修内容）次年度の教育実習の流れを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：自分が教育実習を行う実習園について調べる。 事後学修：配布された資料を読んでおく。
第15回	まとめ	（学修内容）半年間の幼児教育についての学びを振り返る。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：配布済み資料を見直し、疑問・不明点を整理する。 事後学修：半年間の学びについてまとめる。

授 業 名	教育実習事前・事後指導 b			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1415
英 文 名	Pre and Post Guidance on Student Teaching (Kindergarten)			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	鈴木 えり子・渋谷 郁子・柘植 誠子・東野 洋子・ 伊原 安見子・柴田 精一・坂本 渉			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	幼稚園教諭に求められる保育技術を学び、教育実習に向けた準備を進める。 保育の記録・計画について実践的に学び、現場の教育の全体が理解できるようにする。								
学修成果 到達目標	1) 教育実習の意義、目的を理解できる。 2) 教育実習に臨むための心構えや教員の倫理観が理解できる。 3) 日常の態度や言動を振り返り、幼児のモデルとなるよう見直すことができる。 4) 教育実習を通して、自らの幼児とのかかわり方、指導計画・実習記録の作成スキルなどを振り返り、向上させていくことができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 2 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ☐ プレゼンテーション ■ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ■ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 (50%) ■ 筆記試験 ■ レポート ■ 制作物 ☐ 口述 ■ 実習 ■ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	■ 知識・理解 ■ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 ■ (報告・連絡・相談の徹底) ■ (提出期限の厳守)							
テキスト	『実習ガイドブック』								
参 考 書	文部科学省編『幼稚園教育要領』 内閣府・文部科学省・厚生労働省編『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』 『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館								
課題に対する フィードバック の方法	授業中に提出したレポートに対して授業内で解説を行う。								
留意事項	教育実習に関する内容であるので無断欠席および無断遅刻は認めない。やむを得ず欠席・遅刻をする際には修学支援課への連絡を行う必要がある。 免許取得にかかわる関係科目の履修状況、本授業の出席状況、および受講態度や理解度によっては実習が開始できないこともある。 授業時間外で評価面談を行う。								
オフィス アワー	各教員が授業内で伝える。								
実践的教育	■ 実践的教育 教員の実務経験など：【複数人で担当】 幼稚園教諭・保育士としての実務経験のある教員 3 名、保育現場での造形分野の指導、保育相談などの経験のある教員 2 名の勤務の担当者が、これまでの経験を活かして実習に向けて実践的な教育を行う。								

授 業 名	教育実習事前・事後指導 b	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンスおよび教育実習目標の立案 春期休暇課題の確認 実習生カードの記入	(学修内容) 教育実習についての具体的な目標を立てる。 実習生カードや各種調査表を記入する。春期休暇課題を確認する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 実習生カードに書くことを考えてくる。 事後学修: 教育実習目標を作成し提出する。
第2回	教育実習に向けての準備(1): 実習記録の確認 、オリエンテーションの説明	(学修内容) 実習記録を受け取り、内容を確認する。実習園でのオリエンテーション に向けて、実習の内容を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 前回配布された資料を見直し、不明点の有無を確認する。 事後学修: 実習記録を書けるところまで記入しておく。
第3回	教育実習に向けての準備(2): 実習園への提出 書類の作成・確認、個人情報保護の確認、お礼状 の書き方	(学修内容) 実習の心構えについて理解する。個人情報保護の重要性と社会人としての 責任を理解する。お礼状の書き方を確認する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 前回配布された資料を見直し、不明点の有無を確認する。 事後学修: 各自の実習目標の添削箇所を見直し、実習記録に記入する。
第4回	実習記録作成の実際(1): 記録作成の要点	(学修内容) 実習記録の必要性を理解し、記録の記入方法を把握する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 前回配布された資料を見直し、不明点の有無を確認する。 事後学修: オリエンテーションの予約を取る。
第5回	実習記録作成の実際(2): 適切な記録の書き方	(学修内容) 実際の実習記録を読み、事例から適切な書き方・不適切な書き方を理解 する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 配布された卒業生の実習記録を読んでおく。 事後学修: 自分の記録・メモを見直し、自己課題を見つける。
第6回	教材研究(1): 指導計画の立案 実習訪問担当教員との顔合わせ	(学修内容) 指導計画の目的と書き方を理解する。 実習訪問担当教員と面談し、実習の各事項について確認を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 配布された卒業生の指導計画を読んでおく。 事後学修: 具体的な保育内容について、指導計画を作成する。
第7回	教材研究(2): 指導計画の修正・見直し	(学修内容) 作成した指導計画を見直し、適宜修正する。指導計画作成について理解 を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 実習前までに実習記録に記入しておくべき事項を点検する。 事後学修: 実習の流れをシミュレーションし、準備しておく。
第8回	教育実習期間	(学修内容) 観察・参加・責任実習に取り組む。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 授業で配布された資料を見直しておく。 事後学修: 幼稚園・認定こども園で行われる教育を理解する。
第9回	教育実習期間	(学修内容) 観察・参加・責任実習に取り組む。 (事前事後学修課題の内容) 事後・事後学修: 実習で求められる内容に応じて、保育の計画立案や準備、 ピアノ練習などを行い、実践を振り返る。
第10回	教育実習期間	(学修内容) 観察・参加・責任実習に取り組む。 (事前事後学修課題の内容) 事後・事後学修: 実習で求められる内容に応じて、保育の計画立案や準備、 ピアノ練習などを行い、実践を振り返る。
第11回	教育実習の振り返り: 自己課題の理解	(学修内容) 教育実習を振り返り、自己課題について再度考察する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 実習を振り返り、お礼状を書く。 事後学修: 振り返りシートに記入する。
第12回	実習振り返りの発表準備(1)	(学修内容) 教育実習の内容について、同級生と共有したい事柄を発表できるように 準備をする。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 発表する内容を考えておく。 事後学修: 発表したい内容をレポートにまとめる。
第13回	実習振り返りの発表準備(2)	(学修内容) 教育実習の内容について、同級生と共有したい事柄を発表できるように 準備をする。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 発表する内容を考えておく。 事後学修: グループで発表資料を完成させる。
第14回	実習振り返り発表会(1)	(学修内容) 全体で実習振り返りの発表会を行う。発表する側、発表を聞く側に役割 を分けて実施する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 手元に置く発表原稿を用意しておく。 事後学修: 発表を聞いて理解したことをまとめる。
第15回	実習振り返り発表会(2) まとめ	(学修内容) 全体で実習振り返りの発表会を行う。発表する側、発表を聞く側に役割 を分けて実施する。1年間の学びを振り返る。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 手元に置く発表原稿を用意しておく。 事後学修: 発表を聞いて理解したことをまとめる。

授 業 名	保育実習指導			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1405
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	武田 康晴・安藤 正彦・東田 みずづ・野田 隆生・ 福井 百合子・林 静香・山川 宏和			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	この授業は、保育を担う豊かな感性をもつ保育士資格を取得するための必修科目であるため、保育士に必要な知識、技術、態度、職業倫理を学ぶ。 具体的には、実習事前準備として、保育士の職務理解、保育技術の理解と援助方法の習得、生活技術演習などを中心にすすめる。 また、主体的に実習にのぞむために 保育実習の意義や目的の理解 実習施設の概要の理解 実習目標の設定 自身の行動を客観的に省察するための記録の書き方 子どもの人権とプライバシーへの配慮 援助職に求められるコミュニケーション等について学ぶ。 実習に準じた授業内容となるように、講義だけでなく視覚教材の使用、グループワーク（制作）も取り入れる内容とする。								
学修成果 到達目標	1）保育実習の意義・目的・内容を理解できる。 2）実習生としての心構えが身についている。 3）学生間、教員とのコミュニケーションがとれる。 4）約束事を守ることができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ☒ I C T活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験（50％） ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☒ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験（50％） ☒ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☒ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☒ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()							
テキスト	新・基本保育シリーズ20 保育実習 近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編 中央法規								
参 考 書	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説書』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 必要です								
課題に対する フィードバック の方法	・授業終了後googleformsにて毎回ふりかえりを提出する（当日中の提出）。 提出されたものについては次回の授業内で解説を行う。 ・レポート、あさのたより（月1回）、自由画などの課題提出については個別に添削を行い返却する。								
留意事項	保育実習に関わる内容であるので、無断欠席及び遅刻は認めない。やむを得ず欠席せざるを得ないときには、修学支援課及び教員に連絡を行う必要がある。 学科の保育関係科目の状況及び出席状況、受講態度や理解度によっては実習開始できないこともある。レポートや書類等の提出遅れや未提出の場合も同様である。（要注意）								
オフィス アワー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。								
実践的教育	☒ 実践的教育 教員の実務経験など：【複数人で担当】 公立保育士として勤務、私立保育園で保育士として勤務、公立保育士として勤務の担当者がこれまでの経験を活かして保育現場の実情などを含めて実践的教育を行う。								

授 業 名	保育実習指導	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 保育実習指導について	(学修内容) 授業内容や受講に關しての諸注意を行う。 シラバスを用いて、本授業における流れと留意事項の確認。 (事前事後学修課題の内容) 事前 シラバスを読む。 事後 テキスト p 3 ~ 4、わからない語句について調べる。
第2回	保育実習指導について(概要) 生活技術演習(グループワーク)	(学修内容) 受講に關する詳細について理解する。グループワークを通じて生活技術演習を実施し、自身の生活習慣を見直す。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト p 3 ~ 4、わからない語句について調べる。 事後 テキスト p 5 ~ 8、わからない語句について調べる。
第3回	保育実習の意義・目的 保育実践演習(制作・グループワーク)	(学修内容) 保育士になるための学び、保育実習の意義・目的・内容を理解する。 季節の制作を行い、文化を学び理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト p 5 ~ 8、わからない語句について調べる。 事後 テキスト p 9 ~ 23、わからない語句について調べる。
第4回	実習施設の理解 保育園の一日の流れを知る	(学修内容) 保育園の一日の動画を視聴しどのようなことが行われているのか、1日の流れを知り学び理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 保育士の法的根拠を調べる。 事後 目指すべき保育士像を言語化できるようにする。
第5回	実習施設の理解 福祉施設について学ぶ	(学修内容) 福祉施設について(児童養護施設)理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前 目指すべき保育士像を考え言語化できるようにする。 事後 目指すべき保育士像を言語化する。
第6回	実習施設の理解 福祉施設について学ぶ	(学修内容) 福祉施設について(障害者支援施設)理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前 目指すべき保育士像を言葉にする。 事後 テキスト「保育所」p17~を読み、わからない語句を調べる。
第7回	実習に必要な基礎的な知識と技術 絵本・紙芝居について(導入、実践方法)	(学修内容) 1人1冊絵本・紙芝居を使って対象年齢や絵本の特徴などを学び実際に読み聞かせる際の持ち方や展開の仕方を学び理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 授業に持参する絵本を選定する。 事後 授業で習った持ち方を思い出して読み聞かせをする。
第8回	保育士の職務理解 環境構成(壁面構成)	(学修内容) 保育施設での環境構成について知り学び、壁面構成の実践を体験する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 環境構成に關する部分の教科書を熟読する。 事後 掲示されることを前提に作品を制作する。
第9回	中間テスト 今までの学習内容の理解度の確認	(学修内容) 今までの学習内容をふりかえりどこまで自身が理解することができているか確認する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 今までの受講内容を確認する。 事後 テストで間違えた内容などを再度復習する。
第10回	生活技術演習 環境整備と裁縫(グループワーク)	(学修内容) 実習で行う環境整備の目的や意味を知り学ぶとともにぞうきん制作を通じて裁縫をおこなう。 (事前事後学修課題の内容) 事前 ぞうきんに適した教材を準備する。 事後 授業で完成できなかった部分をしあげる(裁縫)。
第11回	保育実習 ガイダンス	(学修内容) 実習方法、保育所選択についての説明を受け、自分の実習園を選定する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実際に自分が行きたい保育園などを調べる。 事後 授業でならった方法で選択する。
第12回	保育実習 ガイダンス 季節の制作	(学修内容) 保育所へ依頼する際のアポイントの取り方について学ぶ。 季節の制作を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 希望する保育所を選定する。 事後 実習したい保育所の情報を調べる。
第13回	保育実習の心構えと準備 キャリアガイダンス	(学修内容) 現職保育士より話を聞き、実習生としての心得と留意事項について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 現職の保育士にたずねたい質問を考える。 事後 保育士に關いて学んだことふりかえる。
第14回	実習に必要な基礎的な知識と技術 実習目標について(保育所)	(学修内容) 実習目標について学び、どのように設定していくか理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 保育園でどのようなことを学びたいのか考える。 事後 実際に学びたいことを目標に記述する。
第15回	春学期のまとめ(学びの振り返り) 実習目標について(設定する際の文章構成)・秋学期に向けての課題	(学修内容) 前回の授業をふまえて作成した実習目標を解説を聞き再度各自添削を行う。夏期休暇中の課題の説明を聞く。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習目標を設定する。 事後 資料をファイルをまとめる。

授 業 名	保育実習指導			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1405
英 文 名	Guidance on Child Care Training			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	山川 宏和・高岡 理恵・福井 百合子・林 静香・安藤 正彦・東田 みすづ・武田 康晴・野田 隆生			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	本授業は、春学期「保育実習指導」の引き続きの授業である。 この授業は、保育を担う豊かな感性をもつ保育士資格を取得するための必修科目であるため、保育士に必要な知識、技術、態度、職業倫理を学ぶ。 具体的には、実習事前準備として春学期に引き続き保育士の職務理解、保育技術の理解と援助方法の習得、生活技術演習などを中心にする。 また、実習に向けて具体的な手続きも行っていくため、春学期以上に主体的な態度が望まれるものとして受講してほしい。								
学修成果 到達目標	1) 自分自身の実習先の施設の概要、機能について理解ができる 2) 保育所実習と施設実習の違いが理解でき、実習課題に取り組むことができる 3) 実習生としての心構えが体得できる。 4) 実習の事前準備を行うことができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 30分)								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ I C T活用(双方向型授業) ☐ I C T活用(自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☒ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 (50%) ☒ 筆記試験 ☒ レポート ☒ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☒ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☒ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()							
テキスト	新・基本保育シリーズ20 保育実習 近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編 中央法規								
参 考 書	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説書』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 必要です								
課題に対する フィードバック の方法	・授業終了後googleformsにて毎回ふりかえりを提出する(当日中の提出)。 提出されたものについては次回の授業内で解説を行う。 ・レポート、あさのたより(月1回)、自由画などの課題提出については個別に添削を行い返却する。								
留意事項	保育実習の事前・事後にあたる通年の学内実習指導であるため、春学期からの通年で必ず履修すること。実習に関する重要事項を学ぶ場であるので、無断欠席は認めない。また、学科の保育関係科目の修得状況及び出席状況、受講態度や理解度によっては実習開始できないこともある。レポートや書類等の提出遅れや未提出の場合も同様である。(要注意)								
オフィス アワー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。								
実践的教育	☒ 実践的教育 教員の実務経験など：【複数人で担当】 公立保育士として勤務、私立保育園で保育士として勤務、公立保育士として勤務の担当者がこれまでの経験を活かして保育現場の実情などを含めて実践的教育を行う。								

授 業 名	保育実習指導	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	秋学期授業ガイダンス 夏休みの課題回数・季節の制作	(学修内容) 秋学期に向けての心構え、予定、実習期間の確定、夏期課題の点検を行う。 グループで季節の制作を行う (事前事後学修課題の内容) 事前 春学期の内容をふりかえっておく。 事後 次回の野菜の種まきにむけて事前に準備物や方法を調べておく。
第2回	保育士の職務理解 環境構成を実践的に学ぶ(自然環境)	(学修内容) グループで野菜収穫に向けて畑の整備および種まきを行う (事前事後学修課題の内容) 振り返りを記入することを通じて理解を深める
第3回	実習に必要な基礎的な知識と技術 チームワークと実習目標(保育所)	(学修内容) チーム保育の重要性を知り学ぶ。実習目標の設定内容の最終見直し (事前事後学修課題の内容) 事前 観察した野菜の内容を記録用紙に書き込む 事後 見直した実習目標を自己添削する
第4回	実習に必要な基礎的な知識と技術 実習記録の書き方	(学修内容) 実習記録の目的や意味を知り理解し、実際に動画を視聴して記録する (事前事後学修課題の内容) 事前 観察した内容を記述する 事後 記録用紙の誤字脱字がないか確認して添削しておく
第5回	実習に必要な基礎的な知識と技術 実習記録の書き方	(学修内容) 実習記録に使われる文体などを学び、文末や文章表現について知り学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前 模擬部分実習を視聴して指導案を作成する 事後 自身が行く実習施設の概要を調べてくる
第6回	実習事前準備 実習ガイダンス	(学修内容) 実習施設種別を把握し、実習手続きを行う。 実習生カードを記入する (事前事後学修課題の内容) 事前 自身が行く実習施設の概要を調べてくる 事後 実習の流れを復習する
第7回	実習目標指導 実習目標のたてかた(施設)	(学修内容) 施設配属種別に分かれて、施設の概要を学び理解し実習目標を設定する (事前事後学修課題の内容) 事前 施設の実習目標について設定する内容考えておく 事後 施設の実習目標をチェック項目に沿って見直す
第8回	実習に必要な基礎的な知識と技術 施設理解を深める(先輩からの話・ペアワーク)	(学修内容) 施設種別にわかれて在学生から実習について話を聞き、イメージを膨らませる。施設の実習目標についてペアで見直す (事前事後学修課題の内容) 事前 施設の実習目標をチェック項目に沿って見直す 事後 施設の実習目標を最終確認する
第9回	保育実践演習 秋の自然物を使った遊びの展開を実践的に学ぶ (教材研究)	(学修内容) 秋の自然物をつかって保育を展開する際の目的や留意点などを学び理解する (事前事後学修課題の内容) 事前 授業で使用する自然物を集めて下準備をしておく 事後 振り返りを記入することを通じて理解を深める
第10回	保育実践演習 育てている野菜の中間報告(グループワーク)	(学修内容) グループで育てている冬野菜の観察を行い実際の育ちを子どもたちに伝える際の教材を作成する (事前事後学修課題の内容) 事前 あらかじめ野菜を観察し記録しておく 事後 グループ発表に向けて各自分担して準備する
第11回	実習事前準備3 保育士倫理綱領と誓約書の理解	(学修内容) 実習へ行くための誓約書を読み誓約書の意味を理解し、保育士倫理綱領との関係について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 保育士倫理綱領について調べてくる 事後 内容を理解した上で誓約書を記入する
第12回	実習事前準備4 実習記録の記入方法、誓約書の記入方法	(学修内容) 実習記録の前半部分(保育方針、クラス編成、地域環境、生活プログラムなど)の書き方を学び理解する (事前事後学修課題の内容) 事前 実習記録の中を確認しておく 事後 教科書の実習記録に関する部分を熟読しておく
第13回	実習事前準備5 事前オリエンテーション	(学修内容) 実習の心得、実習中の注意事項、実習園とのオリエンテーションへの臨み方、手続きの説明と書類提出を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 教科書の事前オリエンテーションに関する部分を熟読する 事後 授業内容を踏まえオリエンテーションのアポイントをとる
第14回	実習直前指導 学内オリエンテーションおよび訪問担当者との顔合わせ(個別面談)	(学修内容) 実習訪問担当教員との顔合わせ前に事前に確認しておく内容を知り学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前 秋学期の内容を見直し疑問点を明確にしておく 事後 訪問担当教員との確認事項を見直ししておく
第15回	実習直前指導 実習前後の確認事項・留意事項 実習の成績評価への理解	(学修内容) 実習評価における評価の意義や方法について学び、評価視点を養う。実習前後の確認事項や留意事項について理解する (事前事後学修課題の内容) 事前 実習に関する不明点などをあらかじめ把握しておく 事後 実習記録の前半部分の記入を完了させておく

授 業 名	保育実習指導		開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2427
英 文 名	Guidance on Child Care Training		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	野田 隆生・高岡 理恵・眞崎 雅子・林 静香・安藤 正彦・東田 みずづ		対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	「保育実習（保育所）」の事前・事後に行う学内指導となる。「保育実習（保育所・施設）」の保育所実習の経験を踏まえて、ふりかえり、学んだことを深化、発展させ、「保育実習（保育所）」に向けての実習課題を明確にする。「保育実習」の実習の意義や目的を認識するとともに、現代社会における子どもや保護者を取り巻く保育環境や問題点を理解し、保育士として必要とされる資質や能力を養うことを目的とす。							
学修成果 到達目標	1) 保育実習 の意義や目的を理解できる。 2) 保育士の職業倫理・守秘義務を理解できる。 3) 指導計画を理解し立案できる。 4) 実習課題を明確にできる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （ 1 回の授業の事前・事後学修時間の計 3 時間 2 0 分 ）							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解		汎用的技能				
		態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用（双方向型授業） ☐ I C T 活用（自主学習支援）							
評価方法	定期試験 （ 50% ） ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 （ 50% ） ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()						
テキスト	随時資料を配布します。 保育実習指導 で使用したテキストならびに資料ファイルは必携。							
参 考 書	下記の冊子は毎時携行することが望ましい。（出版社はフレーベル館） 1) 『保育所保育指針』厚生労働省 2) 『保育所保育指針解説』厚生労働省 3) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 4) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省							
課題に対する フィードバック の方法	個別面談を通じて、各課題に対するコメントを行います。							
留意事項	「保育実習」の実施に向けて、実習の重要な事項を学ぶ授業となるため無断欠席は認めない。 学科の保育関係科目の履修状況及び出席状況によっては、実習を開始できないので注意すること。							
オフィス アワー	専任教員は各研究室に日時を掲示しますので確認してください。 非常勤教員は授業終了後に実施します。（事前に予約を入れることが望ましい。）							
実践的教育	■ 実践的教育 教員の実務経験など：【複数人で担当】 公立保育士として勤務、の担当者がこれまでの経験を活かして保育現場の実情などを含めて実践的 教育を行う。							

授 業 名	保育実習指導	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 保育実習 についての実習概要・講義の進め方等について説明する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 保育実習 (保育所・施設)に関する実習ノート等を準備する。 事後 記載事項に不備がないことを確認しておく。
第2回	保育実習 の目的・意義	(学修内容) 保育実習 との相違点や段階性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習の振り返りシートを作成する。 事後 実習を振り返り、まとめる。
第3回	保育実習 のふりかえりレポートの作成	(学修内容) 保育実習 (保育所・施設)の内容について整理する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習で「できたこと」「できなかったこと」を挙げておく。 事後 実習を振り返り、まとめる。
第4回	保育実習 のふりかえり	(学修内容) 保育実習 の指導案について振り返り、整理する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習記録と指導案を読み返し、ワークシートに記入しておく。 事後 授業内容を振り返り、まとめる。
第5回	保育実習 の評価面談	(学修内容) 保育実習 (保育所実習)の個別評価面談を通して、保育実習 の目的意識を高める。 (事前事後学修課題の内容) 事前 評価面談に必要なシートを作成する。 事後 評価面談終了後、これからの課題についてまとめておく。
第6回	保育実習 のふりかえりと評価面談	(学修内容) 保育実習 (保育所実習)ふりかえりや個別評価面談を通して、保育実習 に向けた課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) 事前 全体のふりかえりと個別評価面談の内容をまとめておく。 事後 期限までにシートを提出する。
第7回	実習生カードの作成・提出	(学修内容) 保育実習 への準備を始める。実習生カードの作成などを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習生カード作成に必要なものを用意する。 事後 清書したカードを期限までに提出する。
第8回	保育士の倫理綱領について理解する	(学修内容) 保育士の倫理綱領を解説しながら、保育士として、実習生としての倫理観について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 保育者倫理について、ワークシートにまとめておく。 事後 授業の内容についてまとめる。
第9回	保育実習 実習目標・課題の作成	(学修内容) 保育実習 の新たな目標・課題を設定する (事前事後学修課題の内容) 事前 実習目標を2つ考え、それぞれに課題を3つ作成する。 事後 実習目標・課題のシートを期限までに提出する。
第10回	実習目標・課題の添削・指導	(学修内容) 実習課題の添削指導を個別相談にて行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習目標と課題を清書用シートに記入しておく。 事後 指導を受けて、修正ができれば清書する。
第11回	実習記録ノートの配布と書き方の説明	(学修内容) 保育実習 の実習記録ノートの配布、記録の書き方について説明 (事前事後学修課題の内容) 事前 保育実習 の記録ノートを読み返し、実習先について調べる。 事後 記録練習シートを作成し、期限までに提出する。
第12回	8月の保育内容 ～水遊びの指導・注意事項・指導計画の立案～	(学修内容) 保育実践を学ぶとともに、指導案作成の留意点の理解、指導計画を立案し実践に向けての準備をする。 (事前事後学修課題の内容) 事前 夏の保育活動をイメージし、指導案の内容について考える。 事後 夏に行う保育について、調べて、まとめる。
第13回	実習事前指導 ～実習の心得などの説明ならびに個別面談～	(学修内容) 実習の心得、実習園とのオリエンテーション、質疑応答 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習園の特徴や保育内容に関する情報を収集しておく。 事後 配布プリントを読み、必要な事柄をマークする。
第14回	実習事前指導 ～必要書類の説明ならびに個別面談～	(学修内容) 実習に伴う書類等準備についての説明 検便等 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習ファイルを見て、実習の事前・事後の流れを整理する。 事後 目標と課題について理解した上で、個別面談に臨む。
第15回	実習訪問担当者との面談	(学修内容) 実習訪問担当者との面談にて個別指導 (事前事後学修課題の内容) 事前 報告書等に必要事項を記入し、面談時に提出すること。 事後 実習に向けて気持ちを高めていく。

授 業 名	保育実習指導	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 保育実習指導、保育実習 について、実習概要、授業の進め方について理解する。 (事前事後学修課題の内容) シラバスに目を通しておく。保育実習指導 のノートを検査し、不備がないものを準備する。事後では、保育実習 の全体像を復習しておく。
第2回	保育実習 の目的・意義	(学修内容) 保育実習 との関連また相違点や段階的学習について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 保育実習 の実習ノートの該当箇所を復習し、課題を抽出しておく。事後では、自分の行く実習種別について実習を想定して復習する。
第3回	保育実習 の振り返りレポートの作成	(学修内容) 保育実習 の内容について振り返りを行い、個別面談を経て保育実習へ向かう課題を明確にする。 (事前事後学修課題の内容) 実習に関するファイル情報を作成し提出する。事後では、保育実習 (施設) 実習計画の達成具合を確認する。
第4回	保育実習 の振り返りと評価面談 (ワークシートによる振り返り)	(学修内容) 保育実習 の振り返り(ワークシート)と個別面談を通じて保育実習の目的、意義を理解する。個別面談以外の学生は課題を作成する。 (事前事後学修課題の内容) 事前に提示した課題に取り組み提出する。保育実習 (保育所)での評価から課題を抽出し、具体的な取り組み例を考える。
第5回	保育実習 の振り返りと評価面談 (実習記録による振り返り)	(学修内容) 保育実習 の振り返り(実習記録)と個別面談を通じて保育実習の目的、意義を理解する。個別面談以外の学生は課題を作成する。 (事前事後学修課題の内容) 事前に提示した課題に取り組み提出する。保育実習 (施設)での評価から課題を抽出し、具体的な取り組み例を考える。
第6回	保育実習 の振り返りと評価面談 (評価票による振り返り)	(学修内容) 保育実習 の振り返り(評価票)と個別面談を通じて保育実習の目的、意義を理解する。個別面談以外の学生は課題を作成する。 (事前事後学修課題の内容) 事前に提示した課題に取り組み提出する。授業で配布する「学びたいことシート」を作成する。(第9回の授業で持参)
第7回	実習生カードの作成と提出	(学修内容) 実習生カードその他、保育実習 に必要な書類について準備する。 (事前事後学修課題の内容) 写真等実習生カードその他の作成に必要なものを準備してくる。不備があれば事後対応する。
第8回	保育士として持つべき価値観・倫理観	(学修内容) 全国保育士会の倫理綱領等を活用し、保育士として、また実習生としての倫理、義務、責任について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 倫理綱領に目を通しておく。また事後には、保育士の倫理についてレポートを作成する。
第9回	実習目標と課題の作成	(学修内容) 保育実習 の積み残し課題を踏まえ、保育実習 としての目標と課題を検討、所定の用紙を作成する。 (事前事後学修課題の内容) 「学びたいことシート」をもとにラフな実習目標をノートに書いてくる。授業内容を踏まえ目標と課題の用紙を完成し提出する。
第10回	実習目標と課題の添削指導	(学修内容) 前回の授業を通じて作成、提出した実習課題と目標の用紙を使い、グループ作業も取り入れながら相互添削、教員による個別添削を受ける。 (事前事後学修課題の内容) 自己チェックシートを使って目標と課題を自己添削してくる。授業の内容を踏まえ、目標と課題の用紙を清書して提出する。
第11回	実習記録ノートの配布と書き方の解説	(学修内容) 実習記録の書き方を学ぶ。また、保育実習 (施設)の実習ノートを持参し、自己添削するワークショップも用いて記録について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 保育実習指導 で配布した記入の手引きを読んできく。実習ノートの様式を使って1日の記録を記入して提出する。
第12回	保育実習 に関するグループ指導 (ワークシートと実習計画によるディスカッション)	(学修内容) 保育実習 (施設)という枠内でテーマを設定し、ディスカッションを通じて課題と対応策について探求する。 (事前事後学修課題の内容) 自分の行く実習先について口頭で説明(3分間)できるよう準備してくる。授業内容に関するレポートを作成する。
第13回	保育実習 に関するグループ指導 (実習記録と評価票によるディスカッション)	(学修内容) 保育実習 (施設)の評価表を参考にディスカッションし、課題と対応策について探求する。 (事前事後学修課題の内容) 実習目標と課題について説明できるよう準備してくる。授業内容に関するレポートを作成する。
第14回	書類の作成指導	(学修内容) 保育実習 に必要な書類について、活用方法、必要性を十分に理解しながら作成する。 (事前事後学修課題の内容) 書類作成に必要なものを準備してくる。不備や時間内に作成できなかったものは事後に作成する。
第15回	保育実習 に向けた最終確認・指導と訪問教員との顔合わせ	(学修内容) 保育実習 に向けた最終的な諸注意事項を理解する。また、訪問担当教員と面談し、実習中の指導方法について確認する。 (事前事後学修課題の内容) 実習に関する疑問点や不安をノートに書き出して授業に参加する。実習に向けて総括的なレポートを作成する。

授 業 名	教職実践演習（幼稚園）			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2444
英 文 名	Teaching Practice（Kindergarten）			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	鈴木 えり子・柘植 誠子・柴田 精一・東野 洋子・ 中道 昌宏・坂本 渉・山川 宏和			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	教職課程の各授業が実践と結びついていることを確認できる機会をもち、学生が自己の課題を自覚する。 幼稚園教育の基本をしっかりと身に付け、「遊びを通しての総合的な指導」を行うための保育実践力を高め、専門性や資質の向上を図る。								
学修成果 到達目標	1）幼稚園教員として必要な資質について説明することができる。 2）履修カルテを参照し、自らの課題が認識できる。 3）領域を基盤とした生活発表会(劇あそび)の行事をグループで企画、実践発表することができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 30分)								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ☐ I C T活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験（50%） ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験（50%） ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ (劇遊びの振り返りレポート) ☐ (補填課題レポート)							
テキスト	なし								
参 考 書	文部科学省編『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートについては授業内でコメントをします。 グループ発表についてはその都度コメントを返します。								
留意事項	教職課程を履修し確実に身につけることができたか確認すること。特にグループ発表は現場での「協働」を意識して積極的に参加、発言すること。								
オフィス アワー	研究室前に掲示して知らせます。								
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：【複数人で担当】 幼稚園園長の経験のある教員3名、小学校教諭の経験のある教員1名、幼稚園教諭の経験のある教員1名の経験を活かして現場における実情などを踏まえて、実践的な教育につなげる。								

授 業 名	教職実践演習（幼稚園）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	教職実践演習の授業について 劇遊びの取り組みについて	（学修内容）教職実践演習の意義と内容について説明する。劇遊びについて理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：履修カルテを記入し、各自の課題を明確にしておく。事後：幼児期に体験した生活発表会（劇遊び）を振り返っておく。
第2回	幼小連携について - 小学校への滑らかな接続を考える -	（学修内容）幼児教育と小学校教育の接続について学び、子どもが安心して小学校生活をおくるための保育者の役割について考察する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：幼小連携の意味について調べておく。事後：授業内容をレポートにまとめて提出する。
第3回	劇遊び（生活発表会）の意義	（学修内容）劇遊び（生活発表会）の取り組みの意義について理解する。劇発表の題材を決定する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：グループ内で劇に適した題材を話し合っておく。事後：劇遊びに適した絵本をグループで話し合い、あらすじをまとめておく。
第4回	グループ活動1-教材の選択-	（学修内容）グループで話し合い、保育活動（劇遊び）の教材を共有する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：劇発表の教材（絵本）を選んでおく。事後：発表に必要なものを書き出し提出する。
第5回	グループ活動2-活動計画の作成-	（学修内容）グループで話し合い、保育活動（劇遊び）の教材を共有し、計画書を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：具体的に必要なものについて書きだし、グループ内での役割を決めておく。事後：自身の配役に必要なものを考えてくる。
第6回	グループ活動3-配役等の決定-	（学修内容）発表に必要な役割分担、あらすじ、全体構成など準備を行う。各グループで準備を進める。 （事前事後学修課題の内容） 事前：グループ内で決まった各自の分担役割を確認し準備を進める。事後：進捗状況に応じて不足分を準備する。
第7回	グループ活動4-全体の流れの調整-	（学修内容）各グループで話し合い準備をすすめる。（衣装・大道具・小道具を作成）配役、セリフ、音楽など発表の流れを確認する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：発表に向けてグループで練習をする。事後：配役、セリフ、立ち位置など最終チェックをおこなう。
第8回	グループ発表のリハーサル 1	（学修内容）劇遊びの発表、最終調整を行う。リハーサルを行う。配役、セリフ、音楽など発表の流れを確認する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：リハーサルに向け各自で練習をする。事後：リハーサルでのアドバイスを反映し話し合いを行う。
第9回	グループ発表のリハーサル 2	（学修内容）劇遊びの発表、最終調整を行う。リハーサルを行う。配役、セリフ、音楽など発表の流れを確認する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：リハーサルに向け各自で練習をする。事後：リハーサルでのアドバイスを反映し話し合いを行い最終調整をする。
第10回	グループ発表のリハーサル 3	（学修内容）劇遊びの発表、最終調整を行う。リハーサルを行う。配役、セリフ、音楽など発表の流れを確認する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：リハーサルに向け各パートごとに練習をする。事後：リハーサルでのアドバイスを反映し話し合いを行い最終調整をする。
第11回	劇遊び発表1	（学修内容）遊びの発表をしたり、他の発表を見て、教師の役割を考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：劇遊び発表に向けて練習・準備を完了する。事後：各グループの発表評価とコメントをまとめて提出する。
第12回	劇遊び発表2	（学修内容）劇遊びの発表をしたり、他の発表を見て、教師の役割を考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：劇遊び発表に向けて練習・準備を完了する。事後：各グループの発表評価とコメントをまとめて提出する。
第13回	劇遊び発表3	（学修内容）劇遊びの発表をしたり、他の発表を見て、教師の役割を考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：劇遊び発表に向けて練習・準備を完了する。事後：各グループの発表評価とコメントをまとめて提出する。
第14回	劇遊び（もう一度観劇したい劇の再演）	（学修内容）もう一度観劇したいグループの劇をみて、自分のグループ発表の振り返りをおこなう。 （事前事後学修課題の内容） 事前：劇遊び発表に向けて練習・準備を完了する。事後：選ばれたグループ発表の工夫点をまとめる。
第15回	劇遊び発表の総評 履修カルテをもとに自己課題を明確にする	（学修内容）日常の保育から生活発表会（劇発表）へとつながる保育の実践について学ぶ。履修カルテを提出する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：授業全体を振り返っておく。事後：履修カルテの作成を通して自己課題についてレポートを作成し提出する。

授 業 名	音楽療法概論			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CL1701
英 文 名	Introduction to Music Therapy			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき			対象学生	幼児教育1回生				
授業の概要	音楽療法の歴史を踏まえながら、現在行われている音楽療法の実践・理論の概要と、臨床場面で音楽を活用する意義について、特に音楽療法の先進国である欧米の現状から学ぶ。また、音楽療法がクライアント（対象者）のどのようなニーズを取り扱うのかを学ぶ。さらに、楽器を用いたワークショップやそれに伴うディスカッション等を通して、音楽療法における「音楽」と一般的な「音楽」の相違点と類似点を体験的に学ぶ。								
学修成果到達目標	1）音楽療法の歴史・実践・理論の概要を説明することができる。 2）音楽療法の実践領域と音楽療法が取り扱うニーズを説明することができる。 3）音楽療法における「音楽」の意義について説明することができる。								
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	☐ P B L ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用（双方向型授業） ☐ I C T 活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験（50%） ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験（50%） ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☒ 口述 ☐ 実習 ☒ 実技				
評価基準	主たる評価観点	☒ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☒ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()							
テキスト	適宜プリントを配布する。								
参 考 書	稲田雅美 (2016) 『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房 藤田哲也監修 串崎真志編著 (2016) 『絶対役立つ臨床心理学：カウンセラーを目指さないあなたにも』ミネルヴァ書房								
課題に対するフィードバックの方法	授業内で提出したレポートについてはコメント等を入れて返却するか、翌週にまとめて全体に対して口頭でフィードバックを行う。 ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。								
留意事項	ワークショップでは、特に積極的・主体的な取り組みを評価します。学生からの積極的な発言も歓迎します。								
オフィスアワー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。								
実践的教育	☒ 実践的教育 教員の実務経験など：英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は、小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では、臨床経験に基づいて事例の具体的な解説や実践的なワークショップなどを行う。								

授 業 名	音楽療法概論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション	(学修内容) 春学期の授業計画について/音楽療法士(2種)資格について/音楽療法とは何か、その理解のための導入 (事前事後学修課題の内容) 事前: シラバスを読み、不明点を書き出しておく。 事後: 学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第2回	音楽療法とは何か	(学修内容) 音楽療法とは何かその概略を知る。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 音楽療法について知っていることや自分のイメージを書き出す。 事後: 学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第3回	ワークショップ (実技とディスカッション): 音楽療法で使う楽器に触れる・気持ちを音で表してみる	(学修内容) 音楽療法で使用する楽器に触れる。いろいろな気持ちや感情を様々な楽器を使って即興的に表す体験をする。感じたことを話し合う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 音楽療法で使用する楽器を調べまとめておく。 事後: ワorkshopを振り返り小レポートにまとめて提出する。
第4回	音楽療法の歴史と発展	(学修内容) 音楽療法の誕生から現在までの発展について学ぶ。音楽療法とは何か、国際的な共通認識を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 配布プリントを読んでおく。 事後: 学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第5回	音楽療法の対象者と実践形態	(学修内容) 音楽療法が対象者のどのようなニーズを取り扱うのかを学ぶ。またニーズに応じた実践形態を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 配布プリントを読んでおく。 事後: 学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第6回	ワークショップ (実技とディスカッション): 図形楽譜を使って即興する	(学修内容) 図形楽譜を用いて、即興的な音楽づくりを体験的に学ぶ。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 図形楽譜について調べ、1枚印刷してくる。 事後: ワorkshopを振り返り小レポートにまとめて提出する。
第7回	心理療法としての音楽療法 : 人間性心理学的アプローチ	(学修内容) 人間性心理学に基づく音楽療法の理論と実践について学ぶ。人間性心理学から他のアプローチにも通底する「セラピストの在り方」を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 配布プリントを読んでおく。 事後: 学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第8回	心理療法としての音楽療法 : 人間性心理学的アプローチの事例	(学修内容) 人間性心理学に基づく音楽療法の事例を輪読し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 配布プリントを読んでおく。 事後: 学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第9回	ワークショップ (実技とディスカッション): 絵を演奏する	(学修内容) 絵を見ながら、即興的な音楽づくりを行う。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 楽器の奏で方を考えてくる。 事後: ワorkshopを振り返り小レポートにまとめて提出する。
第10回	心理療法としての音楽療法 : 精神分析的アプローチ	(学修内容) 精神分析理論に基づく音楽療法の理論と実践について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 配布プリントを読んでおく。 事後: 学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第11回	心理療法としての音楽療法 : 精神分析的アプローチの事例	(学修内容) 精神分析理論に基づく音楽療法の事例を輪読し、ディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 配布プリントを読んでおく。 事後: 学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第12回	ワークショップ (実技とディスカッション): 物語を演奏する	(学修内容) 絵本などの物語を読み、即興的な音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 演奏してみたい絵本を選び、読みこんでくる。 事後: ワorkshopを振り返り小レポートにまとめて提出する。
第13回	音楽療法の「音楽」について	(学修内容) 音楽療法における「音楽」について学ぶ。「即興的な音楽づくり」が音楽療法の臨床に用いられる意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 配布プリントを読んでおく。 事後: 学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第14回	様々な音楽療法のアプローチについて	(学修内容) 人間性心理学的アプローチと精神分析的アプローチ以外のアプローチについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 配布プリントを読んでおく。 事後: 学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第15回	ワークショップ (実技とディスカッション): 「今」を演奏する	(学修内容) 「今」思いのままに、即興で音を奏で、音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 春学期のワークショップの小レポートを読み直しておく。 事後: ワorkshopを振り返り小レポートにまとめて提出する。

授 業 名	音楽療法各論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	イントロダクション：音楽療法士に求められるもの	（学修内容）秋学期の授業計画について説明を受け理解する。音楽療法士（2種）資格について確認する。音楽療法士に求められるものについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを読み、不明点を書き出しておく。 事後：学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第2回	音楽療法士の仕事を概観する	（学修内容）音楽療法士の仕事の実際について、配布資料を読みながら理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：配布プリントを読んでおく。 事後：学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第3回	ワークショップ（実技とディスカッション）：コラージュを演奏する	（学修内容）コラージュを制作し、作ったコラージュを見ながら即興的な音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：コラージュについて調べノートにまとめる。 事後：ワークショップを振り返り小レポートにまとめて提出する。
第4回	発達の援助と音楽療法：発達障害と知的障害の概観	（学修内容）発達障害と知的障害について概観し、これらの障害を持つ子どものニーズを考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：配布プリントを読んでおく。 事後：学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第5回	発達の援助と音楽療法：ニーズのある子どもの発達を援助する音楽療法	（学修内容）様々なニーズを持つ子どもの発達を援助する音楽療法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：配布プリントを読んでおく。 事後：学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第6回	ワークショップ（実技とディスカッション）：音楽を目に見える形で表現する	（学修内容）音楽を鑑賞しながら、様々な素材を用いて自由に描画・制作をする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：制作のアイデアを考える。 事後：ワークショップを振り返り小レポートにまとめて提出する。
第7回	知的障害と音楽療法：知的障害者の心のニーズ	（学修内容）知的障害者の心のニーズについて、特にシナソンのセカンダリー・ハンディキャップの概念を通して学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：配布プリントを読んでおく。 事後：学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第8回	知的障害と音楽療法：知的障害者の心のニーズを取り扱う音楽療法	（学修内容）知的障害者の心のニーズを取り扱う音楽療法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：配布プリントを読んでおく。 事後：学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第9回	ワークショップ（実技とディスカッション）：制作したものを音楽で表す	（学修内容）前回のワークショップで制作したものをしながら即興的な音楽づくりをする。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：ワークショップのレポートの書き方を復習しておく。 事後：ワークショップを振り返り小レポートにまとめて提出する。
第10回	精神疾患と音楽療法：精神疾患の概要	（学修内容）精神疾患の概要を学び、精神障害を患う人びとの心のニーズや社会的ニーズについて考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：配布プリントを読んでおく。 事後：学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第11回	精神疾患と音楽療法：精神障害者のニーズを取り扱う音楽療法	（学修内容）精神障害者のニーズを取り扱う音楽療法とニーズに応じた実践形態について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：配布プリントを読んでおく。 事後：学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第12回	ワークショップ（実技とディスカッション）：言葉を音楽で表す	（学修内容）形容詞と名詞を組み合わせる言葉をつくり、その言葉を即興的に音楽で表す。ワークショップを通して感じたことなどを話し合う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：ワークショップのレポートの書き方を復習しておく。 事後：ワークショップを振り返り小レポートにまとめて提出する。
第13回	高齢者と音楽療法：高齢者が患う病と心のニーズ	（学修内容）高齢者が患う病の概要を学び、高齢者の心のニーズを考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：配布プリントを読んでおく。 事後：学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第14回	高齢者と音楽療法：高齢者のニーズを取り扱う音楽療法	（学修内容）高齢者のニーズを取り扱う音楽療法について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：配布プリントを読んでおく。 事後：学んだ内容を小レポートにまとめて提出する。
第15回	秋学期のまとめとワークショップ（実技とディスカッション）：年度終わりの即興演奏	（学修内容）秋学期に学んだことのまとめと、グループ即興を行う。ワークショップを通して感じたことなどを感想を話し合う。 （事前事後学修課題の内容） 事前：秋学期のワークショップの小レポートを読み直しておく。 事後：ワークショップを振り返り小レポートにまとめて提出する。

授 業 名	音楽療法演習		開講学年	2年生	単位数	2単位	科目コード	CL2709
英 文 名	Seminar on Music Therapy		開講時期	春学期		必修選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき		対象学生	幼児教育2年生				
授業の概要	音楽療法実習（保育実習 又は ）に向けて子どもの発達を促す音楽活動を考え発表し（プレゼンテーション）、クラスメイトを対象者に見立てて実践する（ワークショップ）。ディスカッションやレポート作業を通して、体験的な学びを言語化し考察する力や、考え・感じたことを他者と共有する力を身につける。また、音楽療法センターを見学し、実際の現場について知る。							
学修成果到達目標	1) 子どもの発達を踏まえた音楽活動を考案することができる 2) 1)の音楽活動を発表し、ワークショップを展開することができる 3) ワークショップを通じた体験的学びををレポートにまとめ考察することができる							
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解	○	汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	☐ PBL ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ ICT活用（双方向型授業） ☐ ICT活用（自主学習支援）							
評価方法	定期試験（50%） ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験（50%） ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☒ 口述 ☐ 実習 ☒ 実技				
評価基準	主たる評価観点	☒ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☒ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()						
テキスト	必要に応じて資料を配布する							
参 考 書	稲田雅美著『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房							
課題に対するフィードバックの方法	事後学修の小レポートについては、コメント等を入れて返却する。 ワークショップやディスカッションでは、その場で適宜口頭でコメント・助言等を行う。							
留意事項	本演習は音楽療法実習の事前指導的な性格を持つため、本科目未履修の場合、また提出物の未提出や無断欠席等により単位を取得できなかった場合、実習ができなくなることがあります。積極的な取り組みと努力を特に必要とします。							
オフィスアワー	週1回オフィスアワーを設けます。曜日と時間の詳細は研究室前に掲示します。							
実践的教育	☒ 実践的教育 教員の実務経験など：英国公認音楽療法士であり、英国の障害児支援施設や幼稚園において障害のある子どもの臨床経験を持つ。帰国後は、小児科併設施設で障害のある子ども～青年の臨床や、高齢者施設での臨床を行ってきた。授業では、臨床経験に基づいて事例の具体的な解説や実践的なワークショップなどを行う。							

授 業 名	音楽療法演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	・イントロダクション ・グループ即興の経験1	(学修内容) 春学期の授業計画と音楽活動の発表について説明を受け理解する。クラスメイトと即興的な音楽づくりを通して再会する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：シラバスを熟読し、不明点を書き出しておく。 事後：グループ即興の記録を書き、考察する。
第2回	・子どもの発達と援助：音楽療法と保育の共通点と相違点 ・グループ即興の経験2	(学修内容) 子どもの発達とその援助について学ぶ中で、音楽療法と保育の共通点と相違点を理解する。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：子どもの発達について1回生で学んだことを復習しておく。 事後：グループ即興の記録を書き、考察する。
第3回	・子どもの発達と援助：子どもの音楽発達 ・グループ即興の経験3	(学修内容) 子どもの音楽発達について概観し、音楽を介した発達の援助にどのように生かすことができるか考える。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：子どもの発達について年齢ごとにまとめておく。 事後：グループ即興の記録を書き、考察する。
第4回	・音楽療法センター見学の事前準備 ・グループ即興の経験4	(学修内容) 次回訪問する音楽療法センターについて知る。訪問時のマナーを確認する。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：訪問する音楽療法センターについて調べてまとめる。 事後：グループ即興の記録を書き、考察する。
第5回	・音楽療法センターの見学（学外授業）	(学修内容) 音楽療法センターを訪問する。（訪問先の都合により訪問日程が前後することがある。） (事前事後学修課題の内容) 事前：音楽療法センターで質問したいことをまとめておく。 事後：音楽療法センター訪問の感想を小レポートにまとめる。
第6回	・音楽療法センターの見学（学外授業）	(学修内容) 音楽療法センターを訪問する。（訪問先の都合により訪問日程が前後することがある。） (事前事後学修課題の内容) 事前：音楽療法センターで質問したいことをまとめておく。 事後：音楽療法センター訪問の感想を小レポートにまとめる。
第7回	・音楽療法センター見学の振り返り ・グループ即興の経験5	(学修内容) 音楽療法センターの見学を通して学んだことを振り返り、共有し、意見交換をする。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：音楽療法センターの見学を通して学んだことをまとめる。 事後：グループ即興の記録を書き、考察する。
第8回	・子どもの発達に即した音楽活動の発表に向けて：活動内容を考える ・グループ即興の経験6	(学修内容) 「子どもの発達に即した音楽活動」の発表に向けて、それぞれ活動内容を考える。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：子どもの音楽発達について復習しておく。 事後：グループ即興の記録を書き、考察する。
第9回	・子どもの発達に即した音楽活動の発表に向けて：個別の作業と個別指導 ・グループ即興の経験7	(学修内容) 「子どもの発達に即した音楽活動」の発表に向けて、活動内容を具体的に考え、個別指導を受ける。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：子どもの発達に即した音楽活動の発表内容を考え、ノート等にまとめて持参する。事後：グループ即興の記録を書き、考察する。
第10回	・子どもの発達に即した音楽活動の発表に向けて：個別指導を踏まえて内容をさらに検討する ・グループ即興の経験8	(学修内容) 前回の個別指導を踏まえて音楽活動の発表に向け、さらに内容を検討する。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：子どもの発達に即した音楽活動の発表内容を考え、ノート等にまとめて持参する。事後：グループ即興の記録を書き、考察する。
第11回	・子どもの発達に即した音楽活動の発表に向けて：内容をさらに検討する ・グループ即興の経験9	(学修内容) 楽器などを実際に使いながら、音楽活動の内容をさらに検討する。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：子どもの発達に即した音楽活動の発表内容を考え、ノート等にまとめて持参する。事後：グループ即興の記録を書き、考察する。
第12回	・子どもの発達に即した音楽活動の発表に向けて：内容を最終確認する ・グループ即興の経験10	(学修内容) 次週からの発表に向けて、考案した音楽活動の内容を再度見直し検討する。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：子どもの発達に即した音楽活動の発表内容を考え、ノート等にまとめて持参する。事後：グループ即興の記録を書き、考察する。
第13回	・子どもの発達に即した音楽活動：乳児 ・グループ即興の経験11	(学修内容) 乳児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表・実施し、ディスカッションする。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。 事後：グループ即興の記録を書き、考察する。
第14回	・子どもの発達に即した音楽活動：幼児 ・グループ即興の経験12	(学修内容) 幼児の発達段階を踏まえた音楽活動について発表担当者が発表・実施し、ディスカッションをする。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：発表の準備をし、配布するレジュメを作成する。 事後：グループ即興の記録を書き、考察する。
第15回	グループ即興の経験13	(学修内容) 継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：先週までの発表の振り返りをまとめておく。 事後：グループ即興の記録を書き、考察する。

授 業 名	音楽療法総合演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	・イントロダクション：実習の振り返り ・グループ即興の経験14	(学修内容) 夏休み中の実習で実際に行った音楽活動についてそれぞれ発表しディスカッションする。継続的なグループ即興を経験する。 (事前事後学修課題の内容) 実習で行った音楽活動の内容や感想・反省点を発表する準備をしておく。事後学修としてグループ即興の経験について小レポートにまとめる。
第2回	・心の発達を援助する音楽療法の実際：音楽療法の在り方 ・グループ即興の経験15	(学修内容) 自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について事例を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容) 【事前】配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。【事後】グループ即興の小レポート
第3回	・心の発達を援助する音楽療法の実際：介入の実際 ・グループ即興の経験16	(学修内容) 自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について事例を通して理解を深める(グループワークとディスカッションの続き) (事前事後学修課題の内容) 【事前】配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。【事後】グループ即興の小レポート
第4回	・心の発達を援助する音楽療法の実際：介入の実際 ・グループ即興の経験17	(学修内容) 自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について、さらに事例を読み進める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容) 【事前】配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。【事後】グループ即興の小レポート
第5回	・心の発達を援助する音楽療法の実際：介入の実際 ・グループ即興の経験18	(学修内容) 引き続き自閉スペクトラム障害を持つ子どもの発達を援助する音楽療法について、事例を読み進める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容) 【事前】配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。【事後】グループ即興の小レポート
第6回	・個別音楽療法の体験 ・グループ即興の経験19	(学修内容) クライアントとして実際の音楽療法と同様の体験をする。 (事前事後学修課題の内容) 【事後】クライアント体験を通して気づいたことをまとめる。グループ即興の小レポートを書く。
第7回	・個別音楽療法の体験 ・グループ即興の経験20	(学修内容) 前回に引き続き、クライアントとして実際の音楽療法と同様の体験をする。 (事前事後学修課題の内容) 【事後】クライアント体験を通して気づいたことをまとめる。グループ即興の小レポートを書く。
第8回	・グループ形態の音楽療法：グループが形成されるプロセス ・グループ即興の経験21	(学修内容) 小グループでのセラピーについて、文献を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容) 【事前】配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。【事後】グループ即興の小レポート
第9回	・グループ形態の音楽療法：相手を受けとめることから音楽的体験へ ・グループ即興の経験22	(学修内容) 引き続き、小グループでのセラピーについて、文献を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容) 【事前】配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。【事後】グループ即興の小レポート
第10回	・グループ形態の音楽療法：グループで「音楽すること」 ・グループ即興の経験23	(学修内容) 引き続き、小グループでのセラピーについて、文献を通して理解を深める(グループワークとディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容) 【事前】配布資料を読み、グループワークができるように内容や感想をまとめておく。【事後】グループ即興の小レポート
第11回	・ワークショップ：他者を音楽的に伴走(伴奏)すること ・グループ即興の経験24	(学修内容) 音楽療法士はどのようにクライアントの在り方を音楽的に支えるのか体験的に学ぶ。ワークについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 【事後】グループ即興の小レポート
第12回	・ワークショップ：音楽的に「共にいる」こと ・グループ即興の経験25	(学修内容) 引き続き、音楽療法士はどのようにクライアントの在り方を音楽的に支えるのか体験的に学ぶ。ワークについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 【事後】グループ即興の小レポート
第13回	・ワークショップ：音楽的に対話すること ・グループ即興の経験26	(学修内容) 音楽療法士とクライアントが音楽的に対話するとはどういうことが体験的に学ぶ。ワークについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 【事後】グループ即興の小レポート
第14回	・「音楽療法の終結」と学びの終わりに向けて ・グループ即興の経験27	(学修内容) 音楽療法の終結について学び、その重要性を理解・考察する。2年間の音楽療法の学びを振り返り、音楽療法の仲間とお別れする準備をする。 (事前事後学修課題の内容) 【事後】グループ即興の小レポート
第15回	・「音楽療法の終結」と学びのまとめ ・グループ即興の経験28	(学修内容) 前回に引き続き2年間の学びを振り返り、音楽療法の仲間とお別れする中で、「終結」の重要性にさらに思いを巡らせる。 (事前事後学修課題の内容) 【事後】グループ即興の小レポート

授 業 名	音楽療法の器楽	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス ギター	(学修内容) 授業についての説明 ギターのチューニング、指の押さえ方、音階 (事前事後学修課題の内容) ギターのチューニングが一人で行えるようにする
第2回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターのチューニング、指の押さえ方、音階 リコーダー運指の練習 (事前事後学修課題の内容) ギターの練習 リコーダーの練習
第3回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターのチューニング、指の押さえ方、音階 リコーダー運指の練習 (事前事後学修課題の内容) ギターの練習 リコーダーの練習
第4回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法 (事前事後学修課題の内容) ギターの練習 リコーダーの練習
第5回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法 (事前事後学修課題の内容) ギターの練習 リコーダーの練習
第6回	ギター リコーダー	(学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法 (事前事後学修課題の内容) ギターの練習 リコーダーの練習
第7回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの音階、コード リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第8回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第9回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第10回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第11回	ギター リコーダー 木琴、鉄琴	(学修内容) ギターの演奏法 リコーダー演奏法、木琴、鉄琴の演奏法 (事前事後学修課題の内容) ギターの練習 リコーダー、木琴、鉄琴の練習
第12回	合奏	(学修内容) グループワークによる合奏を考える (事前事後学修課題の内容) 各自パートの練習
第13回	合奏	(学修内容) グループワークによる合奏 (事前事後学修課題の内容) 各自パートの練習
第14回	合奏	(学修内容) グループワークによる発表 (事前事後学修課題の内容) 各自パートの練習
第15回	合奏	(学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) 各自パートの練習

授 業 名	音楽史			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2716
英 文 名	History of Music			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	山中 信子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	本講義の目的は、古代から現代までの西洋音楽史を概観することである。授業に際しては、できるだけ楽譜、音源（生演奏含む）、映像資料を通して、その音楽的特徴を具体的に考察するように心がける。また、日本をはじめとした非西洋の音楽とも比較しながら、西洋音楽を相対化する視点も盛り込む。一方的な講義になることは極力避け、受講生によるプレゼンテーションやディスカッションの機会も取り入れて実施する。								
学修成果 到達目標	1) 西洋音楽の史的展開を把握するとともに各時代・各作曲家の様式について理解できる。 2) 西洋および非西洋音楽の史的展開の特徴を比較・検討することにより、各々の様式変遷について幅広い視野から把握できる。 3) 西洋音楽と身近な音楽（ポップスなど）との繋がりについて関心が持てる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ☐ I C T活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験 （50%） ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 （50%） ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☒ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☒ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☒ 授業態度・参加意欲 ☐ (							

授 業 名	音楽史	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 音楽史を学ぶ意味	(学修内容) 授業の内容・評価等について説明。人間にとって音楽がなぜ必要かについて考察し、音楽の歴史を学ぶ意味について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 授業前には自分なりに予備的考察を行い、授業後は学修内容について小レポートを作成し、提出すること。
第2回	古代の音楽	(学修内容) 音楽の起源、古代ギリシア、古代ローマの音楽について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 授業前にテキストの該当ページを読み、授業後は学修内容について小レポートを作成し、提出すること。
第3回	中世の音楽	(学修内容) グレゴリオ聖歌からルネッサンス音楽までの流れを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 授業前にテキストの該当ページを読み、授業後は学修内容について小レポートを作成し、提出すること。
第4回	バロック音楽(1)様式	(学修内容) オペラ、コンチェルト、器楽音楽について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 授業前にテキストの該当ページを読み、授業後はバロック音楽の様式について小レポートを作成し、提出すること。
第5回	バロック音楽(2)音楽家	(学修内容) バロック時代の音楽家について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 授業前にテキストの該当ページを読み、授業後はバロックの音楽家たちについて小レポートを作成し、提出すること。
第6回	前古典派の音楽	(学修内容) シンフォニーとソナタ形式から前古典派の音楽について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 授業前にテキストの該当ページを読み、授業後は前古典派音楽の特徴について小レポートを作成し、提出すること。
第7回	古典派の音楽(1)ハイドン、モーツァルト	(学修内容) 古典派の作曲家ハイドンとモーツァルトの音楽について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 授業前にテキストの該当ページを読み、発表準備をしておくこと。授業後は学修内容について小レポートを作成し、提出すること。
第8回	古典派の音楽(2)ベートーヴェン	(学修内容) 古典派の作曲家ベートーヴェンの音楽について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 授業前にテキストの該当ページを読み、発表準備をしておくこと。授業後は学修内容について小レポートを作成し、提出すること。
第9回	前期ロマン派の音楽	(学修内容) 前期ロマン派の特色と音楽家についてグループ発表・ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 授業前にテキストの該当ページを読み、発表準備をしておくこと。授業後は前期ロマン派の音楽について小レポートを作成し、提出すること。
第10回	後期ロマン派の音楽	(学修内容) 後期ロマン派の特色と音楽家についてグループ発表・ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 授業前にテキストの該当ページを読み、発表準備をしておくこと。授業後は後期ロマン派の音楽について小レポートを作成し、提出すること。
第11回	近代の音楽	(学修内容) 19世紀後半から20世紀前半までの印象派音楽等について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 授業前にテキストの該当ページを読み、授業後は近代音楽の特徴や傾向について小レポートを作成し、提出すること。
第12回	現代の音楽	(学修内容) シェーンベルクの12音技法、ジョン・ケージの偶然性の音楽等について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 授業前にテキストの該当ページを読み、授業後は多様な現代の音楽について小レポートを作成し、提出すること。
第13回	日本音楽史と西洋音楽史の変遷とその比較	(学修内容) 日本音楽と西洋音楽を比較しながら、それぞれの歴史的変遷を辿る。 (事前事後学修課題の内容) 授業前にテキストの該当ページを読み、授業後は学修内容について小レポートを作成し、提出すること。
第14回	西洋音楽と非西洋音楽	(学修内容) 西洋音楽と非西洋音楽を比較しながら、それぞれを相対的に捉える。 (事前事後学修課題の内容) 授業前に配布資料を読み、授業後は学修内容について小レポートを作成し、提出すること。
第15回	まとめと考察	(学修内容) 講義全体を踏まえて、人間にとって音楽がなぜ必要かについて自分の考えをまとめ、グループで共有する。 (事前事後学修課題の内容) 5～10分程度の発表準備をする。

実 習 名	教育実習	対象学生	幼児教育2回生
担 当 者	坂本 渉・柴田 精一・鈴木 えり子・武田 康晴・野田 隆生・高岡 理恵・坂口 みゆき・小川 隆昭・福井 百合子・渋谷 郁子・眞崎 雅子・柘植 誠子・荘厳 茶茶・林 静香・東野 洋子・伊原 安見子		
実習の概要	幼稚園教諭二種免許状取得に必要な幼稚園教育実習を行う。 実習では、幼稚園の保育の中で幼児や教師とかかわり、一人一人の幼児を理解することが重要であり、教師の姿から保育に対する考え方や指導方法を学んでいく。さらに、幼児とのかかわりを通して子ども観、教育観を形成していくための幼児理解を積み重ねていくことが重要である。 机上の勉強だけでは習得できない様々な体験を重ね、幼稚園の教育現場で教員として実際に保育していく上に必要なことを学び、学校で学んだ理論や学習内容を確認する。 実習は教師として人間として成長する重要な学びの場であり、教師として幼児を育てる意義について深く考え自覚する貴重な機会である。 華頂短期大学附属幼稚園や各都道府県市町村の公立・私立の幼稚園および認定こども園で、2年次の6月に3週間連続で教育実習を行う。 教育実習の期間中に実習園を訪問し巡回指導を実施する。但し、訪問による巡回指導が難しい場合は同等の手段（google meet等の遠隔での面談指導）を用いて実施する。 教育実習は、限られた期間内で効果的な体験が得られるよう、次の段階を踏まえて実施する。 1．事前オリエンテーション 実習園でオリエンテーションを受け、実習園の沿革、人的・物的環境、学級編成、幼児の実態、教師の役割などを総合的に把握し、幼稚園の全体像を知る。 2．参加実習 担任の助手的な立場で保育活動に参加し、幼児とのかかわりを実習体験し、幼児のすがた、教師の対応を体験しながら学ぶ。 3．部分実習・指導実習（研究実習） 実習生が主体となって指導計画案を立案し、実際に指導を担当する。この指導実習を通して自ら反省し指導を振り返る。さらに、担当教員から講評・指導を受けて、次への指導の向上を図る。		
備 考	「教育実習事前事後指導」（1回生秋学期、2回生春学期）を必ず履修すること。 「教育実習事前事後指導」の出席状況や受講態度、授業内レポートの未提出が多く面談指導後においても改善が見られないと判断した場合は教育実習を次年度に延期する。また、実習に伴う各書類の提出や期日を守らない等が生じた場合は実習開始できないこともあるので気をつけること。さらに、1回生時の修得しなければならない履修科目において未履修科目が学科内規定の上限を超えている場合は不十分であると判断し、実習を当該年度に開始できないことがある。		

実 習 名	保育実習	対象学生	幼児教育1回生
担 当 者	坂本 渉・柴田 精一・鈴木 えり子・武田 康晴・野田 隆生・高岡 理恵・坂口 みゆき・小川 隆昭・福井 百合子・渋谷 郁子・眞崎 雅子・柘植 誠子・荘厳 茶茶・林 静香・安藤 正彦・東田 みすづ		
実習の概要	「保育実習」には「保育所実習」と「施設実習」があり、どちらの実習も実施しなければならない。 1．実習目標・目的 実習では、授業で習得した基礎知識や技能を実際の職務に応用しながらその経験を通して乳幼児（利用者）に対する理解を深めること、保育士の職務内容を理解し保育・養護技術を習得すること、保育士としての自覚を高めることを目標とします。 2．実習内容及び実習形態 ■保育所実習 公立・私立の認可保育所（幼保連携型認定こども園を含む）で行う。 実習時期は1回生の2～3月、実習日数は原則10日間以上かつ80時間以上で、原則通勤による実習を行う。 実習先は近畿2府4県と福井県内とし、その選定方法は「保育実習指導」において説明します。 ■施設実習 児童福祉法に定められる保育所以外での児童福祉施設等で行う。 実習時期は1回生の2～3月、実習日数は原則1日10日間以上かつ80時間以上で行う。 原則宿泊による（一部のみ通勤）による実習になる。 実習先の種別は以下の通りで、乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設・障害者支援施設等 実習先は学校で割り振り配属します。（個人的な事情等については事前に申し出ることと配慮します） 3．実習生に対する指導法 実習中は、実習担当職員からの指導・助言を受けながら実習を行う。教員は、原則的に実習中に1回訪問し、指導を行う。 4．事前事後指導等の内容について 実習先で事前にオリエンテーションを受け、事前オリエンテーション報告に記入する。 その際、実習先で指導された内容について詳細に記載するとともに、教員に伝える必要性のある事項については、必ず連絡すること。指導は個別に行うこともあるため、Gメールを利用し、教員としっかり連絡をとることを前提とする。 5．実習受講条件 「保育実習指導」を受講していること。 6．実習態度等 実習先の方針や守秘義務を遵守しなければなりません。社会とのかかわりの第一歩であるため、積極的に実習に臨んでください。また、子どもとかかわることを意識した、表情や態度を示してください。		
備 考	・この科目が単位認定されるには、「保育実習指導」を履修する必要があります。「保育実習」と「保育実習指導I」は個別に単位認定されますがそれぞれが連動している科目のため単独で単位認定されることはありません。 ・保育実習指導I（1回生春学期・秋学期）を必ず履修していること。 ・出席状況および各レポート等が未提出の場合は実習できないこともあるので気をつけること。 ・実習記録は毎日提出すること。		

実 習 名	保育実習	対象学生	幼児教育2回生
担 当 者	鈴木 えり子・武田 康晴・野田 隆生・高岡 理恵・坂口 みゆき・小川 隆昭・福井 百合子・渋谷 郁子・眞崎 雅子・柘植 誠子・荘厳 茶茶・坂本 渉・柴田 精一・林 静香・安藤 正彦・東田 みすづ		
実習の概要	1．目標・目的 「保育実習（保育所・施設）」の保育所実習で学んだ内容を発展的に深化させ、実践力や応用力をさらに高めることを目的とする。 2．保育実習（保育所）の内容 乳幼児の成長・発達を理解し、個々に応じた保育者の援助について学ぶ。 健康管理、安全対策、子どもの心身の状態に応じた環境づくりを学ぶ。 保育実習の内容（観察・参加・部分実習）に加えて、指導計画を立案し研究実習（部分、半日、全日のいずれか）を行う。 保育士の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。 3．実習生に対する指導方法 原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、保育所の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。 4．実習形態 公立・私立の認可保育所（幼保連携型認定こども園を含む）で行い、原則「保育実習」の保育所実習先と同様とする。 期間は、2回生の8月のうち10日間以上（休みを除く）であり、80時間以上の実習を行わなければならない。 5．事前事後指導等の内容等（必要性）について 「保育実習指導」で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとすることがある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、保育所の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。		
備 考	【留意事項】 体調管理について 平素より自身の健康・体調管理を徹底し、現場での実習に臨むことができるように取り組みましょう。 1．実習受講の条件＝ ○「保育実習」の実習を終了していること。○「保育実習」の単位を取得するには、「保育実習指導」の単位を取得することを条件とする。○「保育実習」と「保育実習指導」は形式上個別に単位認定されますが、連動しているので個別に単位認定されることはありません。 2．実習態度、参加意欲＝ ○プライバシー保護に基づいて、実習中に知り得た情報を第三者等に漏らしてはならない。○子どもと保護者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように、危険防止、体調管理を徹底して行う。		

実 習 名	保育実習	対象学生	幼児教育2回生
担 当 者	鈴木 えり子・坂口 みゆき・小川 隆昭・福井 百合子・渋谷 郁子・眞崎 雅子・柘植 誠子・荘厳 茶茶・坂本 渉・林 静香・武田 康晴・野田 隆生・高岡 理恵・柴田 精一		
実習の概要	1．目標・目的 「保育実習（保育所・施設）」の保育所実習で学んだ内容を発展的に深化させ、実践力や応用力をさらに高めることを目的とする。 2．保育実習（施設）の内容 児童・利用者の状況を理解し、個々に応じた保育者・援助者の援助について学ぶ。 健康管理、安全対策、児童・利用者の心身の状態に応じた環境づくりを学ぶ。 保育実習の内容（観察・参加・部分実習）に加えて、指導計画を立案し研究実習（部分、半日、全日のいずれか）を行う。 保育者・援助者の業務内容や職業倫理を学び、記録に基づく省察と自己評価を行う。 3．実習生に対する指導方法 原則的に実習中に1回以上、巡回指導を行い、施設の実習指導担当者との連携のもとに実習生へのスーパービジョンを行う。 4．実習形態 大学の契約する社会福祉施設で行ない、原則「保育実習」の施設とは異なる実習先とする。 期間は、2回生の8月のうち10日間以上（休みを除く）かつ80時間以上の実習を行わなければならない。 5．事前事後指導等の内容等（必要性）について 「保育実習指導」で事前指導を受けた者が、実習を行うことができる。保育実習指導で提出物・レポート等の未提出並びに無断欠席した場合には、実習を行えないとすることがある。体調管理や衛生管理が求められる実習だけに、保育実習指導への積極的な参加が実習実施の可否の判断基準となる。また、実習後には、施設の評価に基づいた評価面談を行って、実習の学びを振り返る。実習日誌や出勤簿の提出を義務付ける。		
備 考	1．実習受講の条件 ○「保育実習」の実習を終了している。 ○「保育実習」の単位を取得するには「保育実習指導」の単位を取得することを条件となる。 ○「保育実習」と「保育実習指導」は形式上個別に単位認定されるが、連動しているので実際上個別に単位認定されることはない。 2．実習態度・参加意欲 ○実習中に知り得た情報を第三者等に漏らしてはならない。 ○児童・利用者者の権利擁護を最優先とし、安全な実習が行えるように危険防止、体調管理を徹底して行う。 ○実習に際しては「誓約書」を作成し、その内容に反した場合は単位認定できない。		

授 業 名	保育内容総論			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2331
英 文 名	Outline of Child Care			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	鈴木 えり子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育保育要領」における保育の基本と構造を理解し、保育の目標や子どもの発達を5領域に関連づけてとらえ、総合的に学ぶ。子ども理解を具体的事例やDVDの視聴覚教材をもとに深め、グループワークを主として保育者としての必要な知識と技術、実践力の習得及び強化を目指す。								
学修成果 到達目標	1) 保育内容5領域について理解できる。 2) 各年齢に応じた保育内容のねらいが理解できる。 3) 具体的な保育内容について実践と理論を関係づけることができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 30分)								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用(双方向型授業) ☐ I C T活用(自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ (課題レポート) ☐ (小テスト)							
テキスト	前田和代編著「新・保育内容総論 保育って、おもしろい」教育情報出版								
参 考 書	文部科学省編『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省編『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・厚生労働省・文部科学省編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートについては授業内でコメントをします。 グループ発表については授業内で評価コメントを行います。 小テストについては採点して返却します。								
留意事項	保育内容を実践する。材料など指定されたものを忘れずに必ず各自で用意し持ってくること。								
オフィス アワー	研究室に掲示しますので確認してください。もちろん研究室に在室していれば随時対応しますが、事前にメールで連絡があれば確実に対応できると思います。								
実践的教育									

授 業 名	保育内容総論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 保育の全体構造について	(学修内容) 授業の概要を説明する。保育の全体構造と保育内容との関連を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：シラバスを読んでおく。事後：授業内容をまとめ、「保育内容」のことばについて説明できるようにする。
第2回	保育の基本と保育内容	(学修内容) 保育内容と保育実践へのつながりを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第1章を読み、3法令について調べておく。事後：3法令の相違についてまとめておく。
第3回	乳児期の発達特性と保育内容1	(学修内容) 子どもの発達理解の観点から、子どもの発達特性と過程について理解する。3歳未満児の発達にふさわしい保育内容を事例を通して考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：乳児クラスでの実習を振り返って保育活動を書き出してくる。事後：乳児クラスでの保育活動を想定して指導計画を書く。
第4回	幼児期の発達特性と保育内容2	(学修内容) 子どもの発達理解の観点から、子どもの発達特性と過程について理解する。3歳以上児の発達にふさわしい保育内容を事例を通して考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：幼児クラスでの実習を振り返って保育活動を書き出してくる。事後：幼児クラスでの保育活動を想定して指導計画を書く。
第5回	遊びの意義と特徴 DVD視聴	(学修内容) 子どもにとっての遊びの意義と特徴について、DVDを視聴し理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第6章を読み「遊び」の意義をまとめておく。事後：DVDのディスカッションをレポートにまとめて提出する。
第6回	遊びを通した総合的な保育	(学修内容) 遊びを通した保育活動について実践を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第3章の生活と遊びの関係についてまとめておく。事後：授業を振り返り内容を整理しておく。
第7回	保育活動と行事	(学修内容) 活動をどのように捉え実践につなげるかを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：幼稚園や保育所等の行事をHPを参考に調べてくる。事後：活動と保育者の援助について説明できるようにする。
第8回	保育内容と行事	(学修内容) 保育内容としての行事のとらえ方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：小テストの準備をしてくる。事後：小テストを見直しておく。
第9回	行事の取り組み	(学修内容) 保育内容としての行事を取り上げ模擬保育の計画を話し合う。 (事前事後学修課題の内容) 事前：行事のねらいや内容、方法について計画をたてる。事後：調べた行事をレポートにまとめて提出する。
第10回	事例研究「幼児教育において育みたい資質・能力を育む保育」	(学修内容) 事例を通して幼児期において育みたい資質・能力について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を書き出してくる。事後：授業の事例をまとめておく。
第11回	事例研究「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を育む保育」	(学修内容) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域との関連について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と5領域との関連を考えてくる。事後：授業の事例をまとめておく。
第12回	保育計画とその展開	(学修内容) 行事活動の展開を発表を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：行事をテーマとした指導計画（略案）を書いてくる。事後：実践後の振り返りをまとめて提出する。
第13回	保育計画と評価	(学修内容) 保育内容の計画・評価について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 実践後の振り返り（評価、改善）をレポートにまとめて提出すること。
第14回	3法令の保育内容の共通点と活動とのつながり	(学修内容) 3法令の保育内容について共通点を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：5領域を確認しておく。事後：3法令の保育内容、資質・能力の3つの柱、乳児期の3つの視点の関連をまとめて提出する。
第15回	保幼小連携について まとめ	(学修内容) 保幼小の連携について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第8章を読み小学校との接続・連携の意味を整理しておく。事後：授業全体を振り返っておく。

授業名	保育者論						開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CE1211
英 文 名	Theory of Child Care Worker							開講時期	秋学期		必修選択	選択
担当者	鈴木 えり子							対象学生	幼児教育1回生			
授業の概要	保育者の役割と倫理について理解する。保育者（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）の役割・制度的な位置づけを学び、保育職への意欲を高め、子どもとともに生活することを職業として選択する保育職の在り方を自覚し形成することを目的とする。具体的事例を通して実践的に学び、キャリア形成について考える機会とする。											
学修成果到達目標	１）保育者の役割と倫理について理解できる。 ２）保育者の職務の全体像を理解できる。 ３）保育者の専門性について理解できる。											
事前事後学修について	各授業回到記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。（１回の授業の事前・事後学修時間の計　３０分）											
学位授与の方針との関連		知識・理解							汎用的技能			
	○	態度・志向性						○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ■ I C T活用（自主学習支援）											
評価方法	定期試験（６０％） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技								平常試験（４０％） ■筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価観点		■知識・理解 □コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 □課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲 ■(振り取りレポート) □()									
テキスト	使用しない。授業内で資料を配布します。											
参 考 書	文部科学省編『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省編『保育所保育指針』フレーベル館 文部科学省・厚生労働省、内閣府編『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館											
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートや課題については授業内でコメントをします。											
留意事項	子どもに関する時事問題や保育に関する動きなど新聞や保育雑誌などから常に理解しておく。											
オフィスアワー	授業後にも対応しますが、研究室に在室していれば随時対応します（事前にメールで連絡をしてもらえれば確実に対応できると思います）											
実践的教育												

授 業 名	保育者論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の概要及び到達目標を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：シラバスを読んでおく。事後：「保育者」「教師」の職業について要点を整理する。
第2回	保育者とは何か	(学修内容) 「保育者」と他の職業との違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：保育者(先生)に対するイメージを説明できるようにしておく。事後：理想の保育者像についてレポートにまとめて提出する。
第3回	幼稚園教諭の役割	(学修内容) 幼稚園教諭の一日及び仕事内容を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：幼稚園教育要領第1章を読んでおく。事後：配布資料をまとめて提出する。
第4回	保育所保育士の役割・認定こども園の保育教諭の役割	(学修内容) 保育所保育士、認定こども園の保育教諭の一日及び仕事内容を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の関連部分を読んでくる。事後：配布資料をまとめて提出する。
第5回	保育者の制度的位置づけ	(学修内容) 幼稚園教諭免許、保育士資格、保育教諭の法的な根拠について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：信用失染行為、秘密保持義務の意味についてインターネットで調べてくる。事後：配布資料を整理しておく。
第6回	保育者としての立ち振る舞い	(学修内容) 保育者に必要とされる資質について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：保育者の姿(モデル的役割)について考えてくる。事後：「保育者らしい立ち居振る舞い」についてレポートにまとめて提出する。
第7回	保育者としてのモラル	(学修内容) 「子どもにとってのモデル」とはの意味について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：「バナナくん体操」を練習しておく。事後：「バナナくん体操」の発表を振り返りをレポートにまとめて提出する。
第8回	保育者に求められることばづかいとリテラシー	(学修内容) 話しことばと書き言葉の違いを理解する。リテラシー、ICT活用について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：リテラシーの意味を調べておく。事後：保育者として適切な話し方、接し方について整理する。
第9回	保育実践力を身に付ける	(学修内容) 手袋シアターの構想を考え、保育製作を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前：手袋シアターに必要な材料など準備する。事後：手袋シアターを完成させる。
第10回	保育実践を振り返る	(学修内容) 手袋シアターを実践発表する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：手袋シアターを仕上げ、発表する準備をする。事後：発表後の振り返りレポートをまとめて提出する。
第11回	幼児教育で育てたい資質・能力	(学修内容) 教育・保育施設が目指す保育内容の共通性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：育みたい資質・能力を書写してくる。事後：授業時の配布資料を整理する。
第12回	保育おける倫理	(学修内容) 保育の倫理について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：「全国保育士会倫理綱領」を調べてくる。事後：子どもの最善の利益についてまとめておく。
第13回	子どもの権利を保障する保育者の役割	(学修内容) 子どもの権利について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：人権について考えてくる。事後：子どもの権利である「4つの原則」を整理する。
第14回	不適切保育を脱却する	(学修内容) 不適切保育について理解し、脱却するための方法を考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：不適切保育の事例をインターネットで調べておく。事後：不適切な保育について自身の考えを整理しておく。
第15回	まとめ 自分の強みを見つける	(学修内容) 自分の強みを見つけ、保育観についてまとめる。 (事前事後学修課題の内容) 事前：15回の授業を振り返っておく。事後：専門性を理解した上で自身の強みについて考えをまとめておく。

授 業 名	保育原理			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CS1105
英 文 名	Principles of Child Care			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	鈴木 えり子			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	保育の意義や目的について理解し、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要領を中心とした保育に関する法令や制度を学ぶ。また、現代の多様な保育の在り方を歴史的保育思想から学び、保育の現状と課題を学びから深めていく。								
学修成果 到達目標	1) 保育の意義及び目的が理解できる。 2) 保育所、幼稚園、認定こども園における保育の基本が理解できる。 3) 保育に関する法令や制度、保育の思想や歴史的変遷について理解できる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 3 0 分)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ■ I C T 活用 (双方向型授業) ■ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (70%) ■ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	保育原理	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション ー保育原理で学ぶことー	(学修内容) 講義の目的や授業の進め方を理解する。到達目標について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：シラバスの内容を確認し授業全体の流れと内容を理解しておくこと。事後：保育の基本について理解したことをまとめておく。
第2回	保育用語の理解	(学修内容) 保育施設で使用される保育用語について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：保育施設で使われる保育用語のリスト(ワークシート)を書き出し意味を調べてくる。事後：ワークシートを整理して提出する。
第3回	保育に関する諸法令	(学修内容) 保育所、幼稚園、認定こども園に関する法令や制度を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第1章-1を読んでワークシートをまとめておく。事後：ICTを活用し、授業内容の復習を行う。
第4回	保育の目的を考える	(学修内容) 保育の目的を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第3章第1節を読んで予習し、要点をまとめておく。事後：ICTを活用し、授業内容の復習を行う。
第5回	保育の目標と内容	(学修内容) 保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領にみる保育の原理を理解する (事前事後学修課題の内容) 事前：保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領を比較しレポートにまとめてくる。事後：ICTを活用し、授業内容の復習を行う。
第6回	保育環境とは	(学修内容) DVDの視聴を通して集団保育の一日の生活や「環境」について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：自分の幼小期を振り返ってレポートにまとめておく。事後：DVDを視聴し、気づきをレポートにまとめて提出する。
第7回	小テスト	(学修内容) 小テストを実施する。小テストの解説を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前：小テストの準備をする。事後：小テストの振り返りを行い、小テストの解説をまとめておく。
第8回	保育を過去から考えるー西洋における保育の思想ー	(学修内容) 西洋における保育の思想に関心をもち、ベスタロッツ、フレーベル、モンテッソーリについて理解する (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第1章2節を参考にして配布プリントをまとめておく。事後：ICTを活用し、授業内容の復習を行う。
第9回	日本における保育の歴史 - 近代ー	(学修内容) 近代における保育に関する諸制度や時代背景について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第1章を参考にして配布プリントをまとめておく。事後：ICTを活用し、授業内容の復習を行う。
第10回	日本における保育の思想 - 現代へのつながりー	(学修内容) 倉橋惣三の保育思想について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：自分の出身園や気になる園のHPをみて関係する人物について調べてくる。事後：ICTを活用し、授業内容の復習を行う。
第11回	養護と教育の一体化	(学修内容) 教育と養護の目的について理解する。教育と養護の一体化についてDVDを視聴して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 三法令の関連部分に関するワークシートを仕上げておく。事後：ICTを活用し、授業内容の復習を行う。
第12回	保育の計画	(学修内容) 指導計画・評価の必要性を理解し保育者の役割を具体的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第5章を読んで、指導計画の種類をまとめておく。事後：ICTを活用し、授業内容の復習を行う。
第13回	保育内容を考える	(学修内容) 乳児、1歳児から3歳児、3歳以上児の保育の基本と実際を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：予習として教科書第6章を読んでおく。事後：ICTを活用し、授業内容の復習を行う。
第14回	子ども・子育て支援	(学修内容) 保育所や就学前施設における子育て支援について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：予習として教科書第7章2節を読んでおく。事後：授業内容をレポートにまとめて提出する。
第15回	まとめ	(学修内容) これまでの15回の授業の振り返りをする。 (事前事後学修課題の内容) 事前：返却した小テストや配布プリントを見直しておく。事後：授業内容の要点を整理する。

授業名	子どもの理解と援助						開講学年	1年生	単位数	2単位	科目コード	CS1111
英 文 名	Understanding and Supporting Children						開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担 当 者	西川　由紀子						対象学生	幼児教育1年生				
授業の概要	保育において、ひとりひとりの発達を把握して実践を展開することの意義を理解し、具体的な保育場面からそのイメージを具体的にもつことを目的とする。授業においては、発達の状況を把握する意義を押さえた後、各年齢の発達の特徴を解説した後、その特徴があらわれている保育実践を紹介し、保育の展開を理解できるようにする。											
学修成果到達目標	１）生後6年間の子どもの発達を理解する。 ２）保育のなかでどのように子どもたちを援助しているかを理解する。 ３）集団保育の中で気になる子どもへの支援をどのようにしているかを理解する。											
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間)											
学位授与の方針との関連		知識 ・ 理解								汎用的技能		
	○	態度 ・ 志向性								総合的な学習経験と創造的思考力		
アクティブ・ラーニング対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ☐ I C T活用（自主学習支援）											
評価方法	定期試験（85％） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技								平常試験（15％） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技			
評価基準	主たる評価観点		■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲 □() □()									
テキスト	西川由紀子『子どもの思いにこころをよせて』（かもがわ出版） 西川由紀子『かわりあって育つこどもたち』（かもがわ出版）											
参 考 書												
課題に対するフィードバックの方法	授業への感想や質問について、翌週の授業冒頭で解説する。											
留意事項												
オフィスアワー	授業時に伝える											
実践的教育												

授 業 名	子どもの理解と援助	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもの発達を学ぶ意義	(学修内容) 子どもを理解するために発達を学ぶことにどんな意義があるかを解説する。 (事前事後学修課題の内容) テキスト 1章を読んで、たいせつなポイントにラインを引いてくる。 授業後、ポイントが理解できたかを確認する。
第2回	0歳児の発達	(学修内容) 0歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) テキスト 2章、3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる。 授業後、ポイントが理解できたかを確認する。
第3回	0歳児の保育	(学修内容) 0歳児クラスの保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) テキスト 2章3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる。 授業後、ポイントが理解できたかを確認する。
第4回	1歳児の発達	(学修内容) 1歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) テキスト 4章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる。授業後、ポイントが理解できたかを確認する。
第5回	1歳児の保育	(学修内容) 1歳児クラスの保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) テキスト 4章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる。授業後、ポイントが理解できたかを確認する。
第6回	2歳児の発達	(学修内容) 2歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) テキスト 5章、テキスト 2章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる。授業後、ポイントが理解できたかを確認する。
第7回	2歳児の保育	(学修内容) 2歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) テキスト 5章、テキスト 2章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる。授業後、ポイントが理解できたかを確認する。
第8回	3歳児の発達	(学修内容) 3歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) テキスト 3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる。授業後、ポイントが理解できたかを確認する。
第9回	3歳児の保育	(学修内容) 3歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) テキスト 3章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる。授業後、ポイントが理解できたかを確認する。
第10回	4歳児の発達	(学修内容) 4歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) テキスト 4章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる。授業後、ポイントが理解できたかを確認する。
第11回	4歳児の保育	(学修内容) 4歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) テキスト 4章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる。授業後、ポイントが理解できたかを確認する。
第12回	5歳児の発達	(学修内容) 5歳児の発達を解説する (事前事後学修課題の内容) テキスト 5章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる。授業後、ポイントが理解できたかを確認する。
第13回	5歳児の保育	(学修内容) 5歳児の保育場面のビデオをみて、保育の解説を行う (事前事後学修課題の内容) テキスト 5章を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる。授業後、ポイントが理解できたかを確認する。
第14回	気になる子への対応(乳児クラス)	(学修内容) 乳児クラスの気になる子どもへの対応を解説する (事前事後学修課題の内容) テキスト 4章p75から79、テキスト 2章p40から43を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる。
第15回	気になる子への対応(幼児クラス)	(学修内容) 幼児クラスの気になる子どもへの対応を解説する (事前事後学修課題の内容) テキスト 4章p117から119、5章p156から160を読んでたいせつなポイントにラインを引いてくる。

授 業 名	家庭と子育て支援	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに 子ども家庭支援の意義と必要性(1)	(学修内容) ガイダンス 授業の進め方 家庭支援と子育て支援を学ぶ意義について理解する (事前事後学修課題の内容) 事前 第1講を読みわからない語句に下線を引く 事後 下線語句を調べノートに記載する
第2回	子ども家庭支援の目的と機能	(学修内容) 児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている子ども家庭支援の目的と機能について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 第2講を読みわからない語句に下線を引く 事後 下線語句を調べノートに記載する
第3回	子育て支援施策・次世代育成支援の推進	(学修内容) 小小達支援・次世代育成支援施策の背景や新制度の枠組みについて理解する。少子化が引き起こす課題についてグループで考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前 第3講を読み年表を書く 事後 第3講を読み年表を仕上げる
第4回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	(学修内容) 社会資源の理解と活用方法について事例をあげながら紹介する。そのうえで、社会資源の活用の現状と課題について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 第4講を読みわからない語句に下線を引く 事後 下線語句を調べノートに記載する
第5回	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	(学修内容) 保育所保育指針から子育て支援の意義を知り、保育の専門性と相談援助の関連性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 第5講を読みわからない語句に下線を引く 事後 下線語句を調べノートに記載する
第6回	子どもの育ちの喜びの共有	(学修内容) 子どもの育ちの喜びを共有することは保護者にどのような意味をもつかを考え、様々なツールの紹介とその効果について考えていく。 (事前事後学修課題の内容) 事前 第6講を読みわからない語句に下線を引く 事後 下線語句を調べノートに記載する
第7回	保護者および地域が有する子育てを自らが実践する力の向上に資する支援	(学修内容) 地域の子育て家庭を取り巻く環境を把握し、保育士に求められる視点を整理する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 第7講を読みわからない語句に下線を引く 事後 下線語句を調べノートに記載する
第8回	保育士に求められる基本的態度	(学修内容) 保育者との信頼関係を築き、援助を行うために保育士に求められる基本的態度を実践的に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 第8講を読みわからない語句に下線を引く 事後 下線語句を調べノートに記載する
第9回	家庭の状況に応じた支援	(学修内容) 家庭状況の把握とその支援について学ぶ。様々な家庭の事例を用いグループで事例検討を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 第9講を読みわからない語句に下線を引く 事後 下線語句を調べノートに記載する 質問項目を考えてくる
第10回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	(学修内容) 子ども家庭支援と地域資源の活用。地域資源の開発及び親子への支援についてゲストスピーカーから話題提供をうける。 (事前事後学修課題の内容) 事前 質問項目を考えてくる 事後 感想レポートを書く 質問項目を考えてくる
第11回	子ども家庭支援の内容と対象	(学修内容) さまざまな子ども家庭支援の対象のひとつである「里親」についてゲストスピーカーから話題提供をうける。 (事前事後学修課題の内容) 事前 質問項目を考えてくる 事後 感想レポートを書く
第12回	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	(学修内容) 支援を必要とする様々な生活課題を検討し、支援の中核となる多機関・多職種との連携を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 第12講を読みわからない語句に下線を引く 事後 下線語句を調べノートに記載する 質問項目を考えてくる
第13回	地域の子育て家庭への支援	(学修内容) 地域の子育て家庭への支援・支援者の姿勢について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 第13講を読みわからない語句に下線を引く 事後 下線語句を調べノートに記載する
第14回	要保護児童およびその家庭に対する支援	(学修内容) 要保護児童とその家庭に対する支援について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 第14講を読みわからない語句に下線を引く 事後 テーマに沿って制作物をつくる
第15回	子育て支援に関する課題と展望：まとめ	(学修内容) 子育て支援のニーズの多様化と連携機関について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テーマに沿って制作物をつくる 事後 ノートをまとめ仕上げる

授 業 名	保育の心理学		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1201
英 文 名	Child Care Psychology		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	渋谷 郁子		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	幼児期を中心とした子どもの諸領域における発達および学習の様相を知り、人との相互的かかわりの重要性を理解して、保育・教育実践に応用する力を身につけることを目的とする。授業の中では、人間の生涯にわたる発達のメカニズムと変化のプロセスについて学ぶ。また、その基盤となる乳幼児期の重要性を理解する。身体、知覚、感情、思考、社会性などの諸領域の発達とその連関について学び、子どもたちの発達を支える保育・教育実践について考察を行う。							
学修成果 到達目標	1) 幼児期を中心とした子どもの発達および学習の過程について説明することができる。 2) 人との相互的関わりの重要性を理解し、説明することができる。 3) 授業で学んだことを保育・教育の実践に応用することができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (50%) ■ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	保育の心理学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：人間とはどのような存在か	（学修内容）人間とはどのような存在か改めて考える。子ども理解における発達心理学の重要性や、生涯発達の観点や発達の原理について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第2回	発達は何によって決まるか	（学修内容）遺伝と環境が発達に及ぼす影響を理解する。事前学修シートを用いてグループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第3回	身体的機能と運動機能の発達	（学修内容）新生児期～幼児期における発達のメカニズムや、身体機能・身体運動の発達過程を学ぶ。事前学修シートを用いてグループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第4回	知覚・認知の発達	（学修内容）乳幼児期の感覚・知覚機能の発達および感覚・知覚機能と認知過程の関連を理解する。事前学修シートを用いてグループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第5回	思考の発達	（学修内容）ピアジェの発達理論について学び、発達とともに思考が深まる過程を理解する。事前学修シートを用いてグループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第6回	言葉の発達	（学修内容）人間の言葉の機能や特徴を理解し、言葉の発達過程を概観する。事前学修シートを用いてグループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第7回	社会情動的な発達	（学修内容）社会情動的発達を理解し、情動を制御する力について感情の発達と合わせて学ぶ。事前学修シートを用いてグループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第8回	仲間関係の発達	（学修内容）仲間関係の変化を、遊びの形態の変化と共に理解する。事前学修シートを用いてグループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第9回	他者理解と自己理解	（学修内容）仲間関係の中で他者理解や自己理解が深まっていく過程を理解する。事前学修シートを用いてグループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第10回	道徳性の発達	（学修内容）善悪の理解や道徳的判断の発達を学ぶ。事前学修シートを用いてグループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第11回	社会性の発達	（学修内容）生涯にわたる人間の心理・社会的発達を概観する。事前学修シートを用いてグループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第12回	学習と発達	（学修内容）条件づけや観察学習など、「学び」の基本的な原理を理解する。事前学修シートを用いてグループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第13回	動機づけと子どもの学び	（学修内容）学びの原動力になる「やる気」について、動機づけのメカニズムを理解する。事前学修シートを用いてグループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第14回	子どもの主体性と学び	（学修内容）子どもの主体的な学びを引き出す関わりについて考える。事前学修シートを用いてグループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第15回	子ども理解に基づいた保育のあり方	（学修内容）保育における子ども理解のための方法（観察、記録など）について理解する。事前学修シートを用いてグループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。

授 業 名	教育相談（幼児理解を含む。）			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2332
英 文 名	Educational Counseling (Understanding Infanats)			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	渋谷 郁子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	本授業では、保育現場における相談の意義と理論、相談の前提となる幼児の特性（幼児理解）、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングや相談支援に関する基礎的知識を含む）について学ぶ。また、教育相談の具体的な進め方、ポイント、組織的な取り組みや地域の専門機関との連携について理解を深める。								
学修成果 到達目標	1）幼児の発達の状況に即して、個々の心理的特質や発達課題を適切にとらえられる。 2）幼児の不応応や葛藤の意味および幼児に見られるさまざまな題行動について理解できる。 3）保育現場における教育相談の意義と役割について理解できる。 4）教育相談に関わる基礎的な理論・概念（カウンセリングや相談支援に関する基礎知識を含む）を理解できる。 5）教育相談支援の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや地域の専門機関との連携の必要性を理解できる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ I C T活用（双方向型授業） ☐ I C T活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験（50%） ☒ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	教育相談（幼児理解を含む。）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	教育相談の意義と目的	（学修内容）教育相談・保育相談の意義と目的を理解する。相談に応じる際の基本的知識を習得する。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第2回	子どもの権利とウェルビーイング	（学修内容）子どもの権利を尊重する態度と意義について理解し、学ぶ。適宜ディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第3回	子どもと保護者のメンタルヘルス（１）	（学修内容）生活環境や心理的ストレスから生じる子どもの情緒的な問題や障害・疾患などについて理解し、その支援方法について具体的に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第4回	子どもと保護者のメンタルヘルス（２）	（学修内容）子どもを育てる大人の精神的な健康が不全である場合に焦点を当て、子どもへの対応を学ぶ。宜ディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第5回	相談支援の基本的態度（１）受容	（学修内容）基本的なカウンセリング・スキルとしての受容について学ぶ。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第6回	相談支援の基本的態度（２）共感	（学修内容）基本的なカウンセリング・スキルとしての共感について学ぶ。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第7回	相談支援の基本的態度（３）自己一致	（学修内容）基本的なカウンセリング・スキルとしての自己一致について学ぶ。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第8回	アセスメントに関する基礎的理解	（学修内容）アセスメントとは何か、子どもと保護者の状況をどのように見立てるか、その方法について学ぶ。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第9回	事例検討（１）基本的生活習慣に関する問題	（学修内容）基本的生活習慣の問題についての、適切な助言や支援の仕方を学ぶ。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第10回	事例検討（２）言葉の遅れに関する問題	（学修内容）言葉の遅れの原因について学び、適切な助言や支援の仕方を学ぶ。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第11回	事例検討（３）発達達の偏りに関する問題	（学修内容）発達障害や配慮の必要な子どもと保護者に対する、適切な助言や支援の仕方を学ぶ。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第12回	事例検討（４）育児不安や育児ストレスに関する問題	（学修内容）養育上の不安や自信喪失などのある保護者に対する、適切な助言や支援の仕方を学ぶ。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第13回	事例検討（５）マルトリートメントに関する問題	（学修内容）虐待や放任など、マルトリートメントの認められる保護者に対する、適切な助言や支援の仕方を学ぶ。適宜グループワークを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第14回	教育相談に求められる組織的な取り組みと園内の体制整備	（学修内容）教育相談を効果的に進めるために、園内の体制をどのように整備し、役割を分担するかを学ぶ。適宜ディスカッションを行う。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第15回	地域の関係機関・専門機関との連携や協働	（学修内容）地域の関係機関・専門機関の役割や機能について理解し、必要に応じた連携・協働の方法を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修：確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。

授 業 名	教育原理		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CS1113
英 文 名	Principles of Education		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	堀出 雅人		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	洋の東西を問わず、教育に求められる役割はますます肥大化し、教師の役割も同様になりつつある。本講義では、教育の基本的な考え方やしくみを社会や歴史との関係をふまえながら学習する。とりわけ幼児教育に大きな影響を与えた思想家を中心に、幼児教育に求められる基本概念について理解する。また、今後の幼児教育のあり方を予測するとともに、人間の発達や現代社会と教育との関係をもとに、幼児教育で大切なことは何か、さまざまな資料や記事をもとに自らの意見を述べるのが授業の目的である。なお、資料の共有やレポート作成・提出のためにICT機器を活用する予定である。							
学修成果 到達目標	1) わが国の教育に関連する法規と教育制度における幼稚園教育の位置付けや特徴を説明することができる。 2) わが国の幼児教育の発展過程と現在の子どもを取り巻く社会生活環境における教育課題を説明することができる。 3) フレーベル、シュタイナー、モンテッソーリの子ども観と教育実践について説明することができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ■ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (50%) ■ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	教育原理	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	教育とは何か	(学修内容) 教育の意義・目的、保育者の資質・倫理性について説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: テキスト1章を事前に読み要点を捉える 後: テキスト1章を再読しキーワードを整理しレポートにまとめる
第2回	人間の成長・発達 - 乳幼児期を中心に -	(学修内容) 乳幼児の発達のその多様性について説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: テキスト2章を事前に読み要点を捉える 後: テキスト2章を再読しキーワードを整理しレポートにまとめる
第3回	子ども観と教育	(学修内容) 乳幼児期の教育の特性を説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: テキスト3章を事前に読み要点を捉える 後: テキスト3章を再読しキーワードを整理しレポートにまとめる
第4回	教育的関係	(学修内容) 幼児理解に基づく幼児と保育者の関係性の構築について説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: テキスト4章を事前に読み要点を捉える 後: テキスト4章を再読しキーワードを整理しレポートにまとめる
第5回	現在の幼児教育の多様性	(学修内容) 幼稚園、こども園、保育所の特徴について説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: テキスト5章を事前に読み要点を捉える 後: テキスト5章を再読しキーワードを整理しレポートにまとめる
第6回	教育の方法	(学修内容) 幼児教育の方法と計画、評価の基礎について説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: テキスト6章を事前に読み要点を捉える 後: テキスト6章を再読しキーワードを整理しレポートにまとめる
第7回	日本と世界の教育制度	(学修内容) わが国の教育制度と特徴を説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: テキスト7、8章を事前に読み要点を捉える 後: テキスト7、8章を再読しキーワードを整理しレポートにまとめる
第8回	日本の教育の変遷	(学修内容) わが国の教育の変遷の要点を説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: テキスト9章を事前に読み要点を捉える 後: テキスト9章を再読しキーワードを整理しレポートにまとめる
第9回	西洋の教育の変遷	(学修内容) 西洋の教育の変遷の要点を説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: テキスト10章を事前に読み要点を捉える 後: テキスト10章を再読しキーワードを整理しレポートにまとめる
第10回	「幼稚園の父」フレーベルの思想と実践	(学修内容) フレーベルの思想に基づく幼稚園の教育実践をDVDを視聴しポイントを整理しフレーベル教育のキーワードを説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容) 前: フレーベルの子ども観と教育実践について調べてくる 後: フレーベルの子ども観と教育実践についてレポートにまとめる
第11回	「心のあり方」を大切にするシュタイナーの思想と実践	(学修内容) シュタイナーの思想に基づく幼稚園の教育実践をDVDを視聴しポイントを整理しシュタイナー教育のキーワードを説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容) 前: シュタイナーの子ども観と教育実践について調べてくる 後: シュタイナーの子ども観と教育実践についてレポートにまとめる
第12回	「自律した学習者になるために」モンテッソーリの思想と実践	(学修内容) モンテッソーリの思想に基づく幼稚園の教育実践をDVDを視聴しポイントを整理しモンテッソーリ教育のキーワードを説明できる【ICT活用】 (事前事後学修課題の内容) 前: モンテッソーリの子ども観と教育実践について調べてくる 後: モンテッソーリの子ども観と教育実践についてレポートにまとめる
第13回	教育法規と教育行政	(学修内容) 幼児教育から生涯学習支援まで関連するわが国の教育法規と行政の役割について説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: テキスト11章を事前に読み要点を捉える 後: テキスト11章を再読しキーワードを整理しレポートにまとめる
第14回	教育と子ども家庭福祉	(学修内容) 現在進められるだれひとり取り残さない教育や福祉のあり方を説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: テキスト12章を事前に読み要点を捉える 後: テキスト12章を再読しキーワードを整理しレポートにまとめる
第15回	教育と現代的課題	(学修内容) ネット依存やネットいじめなど子どもを取り巻く生活環境の変化と教育のあり方を説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: テキスト13章を事前に読み要点を捉える 後: テキスト13章を再読しキーワードを整理しレポートにまとめる

授業名	社会福祉		開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CE1213
英 文 名	Social Welfare		開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	野田　隆生		対象学生	幼児教育1回生				
授業の概要	わたしたちが住んでいる地域では、乳幼児・子ども・青年・高齢者・障害者等さまざまな人が生活をしています。すべての人が「幸せだ」と実感できる社会であれば何も言うことはないのですが、ある日突然、当たり前の生活を送ることができない現実と直面することがあります。そうなったら、どうすればいいのでしょうか？ 本講では、わたしたちの生活をおびやかすような「あっ、どうしよう！？」に対して、どのような支援体制が準備されているのかを理解し、そこから保育士を目指す専門職として必要な知識や価値観を見出ししていくことを目的としています。							
学修成果到達目標	１）保育士が社会福祉専門職であることを理解できる。 ２）社会福祉の法的基盤や行政の仕組みについて説明することができる。 ３）社会問題を理解し、それに対して必要な社会資源を結びつけることができる。 ４）保育士としての資格を生かすことのできる社会福祉事業を知ることができる。 ５）生存権（生きる権利）について説明することができる。							
事前事後学修について	各授業回到記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　１時間３０分）							
学位授与の方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ☐ I C T活用（自主学習支援）							
評価方法	定期試験（８０％） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技			平常試験（２０％） □筆記試験 ■レポート ■制作物 □口述 □実習 □実技				
評価基準	主たる評価観点	■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲 □() □()						
テキスト	立花直樹他編著『　プラクティス/保育・福祉のはじまり　社会福祉』ミネルヴァ書房　2024年5月1日 初版第１刷発行							
参 考 書	流石智子著『日本の母子福祉—これからの母子家庭の幸せを考えるための本―』あいり出版 2016年、糸井佐知子著『えっ７人の子ども?』女子パウロ会 2008年、曽和信一著『障がい者・児共生とは何か―「自立と共生」の福祉・教育・保育―』ミネルヴァ書房 2007年、宮野誠保著『昔話にみる福祉　ひとつの試み』朝日新聞出版サービス 2001年、小倉襄二・浅野仁編『新版老後保障を学ぶ人のために』世界思想社 2006年							
課題に対するフィードバックの方法	○出席カードの裏面に授業内容に関する　意見　質問　印象に残ったこと　感想　を書くことになるので、それらを翌回授業時に紹介します。 ○視聴覚教材（ビデオ、DVD等）を使用した場合のリアクションペーパーの内容を踏まえ、次の授業冒頭にてコメントを行います。							
留意事項	１）テキスト履修となるので、毎回の講義時には必ずテキストを持参するように。 ２）ノートについては取り外しができるようにルーズリーフが望ましい。 ３）視聴覚教材（ビデオ、DVD等）を使用する場合には、必ず小レポートを課すことになるので指定された様式にて期限までに提出すること。 ４）定期試験（筆記試験）については、予め出題の内容や持込みできる物について説明する。							
オフィスアワー	講義初回時に連絡をします。 基本的に研究室（1R-404）に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内G-mailを利用して下さい。							
実践的教育								

授 業 名	社会福祉	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに ～なぜ「社会福祉」を学ぶのか？～	(学修内容) 1) 講義の進め方と成績評価の方法について 2) 「社会福祉」を学ぶ意味 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキストを必ず購入し、社会福祉のイメージについて考える。 事後 ノート(ルーズリーフ)を準備し、授業内容をまとめる。
第2回	社会福祉の理念と概念	(学修内容) 1) 少子・高齢社会について 2) 生活課題と社会福祉 3) 社会福祉の概念 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第1章(pp.1-11)を読み、専門用語を抽出する。 事後 専門用語をノートに整理する。
第3回	社会福祉のあゆみ	(学修内容) 1) 社会福祉の歴史 2) 戦前の社会福祉 3) 戦後の社会福祉 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第2章(pp.13-24)を読み、歴史用語を抽出する。 事後 ノートに時系列に整理する。
第4回	子ども家庭支援と社会福祉	(学修内容) 1) 子ども家庭支援とは 2) 社会的養護 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第3章(pp.25-36)を読み、専門用語を抽出する。 事後 専門用語をノートに整理する。
第5回	社会保障および社会福祉の法制度と行財政	(学修内容) 1) 福祉三法から福祉六法へ 2) 福祉行政の実施機関 3) 福祉計画と財源 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第4・5章(pp.37-58)を読み、専門用語を抽出する。 事後 専門用語をノートに整理する。
第6回	社会福祉の施設と事業所	(学修内容) 1) 社会福祉の施設と事業所 2) 社会福祉事業の区分 3) 福祉の民間団体 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第6章(pp.59-70)を読み、専門用語を抽出する。 事後 専門用語をノートに整理する。
第7回	社会福祉の専門職・協力者	(学修内容) 1) 社会福祉の専門職 2) 社会福祉における国家資格 3) 社会福祉の専門職および協力者 (事前事後学修課題の内容) 事前 前回の内容を復習し、テキスト第7章(pp.71-82)を読む。 事後 授業内容をノートにまとめる。
第8回	ソーシャルワークの基本	(学修内容) 1) SWを学ぶ意義 2) SWの視点 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第8章(pp.83-92)の事例について考える。 事後 事例からわかったことをノートにまとめる。
第9回	ソーシャルワークの展開	(学修内容) 1) SWの対象 2) SWの展開過程 3) 個別支援と地域支援 (事前事後学修課題の内容) 事前 前回の内容を復習し、テキスト第9章(pp.93-104)を読む。 事後 授業内容をノートにまとめる。
第10回	社会福祉における情報の扱い方	(学修内容) 1) 社会福祉で扱う情報と求められる配慮 2) 必要な情報共有とその仕組み 3) 福祉サービス利用者への情報提供 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第10章(pp.105-116)を読み、専門用語を抽出する。 事後 専門用語をノートに整理する。
第11回	権利擁護のための評価制度と苦情解決	(学修内容) 1) 権利擁護が必要とされる背景 2) 福祉サービスの質の向上と評価 3) 福祉サービスの利用と苦情解決 (事前事後学修課題の内容) 事前 前回の内容を復習し、テキスト第11章(pp.117-128)を読む。 事後 授業内容をノートにまとめる。
第12回	児童を取り巻く多様な課題と地域ネットワーク	(学修内容) 1) 児童を取り巻く多様な課題 2) 地域ネットワークの活用 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第12章(pp.129-138)を読み、専門用語を抽出する。 事後 専門用語をノートに整理する。
第13回	地域共生社会の構築と子育て支援	(学修内容) 1) 地域共生社会を目指すことになった背景 2) 地域共生社会の構築 3) 少子化対策と子育て支援 (事前事後学修課題の内容) 事前 前回の内容を復習し、テキスト第13章(pp.139-148)を読む。 事後 授業内容をノートにまとめる。
第14回	インクルーシブ社会の実現	(学修内容) 1) インクルージョンとは 2) 教育や保育の現場を取り巻く現状 3) インクルーシブな教育と保育 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第14章(pp.149-162)を読み、専門用語を抽出する。 事後 専門用語をノートに整理する。
第15回	まとめにかえて ～「生きる権利」と「社会福祉」～	(学修内容) 1) 持続可能な保育実践 2) 各国の保育カリキュラム 3) 保育士と介護福祉士のこれから (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第15章(pp.163-173)を読み、ノートを整理する。 事後 筆記試験に向けて資料の整理をする。

授 業 名	音楽の基礎理論			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1206
英 文 名	Basic Theory of Music			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	小川 隆昭			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	保育現場で必要な音楽理論の基礎学習と並行しながら、初歩的なピアノ技術を身につける。 理論（楽典）については、グループに分かれ、問題を考察し合い、解決するまで互いに話し合う。また、ピアノについては、音楽表現 の補助的役割を担っている。								
学修成果 到達目標	1) 保育現場で使う音楽理論の基礎が理解できる。 2) グループワークによる理論の習得及び、発表によって自身の習得が確認できる。 3) 音楽理論を理解した上で、ピアノを弾くことによって正しく楽譜が読めるようになる。 4) 一人で新しい曲を弾くことが出来るための基礎的な能力を身につける。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 ■ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 (60%) ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 ☐ 筆記試験 ☐ レポート ■ 制作物 (40%) ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	■ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()							
テキスト	『ジュニアクラスの楽典問題集』(ドレミ楽譜出版社) 森本琢朗・池田恭子 共著 『バイエルピアノ教則本』(音楽之友社) 他 経験者は進度に応じた曲								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	音楽理論の課題について、毎回解答の解説を行う。								
留意事項	音楽理論について、理解できるまで担当者に質問すること。								
オフィス アワー	週 1 回、曜日と時間は研究室前に掲示。								
実践的教育	■ 実践的教育 教員の実務経験など：・私立音楽院助手 ・おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導								

授 業 名	音楽の基礎理論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	音楽理論（１）線と間 ト音記号 音名 ヘ音記号	（学修内容）授業の進め方を理解する。 バイエルを使いピアノの練習（原書番号3～） （事前事後学修課題の内容） 次回までにテキストの問題を解く（P.9） 今回習ったピアノの復習
第2回	音楽理論（２）音符と休符 小節と縦線 拍子記号	（学修内容）バイエルを使いピアノの練習（原書番号7） （事前事後学修課題の内容） 次回までにテキストの問題を解く（P.13,14,15,16） 今回習ったピアノの復習
第3回	音楽理論（３）譜表 オクターブ	（学修内容）バイエルを使いピアノの練習（原書番号44） （事前事後学修課題の内容） 次回までにテキストの問題を解く（P.21,22,23） 今回習ったピアノの復習
第4回	音楽理論（４）音符と休符 拍子とリズム	（学修内容）バイエルを使いピアノの練習（原書番号61） （事前事後学修課題の内容） 次回までにテキストの問題を解く（P.24,25,27,28,29,30） 今回習ったピアノの復習
第5回	音楽理論（５）強起と弱起 奏法を指示する記号	（学修内容）バイエルを使いピアノの練習（原書番号81） （事前事後学修課題の内容） 次回までにテキストの問題を解く（P.33,35） 今回習ったピアノの復習
第6回	音楽理論（６）強弱を表す記号 シンコペーション	（学修内容）バイエルを使いピアノの練習（原書番号94） （事前事後学修課題の内容） 次回までにテキストの問題を解く（P.40） 今回習ったピアノの復習
第7回	音楽理論（７）複縦線と反復記号 連符	（学修内容）バイエルを使いピアノの練習（原書番号86） （事前事後学修課題の内容） 次回までにテキストの問題を解く（P.43,45） 今回習ったピアノの復習
第8回	音楽理論（８）速度記号 装飾音符と装飾記号	（学修内容）バイエルを使いピアノの練習（原書番号100） （事前事後学修課題の内容） 次回までにテキストの問題を解く（P.51） 今回習ったピアノの復習
第9回	音楽理論（９）奏法を指示する用語と記号 変化記号	（学修内容）バイエルを使いピアノの練習（原書番号80） （事前事後学修課題の内容） 次回までにテキストの問題を解く（P.54,55,57） 今回習ったピアノの復習。
第10回	音楽理論（１０）幹音と派生音	（学修内容）バイエルを使いピアノの練習（原書番号80） （事前事後学修課題の内容） 次回までにテキストの問題を解く（P.60,61） 今回習ったピアノの復習
第11回	音楽理論（１１）音程（完全音と長音程、短音程）	（学修内容）音程の数え方を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 次回までにテキストの問題を解く（P.64,65） 今回習ったピアノの復習
第12回	音楽理論（１２）音程（幹音、派生音）	（学修内容）幹音どうしの音程の数え方、派生音を含んだ音程の数え方を学ぶ （事前事後学修課題の内容） 次回までにテキストの問題を解く（P.68,71,72,73）
第13回	音楽理論（１３）音階（長音階）	（学修内容）バイエル（ハ長調の音階）を使いピアノの練習 （事前事後学修課題の内容） 次回までにテキストの問題を解く（P.79,80,81） 今回習ったピアノの復習
第14回	音楽理論（１４）音階（短音階）	（学修内容）バイエル（イ短調の音階）を使いピアノの練習 （事前事後学修課題の内容） 次回までにテキストの問題を解く（P.85） 今回習ったピアノの復習
第15回	音楽理論（１５）和音	（学修内容）『子どものうた』よりカデンツを練習する （事前事後学修課題の内容） 今回習った和音の復習

授 業 名	保育の計画と評価			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CE2322
英 文 名	Child Care Planning and Assessment			開講時期	春学期		必修選択	選択	
担 当 者	柘植 誠子			対象学生	幼児教育2回生				
授業の概要	1)保育所・幼稚園・認定こども園における全体的な計画や教育課程から指導計画への連続性を理解する。 2)各々の指針、要領に基づいて保育の計画を作成する上での留意点を踏まえ、子どもの発達過程に即した指導計画や保育者の根拠のある言葉かけを意識した指導計画を作成する。また、作成した指導計画をもとにプレゼンテーションやディスカッションを行い、指導計画を作成する力を向上させていく。 3)幼児教育現場で求められる保育の質の向上に必要なスキル（PDCAサイクルを用いた計画や評価の方法）を学び、保育の実践力に繋げる。								
学修成果到達目標	1)保育所・幼稚園・認定こども園における計画や評価の意義や目的について理解することができる。 2)乳児、3歳未満児、3歳以上児の特徴と指導計画について学び、年齢に応じた指導計画を作成することができる。 3)自己・他者評価の考え方と方法について理解することができる。								
事件事後学修について	各授業回に記載の「事件事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 30分）								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	■PBL □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □ICT活用（双方向型授業） □ICT活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験（50％） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技				平常試験（50％） □筆記試験 □レポート ■制作物 ■口述 □実習 □実技				
評価基準	主たる評価観点	■知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲 □（ ） □（ ）							
テキスト	岩崎淳子他4著 『教育課程・保育の計画と評価』 萌文書林 2018年 柘植誠子他4名著 『子どもの心に届く言葉かけ-保育の内容とその方法-』 ミネルヴァ書房 2017年								
参 考 書	『保育所保育指針』（最新版） 『幼稚園教育要領』（最新版） 『認定こども園 保育教育要領』（最新版）								
課題に対するフィードバックの方法	・定期的に指導計画を作成します。 ・助言が必要な場合はその都度、講義内で説明します。								
留意事項	・課題については期日を厳守すること。 ・資料等の配布物は必ずファイリングをして、いつでも見れるようにしておくこと。								
オフィスアワー	・初回の授業でアナウンスします。								
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：公立幼稚園教諭、教育委員会主任主事として25年以上勤務。 現場での実務経験をもとに実践的な授業を行います。								

授 業 名	保育の計画と評価	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 保育の計画と評価の考え方	(学修内容) 授業概要説明、保育の計画と評価の概要について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書 を読み、シラバスの内容を把握しておく。 事後：各年齢に応じた手遊びを調べておく。
第2回	3歳児の特徴と保育	(学修内容) 3歳児の特徴やどのような保育が行われているかを学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前：参考資料から3歳児向けの活動内容をまとめておく。 事後： の教科書第2章「朝の準備」を読んで、言葉かけを書き出す。
第3回	4歳児の特徴と保育	(学修内容) 4歳児の特徴やどのような保育が行われているかを学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前：参考資料から4歳児向けの活動内容をまとめておく。事後： の教科書第3章「好きな遊び」を読んで、言葉かけを書き出す。
第4回	5歳児の特徴と保育	(学修内容) 5歳児の特徴やどのような保育が行われているかを学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前：参考資料から5歳児向けの活動内容をまとめておく。 事後： の教科書第4章「片付け」を読んで、言葉かけを書き出す。
第5回	指導計画作成上の留意事項(3歳以上児) 保育者の言葉かけの必要性	(学修内容) 指導計画作成の留意点を書き出しながら学ぶ。 3歳以上児の保育の実際をDVD視聴から学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：3歳以上児の指導計画の活動を選択しておく。 事後： の教科書第5章「排泄」を読んで、言葉かけを書き出す。
第6回	指導計画の作成(3歳以上児)	(学修内容) 3歳以上児の指導計画の作成の留意点や年齢にふさわしい言葉かけをおさえながら計画を作成する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：選択した指導計画の活動の教材研究をしておく。 事後： の教科書第6章「手洗い」を読んで、言葉かけを書き出す。
第7回	3歳以上児の指導計画の発表・ディスカッション	(学修内容) 作成した3歳以上児の指導計画をグループ内で発表し、ディスカッションを行う中で他者から学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：発表する指導計画を再度確認し、提出できるようにしておく。 事後：発表した指導計画の修正点を書き加えておく。
第8回	0歳児の特徴と保育	(学修内容) 0歳児の特徴やどのような保育が行われているかを学ぶ。 乳児保育に必要な指導計画(保健・食育など)について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：参考資料から0歳児向けの活動内容をまとめておく。事後： の教科書第7章「クラスでの活動」を読んで、言葉掛けを書き出す。
第9回	1歳児の特徴と保育	(学修内容) 1歳児の特徴やどのような保育が行われているかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：参考資料から1歳児向けの活動内容をにまとめておく。 事後： の教科書第8章「昼食」を読んで、言葉掛けを書き出す。
第10回	2歳児の特徴と保育	(学修内容) 2歳児の特徴やどのような保育が行われているかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：参考資料から、2歳児向けの活動内容をノートにまとめておく。 事後： の教科書第9章「午睡」を読んで、言葉掛けを書き出す。
第11回	指導計画作成上の留意事項(0.1.2歳児)	(学修内容) 3歳未満児の個人差に配慮した援助・配慮の書き方を学ぶ。 3歳未満児の保育の実際をDVD視聴から学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：事前：3歳未満児の指導計画の活動を選択しておく。 事後： のテキスト第10章「おやつ」を読んで、言葉掛けを書き出す。
第12回	指導計画の作成(0.1.2歳児)	(学修内容) 個人差を理解し、3歳未満児の指導計画の作成の留意点や年齢にふさわしい言葉かけをおさえながら計画を作成する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：選択した3歳未満児の活動の教材研究をする。事後： の教科書第11章「降園の準備」を読んで、言葉かけを書き出す。
第13回	0.1.2歳児の指導計画の発表・討議	(学修内容) 作成した3歳未満児の指導計画をグループ内で発表し、ディスカッションを行う中で他者から学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：発表する指導計画(3歳未満児)を確認し、提出できるようにしておく。事後：発表した指導計画の修正点を書き加えておく。
第14回	保育の実践と評価	(学修内容) 保育の評価の在り方や評価の種類・方法について学ぶ。 PDCAサイクルについて理解を深め、支援計画の活用方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書「保育の評価」を読んで、実習での設定保育を振り返る。 事後： の教科書第12章「降園」を読んで、言葉掛けを書き出す。
第15回	幼稚園・保育所・認定こども園の要録 まとめ	(学修内容) 要録の記載する内容や要録の活用方法について学ぶ。 授業内容について振り返る。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書から「要録」を読んで、保育現場の要録を調べる。 事後：資料等のファイリングを点検し、内容のまとめをする。

授 業 名	社会的養護			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2323
英 文 名	Social Corporate Parenting			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	山川 宏和			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	保育者としての実践力を育成するために、以下の内容で授業を進める。 1．施設や里親家庭での生活や自立支援について、統計資料等を用いて実態を理解する。 2．被虐待児童への対応について映像素材を使ってグループワークを行う。 3．コミュニケーション技法の習得について、記録の書き方、言葉による伝え方など他者と思いを共有する 1年生での学びを基礎に発展的な学びを行って、福祉マインドを身につける。								
学修成果 到達目標	1．社会的養護の基礎的理解を踏まえて、施設養護や里親ケアが説明できる。 2．社会的養護における記録や計画の必要性がわかり、事例を基に作成することができる。 3．被虐待児や障がいのある子どもへの支援の方法を他者と共有し、説明することができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☒ I C T活用(双方向型授業) ☐ I C T活用(自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (80%) ☒ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 (20%) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☒ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☒ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☒ 授業態度・参加意欲 ☐ (							

授 業 名	社会的養護	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 社会的養護の課題	(学修内容) 社会的養護の課題と施設実習を振り返る (事前事後学修課題の内容) 事前: 施設実習を日誌をもとに振り返る 事後: 保育士に必要な資質について考える
第2回	家庭養護の実際 養育里親	(学修内容) 里親制度を振り返る (事前事後学修課題の内容) 事前: 養育里親と専門里親について1年次の学びを振り返る 事後: 授業で学んだことを振り返りシートに記入して提出する
第3回	家庭養護の実際 養子縁組里親	(学修内容) 養子縁組里親と親族里親について (事前事後学修課題の内容) 事前: 養子縁組里親について1年次の学びを振り返る 事後: 授業で学んだことを振り返りシートに記入して提出する
第4回	家庭養護の実際 特別養子縁組	(学修内容) 特別養子縁組制度について (事前事後学修課題の内容) 事前: 社会的養育ビジョンの目標部分を熟読する 事後: 授業で学んだことを振り返りシートに記入して提出する
第5回	社会的養護における自立支援 自立援助ホーム	(学修内容) 自立援助ホームで生活するケアリーヴァについて (事前事後学修課題の内容) 事前: 自立援助ホームについて法的根拠などを調べる 事後: 授業で学んだことを振り返りシートに記入して提出する
第6回	社会的養護における自立支援 社会的養護自立支援拠点事業	(学修内容) 支援コーディネーターや貸付について (事前事後学修課題の内容) 事前: 自立生活に必要な資金、物品、知識を調べておく 事後: 授業で学んだことを振り返りシートに記入して提出する
第7回	子どもの権利と被措置児童等虐待	(学修内容) 被措置児童等虐待の類型や対応について (事前事後学修課題の内容) 事前: 被措置児童等虐待とは何かについて調べる 事後: 授業で学んだことを振り返りシートに記入して提出する
第8回	望ましくないかかわりと職場環境	(学修内容) 望ましくないかかわりが起こる背景と影響について (事前事後学修課題の内容) 事前: 就職活動における自らのこだわりを整理する 事後: 授業で学んだことを振り返りシートに記入して提出する
第9回	児童養護施設や乳児院について 入所理由からみる近年の特徴	(学修内容) 児童養護施設や乳児院の入所理由や現状について (事前事後学修課題の内容) 事前: 1年次の児童養護施設に関する学びを振り返る 事後: 授業で学んだことを振り返りシートに記入して提出する
第10回	児童養護施設や乳児院について 国連のガイドラインと施設の小規模化	(学修内容) 施設の小規模化について (事前事後学修課題の内容) 事前: 小規模化、多機能化に関する1年次の学びを振り返る 事後: 授業で学んだことを振り返りシートに記入して提出する
第11回	ジェノグラム・記録の取り方	(学修内容) ジェノグラムの考え方、記録の種類について (事前事後学修課題の内容) 事前: 保育実習の記録を用意して見直す 事後: 授業で学んだことを振り返りシートに記入して提出する
第12回	社会的養護における事例検討 ワールドカフェ方式を体験する	(学修内容) 複数の事例を自由に検討する (事前事後学修課題の内容) 事前: 施設実習の体験を振り返る 事後: 授業で学んだことを振り返りシートに記入して提出する
第13回	社会的養護における事例検討 興味ある事例に取り組む	(学修内容) 複数の事例からいくつか絞り、アイデアを出す (事前事後学修課題の内容) 事前: 施設実習の体験を振り返る 事後: 授業で学んだことを振り返りシートに記入して提出する
第14回	社会的養護における事例検討 ポスター製作	(学修内容) 担当する事例を決定してポスターを製作する (事前事後学修課題の内容) 事前: ポスター政策に必要な材料を用意する 事後: 授業で学んだことを振り返りシートに記入して提出する
第15回	事例検討の結果発表	(学修内容) ポスターセッションを行って事例を発表する (事前事後学修課題の内容) 発表の準備をグループで行う

授 業 名	造形表現		開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1403
英 文 名	Formative Art		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	柴田 精一		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	子どもの造形表現活動を援助するために必要な、基礎的な用具の扱い方や、造形表現の専門的な知識・技能、特に「技法遊び」について、主に演習を通して学ぶ。							
学修成果 到達目標	1) 基礎的な用具の扱い方を身につける。 2) 「技法遊び」の特性を理解する。 3) 「技法遊び」を使って表現できる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 1 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解	○	汎用的技能				
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ☐ プレゼンテーション ■ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ■ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	■ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()						
テキスト	「 幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形材料 」樋口一成編 萌文書林							
参 考 書	適宜、参考資料を配布する。							
課題に対する フィードバック の方法	各課題の提出時、また、製作物をまとめたワークブックについて指導を行う。							
留意事項	製作活動に適した服装で受講すること。必携の画材・スケッチブックを購入し、持参すること。グループワークには協調性をもって積極的に参加すること。							
オフィス アワー	登録学生の時間割により決定し研究室前に掲示する。							
実践的教育	■ 実践的教育 教員の実務経験など：幼稚園の非常勤教員・研究員							

授 業 名	造形表現	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス、子どもの描画の発達について	(学修内容) 授業の概要説明、受講のための諸注意、子どもの描画の発達について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：シラバスに目を通してまとめておく。 事後学修：学んだ子どもの描画の発達について振り返り、まとめる。
第2回	水彩絵の具を用いた表現 にじみ絵	(学修内容) 水彩絵の具を用いた技法遊び「にじみ絵」を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：教科書の関連箇所を読んでまとめておく。必携教材を持参すること。事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第3回	水彩絵の具を用いた表現 ドリッピング、吹き絵	(学修内容) 水彩絵の具を用いた技法遊び「ドリッピング」「吹き絵」を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：教科書の関連箇所を読んでまとめておく。 事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第4回	学習記録のまとめ にじみ絵、ドリッピング、吹き絵	(学修内容) 学習した技法遊びをスケッチブックにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：学習した技法遊びについて調べてまとめておく。 事後学修：授業時間外に製作を進める。
第5回	水彩絵の具を用いた表現 スパッタリング	(学修内容) 水彩絵の具を用いた技法遊び「スパッタリング」を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：教科書の関連箇所を読んでまとめておく。 事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第6回	水彩絵の具を用いた表現 スタンピング	(学修内容) 水彩絵の具を用いた技法遊び「スタンピング」を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：教科書の関連箇所を読んでまとめておく。 事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第7回	学習記録のまとめ スパッタリング、スタンピング	(学修内容) 学習した技法遊びをスケッチブックにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：学習した技法遊びについて調べてまとめておく。 事後学修：授業時間外に製作を進める。
第8回	バスを用いた表現 バチック、スクラッチ	(学修内容) バスなどを用いた技法遊び「バチック」「スクラッチ」を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：教科書の関連箇所を読んでまとめておく。 事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第9回	バスを用いた表現 フロッタージュ	(学修内容) バスなどを用いた技法遊び「フロッタージュ」を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：教科書の関連箇所を読んでまとめておく。 事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第10回	はさみと糊を用いた表現 コラージュ	(学修内容) はさみと糊を用いた技法遊び「コラージュ」を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：教科書の関連箇所を読んでまとめておく。 事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第11回	学習記録のまとめ バチック、スクラッチ	(学修内容) 学習した技法遊びをスケッチブックにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：学習した技法遊びについて調べてまとめておく。 事後学修：授業時間外に製作を進める。
第12回	学習記録のまとめ フロッタージュ、コラージュ	(学修内容) 学習した技法遊びをスケッチブックにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：学習した技法遊びについて調べてまとめておく。 事後学修：授業時間外に製作を進める。
第13回	「こどもデパート」ガイダンス	(学修内容) 実践的演習「こどもデパート」を理解し、学習の見通しを持つ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：「こどもデパート」についての資料を読んでおく。 事後学修：前年までの店舗で参考にしたいものについてまとめる。
第14回	「こどもデパート」発案と話し合い	(学修内容) 「こどもデパート」で実施する内容について発案し、グループで話し合う。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：実施したい遊びについてアイデアをまとめておく。事後学修：決定した遊び、店舗に必要な物品を書きだす。
第15回	「こどもデパート」計画、授業のまとめ	(学修内容) 「こどもデパート」で実施する内容について決定し、必要な素材を列挙する。授業全体を通して学んだ内容を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：授業で学んだ内容を振り返ってまとめておく。 事後学修：学修内容を整理し、レポートの準備をする。

授 業 名	造形表現			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1412
英 文 名	Formative Art			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	柴田 精一			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	子どもの造形表現活動を援助するために必要な、基礎的な素材の扱い方や、造形表現の専門的な知識・技能、特に身近な素材の活かし方について、主に実践的演習「こどもデパート」を通して学ぶ。								
学修成果 到達目標	1) 身近な素材を加工し表現できる。 2) 身近な素材を子どもの遊びに活かすことができる。 3) 実施した活動の反省を、保育に活かす意欲を持つ。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 1 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	造形表現	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	「こどもデパート」の店舗準備 分担と計画	(学修内容) こどもデパートの店舗準備を進めていくためにグループ内で役割分担をし、運営方法を検討する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: シラバスに目を通してまとめておく。 事後学修: 授業時間外に製作を進める。
第2回	「こどもデパート」の店舗準備 主要部の製作	(学修内容) 身近な素材を活かして、こどもデパートの店舗の主要部を製作する。 (事前事後学修課題の内容) 事前・事後学修: 授業時間外に製作を進める。
第3回	「こどもデパート」の店舗準備 準主要部の製作	(学修内容) 身近な素材を活かして、こどもデパートの店舗の準主要部を製作する。 (事前事後学修課題の内容) 事前・事後学修: 授業時間外に製作を進める。
第4回	「こどもデパート」の店舗準備 細部の製作	(学修内容) 身近な素材を活かして、こどもデパートの店舗の細部を製作する。 (事前事後学修課題の内容) 事前・事後学修: 授業時間外に製作を進める。
第5回	「こどもデパート」の店舗準備 店舗の飾りつけ	(学修内容) 身近な素材を活かして、こどもデパートの店舗の飾りを製作し、運営方法を最終決定する。 (事前事後学修課題の内容) 事前・事後学修: 授業時間外に製作を進める。
第6回	「こどもデパート」の発表	(学修内容) 「こどもデパート」の店舗を運営する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 授業時間外に製作を進める。 事後学修: 子どもの姿についてまとめる。
第7回	「こどもデパート」の振り返り	(学修内容) 課題が達成できたか、振り返りと考察をおこなう。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 他者に発表する考えをまとめておく。 事後学修: 他者の意見を記録しまとめる。
第8回	身近な素材を活かした技法 フィンガーペインティング、デカルコマニー	(学修内容) 身近な素材を用いて指絵具などを作り、「フィンガーペインティング」「デカルコマニー」を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 教科書の関連箇所を読んでまとめておく。 事後学修: 演習を通して生まれた反省をまとめる。
第9回	身近な素材を活かした技法 張り子の計画、原型の製作	(学修内容) 身近な素材を用いた張り子の製作を計画し、その原型を作る。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 教科書の関連箇所を読んでまとめておく。 事後学修: 演習を通して生まれた反省をまとめる。
第10回	身近な素材を活かした技法 張り子の貼り込み	(学修内容) 張り子の原型に、身近な素材である新聞紙などを自作の糊を使って貼り込む。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 教科書の関連箇所を読んでまとめておく。 事後学修: 演習を通して生まれた反省をまとめる。
第11回	身近な素材を活かした技法 張り子の貼り込み(仕上げ)	(学修内容) 張り子の貼り込みを仕上げる。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 糊の作り方について復習しまとめておく。 事後学修: 演習を通して生まれた反省をまとめる。
第12回	身近な素材を活かした技法 張り子への彩色	(学修内容) 張り子に彩色する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 彩色のための下描きをしておく。 事後学修: 演習を通して生まれた反省をまとめる。
第13回	身近な素材を活かした技法 墨流し(マーブリング)	(学修内容) 身近な素材を活用して「墨流し(マーブリング)」を行い、その方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 教科書の関連箇所を読んでまとめておく。 事後学修: 演習を通して生まれた反省をまとめる。
第14回	学習記録のまとめ フィンガーペインティングなど	(学修内容) 学習した技法遊びをスケッチブックにまとめる。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 学習した技法遊びなどについて調べてまとめておく。 事後学修: 授業時間外に製作を進める。
第15回	授業のまとめ	(学修内容) 授業全体を通して学んだ内容を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 授業で学んだ内容を振り返ってまとめておく。 事後学修: 学修内容を整理し、レポートの準備をする。

授 業 名	保育といのちの教育			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CS1112
英 文 名	Children's Rights			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	荘巖 茶茶			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	生涯発達の観点から「いのち」の意味理解の多面性・多様性・重要性を捉え、子ども期における「いのちの教育」の意義を考える。また、「いのちの教育」の方法論に関する知見に触れ、保育者／教育者として「いのちの教育」にどう向かうか、配慮点を学びながら考察を深める。								
学修成果 到達目標	1)「いのちの教育」とは何を目的とする活動であるかを自分の言葉で説明できる。 2)子ども期における「いのちの教育」の意義について理解できる。 3)「いのちの教育」の実施事例を複数挙げ、その内容を説明できる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	■ P B L □ ディスカッション・ディベート □ グループワーク ■ プレゼンテーション □ 実習・フィールドワーク □ I C T 活用 (双方向型授業) □ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) □ 筆記試験 ■ レポート □ 制作物 □ 口述 □ 実習 □ 実技				平常試験 (50%) □ 筆記試験 ■ レポート ■ 制作物 □ 口述 □ 実習 □ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	■ 知識・理解 □ コミュニケーション能力 ■ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 □ (							

授 業 名	保育といのちの教育	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業内容の概略、および授業計画の説明 (事前事後学修課題の内容) 事前：シラバスの内容を確認する。 事後：オリエンテーション内容をノートにまとめる。
第2回	「いのち」の定義	(学修内容) 「いのち」の定義(意味)の多面性と多様性 (事前事後学修課題の内容) 事前：学修テーマ(キーワード)について、探索的に調べてみる。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第3回	動植物の「いのち」のプロセス(1)—様々な動植物の「いのち」—	(学修内容) 様々な動植物の「いのち」についての調査学習(PBL) (事前事後学修課題の内容) 事前：学修テーマ(キーワード)について、探索的に調べてみる。 事後：調べ学習で得た知見をまとめる。
第4回	動植物の「いのち」のプロセス(2)—様々な動植物の「いのち」・続き—	(学修内容) 様々な動植物の「いのち」についての調査学習・続き(PBL) (事前事後学修課題の内容) 事前：プレゼン資料の構成像を考える。 事後：プレゼン資料を完成させる。
第5回	動植物の「いのち」のプロセス(3)—様々な動植物の「いのち」プレゼンテーション—	(学修内容) プレゼンテーションによる知識交流 (事前事後学修課題の内容) 事前：プレゼンの準備(資料の見直し、練習等)をする。 事後：自分のプレゼンの自己評価と他者のプレゼンの感想をまとめる。
第6回	子どもから見た「いのち」	(学修内容) 子どもは「いのち」をどう理解しているか (事前事後学修課題の内容) 事前：学修テーマ(キーワード)について、探索的に調べてみる。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第7回	保育 / 教育現場における「いのちの教育」(1)—保育者は「いのち」をどう扱い伝えるか(制度編)—	(学修内容) 制度から考える「いのちの教育」 (事前事後学修課題の内容) 事前：学修テーマ(キーワード)について、探索的に調べてみる。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第8回	保育 / 教育現場における「いのちの教育」(2)—保育者は「いのち」をどう扱い伝えるか(実践編1)—	(学修内容) 保育 / 教育場面での「いのちの教育」実践例 (事前事後学修課題の内容) 事前：前回の授業内で配布された資料を通読する。 事後：授業内で触れた実践例について、考察したことをまとめる。
第9回	保育 / 教育現場における「いのちの教育」(3)—保育者は「いのち」をどう扱い伝えるか(実践編2)—	(学修内容) 保育 / 教育場面での「いのちの教育」実践例 (事前事後学修課題の内容) 事前：前回の授業内で配布された資料を通読する。 事後：授業内で触れた実践例について、考察したことをまとめる。
第10回	保育 / 教育現場における「いのちの教育」(4)—保育者は「いのち」をどう扱い伝えるか(実践編3)—	(学修内容) 保育 / 教育場面での「いのちの教育」実践例 (事前事後学修課題の内容) 事前：前回の授業内で配布された資料を通読する。 事後：授業内で触れた実践例について、考察したことをまとめる。
第11回	保育における「いのちの教育」実践ワーク(1)—指導計画作成—	(学修内容) 「いのちの教育」指導計画作成(PBL) (事前事後学修課題の内容) 事前：一般的な指導計画の書き方を復習する。 事後：指導計画面案を確定させる。
第12回	保育における「いのちの教育」実践ワーク(2)—指導計画作成・続き—	(学修内容) 「いのちの教育」指導計画作成・続き(PBL) (事前事後学修課題の内容) 事前：指導計画の作成にあたっての質問事項を挙げる。 事後：指導計画を完成させる。
第13回	保育における「いのちの教育」実践ワーク(3)—指導計画プレゼンテーション—	(学修内容) 「いのちの教育」指導計画プレゼンテーション (事前事後学修課題の内容) 事前：プレゼンの準備(資料の見直し、練習等)をする。 事後：自分のプレゼンの自己評価と他者のプレゼンの感想をまとめる。
第14回	子どもにとっての自分の「いのち」	(学修内容) 専門家講話「子どもの『いのち』を守るには」 (事前事後学修課題の内容) 事前：学修テーマについて、専門家に質問したいことを挙げる。 事後：講話から考察したことをまとめる。
第15回	まとめ、振り返り	(学修内容) 14回の学修内容の総括、振り返り (事前事後学修課題の内容) 事前：全回の学修内容の流れを振り返ってノート整理をおこない、解決していない疑問・質問等をまとめる。

授 業 名	保育と図画工作			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名				開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	柴田 精一			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	保育に活用できる図画や工作の題材の中でも技術的に専門性が高いものを、体験的に学ぶことを通して、その方法を学び、保育者としての観点から捉える。								
学修成果 到達目標	1) 題材の背景にある専門領域を親しむ感性を持つ。 2) 図画や工作に関わる専門性が高い方法を習得する。 3) 学習内容を応用して保育に活かす計画性や意欲を持つ。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 2 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	保育と図画工作	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス、乳幼児の描画活動について	(学修内容) 授業の概要説明、受講のための諸注意、乳幼児の生活と描画活動について知る。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：シラバスに目を通してまとめておく。 事後学修：乳幼児の生活と描画活動について学んだことをまとめる。
第2回	幼児の図画 スチレン版画製版	(学修内容) 幼児が楽しめる版画「スチレン版画」の技法を理解し、製版する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：下描きを用意しておく。 事後学修：「スチレン版画」について学んだことをまとめる。
第3回	幼児の図画 紙版画製版	(学修内容) 幼児が楽しめる版画「紙版画」の技法を理解し、製版する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：下描きを用意しておく。 事後学修：「紙版画」について学んだことをまとめる。
第4回	幼児の図画 刷り	(学修内容) 前回までに製作した版での印刷を通して、幼児への刷りの指導方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：水溶性版画の刷り方を調べ、まとめておく。 事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第5回	幼児の図画 ウォッシングの計画と描画	(学修内容) 描画あそびの一種である「ウォッシング」の方法を理解し、描画する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：下描きを用意しておく。 事後学修：「ウォッシング」について学んだことをまとめる。
第6回	幼児の図画 ウォッシングの仕上げ	(学修内容) 「ウォッシング」を仕上げ、技法への理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：「ウォッシング」を活用した保育の活動例を調べて、まとめておく。事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第7回	紙の加工の基礎 ポップアップカードの計画	(学修内容) 紙類を加工する様々な用具を知り、それらを活用して「ポップアップカード」の製作を計画する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：下描きを用意しておく。 事後学修：学んだ「しかけ」をまとめる。
第8回	紙の加工の基礎 ポップアップカードの製作	(学修内容) 紙類を加工する様々な用具を使いながら、「ポップアップカード」を製作する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：製作に必要な素材を集めておく。 事後学修：授業時間外に製作を進める。
第9回	紙の加工の基礎 ポップアップカードの仕上げ	(学修内容) 「ポップアップカード」を仕上げ、用具の使い方について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：製作に必要な素材を集めておく。 事後学修：学んだ紙類を加工する用具についてまとめる。
第10回	幼児の工作 卓上クリスマスツリーの製作	(学修内容) 幼児が楽しめる工作の題材を体験し、活動の下準備を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：クリスマスに関わる文化について調べ、まとめておく。 事後学修：授業時間外に製作を進める。
第11回	幼児の工作 卓上クリスマスツリーの装飾	(学修内容) 幼児が楽しめる工作の題材を選択するための観点を、製作を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：生活の中にある工作に使用できる様々な廃材を集めておく。 事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第12回	幼児の工作 廃材を構成したオブジェの接着	(学修内容) 身近な素材による工作を通して、多様な素材の接着方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：現行の幼稚園教育要領等を通読して、まとめておく。 事後学修：授業時間外に製作を進める。
第13回	幼児の工作 廃材を構成したオブジェの仕上げ	(学修内容) 身近な素材による工作を通して、幼児の生活と製作活動の関わりを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：彩色や仕上げのアイデアをまとめておく。 事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第14回	幼児の図画と工作 紙袋を使ったマスク	(学修内容) 幼児が図画や工作の活動を楽しめる題材を通して、授業全体で学んだことを振り返る。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：作りたいマスクについて下描きをしておく。 事後学修：授業時間外に製作を進める。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業全体の振り返りを通して、学修内容の理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：授業で配布した資料に目を通し、扱った内容を振り返って、まとめておく。事後学修：学修内容を整理し、レポートの準備をする。

授 業 名	保育と食生活			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名				開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	森 久美子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	乳幼児期の発育・発達が目覚ましく、それを念頭において適切に食事提供・食事支援をすることが必要とされる。乳幼児期の発育・発達を十分に理解し、各種ガイドラインに基づいた食事提供・食事支援について学ぶ。また、乳幼児期に多い食物アレルギーについて、病態・診断・保育園における給食対応の正しい知識、具体的な支援技術を身につける。これらの習得のために、適宜グループワークやプレゼンテーションを実施する。								
学修成果 到達目標	1．乳幼児期の発達・発育を正しく評価できる。 2．授乳・離乳支援ガイドに基づいた食事支援について説明できる。 3．乳幼児期の食物アレルギーの病態・正しい診断・給食対応が説明できる。 4．保育所における食育の計画が立てられる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ■ 実習・フィールドワーク ■ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ■ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	保育と食生活	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション わかりやすい伝え方	(学修内容) テンプレットの法則を用いて、乳幼児期の発達・育児について、成長を正しく評価する方法を保護者に説明できるようになる。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 成長曲線の見かたについて予習しておく。 事後: 日頃のプレゼンテーションをプレットの法則に従って振り返る。
第2回	離乳の進め方 授乳・離乳の支援ガイド	(学修内容) 授乳・離乳の支援ガイドのポイントと離乳食における食物アレルギーの留意点を説明する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 授乳・離乳の支援ガイドを読んでおく。 事後: ガイドラインの記載内容をまとめておく。
第3回	離乳の進め方 離乳期4期展開のポイント	(学修内容) 離乳食の4期展開について、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 離乳食の進め方について、4期の特徴を復習しておく。 事後: 保護者に伝えたい離乳食の進め方のポイントをまとめる。
第4回	乳幼児期の食事指導・栄養相談 ケーススタディ	(学修内容) 乳幼児期の食事指導・栄養相談のケーススタディを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 乳幼児栄養調査の結果の概要を読んでおく。 事後: ケーススタディで疑問に思ったことをまとめておく。
第5回	幼児期の食事・食育 ガイドライン	(学修内容) 「児童福祉施設における食事の提供ガイドライン」や食育基本法のポイントを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 児童福祉施設における食事の提供ガイドラインを読んでおく。 事後: ガイドラインの変更点についてまとめる。
第6回	乳幼児期のアレルギーの特徴	(学修内容) 乳幼児期のアレルギーの病形と正しい診断、治療方針について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 食物アレルギー対応ガイドブックの第1・4章を読んでおく。 事後: アレルギーの種類と正しい診断の方法についてまとめる。
第7回	食物アレルゲン各論	(学修内容) 食物アレルギー対応給食の献立作成および調理において留意すべき食物アレルギーを引き起こす原因食物の特徴について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 食物アレルギー対応ガイドブックの第3章を読んでおく。 事後: アレルゲンの特徴についてまとめる。
第8回	食物アレルギー表示	(学修内容) 食品表示法に基づく原材料表示、アレルギー表示を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 食物アレルギー対応ガイドブックの第3章を読んでおく。 事後: アレルギー表示について、市販の商品をチェックする。
第9回	保育所におけるアレルギー対応	(学修内容) 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン(2019年改訂版)に基づき、生活管理指導を用いたアレルギー対応について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 食物アレルギー対応ガイドブックの第5章を読んでおく。 事後: 保育所におけるアレルギー対応についてまとめる。
第10回	食物アレルギーの緊急時対応	(学修内容) 食物アレルギー症状誘発時における適切な対応を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 食物アレルギー対応ガイドブックの第2章を読んでおく。 事後: エピペンの使い方について重要点をまとめておく。
第11回	食物アレルギーのリスク管理	(学修内容) ヒヤリハット事例から改善策を考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前: ヒヤリハット事例を読んでおく。 事後: ヒヤリハット事例の改善点を考える。
第12回	乳幼児期の食事指導・栄養相談 離乳食相談の実践	(学修内容) 乳幼児期の食事指導・栄養相談を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 対象者の相談内容について、回答を準備する。 事後: 相談内容とその回答について考察する。
第13回	幼児期の食事・食育 食育計画発表	(学修内容) 食育計画についてプレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 食育年間計画を立て、発表準備をしておく。 事後: 食育計画の職員間の共有方法について考える。
第14回	災害時対応	(学修内容) 赤ちゃん防災プロジェクトおよび災害時の保育所での対応、アレルギー対応について知る。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 各種資料(授業前に提示)に目を通しておく。 事後: 具体的な備蓄計画を考える。
第15回	まとめ・振り返りテスト	(学修内容) これまでの学習を振り返り、必要な知識についての修得を確認する。 (事前事後学修課題の内容) 事前・事後: 第14回までの内容を復習しておく。

授 業 名	子育て支援の心理学			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2231
英 文 名	Psychology of Child Rearing Support			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	荘厳 茶茶			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	我が国における多様な子育て家庭の現状とニーズを知り、保育職に就く者が子育て家庭への支援を行う上で必要とされる意識・態度・知識を学ぶ。								
学修成果 到達目標	1)子育て家庭のあり方の多様性を理解しようとする態度を有する。 2)子育て家庭の社会的な現状とニーズの傾向について理解することができる。 3)子育て家庭への基本的な支援内容について説明することができる。								
事前事後学修 について	各授業回到記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解				汎用的技能			
	○	態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (70%) ■ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	子育て支援の心理学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の概略、および授業計画の説明 (事前事後学修課題の内容) 事前：シラバスの内容を確認する。 事後：オリエンテーション内容をノートにまとめる。
第2回	生涯発達とは何か(1) —生涯発達の考え方—	(学修内容) 心理学における生涯発達の考え方 (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定箇所を通読する。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第3回	生涯発達とは何か(2) —ライフサイクルとライフコース—	(学修内容) ライフサイクル・ライフコースとは何か (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定箇所を通読する。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第4回	生涯発達とは何か(3) —エリクソンのライフサイクル論—	(学修内容) ライフサイクル論的観点から見る問題・課題 (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定箇所を通読する。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第5回	生涯発達とは何か(4) —生涯発達から見た心の問題と家族—	(学修内容) 生涯にわたるメンタルヘルスの諸問題 (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定箇所を通読する。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第6回	子育てを取り巻く社会的状況(1) —社会と家族の変化—	(学修内容) 社会と家族の変化の歴史・背景 (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定箇所を通読する。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第7回	子育てを取り巻く社会的状況(2) —現代の子育ての難しさ—	(学修内容) 子育ての現代的問題とその背景 (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定箇所を通読する。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第8回	子育てを取り巻く社会的状況(3) —保育における子育て支援—	(学修内容) 保育現場における子育て支援の種類と内容 (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定箇所を通読する。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第9回	多様な家庭形態とその理解(1) —現代の多様な家庭—	(学修内容) 多様な家庭形態の実情 (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定箇所を通読する。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第10回	多様な家庭形態とその理解(2) —援助にあたってのポイント—	(学修内容) 法令に基づく援助の実際 (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定箇所を通読する。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第11回	多様な家庭形態とその理解(3) —多様な家庭の援助につながるアセスメント—	(学修内容) 養育アセスメントと支援の循環 (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定箇所を通読する。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第12回	特別な配慮を必要とする家庭(1) —特別な配慮を必要とする家庭—	(学修内容) 特別な配慮を要する家庭とは (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定箇所を通読する。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第13回	特別な配慮を必要とする家庭(2) —予期せぬ出来事に遭遇した家庭—	(学修内容) 特別な配慮を必要とする予期せぬ出来事とは (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定箇所を通読する。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第14回	特別な配慮を必要とする家庭(3) —配慮・支援にあたってのポイント—	(学修内容) 特別な配慮を必要とするケースにおけるアセスメントと支援 (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定箇所を通読する。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第15回	まとめ、振り返り	(学修内容) 14回の学修内容の総括、振り返り (事前事後学修課題の内容) 事前：全回の学修内容の流れを振り返ってノート整理をおこない、解決していない疑問・質問等をまとめる。

授 業 名	子どもの保健			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1212
英 文 名	Infant Health			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	福井 百合子			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	保育では基本的事項として、子どもの健康の維持増進と健やかな発育を支援することが求められる。そのため保育者は、子どもの発達に応じた養育、病気やケガの予防や保健的対応、保育環境の調整に必要な知識と技術を身につけていることが必要である。本授業では、「子どもの保健」の学修内容をふまえて、保育者として必要な乳幼児の育児技術と保健的対応、疾病(感染)予防、応急・救急処置、安全確保の基本的知識の理解を深め、具体的な方法や技術を学ぶ。適宜、画像や動画視聴、演習、ワーク、ディスカッションやグループワークを実施する。								
学修成果 到達目標	1.子どもの健康と心身の発育に必要な日常的な養護について、年齢や発育過程の特徴をふまえて理解でき、一部実践できる。 2.保育場面での安全管理と衛生管理について、ガイドラインや指針をふまえた具体的内容がわかる。 3.病気や障害をもつ子どもの保育について理解できる。 4.保育場面での子どもの体調不良やけが等に対する適切な対応と予防対策について理解し、ガイドラインや指針をふまえて考えることができ、一部実践できる。 5.子どもの健康状態の観察と判断、成長・発達の確認について理解でき、一部実践できる。 6.子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について理解できる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間)								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解	○	汎用的技能					
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用(双方向型授業) ☒ I C T活用(自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☒ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	子どもの保健	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス 個の健康と集団の健康の視点	(学修内容) 授業の案内。一人ひとりの子どもの健康管理と発育支援、集団の健康管理と健康教育の必要性を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：子どもの保健 で学んだ子どもにとっての健康や保健活動の意義を復習しておく。事後：ミニテストで復習する。
第2回	乳幼児の養護の重要性と保育環境 健康と情緒の安定のための保育環境の調整と援助 マズローの欲求五段階説 エリクソンの心理社会的発達理論とボウルビイの愛着理論	(学修内容) 乳幼児の健康と情緒の安定のための保育環境の調整と援助(愛着形成・信頼関係構築)について学ぶ。マザリーズと乳児の抱っこ演習を行う (事前事後学修課題の内容) 事前：事前学習資料、教科書第1章14コマ目、第2章15コマ目を読む。事後：ミニテストで復習する。
第3回	保育における安全管理 乳幼児の事故 子どもの事故が起こりやすい子どもの特徴	(学修内容) 保育施設での事故の傾向を知り、子どもの特徴をふまえた事故防止について幼児の視野体験と、保育場面の事故予測ワークを交えて考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：幼児視野体験メガネの作成、教科書第2章16コマ目を読む。事後：ミニテストで復習する。
第4回	保育における安全管理 保育施設での事故防止対策と安全管理 リスクとハザード 安全教育 防災、防犯	(学修内容) 保育施設での安全対策について学ぶ。実際の安全教育、避難訓練の様子を画像や動画で視聴、ハザードマップ作成GWを通じて学びを深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第2章17コマ目を読む。事後：ミニテストで復習する。
第5回	子どもの応急処置 外傷と出血、頭部外傷時の対処と処置 異物誤嚥	(学修内容) 子どものケガ(外傷、出血、骨折、目耳の異物混入)の対処と処置について、画像や動画を交えて学び、一部演習(前腕の包帯の巻き方)を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第2章19コマ目を読む。事前資料がある場合は目を通しておく。事後：ミニテストで復習する。
第6回	子どもの救急処置 緊急対応が必要な重篤な状態時の対処と処置 気道異物による窒息 ショック状態	(学修内容) 異物誤嚥による気道閉塞(窒息)、ショック状態など重篤な状態時の対応と手順、救命処置について、動画視聴も併せ、一連の流れを演習する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第2章19コマ目を読む。事前資料がある場合は目を通しておく。事後：ミニテストで復習する。
第7回	子どもの健康状態の把握と管理、発育経過の確認 心身の健康状態の観察 子どもの呼吸、脈拍、体温の測定と判断	(学修内容) 子どもの健康状態の観察と発育経過の確認の具体的方法と判断、健康管理について学ぶ。バイタルサインの測定と身体計測を一部演習する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第1章7～8コマ目、第2章22コマ目を読む。事後:ミニテストで復習する。
第8回	子どもの健康状態の把握と管理、発育経過の確認 身体計測と身体発育曲線 母子健康手帳、連絡帳、生活管理指導表の活用 健康教育	(学修内容) 子どもの健康状態の観察と発育経過の確認の具体的方法と判断、健康管理について学ぶ。バイタルサインの測定と身体計測を一部演習する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第1章7～8コマ目、第2章22コマ目を読む。自分の母子健康手帳の掲載内容に目を通しておく。事後:ミニテストで復習する。
第9回	子どもの体調不良に対する適切な対応 発熱、熱中症、下痢、嘔気・嘔吐、咳、痛み、けいれん、脱水	(学修内容) 子どもの発熱、熱中症、下痢、嘔気・嘔吐、咳、痛み、けいれん、脱水の対応について、動画を交えて学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第1章9～10コマ目、第2章18コマ目を読む。事後：ミニテストで復習する。
第10回	子どもの体調不良に対する適切な対応 吐物の処理、氷枕	(学修内容) 嘔吐時の対応(対処と吐物処理)、発熱や熱中症時の冷電法(作成とポイント)について、動画やワークを交えて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第2章18コマ目を読む。配布資料がある場合は必ず目を通しておく。事後：ミニテストで復習する。
第11回	個別的な配慮を要する子どもへの対応 アレルギー疾患のある子どもの症状出現時の対応 アナフィラキシー、喘息発作	(学修内容) アレルギー疾患のある子どものアナフィラキシー出現時、喘息発作時の対応(エピペンの使用、吸入薬の使用)について動画を交えて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第2章28コマを読む。事後：ミニテストで復習する。
第12回	個別的な配慮を要する子どもへの対応 慢性疾患 肢体不自由児 医療的ケアを要する子ども 統合保育、インクルーシブ保育	(学修内容) 慢性疾患、肢体不自由児、医療的ケアを必要とする子どもへの対応について学ぶ。小児慢性特定疾病について知る。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第2章26～27コマ目を読む。事後：ミニテストで復習する。
第13回	個別的な配慮を要する子どもへの対応 視覚障害・聴覚障害、発達障害のある子ども	(学修内容) 視覚障害・聴覚障害、発達障害のある子どもへの対応について学ぶ。動画を用いて聴覚過敏、視覚過敏を疑似体験し理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第1章6コマ目、第2章29コマ目を読む。事後：ミニテストで復習する。
第14回	地域の保健活動と連携 子ども・子育て支援、母子保健施策	(学修内容) 地域の保健活動と連携、子ども・子育て支援、母子保健施策について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第2章29～30コマ目を読む。事後：ミニテストで復習する。
第15回	全体の振り返り 定期試験ガイダンス	(学修内容) 定期試験の案内。全体の振り返りと質疑応答。 (事前事後学修課題の内容) 事前・事後：授業内容全体を復習する。

授 業 名	社会的養護	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業概要の理解	(学修内容) 授業概要とシラバスの理解 (事前事後学修課題の内容) 事前にシラバスを読んでおくこと
第2回	第1章 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷	(学修内容) 社会の変化と社会的養護の関係の理解 社会的養護の基本原則の理解 (事前事後学修課題の内容) 子ども関連のニュースなどに関心をもって見る 教科書P9～P20
第3回	第2章 社会的養護の基本	(学修内容) 子どもの権利と社会的養護の基本原則の理解 (事前事後学修課題の内容) 子どもの権利条約を確認しておく 教科書P23～P37
第4回	第3章 社会的養護の基本原則 1.社会的養護の制度と法体系	(学修内容) 児童福祉法と児童虐待防止法の理解 (事前事後学修課題の内容) 児童福祉法と児童虐待防止法を確認しておく 教科書P41～P46
第5回	第3章 社会的養護の基本原則 2.社会的養護の仕組みと実施体系 児童相談所や福祉事務所等の理解	(学修内容) 講義後視覚教材を見て、質問、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) 児童相談所や福祉事務所機能について確認しておく 教科書P46～P52
第6回	第3章 社会的養護の基本原則 3.社会的養護の対象 4.家庭養護と施設養護	(学修内容) 児童虐待やDVが発生する背景と子どもへの影響の理解 家庭養護と施設養護(家庭的養護)の理解 (事前事後学修課題の内容) 児童虐待やDVと家庭養護と家庭的養護について調べておく 教科書P52～P56
第7回	第3章 社会的養護の基本原則 4.家庭養護と施設養護 (里親制度)	(学修内容) 講義後視覚教材を見て、質問、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) 里親制度について調べておく 教科書P57～P61
第8回	第3章 社会的養護の基本原則 4.家庭養護と施設養護 (乳児院)	(学修内容) 講義後視覚教材を見て、質問、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) 乳児院についてしらべておく 教科書P57～P61
第9回	第3章 社会的養護の基本原則 4.家庭養護と施設養護 (母子生活支援施設)	(学修内容) 講義後視覚教材を見て、質問、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) 母子生活支援施設について調べておく 教科書P57～P61
第10回	第3章 社会的養護の基本原則 4.家庭養護と施設養護 (児童養護施設・地域小規模児童養護施設)	(学修内容) 講義後視覚教材を見て、質問、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) 児童養護施設と地域小規模児童養護施設について調べておく 教科書P57～P61
第11回	第3章 社会的養護の基本原則 4.家庭養護と施設養護 (児童心理治療施設)	(学修内容) 講義後視覚教材を見て、質問、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) 児童心理治療施設について調べておく 教科書P57～P61
第12回	第3章 社会的養護の基本原則 4.家庭養護と施設養護 (児童自立支援施設、自立援助ホーム)	(学修内容) 講義後視覚教材を見て、質問、グループディスカッション、プレゼンテーションを行う (事前事後学修課題の内容) 児童自立支援施設と自立援助ホームについて調べておく 教科書P57～P61
第13回	第4章 社会的養護の内容 社会的養護における子どもの理解	(学修内容) 様々な課題を抱えた子どもと支援の理解 (事前事後学修課題の内容) 日常生活支援、治療的支援、自立支援について調べておく 教科書P70～P89
第14回	第5章 社会的養護の実践 社会的養護の子どもの理解 第6章 社会的養護の現状と課題 障害児保育の基本的内容	(学修内容) アセスメントと自立支援計画についての理解 (事前事後学修課題の内容) 支援記録、アセスメント、支援計画について調べておく 教科書P92～P120
第15回	授業の振り返り	(学修内容) 授業の振り返りとテスト範囲の説明 (事前事後学修課題の内容) これまで授業内容を復習しておく

授 業 名	教育の方法と技術			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2321
英 文 名	Educational Methods and Technique			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	堀出 雅人			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	教育の方法及び技術では、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、幼児教育の方法、幼児教育の技術、情報機器の活用、遊びを通した総合的な学びを生み出す環境構成づくりにつながる基礎的な知識・技能を身に付けることをめざします。								
学修成果 到達目標	「教育の方法と技術」は以下の3つの到達目標を掲げます。 （１）幼稚園教育要領に基づき幼稚園教育を通して育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。 （２）幼稚園教育の目的に適した保育の基礎的な技術を身に付け、目的と目標に応じた保育を展開できるように実践をデザインすることができる。 （３）子どもたちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用（双方向型授業） ☒ I C T 活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験 （ 50% ） ☒ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	教育の方法と技術	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	環境を生かした活動の方法と形態	(学修内容) なぜ、環境を通しての教育活動なのかを説明できる 園での基本的な活動の形態を説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: 保育実習で見てきた園の環境構成や活動の形態について整理する 後: グループワークを通して共通した環境構成や活動の形態を整理する
第2回	園児の遊びを通した総合的な指導	(学修内容) 遊びを通した総合的な指導とは何かを説明できる 園児の遊びをより豊かにする保育者の援助のあり方を考える (事前事後学修課題の内容) 前: 幼稚園教育要領を読み幼児教育の方法を調べる 後: 遊びを通した総合的な指導のあり方を整理する
第3回	個に対する指導の技術と集団に対する指導の技術	(学修内容) 幼児教育における個と集団に応じた指導技術があることを理解できる (事前事後学修課題の内容) 前: クラス内の個人と集団に応じた指導の目的を調べてくる 後: 個と集団にスポット当てた指導技術の整理する
第4回	育みたい資質・能力の要素と実際の子どもの様子を照らした指導計画づくり	(学修内容) 幼児の終わりまでに育みたい10の姿など幼稚園教育の目的と幼児理解に基づいた指導計画づくりのポイントを理解できる (事前事後学修課題の内容) 前: 10の姿の復習 後: 指導計画づくりの過程のイメージを整理する
第5回	幼児理解に基づいた評価の基礎	(学修内容) 就学前教育の評価の視点を説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: 就学前教育と小学校教育以降の評価のあり方の差異を調べる 後: 幼児理解に基づいた評価の基礎を整理する
第6回	年少クラスを対象とした指導計画と方法(主に6月)	(学修内容) 3歳児の育ちを捉えた基本的な指導計画と方法を理解できる (事前事後学修課題の内容) 前: 3歳児の子どもの育ちを整理する 後: 3歳児の6月の園生活のイメージをつかむ
第7回	年中クラスを対象とした指導計画と方法(主に6月)	(学修内容) 4歳児の育ちを捉えた基本的な指導計画と方法を理解できる (事前事後学修課題の内容) 前: 4歳児の子どもの育ちを整理する 後: 4歳児の6月の園生活のイメージをつかむ
第8回	年長クラスを対象とした指導計画と方法(主に6月)	(学修内容) 5歳児の育ちを捉えた基本的な指導計画と方法を理解できる (事前事後学修課題の内容) 前: 5歳児の子どもの育ちを整理する 後: 5歳児の6月の園生活のイメージをつかむ
第9回	10の姿を捉える観察の視点(実習期間予定)	(学修内容) 実習を通して観察の視点を習得し的確に記録することができる (事前事後学修課題の内容) 前: 10の姿について復習する 後: 10の姿に注目した記録を進める
第10回	10の姿に関する個への指導技術(実習期間予定)	(学修内容) 実習を通して幼児一人ひとりに応じた保育者の関わりを説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: 実習1週目の反省と2週目に向けた目標を設定する 後: 保育者の幼児一人ひとりに応じた指導技術を捉え書き出す
第11回	10の姿に関する集団への指導技術(実習期間予定)	(学修内容) 実習を通してクラス全体への保育者の関わりや指導の仕方を説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: 実習2週目の反省と3週目に向けた目標を設定する 後: 保育者のクラス全体に向けた指導技術を捉え書き出す
第12回	園庭の環境を活かした指導計画の実践【情報機器活用を含む】	(学修内容) 植物の観察と関連した制作を経験することで「事物による教育」の意味が理解できる、幼児教育での情報機器の活用方法を理解できる (事前事後学修課題の内容) 前: 園庭によく植えられている植物を調べる 後: 授業の感想をまとめ提出する
第13回	6月度の実習のふりかえり(10の姿を中心に)【グループワーク】	(学修内容) 一つのアプローチとして10の姿に基づく保育実践について説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: 実習中に捉えた10の姿を説明する資料を作成する 後: グループワークの成果を整理する
第14回	幼児教育の方法と技術の変遷	(学修内容) 教育史をたどり幼児教育の方法と技術の変遷を捉えることができる (事前事後学修課題の内容) 前: 教育原理の授業で受けた教育史の箇所を復習する 後: 興味関心をもった方法や技術についてさらに調べまとめる
第15回	教育の方法と技術における今日的課題	(学修内容) カリキュラムマネジメント、インクルーシブ教育、ICT活用など保育実践のさらなる高度化に向けた課題を説明できる (事前事後学修課題の内容) 前: 保育現場の抱える課題を整理する 後: もっとも自身に響いた課題をさらに調べまとめる

授 業 名	乳児保育	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション乳児保育の基本 〔生活とあそび〕	(学修内容) 15回の学修内容を理解する。乳児の生活とあそびの大切さを理解する (事前事後学修課題の内容) 事前: 教科書最初の写真、及びはじめにと第1章の1を読んでくる 事後: 乳児の生活とあそびが何故大切なのかを復習しておく。
第2回	乳児保育の基本 〔乳児の発達の特徴〕	(学修内容) 乳児の発達の特徴と大切にしたいことを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 第1章の2, 3を読んでくる。 事後: 発達表を制作し、項目毎に目を通しておく。
第3回	乳児保育の内容与方法(1) 〔目標とねらい、保育園での生活〕	(学修内容) 乳児保育の目標とねらい及び保育園においての生活環境をを理解する (事前事後学修課題の内容) 事前: 第2章の1, 2を読んでくる。 事後: 保育園での1日の生活、デイリープログラムを復習する。
第4回	乳児保育の内容与方法(1) 〔情緒の安定と環境整備〕レポート	(学修内容) 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮を理解する。 課題レポートを提出する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 第2章の3を読んでくる。 事後: 子どもの安全を確保する環境整備を復習しておく。
第5回	乳児保育の内容与方法(2) 〔大人とあそび〕	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践(動画)を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 第3章1の を読んでくる。対大人と遊ぶあそびを調べておく。 事後: 実際に授業で行なったあそびを復習しておく。
第6回	乳児保育の内容与方法(2) 〔友だちとあそび〕	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践(動画)を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 第3章1の を読んでくる。友だちとするあそびを調べておく。 事後: 動画を思い出し、つもりやみたて、ごっこあそびを復習する。
第7回	乳児保育の内容与方法(2) 〔物とあそび〕	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 第3章1の を読んでくる。物を使ったあそびを調べておく。 事後: 年齢毎のおもちゃのちがいを発達と合わせて復習する。
第8回	乳児保育の内容与方法(2) 〔おもちゃ作り〕	(学修内容) 乳児のあそびに使用するおもちゃを実際に作る。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 乳児の年令に適したおもちゃをいくつか調べておく。 事後: 作ったおもちゃで実際にあそんでみたり、新たに作ってみる。
第9回	乳児保育の内容与方法(2) 〔全身を使ってあそび〕	(学修内容) 乳児のあそびのあり方と実践(動画)を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 第3章1の を読んでくる。身体を使うあそびを調べておく。 事後: 発達表を見ながら、子どもの身体の特徴を復習する。
第10回	乳児保育の内容与方法(2) 〔あそびの文化〕	(学修内容) あそびにおける保育士の役割とあそび文化(絵本・紙芝居など)を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 第3章の3, 4を読んでくる。(資料5は必ず目を通しておく) 事後: 授業の中で行なった歌やあそびを復習して身につける。
第11回	乳児のあそびの実際 〔あそびの実践〕	(学修内容) 実践的なあそびを学び、乳児の気持ちを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: ふれあいあそびや手あそびの大切さを調べておく。 事後: 実際に子どもの前ですることを意識しながらあそびを復習する。
第12回	乳児のあそびの実際 〔グループ相談活動〕レポート	(学修内容) 年令の発達を踏まえた上で、あそび(ふれあい、歌、手あそびなど)をグループで考える。課題レポートを提出する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 前回のあそびを復習し、グループに反映させる。 事後: グループで相談し、あそびをつくりあげる。
第13回	プレゼンテーション 〔グループ発表〕	(学修内容) 各グループで考えたあそびを発表し、意見を交換し合う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 作ったあそびを所定用紙に記入し、提出できるようにしておく。 事後: 他のグループのあそびも参考にしておそんでみる。
第14回	乳児保育における計画の実際	(学修内容) 乳児保育における指導計画、記録と評価について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 第4章を読んでくる。(資料1は必ず目を通しておく) 事後: 記録の大切さ、保育計画を立てる意義を復習する。
第15回	乳児保育のまとめ 〔子どもと保育士の関係〕	(学修内容) 子どもと保育士、親と保育士、職員集団の中での保育士の関係とあり方を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 第6章を読んでくる。(資料1, 2は必ず目を通しておく) 事後: 保育園での子どもと保育士、保護者と保育士の関係を復習する。

授 業 名	保育内容・表現（造形）			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2325
英 文 名	Child Care: Formative Art			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	柴田 精一			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	領域「表現」のねらい及び内容等を踏まえ、保育所や幼稚園での具体的な活動を構想する力を、主に演習を通して身につける。								
学修成果 到達目標	1）領域「表現」のねらい及び内容とその位置づけを理解する。 2）子どもが活動の中で身につけていく内容を理解して保育を構想できる。 3）具体的な活動をイメージして教材を準備することができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 1時間）								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ☐ I C T活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験 ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 （ 50% ） ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☒ 制作物 （ 50% ） ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☒ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☒ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()))							
テキスト	「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形材料」樋口一成編 萌文書林（1回生春学期購入のものを 사용합니다）								
参 考 書	適宜、参考資料を配布する。								
課題に対する フィードバック の方法	各課題の提出時、また、製作物をまとめたワークブックについて指導を行う。								
留意事項	製作活動に適した服装で受講すること。必携の画材・スケッチブックを持参すること。グループワークには協調性をもって積極的に参加すること。								
オフィス アワー	学生の時間割により判断し、研究室前に掲示する。								
実践的教育	☒ 実践的教育 教員の実務経験など：幼稚園の非常勤教員・研究員								

授 業 名	保育内容・表現（造形）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	（学修内容）授業の概要説明、受講のための諸注意。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：シラバスに目を通してまとめておく。 事後学修：実習の体験を思い出し、活動の導入方法をまとめる。
第2回	活動の導入に活用できる表現技術	（学修内容）造形活動の導入時に活かせる表現技術を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：描きたいモチーフを考えまとめておく。 事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第3回	季節を感じる製作活動 紙コップ用いたおもちゃ	（学修内容）6月に行う設定保育を想定して、季節に合ったおもちゃの製作を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：教科書の関連箇所を読んでまとめておく。 事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第4回	季節を感じる製作活動 梅雨を感じる吊り飾り	（学修内容）6月に行う設定保育を想定して、季節に合った吊り飾りの製作を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：教科書の関連箇所を読んでまとめておく。 事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第5回	学習記録のまとめ 第2～4回の内容	（学修内容）学習した内容をスケッチブックにまとめる。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：学習した内容についてまとめておく。 事後学修：授業時間外に製作を進める。
第6回	技法遊びを活用した製作活動 にじみ絵を用いて	（学修内容）1年次に学んだ技法遊び「にじみ絵」を活用した製作活用学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：にじみ絵について復習しておく。 事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第7回	技法遊びを活用した製作活動 スタンピングを用いて	（学修内容）1年次に学んだ技法遊び「スタンピング」を活用した製作活用学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：スタンプに活用できそうな身近な素材を集めておく。事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第8回	学習記録のまとめ 第6～7回の内容	（学修内容）学習した内容をスケッチブックにまとめる。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：学習した内容について保育で実践することを想定してまとめておく。事後学修：授業時間外に製作を進める。
第9回	実験あそび シャボン液を用いて	（学修内容）身近な現象や物質の性質の不思議さを感じる遊び、シャボン液を用いた遊びを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：シャボン液の作り方を調べてまとめておく。 事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第10回	10実験あそび 飛ぶおもちゃ	（学修内容）身近な現象や物質の性質の不思議さを感じる遊び、飛ぶおもちゃの製作を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：紙飛行機の作り方を調べ、まとめておく。 事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第11回	学習記録のまとめ 第9～10回の内容	（学修内容）学習した内容をスケッチブックにまとめる。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：学習した内容について保育で実践することを想定してまとめておく。事後学修：授業時間外に製作を進める。
第12回	季節を感じる製作活動 食べものをモチーフにして	（学修内容）8月に行う設定保育を想定して、季節の食べ物をモチーフにした製作を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：夏の食べ物のイメージをまとめておく。 事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第13回	季節を感じる製作活動 文化をテーマにして	（学修内容）8月に行う設定保育を想定して、季節にまつわる文化をテーマとした製作を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：夏の文化のイメージをまとめておく。 事後学修：演習を通して生まれた反省をまとめる。
第14回	学習記録のまとめ 第12～13回の内容	（学修内容）学習した内容をスケッチブックにまとめる。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：学習した内容について保育で実践することを想定してまとめておく。事後学修：授業時間外に製作を進める。
第15回	授業のまとめ	（学修内容）授業全体を通して学んだ内容を振り返る。 （事前事後学修課題の内容） 事前学修：授業で学んだ内容を振り返ってまとめておく。 事後学修：学修内容を整理し、レポートの準備をする。

授 業 名	幼児と言葉		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1202
英 文 名	Infants and Language		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	坂本 渉		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	言葉は生涯にわたり生活やコミュニケーション能力と密接な関係がある。その言葉を乳幼児がどのように獲得するのか、その発達過程を知るとともに、言葉の意義や機能について理解する。また、言葉の感覚を豊かにする関わりや言葉で表現することの楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身につける。さらに、児童文化財について理解を深めるとともに、演習を通して保育における生かし方を体験的に学ぶ。							
学修成果 到達目標	1) 人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、説明できる。 2) 乳幼児の言葉の発達過程について理解し、実際の場面を想定して説明できる。 3) 幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、児童文化財について、基礎的な知識、実践力を身につける。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 1 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解	○	汎用的技能				
		態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (70%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	幼児と言葉	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション/「言葉」に関するエピソード	(学修内容) 授業のねらいや概要の説明を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前:シラバスを確認し、講義の概要について理解する。 事後:自身の「言葉」に関するエピソードを考え、まとめる。
第2回	人間にとっての「言葉」とは - 言葉の機能を考える -	(学修内容) 「言葉」の意義と役割について理解する。(ディスカッション) (事前事後学修課題の内容) 事前:人間にとっての「言葉」とは何か、考えをまとめておく。 事後:授業を振り返り、言葉の役割についてまとめる。
第3回	言葉の育つみちすじと保育者のかかわり 言葉の前の言葉(0歳児)	(学修内容) 言葉を話す前(0歳児)の言葉の育つみちすじや特徴、保育者のかかわりについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前:乳児が「泣く」ことの意味を考える。 事後:「指さし」と「三項関係」についてまとめる。
第4回	言葉の育つみちすじと保育者のかかわり 言葉を話せるようになってから(1・2歳児)	(学修内容) 言葉が話せるようになってから(1・2歳児)の言葉の育つみちすじや特徴、保育者のかかわりについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前:1・2歳児の子どもが話す言葉、幼児語の特徴をまとめる。 事後:視聴したDVDの内容に基づき、考えたことを整理する。
第5回	言葉の育つ道筋と保育者のかかわり 3・4歳児の言葉	(学修内容) 3・4歳児の言葉の育つみちすじや特徴、保育者のかかわりについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前:3・4歳児の成長発達過程を調べ、まとめる。 事後:視聴したDVDの内容に基づき、考えたことを整理する。
第6回	言葉の育つ道筋と保育者のかかわり 5歳児・1年生の言葉	(学修内容) 5歳児の言葉の育つ道すじや特徴、保育者のかかわりについて学び、小学校接続期へ発展することを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前:5歳児の成長発達過程を調べ、まとめる。 事後:小学校学習指導要領「国語科」のつながりについてまとめる。
第7回	言葉の感覚を豊かにする保育実践 言葉の楽しさ・面白さに触れる	(学修内容) 言葉遊びの種類や意義、言葉遊びを通して乳幼児の言葉への関わりについて学ぶ。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) 事前:言葉遊びに関して調べ、疑問点などを整理する。 事後:言葉遊び体験を振り返るとともに、基礎知識をまとめる。
第8回	言葉の感覚を豊かにする保育実践 言葉の美しさ・豊かさに触れる	(学修内容) 保育現場で活用されているわらべうたを題材に、わらべうたの種類や特徴などの基礎知識を学ぶ。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) 事前:「わらべ歌」を調べ、歌ったり手遊びができるようにする。 事後:授業を振り返り、「わらべ歌」について学んだことを整理する。
第9回	言葉と児童文化財 - 児童文化財とは何か、さまざまな児童文化財 -	(学修内容) 子どもにとっての児童文化財の意義、歴史、実際(種類、保育への取り入れ方など)について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前:さまざまな児童文化財について調べ、基礎知識や疑問点を整理する。事後:授業を振り返り、児童文化財について学んだことを整理する
第10回	子どもの言葉を育む児童文化財(1)絵本 絵本とは	(学修内容) 絵本の種類や読み聞かせの方法など基礎知識について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前:絵本に関して下調べし、知識及び疑問点を整理する。 事後:授業を振り返り、絵本について学んだことを整理する。
第11回	子どもの言葉を育む児童文化財(1)絵本 幼児の発達段階と絵本選び	(学修内容) 絵本のジャンルや、発達過程に応じた選書のありかたなどについて学び、読み聞かせの意義について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前:絵本選びの知識、読み聞かせに必要な技能について整理する。 事後:演習に向けて絵本選びをする。
第12回	子どもの言葉を育む児童文化財(1)絵本 読み聞かせ演習	(学修内容) 絵本読み聞かせの実演演習と振り返り(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) 事前:演習に向けて読み聞かせの練習をする。 事後:自己評価を行うとともに自己課題を整理する。
第13回	子どもの言葉を育む児童文化財(2)紙芝居	(学修内容) 紙芝居の歴史と演じ方など基礎知識について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前:紙芝居に関して下調べし、知識及び疑問点を整理しておく。 事後:授業を振り返り、紙芝居について学んだことを整理する。
第14回	子どもの言葉を育む児童文化財(3)人形劇	(学修内容) 人形劇の歴史と種類、保育への取り入れ方ならびに演じ方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前:人形劇に関して下調べし、知識及び疑問点を整理しておく。 事後:授業を振り返り、人形劇について学んだことを整理する。
第15回	子どもの言葉を育む児童文化財(4)ペープサート・パネルシアター	(学修内容) シアター系文化財の歴史と種類、保育への取り入れ方ならびに演じ方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前:シアター系文化財に関して調べ、知識及び疑問点を整理する。 事後:授業を振り返り、学んだことを整理する。

授 業 名	幼児と人間関係		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2232
英 文 名	Infants and Human Relations		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	荘巖 茶茶		対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	子どもが自分を取り巻く「人間関係」と出会い、受容、理解、展開へと進んでいくプロセスを発達の観点で捉え、各段階における発達課題との関連性を学ぶ。また、「人間関係」領域の力の育みをねらいとする保育活動を考える上で留意すべき問題を、個人、集団、社会の視点から考える。							
学修成果 到達目標	1)子どもの「人間関係」の変化の様相を発達の観点から理解した上で、発達課題との関連性を説明することができる。 2)子どもの「人間関係」の発達を「環境との相互作用」の観点から理解することができる。 3)「人間関係」の育みを支え、促す保育活動を積極的に考えることができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	■ P B L □ ディスカッション・ディベート □ グループワーク □ プレゼンテーション □ 実習・フィールドワーク □ I C T 活用 (双方向型授業) □ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (70%) ■ 筆記試験 □ レポート □ 制作物 							

授 業 名	幼児と人間関係	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業内容の概略、および授業計画の説明 (事前事後学修課題の内容) 事前：シラバスの内容を確認する。 事後：オリエンテーション内容をノートにまとめる。
第2回	「人間関係」の中の「幼児」(1)—新生児が会う「人間関係」—	(学修内容) 新生児の能力 (事前事後学修課題の内容) 事前：指定キーワードについて探索的に調べ、得た知識をまとめる。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第3回	「人間関係」の中の「幼児」(1)—新生児が会う「人間関係」—	(学修内容) あらゆる「はじめまして」 (事前事後学修課題の内容) 事前：指定キーワードについて探索的に調べ、得た知識をまとめる。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第4回	「人間関係」の中の「幼児」(2)—乳児が受容していく「人間関係」—	(学修内容) 「はじめまして」から「興味津々」へ (事前事後学修課題の内容) 事前：指定キーワードについて探索的に調べ、得た知識をまとめる。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第5回	「人間関係」の中の「幼児」(2)—乳児が受容していく「人間関係」—	(学修内容) 乳児のコミュニケーションの特徴 (事前事後学修課題の内容) 事前：指定キーワードについて探索的に調べ、得た知識をまとめる。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第6回	「人間関係」の中の「幼児」(3)—幼児が理解していく「人間関係」—	(学修内容) 幼児前期：「興味津々」から「自分でしたい」「自分でできる」へ 幼児中期：「自分」から「みんなとともにいる自分」へ (事前事後学修課題の内容) 事前：指定キーワードについて探索的に調べ、得た知識をまとめる。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第7回	「人間関係」の中の「幼児」(3)—幼児が理解していく「人間関係」—	(学修内容) 幼児後期：「みんなとともにいる自分」から「仲間」へ 幼児のコミュニケーションの特徴 (事前事後学修課題の内容) 事前：指定キーワードについて探索的に調べ、得た知識をまとめる。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第8回	「幼児」の「人間関係」(1)—乳児の「人間関係」の展開—	(学修内容) 乳児の「人間関係」の形成・発達プロセスと特徴 (事前事後学修課題の内容) 事前：指定キーワードについて探索的に調べ、得た知識をまとめる。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第9回	「幼児」の「人間関係」(2)—幼児前期の「人間関係」の展開—	(学修内容) 幼児前期の「人間関係」の形成・発達プロセスと特徴 (事前事後学修課題の内容) 事前：指定キーワードについて探索的に調べ、得た知識をまとめる。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第10回	「幼児」の「人間関係」(3)—幼児中・後期の「人間関係」の展開—	(学修内容) 幼児中・後期の「人間関係」の形成・発達プロセスと特徴 (事前事後学修課題の内容) 事前：指定キーワードについて探索的に調べ、得た知識をまとめる。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第11回	「幼児」の「人間関係」(3)—幼児中・後期の「人間関係」の展開—	(学修内容) 遊びの発生と、遊びから生まれる「人間関係」 (事前事後学修課題の内容) 事前：指定キーワードについて探索的に調べ、得た知識をまとめる。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第12回	「幼児」の「人間関係」の社会的課題	(学修内容) 個人、集団、社会の視点から考える「人間関係」の力 (事前事後学修課題の内容) 事前：指定キーワードについて探索的に調べ、得た知識をまとめる。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第13回	事例学習(1)—乳児—	(学修内容) 乳児の「人間関係」の育みをねらいとする保育活動(構成実践ワーク)(PBL) (事前事後学修課題の内容) 事前：指定キーワードについて探索的に調べ、得た知識をまとめる。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第14回	事例学習(2)—幼児—	(学修内容) 幼児の「人間関係」の育みをねらいとする保育活動(構成実践ワーク)(PBL) (事前事後学修課題の内容) 事前：指定キーワードについて探索的に調べ、得た知識をまとめる。 事後：授業内容のノート整理をおこない、疑問・質問等をまとめる。
第15回	まとめ、振り返り	(学修内容) 14回の学修内容の総括、振り返り (事前事後学修課題の内容) 事前：全回の学修内容の流れを振り返ってノート整理をおこない、解決していない疑問・質問等をまとめる。

授 業 名	幼児と健康			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2233
英 文 名	Infants and health			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	福井 百合子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	本授業では、領域「健康」の内容をふまえつつ、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達など、養護および教育に必要な専門的知識をもとに、乳幼児の特徴をふまえた具体的な保育、援助が考えられる力を身につけることをめざす。								
学修成果 到達目標	1．乳幼児の健康課題と乳幼児にとっての健康の意義を理解し、心とからだの健康のための支援を考えることができる。 2．乳幼児の心と身体の発育の過程と特徴を理解し発達過程に応じたかかわりを考えられる。 3．幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を理解し、健康を維持するための生活習慣の獲得支援について考えることができる。 4．幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解できる。 5．幼児期の運動発達の特徴と運動遊びの意義を理解できる。 6．乳幼児の身体活動（多様な動きの経験）とそれを引き出す配慮について考えることができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ■ I C T活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験 ■ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 （ 50% ） ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 ■ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 （ 50% ） ■ 口述 ☐ 実習 ■ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	■ 知識・理解 ■ コミュニケーション能力 ■ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 ■（ 課題(ミニテスト込)提出) ■（ 学習ノート ）							
テキスト	無藤隆(監)・倉持清美(編)『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 健康』萌文書林								
参 考 書	●井狩芳子『演習 保育内容 健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点』萌文書林 ●河邊貴子・吉田伊津美 編『演習 保育内容「健康」—基礎的事項の理解と指導法—』建帛社 ●清水将之・相楽真樹子 編『実践例から学びを深める保育内容・領域 健康 指導法』わかば社 ●酒井幸子・松山洋平 編『保育内容健康 あなたならどうしますか?』萌文書林 ●勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行 編『保育者をめざすあなたへ子どもと健康 第2版』株式会社みらい								
課題に対する フィードバック の方法	ミニテストや課題などは提出後に答えと解説を表示、あるいは一部、全体で内容を共有する。								
留意事項	・教科書とノートを持参して受講すること。（適時確認すること有） ・授業で使用する大学の備品は大切に丁寧に扱うこと。 ・授業内容や試験方法は状況により調整変更することがある。 ・子どもの健康増進と健やかな育ちを支援するための保育・幼児教育の中で求められる観点を意識しよう。 ・出欠回数や課題提出の未済は自己管理すること。								
オフィス アワー	授業ガイダンス時に知らせる。								
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：看護師、助産師として救急、産婦人科、小児科の外来および病棟での実務経験から、乳幼児の様子や、病気・けがの対応がイメージしやすいよう工夫しながら授業を進めていく。								

授 業 名	幼児と健康	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス 健康の捉え方と幼児にとっての健康と健康づくり 領域「健康」	(学修内容) 授業の案内。子どもにとっての健康の意義と保健活動の重要性、子どもの健康づくり、領域「健康」について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書 第1章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第2回	幼児教育の基本 養護と教育の一体化 視点と領域	(学修内容) 幼児教育の基本と、年齢ごとの特徴に応じた領域「健康」のねらい、内容(視点から領域へ)について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書 第1章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第3回	小学校教育の基盤となる資質や能力の育み 環境を通じた学び 乳幼児にふさわしい生活	(学修内容) 学校教育へ向けた資質や能力の育みと、それに必要な環境と遊びについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書 第1章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第4回	子どもの育ちと領域「健康」 身体発育、運動機能の発達 個人差、経験値の差	(学修内容) 子どもの身体発育、運動機能の発達の過程に応じて育ちを引き出す、個人差や建研値の差を考慮した援助についてワークを通じて考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書 第2章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第5回	子どもの育ちと領域「健康」 情緒の安定 愛着形成と信頼 自己肯定感	(学修内容) 子どもの情緒の安定と、愛着形成の重要性について学び、乳幼児へのかかわりや環境について考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書 第2章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第6回	現代の子どもの健康に関する現状と課題 子どもの生活や遊びと運動機能の発達 心身への影響 集団保育の役割	(学修内容) 「健康」にかかわる現状と課題から、保育で留意したいこと、集団保育の役割について考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書 第3章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第7回	子どもの遊びと、健康および育ち 子どもにとっての遊びの意義 動機付けと繰り返し	(学修内容) 子どもにとっての遊びの意義、主体的な遊びや繰り返しを引き出す工夫について学び、事例を通してワークやディスカッションを行い考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書 第4章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第8回	基本的生活習慣の自立に向けた援助 園生活の中で育む生活習慣 園と家庭の連携、経験値の差	(学修内容) 生活の中での基本的生活習慣(食事、睡眠、排泄、清潔、衣類の着脱)の習得、自立に向けた援助について事例意を通して考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書 第2章、第5章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第9回	子どもの安全教育 園での安全管理と安全教育 危険回避能力の育成、リスクとハザード 安全の意識の育む	(学修内容) 園での安全教育と、子どもの安全な生活を作り出す力の育成の方法を学ぶ。ハザードマップ作成GWにより自己の危機意識を持つ機会を得る。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書 第6章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第10回	領域「健康」子どもの安全教育の構想 個人で構想しグループ内で共有	(学修内容) 子どもの安全教育について構想する。個人考察の後、グループワークを行い、構想内容のシェアと検討を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前：安全教育の活動内容について、いくつか思い浮かべておく。事後：グループ内で話し合った内容を整理する。作業の進捗状況を提出。
第11回	領域「健康」子どもの安全教育の構想 グループで構想内容を検討	(学修内容) 子どもへの安全教育についてグループに分かれてテーマを決め、ねらい・活動内容・具体的な準備・方法・手順を考え、整理して書く。 (事前事後学修課題の内容) 事前：グループで考えた内容を整理し必要な情報や資料を集める。事後：グループ作業の進捗状況を配布プリントに書き、指定の方法で提出。
第12回	領域「健康」子どもの安全教育の構想 各グループの構想内容の全体発表	(学修内容) 構想内容の発表(各グループ5～6分)を通じて、考案内容の共有と成果から実践へ向けての学びを得る。 (事前事後学修課題の内容) 事前：グループでの検討内容、集めた情報や資料を整理。事後：発表資料(PPTやプリント)の作成、発表準備。作業の進捗状況を提出。
第13回	領域「健康」子どもの安全教育の構想 考案内容の発表と振り返り	(学修内容) 全体の振り返りの共有を行い、気づきや学びを深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前：グループ毎に活動内容、活動テーマ、配慮や工夫をした点を5～6分で発表できるよう準備する。事後：資料と振り返りを提出。
第14回	領域「健康」現代社会における課題と取り組み 保育者の役割	(学修内容) 現代の子どもの健康に関する今後の課題と目指したい取り組み、保育施設および保育者の役割について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書 第7章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第15回	定期試験ガイダンス 全体の振り返り	(学修内容) 定期試験の案内。全体の振り返りと質疑応答。 (事前事後学修課題の内容) 授業全体の復習をしておく。

授 業 名	音楽表現			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1401
英 文 名	Musical Expression			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき・加藤 雅子・小川 隆昭・小鍛治 弘 美・北村 陽子・千田 浩美			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	子どもの姿を想像しながら、保育者に必要な音楽の基礎技術を身に付ける。また、子どもの音楽表現を促すことができるように学生自身の感性や表現力を培う。自ら楽譜を読んで練習し、楽譜について不明点があれば自ら調べたり、練習方法を調べて実践したりするなど、受講生が自らの課題に気づき、解決できるよう授業を通して指導する。								
学修成果 到達目標	1) 領域「表現」のねらいや内容を説明することができる。また、子どもの表現活動における音楽表現の意義を考え、述べることができる。 2) 音楽表現に必要な、音楽の基礎知識と基礎技術を身に付け、『バイエルピアノ教則本』96番以上の曲を表情豊かに弾くことができる。 3) 子どもの歌の歌唱や弾き歌いを通して、歌の世界をイメージする想像力を養い、表現することができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 2時間20分)								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	■ P B L □ ディスカッション・ディベート □ グループワーク □ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク □ I C T活用(双方向型授業) □ I C T活用(自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) □ 筆記試験 □ レポート □ 制作物 □ 口述 □ 実習 ■ 実技				平常試験 (50%) □ 筆記試験 □ レポート □ 制作物 □ 口述 □ 実習 ■ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	■ 知識・理解 □ コミュニケーション能力 □ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 ■ (演奏技術)) □ ()							
テキスト	『バイエルピアノ教則本』(音楽之友社)他、個々の経験や進度に応じて随時指定する。 『子どものうた』(京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室発行) 『聖歌紗』(入学式で配布)								
参 考 書	使用しない。								
課題に対する フィードバック の方法	毎回練習してきた曲について個別指導を行い、口頭で助言・指導を行う。								
留意事項	『バイエルピアノ教則本』と『子どものうた』の弾き歌いは、レッスンのステップ表(1回目の授業で配布)に従ってレッスンを進める。授業期間内にステップ8(全14ステップ)まで終了しなければ、定期試験を受けることができない。授業に出席するだけではなく、毎日のピアノの練習が必須である。 音楽療法士(2種)資格の取得を目指す学生は、1回生終了時に音楽表現 を必ず修了する必要がありますので留意してください。								
オフィス アワー	坂口(週1回・曜日と時間は研究室前に掲示)小川(週1回・曜日と時間は研究室前に掲示) 坂口・小川以外の教員(担当授業終了後に実施) *坂口・小川以外の教員のレッスンを受ける学生は、坂口・小川のオフィスアワーも利用してください。								
実践的教育	■ 実践的教育 教員の実務経験など: おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導、英国における児童及び家庭支援を行う公的施設等で音楽療法士、音楽教室、ピアノ講師、小学校・中学校・高等学校音楽科非常勤講師、ピアニストとして国内・海外のコンサートに出演等の経歴を生かして音楽における表現を担当する。								

授 業 名	音楽表現	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 幼児の表現活動における音楽表現の意義を考える。楽譜の読み方の基本を知る。各自のピアノレッスン曲を決定する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 小中高等学校の音楽の授業で学んだ基本的な音楽理論を復習しておく。事後: 次回のレッスン曲を練習する。
第2回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]生活のうた, 仏教聖歌 [理論]楽譜の読み方の基本	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]生活のうた「おはよう」など, 仏教聖歌/[理論]楽譜の基本的な読み方 (事前事後学修課題の内容) 事前/事後: 各自レッスンを受ける曲を練習する。
第3回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]生活のうた, 仏教聖歌 [理論]音の高さ	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]生活のうた「おかえりのうた」など, 仏教聖歌/[理論]音の高さ (事前事後学修課題の内容) 事前/事後: 各自レッスンを受ける曲を練習する。 宿題: 音楽理論のプリント 音の高さ
第4回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]生活のうた [理論]大譜表	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]生活のうた「おべんとう」など/[理論]大譜表 (事前事後学修課題の内容) 事前・事後: 各自レッスンを受ける曲を練習する。 宿題: 音楽理論のプリント 大譜表
第5回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた [理論]音名と変化記号	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「こいのぼり」など/[理論]音名と変化記号 (事前事後学修課題の内容) 事前/事後: 各自レッスンを受ける曲を練習する。 宿題: 音楽理論のプリント 音名と変化記号
第6回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]手遊びうた	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]手遊びうた「パンダ・うさぎ・コアラ」など (事前事後学修課題の内容) 事前/事後: 各自レッスンを受ける曲を練習する。
第7回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた [理論]変化記号	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「あめふりくまのこ」など/[理論]変化記号 (事前事後学修課題の内容) 事前/事後: 各自レッスンを受ける曲を練習する。 宿題: 音楽理論のプリント 変化記号
第8回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた [理論]音符と休符	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「くじらのとけい」など/[理論]音符と休符 (事前事後学修課題の内容) 事前/事後: 各自レッスンを受ける曲を練習する。 宿題: 音楽理論のプリント 音符と休符
第9回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた, 仏教聖歌 [理論]音符	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「おばけなんてないさ」など, 仏教聖歌/[理論]音符 (事前事後学修課題の内容) 事前/事後: 各自レッスンを受ける曲を練習する。 宿題: 音楽理論のプリント 音符
第10回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた, 仏教聖歌	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「水あそび」など, 仏教聖歌 (事前事後学修課題の内容) 事前/事後: 各自レッスンを受ける曲を練習する。
第11回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]子どものうた, 仏教聖歌	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]子どものうた「どんな色がすき」など, 仏教聖歌 (事前事後学修課題の内容) 事前/事後: 各自レッスンを受ける曲を練習する。
第12回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]子どものうた, 仏教聖歌	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]子どものうた, 仏教聖歌 (事前事後学修課題の内容) 事前/事後: 各自レッスンを受ける曲を練習する。
第13回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]子どものうた, 仏教聖歌	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]子どものうた, 仏教聖歌 (事前事後学修課題の内容) 事前/事後: 各自レッスンを受ける曲を練習する。
第14回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]子どものうた, 仏教聖歌	(学修内容) [ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]子どものうた, 仏教聖歌 (事前事後学修課題の内容) 事前/事後: 各自レッスンを受ける曲を練習する。
第15回	弾き歌い小試験 定期試験の準備	(学修内容) 弾き歌いの小試験, 定期試験(ピアノ実技試験)の準備 (事前事後学修課題の内容) 事前: 弾き歌いの試験曲を練習する。 事後: ピアノの試験曲を練習する。

授 業 名	音楽表現			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1411
英 文 名	Musical Expression			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき・加藤 雅子・小川 隆昭・小鍛治 弘 美・北村 陽子			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	音楽表現 での学びを基盤として、子どもの姿をより具体的に想像しながら、保育者に必要な音楽の基礎技術や表現力を身に着ける。子どもの音楽表現を促すことができるように学生自身の感性や表現力をさらに培う。								
学修成果 到達目標	1) 子どもの表現活動における音楽表現の意義について、1年間の学びを通して考えたことを自分の言葉で説明できる。 2) 音楽表現に必要な、音楽の基礎知識と基礎技術を身に着け、『ブルグミュラー25の練習曲』1番以上の曲を表情豊かに弾くことができる。 3) 子どもの歌の歌唱や弾き歌いを通して、季節や自然に対する感性を高め、歌の世界をイメージする想像力を養い、感じたことやイメージを工夫して表現することができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 30分)								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用(双方向型授業) ☐ I C T活用(自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	音楽表現	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]仏教聖歌 [理論]音楽理論小テスト	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]仏教聖歌/[理論]音楽理論小試験 (事前事後学修課題の内容) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) 小試験に向けて春学期に学習した音楽理論を復習しておく
第2回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]仏教聖歌 [理論]音楽理論小テストの返却と復習	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]仏教聖歌/[理論]音楽理論小試験の返却と復習 (事前事後学修課題の内容) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第3回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]生活のうた	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]生活のうた「さよならのうた」など (事前事後学修課題の内容) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第4回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた [理論]拍子	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「どんぐりころころ」など/[理論]拍子 (事前事後学修課題の内容) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) 宿題：音楽理論のプリント 拍子
第5回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた [理論]シンコペーション・アウフタクト	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「まつぼっくり」など/[理論]シンコペーション・アウフタクト (事前事後学修課題の内容) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) 宿題：音楽理論のプリント シンコペーション・アウフタクト
第6回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた [理論]奏法	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「きのこ」など/[理論]奏法 (事前事後学修課題の内容) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) 宿題：音楽理論のプリント 奏法
第7回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた [理論]繰り返し記号	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「山の音楽家」など/[理論]繰り返し記号 (事前事後学修課題の内容) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上) 宿題：音楽理論のプリント 繰り返し記号
第8回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「コンコンクシヤンのうた」など (事前事後学修課題の内容) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第9回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「たきび」など (事前事後学修課題の内容) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第10回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「ゆきのペンキやさん」など (事前事後学修課題の内容) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第11回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「あわてんぼうのサンタクロース」など (事前事後学修課題の内容) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第12回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]季節のうた	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]季節のうた「鬼のパンツ」など (事前事後学修課題の内容) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第13回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]子どものうた	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]子どものうた「うたえパンパン」など (事前事後学修課題の内容) 各自レッスンを受ける曲を練習する(1日20分～30分以上)
第14回	[ピアノ]教則本と弾き歌いのレッスン [歌]子どものうた	(学修内容)[ピアノ]各自指定された曲のレッスン/[歌]子どものうた (事前事後学修課題の内容) 各自レッスンを受ける試験曲を練習する(1日20分～30分以上)
第15回	弾き歌い小試験 定期試験の準備	(学修内容)弾き歌いの小試験 定期試験(ピアノ実技試験)の準備 (事前事後学修課題の内容) 弾き歌いの試験曲を練習する(1日20分～30分以上) ピアノの試験曲を練習する(1日20分～30分以上)

授 業 名	音楽表現			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2421
英 文 名	Musical Expression			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	小川 隆昭・千田 浩美・権田 志帆子・水谷 佳代 子・阿久津 啓			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	幼稚園・保育所の実習・就職試験、更には将来保育現場で役立つ実践的な能力を身に付けると同時に「子どものうた」を通して豊かな感性や表現力、及び音楽の楽しさ・喜びを身に付け、それらを伝える方法を学ぶ。人前での弾き歌いが緊張せずに行えるように弾く機会を増やし、最後まで止まらずに弾くことを習得する。また、身体を使った音楽遊びではリズム・音の強弱等音楽の諸要素に合わせた身体表現を行う。								
学修成果 到達目標	1)「子どものうた」のレパートリーを広げることが出来る。 2)初見・伴奏付けの力をつけることができる。 3)人前で弾き歌うことに慣れることで、実習や幼・保就職試験、更には就職後の保育現場で即役立つ技術を身につけることができる。 4)音楽に合わせた身体表現を身につけることができる。 5)音を聞き取る力をつけることができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 1時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ■ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用(双方向型授業) ☐ I C T活用(自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	音楽表現	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス、初見・歌唱1	(学修内容) 春学期授業計画・注意事項・初見・歌唱 (事前事後学修課題の内容) 「子どものうた」を数曲練習する
第2回	教育実習(幼稚園実習)準備1、初見・歌唱2 コードネーム・伴奏付け 聴音	(学修内容) 多くの幼稚園で歌われている「子どものうた」の伴奏 初見・歌唱、コードネーム説明→伴奏付け基本練習。音を聴き取る練習 (事前事後学修課題の内容) 「子どものうた」を練習し、指示した曲、上手く弾けなかった箇所を弾けるようにする
第3回	教育実習(幼稚園実習)準備2、初見・歌唱3 コードネーム・伴奏付け・手遊び 聴音	(学修内容) (幼稚園実習準備)継続、初見・歌唱、伴奏付け基本練習 手遊びの確認・習得を目指す。音を聴き取る練習 (事前事後学修課題の内容) 「子どものうた」を練習し、指示した曲、上手く弾けなかった箇所を弾けるようにする。手遊びの練習をする
第4回	教育実習(幼稚園実習)準備3、初見・歌唱4 コードネーム・伴奏付け・手遊び 聴音	(学修内容) (幼稚園実習準備)継続、初見・歌唱、伴奏付け基本練習 手遊びの確認・習得を目指す。音を聴き取る練習 (事前事後学修課題の内容) 「子どものうた」を練習し、指示した曲、上手く弾けなかった箇所を弾けるようにする。手遊びの練習をする
第5回	春学期前半まとめ、初見・歌唱5 聴音	(学修内容) 初見・歌唱、個人チェック曲練習 音を聴き取る練習 (事前事後学修課題の内容) 「子どものうた」の練習
第6回	第1回個人チェック 歌唱指導1	(学修内容) 課題曲を一人ずつチェック。 事前に作成した指導案に基づいて歌唱指導の発表をする (事前事後学修課題の内容) 「子どものうた」の練習 ペープサート等準備、作成した指導案を確認する
第7回	歌唱指導2	(学修内容) 事前に作成した指導案に基づいて歌唱指導の発表をする (事前事後学修課題の内容) 「子どものうた」の練習 ペープサート等準備、作成した指導案を確認する
第8回	歌唱指導3	(学修内容) 事前に作成した指導案に基づいて歌唱指導の発表をする (事前事後学修課題の内容) 「子どものうた」の練習 ペープサート等準備、作成した指導案を確認する
第9回	初見・伴奏付け補充練習1	(学修内容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (事前事後学修課題の内容) 「子どものうた」の練習
第10回	初見・伴奏付け補充練習2	(学修内容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 (事前事後学修課題の内容) 「子どものうた」の練習
第11回	初見・伴奏付け補充練習3 身体を使った音楽遊び1	(学修内容) 幼・保の就職試験に向けての実践練習 体育館での音楽遊び (事前事後学修課題の内容) 「子どものうた」の練習
第12回	身体を使った音楽遊び2	(学修内容) 体育館での音楽遊び (事前事後学修課題の内容) 「子どものうた」の練習
第13回	身体を使った音楽遊び3	(学修内容) 体育館での音楽遊び (事前事後学修課題の内容) 「子どものうた」の練習
第14回	初見・伴奏付けテスト	(学修内容) 幼・保の就職試験で弾かれる曲を中心に初見伴奏付けテストを行う (事前事後学修課題の内容) 伴奏付けの練習をする。個人チェックの課題曲を練習する
第15回	第2回個人チェック	(学修内容) 課題曲を一人ずつ弾く (事前事後学修課題の内容) 個人チェックの課題曲を練習する

授 業 名	音楽表現			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2441
英 文 名	Musical Expression			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	小川 隆昭・水谷 佳代子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	幼稚園・保育所の実習及び就職試験に即対応する能力、また、就職した場合は現場で役立つ実践的な能力を養う。 「子どものうた」や合奏を通して豊かな感性や表現力及び音楽の楽しさ・喜びを身につける。								
学修成果 到達目標	1) 幼・保就職試験に対応できるピアノの技術力を身に付け、演奏することができる。 2) 保育の現場で役立つピアノの実践的な能力を身に付けることができる。 3) ピアノ弾き歌いで表現力豊かに演奏できる。 4) 初見で簡単な楽譜に編曲でき、演奏することができる。 5) 「子どものうた」のレパートリーを増やすことができる。 6) 「子どものうた」の簡単な合奏譜を編曲することができる。 7) 音を聴き取ることができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 30分)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用(双方向型授業) ☐ I C T活用(自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (60%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 (40%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()							
テキスト	「子どものうた」京都華頂大学・華頂短期大学音楽研究室編								
参 考 書	使用しない								
課題に対する フィードバック の方法	練習してきた曲は授業の中でレッスンします								
留意事項	幼・保の就職試験に対応するため、時間外でもレッスンします								
オフィス アワー	担当授業後に実施								
実践的教育	☐ 実践的教育 教員の実務経験など：おてつぎ子供奉仕団指導員歌唱指導、音楽・ピアノ講師等の経歴を持つ教員が担当が、将来保育現場で役立つ実践的な能力を身に付け、豊かな感性や表現力及び音楽の楽しさなどを伝える。								

授 業 名	音楽表現	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業内容説明。歌唱、初見練習 (事前事後学修課題の内容) 「子どものうた」を数曲練習しておく。
第2回	初見・伴奏付けテスト 聴音	(学修内容) 就職試験対策 音の聴き取り練習 (事前事後学修課題の内容) 初見、伴奏の練習をしておく
第3回	初見・伴奏付け補充練習1 聴音	(学修内容) 歌唱、伴奏付け練習 音の聴き取り練習 (事前事後学修課題の内容) 初見、伴奏の練習をしておく 課題曲の練習
第4回	初見・伴奏付け補充練習2 聴音	(学修内容) 歌唱、伴奏付け練習 音の聴き取り練習 (事前事後学修課題の内容) 初見、伴奏の練習をしておく 課題曲の練習
第5回	第1回個人チェック ピアノ練習曲	(学修内容) 前半課題曲のテスト 就職試験で弾きたいピアノ曲を練習 (事前事後学修課題の内容) 課題曲の練習 就職試験で弾く曲の練習
第6回	リズム変奏1 ピアノ練習曲	(学修内容) マーチ・スキップ・駆け足・ワルツに変奏 就職試験で弾きたいピアノ曲を練習 (事前事後学修課題の内容) ピアノ曲の練習
第7回	リズム変奏2 ピアノ練習曲	(学修内容) マーチ・スキップ・駆け足・ワルツに変奏 就職試験で弾きたいピアノ曲を練習 (事前事後学修課題の内容) ピアノ曲の練習
第8回	初見・伴奏付け補充練習3 ピアノ練習曲	(学修内容) 歌唱、初見伴奏付け練習 就職試験で弾きたいピアノ曲を練習 (事前事後学修課題の内容) 初見、伴奏の練習 就職試験で弾く曲の練習
第9回	初見・伴奏付け補充練習4 ピアノ練習曲	(学修内容) 歌唱、初見伴奏付け練習 就職試験で弾きたいピアノ曲を練習 (事前事後学修課題の内容) 初見、伴奏の練習 就職試験で弾く曲の練習
第10回	保育者としての音楽練習1(生活の歌1) 器楽合奏	(学修内容) 保育での音楽教育全般の練習(生活の歌を中心に模擬授業をする) グループを作り、合奏できる曲を選ぶ (事前事後学修課題の内容) 生活の歌を中心に練習
第11回	保育者としての音楽練習2(生活の歌2) 器楽合奏	(学修内容) 保育での音楽教育全般の練習(生活の歌を中心に模擬授業をする) グループで、選んだ曲の編曲を考える (事前事後学修課題の内容) 生活の歌を中心に練習
第12回	保育者としての音楽練習3(季節の歌1) 器楽合奏	(学修内容) 保育での音楽教育全般の練習(季節の歌を中心に模擬授業をする) グループで、選んだ曲の合奏練習 (事前事後学修課題の内容) 季節の歌を中心に練習
第13回	保育者としての音楽練習4(季節の歌2) 器楽合奏	(学修内容) 保育での音楽教育全般の練習(季節の歌を中心に模擬授業をする) グループで、選んだ曲の合奏練習及び発表 (事前事後学修課題の内容) 季節の歌を中心に練習
第14回	保育者としての音楽練習5(合唱) 器楽合奏	(学修内容) 保育での音楽教育全般の練習 合唱曲を中心にグループで練習 (事前事後学修課題の内容) 自分のパート(声楽)をする
第15回	第2回個人チェック	(学修内容) 後半の課題曲テスト (事前事後学修課題の内容) 課題曲の練習

授 業 名	保育と身体表現			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1413
英 文 名				開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	眞崎 雅子			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	幼児期は生涯にわたる健康の基礎をつくる時期であり、子どもの発達に適した運動の経験が求められる。本授業では、身体表現や運動遊びの実践を通して体を動かす楽しさを体験し、遊びの特性について理解を深める。特に、子どもの発達・発達を視野に入れた指導や援助、やる気を引き出す言葉掛け等について学習し、運動遊びの重要性を理解する。適宜グループワークを実施する。								
学修成果 到達目標	1) 様々な運動遊びを経験し、子どもの発達・発達に応じた遊びを工夫できる 2) 遊びの展開・発展に必要な着眼点や基本的な配慮点がわかる 3) 楽しく多様な動きを取り入れ、年齢に応じた子どもの体操を創作・指導できる								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 2時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用 (双方向型授業) ☐ I C T活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☒ 実技				平常試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☒ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☒ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☒ 授業態度・参加意欲 ☐ (							

授 業 名	保育と身体表現	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の目的や、授業の進め方について説明する。簡易な体力チェックを行い、自身の健康や体力の現状を把握する。 (事前事後学修課題の内容) 質問や意見、振返りを書いて提出する
第2回	幼児期における運動の重要性(講義)	(学修内容) 幼児期の子どもの体力や運動能力の現状を学び、体力を高めるための保育者の支援について考える。 (事前事後学修課題の内容) 前: 幼児期に必要な運動について調べておく 後: 授業内容の振り返りを提出する
第3回	幼児期の基本的動作、遊びの中で体験する多様な動き	(学修内容) 幼児期に身につけるべき36の基本動作を確認し、多様な動きを経験できる運動遊びの実践を通して遊びの展開や工夫について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 前: 前回の講義内容を復習し、幼児期の基本運動について理解しておく 後: 授業内容の振り返りを提出する
第4回	身体表現遊びとリズムダンス	(学修内容) 多様なリズム・リズムの変化を楽しむ、手遊びやわらべ唄の表現遊びを体遊びへと発展させる。ステップや子ども向けダンスも実践する。 (事前事後学修課題の内容) 前: さまざまなリズムパターンや子ども用のリズムダンスを調べておく 後: 授業内容の振り返りを提出する
第5回	発達段階に合わせた運動遊びの実践 新聞遊び・ボール遊び	(学修内容) 新聞やボールの特性を踏まえた遊びの実践や、子どもの投力を高めるための遊びの展開方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 前: 年齢に応じた投球フォームを確認、ボール遊びの種類を調べておく 後: 授業内容の振り返りを提出する
第6回	発達段階に合わせた運動遊びの実践 フープ遊び・縄あそび	(学修内容) フープや縄の特性を踏まえた遊びの実践を通して、少人数の遊びと大人数の遊びの展開方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 前: 年齢ごとのフープ遊びについて調べて発表の準備をしておく 後: 授業内容の振り返りを提出する
第7回	発達段階に合わせた運動遊びの実践 マット遊びと補助、動物なりきり遊び	(学修内容) マットを利用した遊びを通して、動きのバリエーションについて学ぶ。 前転・後転・側転遊びの補助の方法を身に付ける。 (事前事後学修課題の内容) 前: 年齢ごとのマット遊びについて調べて発表の準備をしておく 後: 授業内容の振り返りを提出する
第8回	マット・跳び箱・平均台を使った遊び サーキット遊びの計画と実践	(学修内容) マット・跳び箱・平均台の特性を踏まえ、組み合わせ方や動きのつながりを考慮した遊びの実践を通して、運動遊びの展開方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 前: 運動の特性に合った道具を見つけ、多様な遊びを考えておく 後: 授業内容の振り返りを提出する
第9回	ミニ運動会の計画と準備	(学修内容) グループで対象年齢と運動会種目を決め、役割を分担し、進め方や声かけの仕方を話し合いながら計画を立てて準備を進める。 (事前事後学修課題の内容) 前: 年齢に応じた運動会種目について考えておく 後: 授業内容の振り返りを提出する
第10回	ミニ運動会の実践	(学修内容) ミニ運動会を実践し、各グループの種目内容を評価するとともに、進め方や声のかけ方などについて学び合い、相互評価を行う。 (事前事後学修課題の内容) 前: 自分の役割を責任をもって果たせるようにシミュレーションを行う 後: 授業内容の振り返りを提出する
第11回	パラバルーン遊び	(学修内容) パラバルーンの特性を知り、基本の動きから大技まで表現方法を学ぶ。 グループで協働的に作品を完成させる。 (事前事後学修課題の内容) 前: パラバルーンの特性や表現方法について調べておく 後: 授業内容の振り返りを提出する
第12回	リズム体操の曲・テーマ・グループ決め	(学修内容) 体操の基本的な考え方を学び、グループで体操を創作する。幼児の年齢に合った体操を考える。 (事前事後学修課題の内容) 前: 人気のあるキッズダンスを参考に年齢に合わせた曲や動きを考える 後: 授業内容の振り返りを提出する
第13回	リズム体操の動きの創出・空間構成について	(学修内容) 体操の動きを見直し、様々な動きを取り入れたリズムカルで効果的な体操に仕上げる。 (事前事後学修課題の内容) 前: 子ども達が楽しめる効果的な体操の流れについて確認し修正する 後: 授業内容の振り返りを提出する
第14回	リズム体操の完成に向けて	(学修内容) グループでリズム体操を創作し、ステージで場当たり練習をする。 (事前事後学修課題の内容) 前: グループで考えた動きを復習しておく 後: 授業内容の振り返りを提出する
第15回	創作したリズム体操の発表会と相互評価	(学修内容) グループで創作したリズム体操を発表し、相互に評価する。 (事前事後学修課題の内容) 前: リズムカルに大きく動き表現できるように練習する 後: 相互評価を実施し、改善などについてまとめてレポートを提出する

授 業 名	保育と教材研究		開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2423
英 文 名	Study of Child Care Teaching Materials		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	鈴木 えり子		対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	幼児教育における保育活動において教材は幼児の興味や関心を引き出す有効な手段であることを理解する。保育現場において必要な保育教材について理解を深め、その方法及び教育目的に適した技術に関する基礎的な考え方について学ぶ。教材の重要性、実際の活用方法を念頭においた保育教材の製作や実演を通して理解を深める。							
学修成果 到達目標	教材の製作や実践を通してその方法や技術に関する基礎知識を身につけることができる。 教材研究を通して様々な素材・用具の特性を理解する。 子どもの発達や興味に応じた活用方法を多角的に考えることができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 3 0 分)							
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解			汎用的技能			
		態度・志向性		○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ■ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	保育と教材研究	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 幼児教育の方法・技術の意義と重要性	(学修内容) 教育方法の基礎的理論と教材研究の必要性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 教材、教具、用具の意味を調べておく。事後: 身近な教材を考え、子どもの年齢に応じたモノを書き出しておく。
第2回	身近な保育教材とは	(学修内容) 身近な保育教材を使っておもちゃ制作の計画をする。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 身近な保育教材を考えて用意する。事後: 身近な材料を使ったおもちゃを制作する際の留意点をレポートにまとめて提出する。
第3回	身近な保育教材を使ったおもちゃ製作 ー紙コップ人形ー	(学修内容) 身近な保育教材を使って手作りおもちゃを制作する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 紙コップや必要な教材を考えて準備する。事後: 事後: 実践の振り返りをレポートにまとめて提出する。
第4回	身近な保育教材を使った活動 ー紙ひこうきー	(学修内容) 身近な保育教材を使って紙飛行機を作る。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 紙飛行機に適した教材を考え用意しておく。事後: 実践の振り返りをレポートにまとめて提出する。
第5回	保育教材の研究 ー染め紙ー	(学修内容) 保育教材の研究と実践を話し合いながら行う。 実践例/染め紙 (事前事後学修課題の内容) 事前: 染め紙に適した保育教材を考えて用意してくる。事後: 実践の振り返りをレポートにまとめて提出する。
第6回	保育教材の研究 ーランタンー	(学修内容) 保育教材の研究・実践を行う。 実践例/ランタン (事前事後学修課題の内容) 事前: ランタン製作に必要な教材を考え用意してくる。事後: 実践の振り返りをレポートにまとめて提出する。
第7回	パネルシアター(1) 作り方・演じ方の説明	(学修内容) パネルシアターの作り方、活用法を説明する。 パネルシアターの製作に関する準備を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 保育教材の「パネルシアター」について情報機器を使って調べておく。事後: パネルシアターについて説明できるようい整理しておく。
第8回	パネルシアター(2) 構想	(学修内容) パネルシアターの準備をする。 (事前事後学修課題の内容) 事前: パネルシアターで制作したい題目を選んでくる。事後: 選んだ教材について必要なものをまとめておく。
第9回	パネルシアター(3) 下書き	(学修内容) パネルシアターの下書きをする。 (事前事後学修課題の内容) 事前: Pペーパーに下書きをしておく。事後: 下書きを完了し不備がないかを確認しておく。
第10回	パネルシアター(4) 着色	(学修内容) パネルシアターの着色を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: パネルの着色に必要な材料を用意しておく。事後: 絵人形の色塗りを完成させておく。
第11回	パネルシアター(5) 切り取り・ふちどり	(学修内容) パネルシアターの切り取り、ふちどりをする。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 絵人形を切り取っておく。事後: 授業内でできなかった部分を完了しておく。
第12回	パネルシアター(6) しかけづくり	(学修内容) パネルシアターの発表準備をする。 (事前事後学修課題の内容) 事前: パネルシアターの演じ方、セリフを確認しておく。事後: 発表の練習をしておく。
第13回	パネルシアター(7) 仕上げ・発表準備	(学修内容) パネルシアターを仕上げ、発表の準備をする。 (事前事後学修課題の内容) 事前: パネルボードへの貼り方や演じ手の立ち位置、演じ方、動かし方を確認しておく。事後: 立ち位置の確認をし発表の再確認をしておく。
第14回	パネルシアター(8) 実践発表・評価	(学修内容) パネルシアターの発表を実施する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 発表できるように練習しておく。事後: 発表を振り返りレポートにまとめて提出する。
第15回	まとめ	(学修内容) 授業を振り返り、保育方法や技術等、保育教材の研究の意義や役割についてディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容) 事前: これまでの授業を振り返っておく。事後: 教材研究の必要性について話し合った内容を整理しておく。

[illegible]

授 業 名	保育と絵本の探求	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション/絵本とは何か	(学修内容) 授業のねらいや概要の説明を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前:シラバスを確認し、講義の概要について把握する。 事後:自身が心に残る絵本を1～3冊程度読む。
第2回	絵本の基本概念と歴史 世界の絵本のあゆみについて	(学修内容) 絵本の定義の捉え方について理解する。世界の絵本の歴史について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前:心に残る絵本について、その絵本と自身のエピソードについてまとめる。事後:授業を振り返り、配布資料をまとめる。
第3回	絵本の基本概念と歴史 日本の絵本のあゆみについて	(学修内容) 日本の絵本の歴史について学ぶ。絵本賞について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前:絵本賞について調べ、まとめる。 事後:絵本賞の受賞作品を読み、感想文を作成する。
第4回	文の機能と絵の機能	(学修内容) 絵本の言語表現特性と視覚表現特性について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前:絵本の言語表現特性と視覚表現特性について資料を基に調べる。 事後:授業を振り返り、説明ができるよう整理する。
第5回	絵本の構成要素と画面展開及び描写の手法	(学修内容) 絵本の色・形・線からの表現方法と画面展開について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前:事前に配布する資料を読み、内容を確認しておく。 事後:授業を振り返り、配布した資料をまとめる。
第6回	メディアとしての絵本の位置づけ	(学修内容) 情報メディアとしての絵本の特性について学ぶ。紙の絵本と電子書籍の違いについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前:事前に示した参考文献等を読み、考えをまとめる。 事後:授業を振り返り、内容を整理しておく。
第7回	さまざまな種類の絵本 物語の絵本	(学修内容) 物語を内容とする絵本の特性について理解する。絵本における絵と言葉で語る技法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前:物語の絵本を選び、読んでおく。 事後:授業を振り返り、理解した上で再度絵本を読み、理解を深める。
第8回	さまざまな種類の絵本 昔話・童話を基にした絵本	(学修内容) 昔話や童話を題材とした絵本の特性について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前:昔話と童話の違いについて調べておく。 事後:授業を振り返り、再話や絵本の質について考えをまとめる。
第9回	さまざまな種類の絵本 科学絵本、その他	(学修内容) 自然科学・社会科学に関する絵本の特性について理解する。科学絵本等の活用方法について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前:科学絵本等の活用方法について調べる。事後:授業で紹介した絵本を読み、子どもに薦めたい理由についてまとめる。
第10回	絵本と出会う 乳児と絵本	(学修内容) 絵本を仲立ちにして乳児とのコミュニケーションが成り立つことを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前:乳児の絵本の種類や内容、与え方について調べる。 事後:乳児の絵本の特徴について説明できるようにする。
第11回	絵本と出会う 幼児期の絵本	(学修内容) 幼児を対象とした絵本の特色について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前:幼児期の絵本の種類や内容、与え方について調べる。 事後:幼児の絵本の特徴について説明できるようにする。
第12回	絵本と出会う 児童期の絵本	(学修内容) 児童を対象とした絵本の特色について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前:児童期の絵本の種類や内容、与え方について調べる 事後:児童の絵本の特徴について説明できるようにする。
第13回	絵本の世界を広げる技術 絵本を探す	(学修内容) 絵本を探す多様な手段(情報源)とキーワード(テーマや登場人物)について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前:絵本検索の方法について調べ、まとめる。 事後:絵本のストーリーレファレンスの方法についてまとめる。
第14回	絵本の世界を広げる技術 ワークショップ	(学修内容) 絵本を活用した表現活動の基礎的技術について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前:事前に配布した資料を読み、内容を理解する。 事後:モダンテクニックを活用した絵本を調べ読んでみる。
第15回	絵本の世界を広げる技術 絵本から保育展開へ	(学修内容) 読み聞かせを含む保育のプレゼンテーションの実践と振り返り(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) 事前:絵本の読み聞かせを含む保育案について考え、準備をする。 事後:実践を振り返り、自己評価し自己課題を整理する。

授 業 名	保育と環境構成			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名				開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	林 静香			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	保育を進めるうえで環境を整えることはとても重要である。 ただ整理整頓するだけでなく、配置や教材の工夫、提供のタイミング、保育者の援助、タイムスケジュールなどさまざまな視点から多角的に考えていく必要がある。 この授業では、実践を前提に場面ごとに必要な環境構成を考え取り組んでいく。 保育現場で働くことをイメージしてすすめていくので、主体的かつ能動的に学修する意識をもって望むことを期待する。								
学修成果 到達目標	環境構成に関する多角的支援について理解できる。 環境の工夫について実践的に考えることができる。 主体的に授業にのぞみ保育技術を取得することができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解				汎用的技能			
	○	態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	保育と環境構成	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 授業概要	(学修内容) 授業内容の説明を聞き概要を理解する (事前事後学修課題の内容) 実際に保育施設の環境構成はどうだったか実習先の見取り図のコピーを持参する
第2回	保育現場で実践されている環境構成(生活)を学ぶ	(学修内容) 保育施設での1日の生活の流れから各場面でどのような工夫がされているのかを事例を通じて学ぶ (事前事後学修課題の内容) 実際に実習先にどのような工夫がされていたのかを思い出して書き留めておく
第3回	生活場面で子どもへの育ちを念頭に置いて環境を整える (保育室の各々の持ち物)	(学修内容) 実際に子どもの年齢別(幼児)で生活の各場面を想定してどのような工夫ができるか育ちとねらいを念頭に置いて援助を考え実践する (事前事後学修課題の内容) 実際に実習先にどのような工夫がされていたのかを思い出して書き留めたものを実践してふりかえしておく
第4回	生活場面で子どもへの育ちを念頭に置いて環境を整える (それぞれの子もたちが安心して過ごせる空間づくり)	(学修内容) 実際に子どもの年齢別(乳児)で生活の各場面を想定してどのような工夫ができるか育ちとねらいを念頭に置いて援助を考え実践する (事前事後学修課題の内容) 実際に実習先にどのような工夫がされていたのかを思い出して書き留めたものを実践してふりかえしておく
第5回	園行事やイベントで実践されている環境構成を学ぶ	(学修内容) あそびや活動の場面(園行事・イベント)でどのような工夫がされているのかを学び実践できることを考える (事前事後学修課題の内容) 実際に園行事やイベントでどのような工夫がされていたのか書き留めておく
第6回	あそびの場面で実践されている環境構成を考え実際に準備する	(学修内容) 指定された年齢やあそびの場面で実践されている環境構成を考え実際に準備する (事前事後学修課題の内容) 指定された年齢やあそびの場面で実践されている環境構成を考え実際に準備する
第7回	あそびの場面で実践されている環境構成を考え実際に準備する	(学修内容) 指定された年齢やあそびの場面で実践されている環境構成を考え実際に準備する (事前事後学修課題の内容) 指定された年齢やあそびの場面で実践されている環境構成を考え実際に準備する
第8回	あそびの場面の援助を考えてとりくんだことをふりかえる	(学修内容) 実際にとりくんでみて感じたことや考えたことをふりかえる (事前事後学修課題の内容) 実際に準備をやってみて感じたことや取り組んで考えたことを書き留めておく
第9回	支援の必要な子どもたちに対する環境の援助	(学修内容) 支援を要する子どもたちが安心して過ごすことのできる環境の援助を考えるために実際に保育現場での事例から学ぶ (事前事後学修課題の内容) どのようなものがあれば発達に遅れや偏りのある子どもたちが安心して過ごすことができるのか具体的に考えておく
第10回	支援の必要な子どもたちに対する環境の援助	(学修内容) 支援を要する子どもたちが安心して過ごすことのできる環境の援助を考え具体的にとりくむ (事前事後学修課題の内容) どのようなものがあれば発達に遅れや偏りのある子どもたちが安心して過ごすことができるのか具体的に考えておく
第11回	環境の工夫: 地域資源の活用	(学修内容) 実際に保育施設がどのように地域資源を活用し環境を工夫しているのか学ぶ (事前事後学修課題の内容) 自分の地域にある公共の施設などを調べておく
第12回	環境の工夫: 保護者との連携	(学修内容) 保育施設が保護者とともに連携して子どもたちの保育を工夫しているのかを知り学ぶ (事前事後学修課題の内容) 自宅にあるもので遊びに使えるようなものがあるか見ておく
第13回	ICTを使ってあそびの発信をする	(学修内容) 実際に保護者や外部の方に保育施設からあそびを発信する際にどのようなものがのぞましいか考えて取り組む (事前事後学修課題の内容) タブレットなどICT機器を持っている学生は持参する
第14回	あそびの接続を考える 保育室の整え方・片付け方	(学修内容) あそびが継続して楽しめるためにはどのような工夫がひつようなのか学ぶ (事前事後学修課題の内容) 実際に実習を思い出してどのようなかたちで生活とあそびが流れていたのかを思い出して書き留めておく
第15回	まとめ	(学修内容) 今までの取り組みや学びを習得するためのふりかえり (事前事後学修課題の内容) 印象に残った学びや取り組みを思い出して書き留めておく

授 業 名	子どもの保健			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1203
英 文 名	Infant Health			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	福井 百合子			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	保育では、子どもの命を守り、安心・安全な生活、健やかな発育を支援することは必須事項である。本授業では、子どもの健康と保健活動の意義を知り、心身の発育の過程や特徴、子どもに多い病気について学び、子どもの健康管理に必要な基礎知識を身につける。テキストや授業資料・PPTを中心に進めていくが、適宜、理解を深めるために、動画視聴、ワーク、ディスカッションやグループワーク等を実施する。								
学修成果 到達目標	1.子どもにとっての健康と、保健活動の意義を理解する。 2.子どもの成長・発達(形態的成長、機能的発達、運動機能、生理機能、認知機能、精神機能、言語機能の発達)の過程を学び、年齢に応じた成長・発達をイメージし、その特性を説明できる。 3.保育での健康管理について学び、子どもの健康状態の把握の方法が理解できる。 4.子育てに必要な養護について、子どもの特徴をふまえて考えることができる。 5.子どもの病気や障害についての基礎知識を学び、特徴的な症状などと言える。 6.子どもを守り育てるための安全管理、保健活動に必要な子育て支援や、職員間(他職種間)の協働、関係機関との連携について学ぶ。 7.現在社会における子どもの健康に関する現状や、健康問題や障害が及ぼす影響について知る。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解	○	汎用的技能					
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力					
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☒ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☒ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	子どもの保健	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス 子どもの保健と保健活動 保健活動の意義(必要性) 生命の誕生と尊厳	(学修内容) 授業の案内。子どもにとっての保健と保健活動の意義、ヒトの発生までの過程と命の尊厳について画像や動画を交えて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第1章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第2回	子どもの発育 発育の原則 形態的発育(身体発育)、体格指標、身体発育曲線 感覚器の発達 脳神経の発達	(学修内容) 発育の原則、身体発育の過程、感覚器(視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚)の発達、脳神経の発達について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第2章、第5章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第3回	子どもの発育 運動機能の発達 姿勢の変化	(学修内容) 原始反射、運動機能の過程、粗大運動と微細運動、姿勢の変化、骨の成長について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第4章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第4回	子どもの発育 出生後の身体変化 生理機能の発達(1)	(学修内容) 乳幼児の呼吸・脈拍・体温の特徴、生理機能(恒常性—体温調整、免疫機能)の発達についてワークを入れながら学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第3章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第5回	子どもの発育 生理機能の発達(2) 基本的生活習慣	(学修内容) 乳幼児の生理機能(体内時計と睡眠、水分出納—排泄・汗腺の発達)と基本的生活習慣(食事・睡眠・排泄・清潔・衣類の着脱)について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第3章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第6回	子どもの発育 情緒・認知・社会性・言語の発達 乳幼児期のかかわり	(学修内容) 理論を紹介しながら、子どもの情緒、認知・社会性の発達、言語の発達について学ぶ。マザリーズ、適切な養護の必要性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第6章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第7回	子どもの健康状態の観察 日々の観察と判断 健康診査	(学修内容) 異常の早期発見の重要性、健康状態観察、健康診査(異常の発見と発育過程の確認、子育て支援と保健指導)について学び、ペアワークを行う (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第9章を読む、自分の母子健康手帳に書かれている内容を見ておく。事後：ミニテスト・課題などで復習する。
第8回	障害のある子ども 障害とは 身体障害、発達障害、その他の障害	(学修内容) 障害の概念(障害者基本法)、身体障害、発達障害、感覚器の障害について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第7章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第9回	子どもの病気 子どもの病気の特徴 呼吸器疾患、消化器疾患、内分泌疾患、心疾患、腎疾患、その他の疾患	(学修内容) 子どもの病気の特徴、呼吸器疾患、内分泌疾患(糖尿病)、心疾患、腎疾患、その他の疾患について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第12章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第10回	子どもの病気 てんかん、先天性股関節脱臼 アレルギー性疾患、生活管理指導表	(学修内容) てんかん、先天性股関節脱臼、アレルギー性疾患(喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー)、生活管理指導表について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第11章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第11回	子どもに多い感染症 感染と感染症 感染症の種類と取り扱い(1)	(学修内容) 感染の基礎知識と、子どもに多い感染症について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第10章と、保育所における感染症対策ガイドラインを読む。事後：ミニテストで復習する。
第12回	子どもに多い感染症 感染症の種類と取り扱い(2)	(学修内容) 子どもに多い感染症、感染対策、予防接種について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第10章と、保育所における感染症対策ガイドラインを読む。事後：ミニテストで復習する。
第13回	子どものけがと死亡原因 子どもの特徴 子どもの死亡原因 けがの種類(外傷、出血、打撲・捻挫・骨折) 乳幼児突然死症候群	(学修内容) 子どもの大人とは違う特徴、死亡原因、けがの種類と注意、乳幼児突然死症候群について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第13章を読む。事後：ミニテスト・課題などで復習する。
第14回	保育施設での保健活動 職員間、他職種の連携と協働 保健活動と関係法規	(学修内容) 保育施設での保健活動と計画・評価、組織活動と職員間の協働、他職種連携について学ぶ。児童虐待防止、関係法規について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第14章を読む。事後：ミニテストで復習する。
第15回	母子保健と母子保健施策 定期試験ガイダンス	(学修内容) 母子を取り巻く環境と保健活動の役割や母子保健対策について学ぶ。定期試験の案内。 (事前事後学修課題の内容) 事前・事後：授業内容全体を復習する。

授 業 名	子ども家庭福祉			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1204
英 文 名	Child Welfare			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	流石 智子			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	現代の子どもを取り巻く問題には、少子化・子どもの貧困・児童虐待など様々なものがある。それらは、現代の子どもの育つ家庭状況と社会背景とに大きく左右されている。子どもの生活を支える社会保障や社会福祉の動向は、子どもの成長に大きな影響を及ぼす。そこで、本講義では、 子どもと社会 子どもの幸せ 子どもと家庭支援 保育 障害児等について学ぶ。子どもの権利、子どもに係る法制度等についても理解する。子どもが幸せに生活できる毎日にするには、社会をどのようにすれば、実現できるのかについて児童家庭福祉の視点から考える。								
学修成果 到達目標	1) 社会問題のひとつである児童問題と児童福祉の関係が理解できる。 2) 保育士に求められる福祉援助職としての働きが理解できる。 3) 児童福祉の制度等を理解し、子ども達の現状が理解できる。 4) 児童福祉の法制度の対象者とサービス内容が理解できる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (70%) ☒ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 (30%) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☒ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☒ 授業態度・参加意欲 ☐ (							

授 業 名	子ども家庭福祉	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに 子ども家庭福祉を学ぶ意義	(学修内容) オリエンテーション 現代の社会状況と背景 (事前事後学修課題の内容) 事前: 「子ども家庭福祉で何を学びたいか」について、200字程度にまとめる。
第2回	子どもと社会、どっちが変わったの。(今の社会状況)	(学修内容) 子どもの貧困、児童虐待、ドメスティックバイオレンスについて学ぶ。 グループで、社会と子どもをテーマに話す。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト p 14～27を読み、用語の整理をする。
第3回	子どもの幸せって、どういうこと。(子ども家庭福祉とは)	(学修内容) 子どもとは何だろう。子ども家庭福祉の考え方。「子どもの権利」について (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト p 29～34を読み、子どもの権利条約についてまとめる。
第4回	昔と今とは何が違うの。(子ども家庭福祉のあゆみ)	(学修内容) 日本の児童家庭福祉の歴史について (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト p 37～47を読み、子どもの権利条約についてまとめる。
第5回	子どもの家庭を支援するには、どうすればいいの。 (法制度と実施機関)	(学修内容) 子ども家庭福祉: 児童福祉法、子ども家庭福祉サービスの実施など (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト p 50～58を読み、「児童相談所」についてまとめる。
第6回	保育はみんなでするもの。(保育サービスと地域子育て支援)	(学修内容) 保育サービス、保育所の仕組み、地域子育て支援について (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト p 62から75を読み、事後: レポート 「保育所と保育士の役割」についてまとめ、800字程度でクラスルームに提出。
第7回	子どもを安心して生むにはどうすればいいの。 (母子の保健と子育てサービス)	(学修内容) 母子保健サービスの現状等について グループで、子どもを生むとはをテーマに意見の交換をする。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト p 77～87を読み、「子どもを産むということ」について考え、まとめる。
第8回	障害ってふつうじゃないの。(障害のある子どもへの福祉サービス)	(学修内容) 障害のある子どもと家庭について (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト p 89～98までを読み、「障害児について」理解したことをまとめる。
第9回	子どもが健やかに育つ環境ってなに。(子どもの健全育成)	(学修内容) 子どもの健全育成について (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト p 100～112を読み、「児童健全育成」についてまとめる。
第10回	社会が子育てするってどういうこと。(社会的養護とは)	(学修内容) 社会的養護について、保育士の役割を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト p 114～129を読み、「里親について」まとめる。
第11回	どうして非行にはしる子どもがいるの。(少年非行)	(学修内容) 少年非行について考える。非行と子ども達の家庭背景等について (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト p 131～136を読み、「少年非行の背景」をまとめる。
第12回	ひとり親ってどういう家庭のこと。(ひとり親家庭への支援)	(学修内容) ひとり親家庭の生活と支援について (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト p 139～144を読み、事後: レポート 「ひとり親家庭の抱える問題」をまとめ、800字程度でクラスルームに提出。
第13回	外国人の子どもにはどう支援するの。(外国籍の子どもへの支援)	(学修内容) 日本に住む外国籍の子どもについて (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト p 147～152を読み、「外国籍の子ども達が直面する生活問題について」まとめる。
第14回	子どもにとって学校ってどういうところ。(学校での子ども支援)	(学修内容) 今の学校について理解を深める 自分の経験も踏まえ、学校を休みたくなる原因について話をする。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト p 155～160を読み、「ひきこもりへの支援について」まとめる。
第15回	保育現場でのソーシャルワークって、どうすればいいの。(保育現場における子ども家庭福祉相談援助活動)	(学修内容) 保育現場での相談援助活動について (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト p 163～176を読み、「相談援助の基本について」まとめる。

授 業 名	特別支援教育			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1301
英 文 名	Special Needs Education			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	林 静香			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	特別支援の必要な子どもの基礎理解・援助・指導方法を学ぶとともに、教育・療育現場での事例をもとに、支援方法および配慮すべき留意点などを学ぶ。								
学修成果 到達目標	1)インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の特性および仕組みを理解することができる。 2)発達障害（疑いを含む）や、知的障害をはじめとする様々な障害や発達の遅れなど、支援を必要とする子どもの特性および心身の発達を理解することができる。 3)現状と課題に理解を深め、支援の必要な子どもたちを取りまく環境（家族。きょうだい）への支援や関係機関との深まりについて学び、理解することができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
	○	態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用（双方向型授業） ■ I C T 活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験（50%） ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	特別支援教育	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	特別支援教育についての理念、教育的ニーズ	(学修内容) 保育現場で求められている特別支援の理念について学ぶ グループワークを通じて合理的配慮への理解を深める (事前事後学修課題の内容) 自身の考える障害者像をまとめる 授業で学んだ共生社会について調べ理解する
第2回	発達の法則(発達段階) 障害の早期発見	(学修内容) 発達の法則(発達段階)について理解する 障害の早期発見のために実施されている乳幼児健診について学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト第 部を熟読する 障害児に関する時事問題を調べる
第3回	支援の必要な子どもへの保育・教育形態 (手帳のしくみ・個別支援計画)	(学修内容) 支援の必要な子どもたちの支援方法(保育・教育形態、個別支援計画) があるかを理解する。手帳(身体・療育・精神)の仕組みについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト第 部を熟読する 自身の母子手帳で健診などの受診状況などを見て確認する
第4回	知的障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	(学修内容) 知的障害児の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいかを 考え、学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト第 部第 3 章を熟読する 自分の幼少時代に出会ったことのある支援学級の子どもについてまとめる
第5回	多様な支援を必要とする子どもたちへの理解、援 助、配慮すべき留意点	(学修内容) 気になる子、情緒障害、発達障害の違いを理解するとともに どのような特性を持っているのかを学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト第 部第 5 章を熟読する 今までの経験で学んだ内容に該当する子どもがいたか振り返りまとめる
第6回	発達障害について	(学修内容) 発達障害の分類、特徴、支援体制などを理解する (発達障害者支援法) (事前事後学修課題の内容) テキスト第 部第 5 章を熟読する 発達障害についてネットなどで調べて復習する
第7回	自閉症スペクトラム障害(ASD)への理解と援助、 配慮すべき留意点	(学修内容) 自閉症スペクトラム障害の特性を理解するとともに、どのような援助が のぞましいか考え、学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト第 部第 6 章を熟読する A S D についてどのような子どもたちがいるか調べる
第8回	限局性学習症(SLD)児、注意欠如・多動症 (ADHD)児への理解と援助、配慮すべき留意点	(学修内容) 限局性学習症(SLD)児、注意欠如・多動症(ADHD)の特性を理解する とともに、どのような援助がのぞましいか考え、学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト第 部第 6 章を熟読する 今までの講義内容を復習する
第9回	情緒に課題のある子どもに関する理解と援助、配 慮すべき留意点	(学修内容) 情緒障がいのある子どもに関する理解し、どのような援助がのぞましいか考 え、学ぶ (事前事後学修課題の内容) 指定された内容にしたがって予習する 指定された課題にしたがってふりかえる
第10回	視覚障害児への理解と援助、配慮すべき留意点	(学修内容) 視覚障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞましいか考 え、学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト第 部第 4 章-2.3.4を熟読する 実際に周辺にある視覚障害への配慮などを実際にみつけてまとめる
第11回	聴覚障害児・言語障害児への理解と援助、配慮す べき留意点	(学修内容) 聴覚障害・言語障害の特性を理解するとともに、どのような援助がのぞ ましいか考え、学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト第 部第 4 章-1を熟読する 実際に周辺にある聴覚障害への配慮などを実際にしらべてまとめる
第12回	身体に障害のある子ども(肢体不自由児・脳性ま ひ・医療ケア児)への理解と援助、配慮すべき留 意点	(学修内容) 身体に障害をもつ子どもたちの分類および各々の特性を理解し、どのよ うな援助、配慮、外部機関との連携について学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト第 部第 4 章-1を熟読する 今日学んだ内容で関心のある項目を選択し、調べまとめる
第13回	特別に支援の必要な子どもたちをとりまく環境の 理解(家庭との協力、関係機関との連携)	(学修内容) 特別な支援の必要な子どもたちをとりまく環境について理解を深め、個 別の指導計画について学ぶ(外国籍家庭・貧困家庭など) (事前事後学修課題の内容) テキスト第 部第 8 章を熟読する 他科目で学んだことなので共通する内容を調べてまとめる
第14回	ユニバーサルデザインについて	(学修内容) ユニバーサルデザインについて、グループワークを通じて支援の必要な 子どもたちを取り巻く問題について理解する (事前事後学修課題の内容) 身近にあるユニバーサルデザインや障害者マークなどについてICTを活用 し、資料を作成したものを発表しあう
第15回	まとめ(テスト)	(学修内容) 今までの内容での要点のまとめと現状と課題について理解を深める 学んだ内容を実際に周囲でみつけて復習する (事前事後学修課題の内容) 今までの受講内容を復習する 授業後に解説された内容について再度復習する

授 業 名	乳児保育	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 乳児保育の歴史的変遷と時事問題	(学修内容) 15回の学修内容を理解する。 乳児保育の歴史的変遷と時事問題について理解する (事前事後学修課題の内容) 第1章の1を読んでくる 学んだ時事問題についてネットなどを通じて調べまとめる
第2回	乳児保育の基本 発達段階について学ぶ	(学修内容) 発達の法則性にそって発達段階を復習し理解する (事前事後学修課題の内容) 第1章の2, 3を読んでくる 学んだ内容について母子手帳などを参考にして復習する
第3回	乳児保育の内容と方法 0歳児保育	(学修内容) 乳児保育の目標とねらい及び保育園においての生活環境を理解する (事前事後学修課題の内容) 第2章の1, 2を読んでくる 紹介した動画を視聴し、0歳児保育の1日を復習する
第4回	0歳児の生活援助の実践	(学修内容) 0歳児の発達を踏まえて調乳、授乳(人形をつかって)体験を行い理解を深める (事前事後学修課題の内容) 調乳、授乳の内容を予習して演習が円滑に行えるよう理解する 振り返りを記入することを通じて理解を深める
第5回	0歳児の生活援助の実践	(学修内容) 0歳児の発達を踏まえて衣服の着脱とおむつ交換(人形をつかって)を体験を行い理解を深める (事前事後学修課題の内容) 衣服の着脱、おむつ交換内容を予習し演習が円滑に行えるよう理解する 振り返りを記入することを通じて理解を深める
第6回	小テストおよび解説 0歳児の保育及び援助理解について 0歳児のあそびの実践、および指導計画 (教材研究)	(学修内容) 0歳に関する小テストを実施し理解度を確認し、解説を聞き学び理解する。 0歳児のあそびと実践(動画)を学び、指導計画について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 0歳児の育ちや保育について復習しておく テスト後の解説を振り返り復習する
第7回	1歳児の保育について	(学修内容) 2歳児の保育で大切にすること(発達)を踏まえたうえで実際にどのような実践が行われているのか動画を視聴して理解する (事前事後学修課題の内容) 教科書第1章1歳児について熟読する 1歳児について復習しておく
第8回	1歳児のあそびの実践 (教材研究)	(学修内容) 1歳児のあそびについて学び、実際にどのような環境整備(教材準備)が必要か学び教材を作成する (事前事後学修課題の内容) 1歳児がやって楽しめるあそびを教科書やネットなどで調べる 実際に学んだことを復習し、1歳児の遊びについて理解を深める
第9回	1歳児の指導計画立案について	(学修内容) 1歳児の発達や時期に応じたあそびを考え、指導計画を立案する (事前事後学修課題の内容) 第3章1の4を読み理解する。 身体を使って遊ぶあそびをいくつか調べておく
第10回	2歳児の保育について	(学修内容) 2歳児の保育で大切にすること(発達)を踏まえたうえで実際にどのような実践が行われているのか動画を視聴して理解する (事前事後学修課題の内容) 教科書第1章2歳児の発達の部分を熟読する 2歳児の発達を復習しておく
第11回	2歳児のあそびの実践 (教材研究)	(学修内容) 2歳児のあそびについて学び、実際にどのような環境整備(教材準備)が必要か学び教材を作成する (事前事後学修課題の内容) 2歳児がやって楽しめるあそびを調べておく 授業中の助言や指導をもとに自身の教材を再度構成する
第12回	2歳児の指導計画立案について	(学修内容) 2歳児の発達や時期に応じたあそびを考え、指導計画を立案する (事前事後学修課題の内容) 2歳児にどのような願いをもち立案することがのぞましいか考えておく 授業中の解説や助言を基に再度構成する
第13回	小テストおよび解説 0.1.2歳児の保育及び援助理解について	(学修内容) 0.1.2歳に関する小テストを実施し、理解度を確認するとともに解説を聞き学び理解する (事前事後学修課題の内容) 1, 2歳児の保育について予習復習しておく テスト後の解説を振り返り1, 2歳児について理解を深める
第14回	乳児保育における保育者の援助の留意点(まとめ)	(学修内容) 乳児保育における保育者の援助の留意点を改めて理解する (事前事後学修課題の内容) 乳児保育を担当する保育士の役割について調べまとめる 振り返りを記入することを通じて理解を深める
第15回	乳児保育のまとめ 昨今の少子化問題と乳児保育の時事に関する問題	(学修内容) 昨今の少子化問題をはじめ乳児保育の質を高めるためにどのようなことが求められるのか理解する (事前事後学修課題の内容) 第6章を熟読する(資料1, 2についても理解する) 振り返りを記入することを通じて時事問題について理解を深める

授 業 名	保育内容・表現（リズム・ダンス）			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2334
英 文 名	Child Care: Rhythm and Dance			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	小川 隆昭・眞崎 雅子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	本授業は、子どもの心と体の発育発達を支えるために、保育者に必要な専門知識・技能の習得を目的とする。保育現場で行われる器楽合奏において幼児に使用される打楽器の奏法を習得する。子どもの年齢に応じたリズム表現あそびや運動あそびを中心とした身体的活動の指導法を身につける。以上の2つの表現領域について、創造的に表現することの楽しさをグループワークやプレゼンテーションを通して学ぶ。								
学修成果 到達目標	1) 子どもの発育・発達に応じた身体表現あそび・音楽表現活動の指導・援助および活動の展開ができる。 2) 保育の現場（家庭や地域を含む）で子どもの心身の成長を促すために、自分にできることを明確にすることができる。 3) 基本的な知識を習得することにより、保育現場で起こり得る様々な問題に対し柔軟な対応力を身に付ける。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 2時間）								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用（双方向型授業） ☐ I C T 活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験（50%） ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験（50%） ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()							
テキスト	適宜資料を配布する								
参 考 書	『子ども・からだ・表現：豊かな保育内容のための理論と演習』西洋子 市村出版 『豊かな感性を育む身体表現遊び』青木理子・井上勝子 きょうせい								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポート・課題に対し、その都度コメント・次へのアドバイスをする。 実技に対し、その都合コメント・次へのアドバイスをする。								
留意事項	1) 保育者を目指す学生として何事にも楽しく積極的に取り組む態度で臨むこと。 2) 課題に対し配布プリントの項目に沿って課題達成に向けて内容を確認しておくこと。 3) 適宜、運動服やシューズを着用し、衛生面・安全性に考慮すること。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：【複数人で担当】 おてつぎ子供奉仕団歌唱指導・おてつぎ文化講座歌唱指導、その他 幼児から大人を対象としたダンス指導、コミュニティーセンター、幼稚園、小学校、教員研修など での表現運動指導等の経験を活かし、幼児の器楽合奏の奏法や年齢に応じた身体的活動を指導する								

授 業 名	保育内容・表現（リズム・ダンス）	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス： 授業内容説明・幼児教育の基本と領域「表現」の ねらい及び内容について	（学修内容）授業の進め方・評価の方法などについて説明する。 幼児教育の基本と領域「表現」のねらい及び内容について説明する。 （事前事後学修課題の内容） 保育の5領域の1つ「表現」について説明できるように理解しておく
第2回	保育現場における楽器についての説明と実践	（学修内容）保育現場で使われる幼児向けの楽器の奏法を知る（カスタネット・タン ブリン・鈴・トライアングル）。 （事前事後学修課題の内容） 事後、楽器の持ち方や演奏方法を覚える
第3回	アンサンブル（１）簡単なリズムと少し複雑なリ ズム	（学修内容）2人もしくは4人でグループになり、カスタネットアンサンブルを練習 、発表する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にリズム練習をすること、事後に復習練習をすること
第4回	アンサンブル（２）簡単なリズムと少し複雑なリ ズム	（学修内容）2人もしくは4人でグループになり、カスタネットアンサンブルを練習 、発表する。 （事前事後学修課題の内容） 事前にリズム練習をすること、事後に難しいリズムを覚えるほど練習す ること
第5回	手作り楽器の制作及び演奏	（学修内容）身近なもので楽器になるものを探し演奏する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に保育の現場で使用できるものや制作する楽器の素材を見つけて練 習する、事後に各自演奏を録画し提出するために練習すること
第6回	音と身体表現	（学修内容）制作した楽器やピアノに合わせて即興的に動く。 （事前事後学修課題の内容） 事前に楽器の音と身体の動きのつながりについてイメージし実際に動い てみる、事後本日習ったことをいつでもできるように練習し覚えること
第7回	造形と身体表現	（学修内容）造形物や絵画から想起されるイメージに合わせて即興的に動く。 （事前事後学修課題の内容） 事前に造形や絵画と身体の動きのつながりについてイメージし実際に動 いてみる、事後に体験を振り返り気づきを内省記録として提出する
第8回	子どもとつながるための身体表現 ペア・グループの即興表現	（学修内容）保育現場の動画を視聴し、子どもとつながる身体表現の実践について理 解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に子どもの表現や子どもとつながるために必要な表現について考え ておく、事後に体験を振り返り気づきを内省記録として提出する
第9回	リズムダンスと身体表現 ペア・グループの即興表現	（学修内容）リズムに合わせて動く楽しさを体感する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に多様なリズムボタンを刻めるように練習しておく、事後に体験を 通して得た気づきや学びを振り返り内省記録として提出する
第10回	歌と動きのリズム表現 ペア・グループの即興表現	（学修内容）手遊びやわらべ唄に合わせてリズムカルな動きを習得した上で、アレン ジしてみる。 （事前事後学修課題の内容） 事前に手遊びを覚えて発表できるようにしておく、事後には発表者と観 察者双方の立場での体験を振り返り気づきを内省記録として提出する
第11回	言葉と動きのリズム表現 ペア・グループの即興表現	（学修内容）オノマトペから動きへと多様な表現を通して、友達の動き等に共感し、 表現の広がりを共有する。 （事前事後学修課題の内容） 事前に多種多様なオノマトペを挙げ、そこから想起される動きを確認し 、運動・表現として発展させる方法を考え、事後記録を提出する
第12回	模擬保育の立案と準備	（学修内容）ペア・グループで役割分担を決め、模擬保育の実践に向けた計画と準備 をする。 （事前事後学修課題の内容） 事前に年齢に合わせた身体表現遊びを自分なりに考えておく、事後には 実際に年齢に応じた遊びであったか振り返りを内省記録として提出する
第13回	模擬保育の実践と相互評価	（学修内容）ピアノを使った身体表現遊びの模擬保育実践。実践者と子ども役・観察 役に分かれて自他ともに評価をする。 （事前事後学修課題の内容） 事前に実践者は模擬保育の流れを把握しペア・グループと一緒に練習を しておく、事後には実践が適切だったか振り返り内省記録を提出する
第14回	模擬保育の実践と相互評価	（学修内容）伝承遊びの模擬保育実践。実践者と子ども役・観察役に分かれて自他と もに評価をする。 （事前事後学修課題の内容） 事前に実践者は模擬保育の流れを把握しペア・グループと一緒に練習を しておく、事後には実践が適切だったか振り返り内省記録を提出する
第15回	模擬保育の実践と相互評価 ・まとめ	（学修内容）キッズダンスの模擬保育実践。実践者と子ども役・観察役に分かれて自 他ともに評価をする。 （事前事後学修課題の内容） 事前に実践者は模擬保育の流れを把握しペア・グループと一緒に練習を しておく、事後には今回の実践全体を振り返りレポートにまとめ提出する

授 業 名	ピアノ実技			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2422
英 文 名	Piano			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき・内藤 規子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	ブルグミュラーからソナチネ初級レベルの学生を対象に、1回生で修得した読譜力・ピアノ演奏能力を更に向上させる。 幼稚園・保育所の就職試験及び卒業後の現場で役立つピアノの演奏力を身につける。								
学修成果 到達目標	1)『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1』等の中の指定する曲を1曲でも多く弾くことができるようになる。 2)楽譜を正確に読むことができる。 3)楽譜通りに強弱をつけて弾くことができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 2時間30分)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用(双方向型授業) ☐ I C T活用(自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	ピアノ実技	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) レッソンの進め方と注意事項等の説明・レッスン曲の決定 (事前事後学修課題の内容) 基本的な音楽理論について復習をしておく(口頭で理解度を確認する)
第2回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第3回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第4回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第5回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第6回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第7回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第8回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第9回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第10回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第11回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第12回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第13回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第14回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定されたレッスン曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習し(1日20分~30分以上), 弾けるようにしておく
第15回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ等)	(学修内容) 各自指定された試験曲の個別指導 (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定された試験曲を練習し(1日20分~30分以上), 完成させておく

授 業 名	ピアノ実技			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2442
英 文 名	Piano			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	坂口 みゆき・内藤 規子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	幼稚園・保育所の就職試験に対応できるピアノ技術を身につける。ピアノ曲だけでなく、初見や弾き歌いなど、随時受験する園に応じた曲も練習する。								
学修成果 到達目標	『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1』・『ソナタアルバム1』など、個々の進度に応じた曲を1曲でも多く弾くことができるようになる。 2) 音符だけでなく記号等も含め、楽譜を正確に読むことができる。 3) 感情を込めた演奏をすることができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 2時間30分)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用(双方向型授業) ☐ I C T活用(自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	ピアノ実技	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) レッソンの進め方と注意事項等の説明・レッスン進捗の確認・レッスン曲の決定 (事前事後学修課題の内容) 各自最後にレッスンを受けた曲を弾けるように練習する
第2回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習する(1日20分~30分以上)
第3回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習する(1日20分~30分以上)
第4回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習する(1日20分~30分以上)
第5回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習する(1日20分~30分以上)
第6回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習する(1日20分~30分以上)
第7回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習する(1日20分~30分以上)
第8回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習する(1日20分~30分以上)
第9回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習する(1日20分~30分以上)
第10回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習する(1日20分~30分以上)
第11回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習する(1日20分~30分以上)
第12回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習する(1日20分~30分以上)
第13回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習する(1日20分~30分以上)
第14回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された曲,または幼稚園・保育所の就職試験で弾く曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定されたレッスン曲を練習する(1日20分~30分以上)
第15回	ピアノ個人レッスン(ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)	(学修内容) 教員より指定された試験曲の個人レッスン (事前事後学修課題の内容) 各自教員より指定された試験曲を練習する(1日20分~30分以上)

授 業 名	保育と音楽遊び			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1402
英 文 名				開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	東田　みすづ			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	子どもたちにとってあそびとは生活(生きること)そのものである。 日常の中にある自由なあそびと設定された中にある遊び、まわりにあふれる音楽やうた。 子どもたちは、これらに囲まれた生活を送りながらさまざまな力を獲得する。 この授業では、いろいろな題材をもとに制作したり表現したりしながら、あそびの中で育つものを考える。								
学修成果 到達目標	・子どもにとってあそびとは何かを理解する。 ・手遊びやうたなどの表現方法や制作物のレパトリーを増やす。 ・グループワークでメンバーとのコミュニケーションを図る。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計　1 0 分)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 (50%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ■ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ■ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 ☐ (							

授 業 名	保育と音楽遊び	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 歌唱・手あそび 自己紹介	(学修内容) 授業についての説明 自己紹介・この授業で大事にしたいこと。 子どものうた・手あそびを楽しむ。 (事前事後学修課題の内容) シラバスを確認しておくこと。 今日の内容をノートにまとめる。次の授業の準備確認。
第2回	歌唱・手あそび・バクバク人形作り	(学修内容) バクバク人形を作って音楽に合わせて遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 今日の内容をノートにまとめる。次の授業の準備をする。
第3回	歌唱・手あそび・ペープサート作り。	(学修内容) 子どものうたを中心にペープサートを作って演じる。 (事前事後学修課題の内容) 課題を仕上げる。 授業内容をノートにまとめる。
第4回	絵本の読み聞かせ。歌唱・手あそび・あやしあそび あやしあそびのおもちゃを作る。	(学修内容) 同じあそびでも月齢や年齢によってやり方も意味も違ってくることを知る。 (事前事後学修課題の内容) 課題を仕上げる。 授業の内容をノートにまとめる。
第5回	歌唱・手あそび 折り紙、紙遊び。	(学修内容) 折り紙を折る。紙を使った簡単なあそびを知る。 (事前事後学修課題の内容) 課題を仕上げる。授業内容をノートにまとめる。次の授業の準備をする。
第6回	歌唱・手あそび・わらべ歌あそび 毛糸であやとり作り。	(学修内容) わらべ歌 毛糸で遊ぶ、くさり編み あやとり。 (事前事後学修課題の内容) 課題を仕上げる。
第7回	歌唱・手あそび・びよんびよんガエル作り。	(学修内容) 子どもの歌を中心にびよんびよんガエルガエルを作って飛ばして遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 今回の授業の準備をする。必要なものをノートにメモしておく。
第8回	歌唱・手あそび ペープサート作り(クイズであそぶ)	(学修内容) クイズ形式のペープサートづくり。 (事前事後学修課題の内容) 課題を仕上げる。授業内容をノートにまとめる。次の授業の準備をする。
第9回	歌唱・手あそび・歌に合わせて手話をする。 折り紙を折る。	(学修内容) 歌のもつ世界観を手話で表現する。 季節にちなんだものを折る。 (事前事後学修課題の内容) 手話について理解する。感じたことをノートに記す。 課題を仕上げる。次の授業の準備をする。
第10回	歌唱・手あそび・楽器を手作りし、みんなで合奏する。	(学修内容) 身近なもので音のなるものを作り、曲に合わせて鳴らして遊ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 課題を仕上げる。授業内容をノートにまとめる。
第11回	歌唱・手あそび・七夕のおはなし、笹飾り作り。	(学修内容) 七夕飾りの意味を知り製作する。笹に飾る。 (事前事後学修課題の内容) 課題を仕上げる。昔ながらの伝承行事を理解する。
第12回	歌唱・手あそび グループ決め 今までのものを使って発表のための打ち合わせ。 準備物など必要なものをまとめて提出する。	(学修内容) グループを決める。11回までの授業の題材を使って、グループで企画し発表するものをまとめておく。 (事前事後学修課題の内容) 意見を出し合い、準備物など必要なものをまとめて提出する。
第13回	歌唱・手あそび 話し合ったものを分担して製作する。	(学修内容) 発表のためのものを製作する。 (事前事後学修課題の内容) グループメンバーで協力して課題を仕上げる。
第14回	歌唱・手あそび・発表するものをグループごとに練習する。 どのように発表するかを話し合う。	(学修内容) 製作したものをを使って、話し合いながらグループ練習をする。 (事前事後学修課題の内容) グループメンバーで協力して課題を仕上げる。
第15回	歌唱・手あそび・発表・総括	(学修内容) 練習したものをプレゼンして発表する。他のグループの出し物に対して感想を言う。 (事前事後学修課題の内容) 積極的に意見交換をする。 総括をノートにまとめる。

授 業 名	健康と生涯スポーツ			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1404
英 文 名	Health and Lifelong Sports I			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	吉永 有佳			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	受講者全員に体力測定を実施する。講義では健康、体力、トレーニングについて理解を深める。実技では各種スポーツのルールを理解し、基本的な技術の習得により、生涯にわたり日常的にスポーツを行う態度と能力を養う。								
学修成果 到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識・技能を習得し、生涯スポーツにつなげる事できる 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養の見識を高め自己管理することができる 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップなどを育み、積極的に参加できる								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 1 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	健康と生涯スポーツ	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容) 本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容) シラバスの内容を確認しておくこと
第2回	アイスブレーキング	(学修内容) コミュニケーションを目的としたレクリエーション (事前事後学修課題の内容) アイスブレーキングについて具体的に調べ、レポートにまとめて提出する。
第3回	ソフトバレーボール 1 「ボールに慣れる」	(学修内容) 基本技術の習得・ルールの理解 (事前事後学修課題の内容) ソフトバレーボールのルールを調べ、レポートにまとめて提出する。
第4回	ソフトバレーボール 2 「サーブ練習後に試合を行う」	(学修内容) 基本技術の習得・ソフトバレーボールの試合 チームで課題を見つけるグループワーク (事前事後学修課題の内容) ソフトバレーボールの特徴を調べ、レポートにまとめて提出する。
第5回	ソフトバレーボール 3 「パス練習後に試合を行う」	(学修内容) 基本技術の習得・ソフトバレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク (事前事後学修課題の内容) ソフトバレーボールの戦術について具体的に調べ、レポートにまとめて提出する。
第6回	ソフトバレーボール 4 「試合」	(学修内容) ソフトバレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク (事前事後学修課題の内容) 前回の試合を思いだし、自分達に必要な戦術を具体的にレポートにまとめて提出する。
第7回	講義 健康と体力について	(学修内容) 健康と体力について (事前事後学修課題の内容) 健康について調べ、レポートにまとめて提出する。
第8回	体力測定 1	(学修内容) 文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容) 体力テストについて具体的に調べてまとめ提出
第9回	体力測定 2	(学修内容) 文部科学省新体力テスト (事前事後学修課題の内容) 体力テストについて具体的に調べてまとめ提出
第10回	講義 体力評価と運動時の注意点	(学修内容) 体力評価を行う。運動時の注意事項 (事前事後学修課題の内容) 体力測定について振り返りをし、評価の仕方について調べて、レポートに提出する
第11回	バドミントン 1 サーブ等練習を行う	(学修内容) 基本技術の習得・バドミントンの試合 (事前事後学修課題の内容) バドミントンのルールを具体的に調べて、レポートにまとめて提出する。
第12回	バドミントン 2 試合を行う	(学修内容) バドミントンの試合 (事前事後学修課題の内容) バドミントンの戦術について具体的に調べて、レポートにまとめて提出する。
第13回	卓球 1 サーブ等、練習を行う	(学修内容) 基本技術の習得・卓球の試合 (事前事後学修課題の内容) 卓球のルールを具体的に調べてする。、レポートにまとめて提出する。
第14回	卓球 2 試合を行う	(学修内容) 卓球の試合 (事前事後学修課題の内容) 卓球の戦術について具体的に調べて、レポートにまとめて提出する。
第15回	まとめ	(学修内容) レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容) 講義内容を振り返り、レポートにまとめて提出する。

授 業 名	健康と生涯スポーツ			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CE1414
英 文 名	Health and Lifelong Sports			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	吉永 有佳			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	本講では、運動が身体にどのような影響を及ぼすかを学習し、学生個人の健康についての理解を各種スポーツの実践を通して深める。								
学修成果 到達目標	1) 運動の実践により生涯スポーツの基礎となる知識・技能を高めることができる 2) 健康の維持・増進を目的とした運動・栄養・休養・性の見識を高め自己管理することができる 3) スポーツを通してコミュニケーション能力、協調性、リーダーシップを育み、積極的に参加できる								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 1 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	健康と生涯スポーツ	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容) 本講に関するオリエンテーション (事前事後学修課題の内容) シラバスを確認しておく
第2回	講義 「性について(妊娠)」	(学修内容) 性(妊娠)について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 性(妊娠)について学び、考えをレポートにまとめて提出する。
第3回	講義 「性について(出産・不妊治療)」	(学修内容) 性(出産・不妊治療)について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 性について学び、考えをレポートにまとめて提出する。
第4回	バレーボール 基礎練習「ボール慣れとサーブ」	(学修内容) 基本技術の習得・ルールの理解・バレーボールの試合 (事前事後学修課題の内容) バレーボールのルールを具体的に調べ、レポートにまとめて提出する。
第5回	バレーボール 基礎練習「アンダーハンドパスとオーバーハンドパス」	(学修内容) 基本技術の習得・バレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク (事前事後学修課題の内容) バレーボールのルールの復習を行い、楽しむ工夫を考え、レポートにまとめて提出する。
第6回	バレーボール 基礎練習「ネットをはさんでパス練習」	(学修内容) バレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク (事前事後学修課題の内容) バレーボールの戦術について調べ、レポートにまとめて提出する。
第7回	バレーボール 試合	(学修内容) バレーボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク (事前事後学修課題の内容) バレーボールの戦術について、自分たちに必要な戦術をしらべ、具体的にレポートにまとめて提出する。
第8回	バドミントン 基礎練習「サーブ」	(学修内容) 基本技術の習得・バドミントンの試合 (事前事後学修課題の内容) バドミントンのルールを具体的に調べて、レポートにまとめ提出する。
第9回	バドミントン 基礎練習「クリア」	(学修内容) バドミントンの試合 (事前事後学修課題の内容) バドミントンの戦術について具体的に調べて、レポートにまとめる提出する。
第10回	バドミントン 試合	(学修内容) バドミントンの試合 (事前事後学修課題の内容) バドミントンの戦術について具体的に調べて、レポートにまとめ提出する。
第11回	バスケットボール 基礎練習「ボール慣れ」	(学修内容) 基本技術の習得・ルールの理解・バスケットボールの試合 (事前事後学修課題の内容) バスケットボールのルールを具体的に調べて、レポートにまとめて提出する。
第12回	バスケットボール 基礎練習「パス」	(学修内容) 基本技術の習得・バスケットボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク (事前事後学修課題の内容) バスケットボールのルールの復習し、楽しむためのルール変更を考え、レポートまとめて提出する。
第13回	バスケットボール 基礎練習「シュート」	(学修内容) バスケットボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク (事前事後学修課題の内容) バスケットボールの戦術について調べて、レポートにまとめて提出する。
第14回	バスケットボール 試合	(学修内容) バスケットボールの試合 チームの課題を話し合い、解決に向けて練習を行うグループワーク (事前事後学修課題の内容) バスケットボールの戦術について、自分たちに必要な戦術を具体的に調べてレポートにまとめて提出する。
第15回	まとめ	(学修内容) レポート作成、提出 (事前事後学修課題の内容) 授業内容を振り返り、レポートにまとめて提出する。

授 業 名	保育英語コミュニケーション	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 到達目標の確認、進め方の説明、自己紹介 (事前事後学修課題の内容) 本授業のシラバスを読んでおく。
第2回	幼稚園の活動時間	(学修内容) 幼稚園の活動時間の把握 (事前事後学修課題の内容) pp. 6-8の予習し、英作文の練習問題をしておく。 幼稚園の活動時間を英語で説明できるようにする。
第3回	幼稚園のクラス分け	(学修内容) 赤ちゃんクラス、年少クラス、年長クラスについて (事前事後学修課題の内容) pp. 9-11の予習し、英作文の練習問題をしておく。 園でのクラスについて、英語で説明できるようにする。
第4回	実習生としての事前準備	(学修内容) 登園時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) pp. 12-14の予習し、英作文の練習問題をしておく。 英文で自己紹介文を作成する。
第5回	実習生としての活動を英語でプレゼンテーション	(学修内容) 英語でのプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容) pp. 15-17の予習、英語で自己紹介文を作成しておく。 実習性として気を付けたいことをノートにまとめる。
第6回	園児とのコミュニケーション	(学修内容) 園で使う挨拶表現 (事前事後学修課題の内容) pp. 18-20の予習し、英作文の練習問題をしておく。 園児への挨拶表現を言えるようにする。
第7回	園児を連れての散歩	(学修内容) 散歩時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) pp. 21-23の予習し、英作文の練習問題をしておく。 散歩コースを設定し、英語で説明できるようにする。
第8回	散歩時の園児への対応	(学修内容) 散歩時における園児への対応 (事前事後学修課題の内容) pp. 24-26 の予習し、英作文の練習問題をしておく。 散歩時における園児への配慮について英語でまとめる。
第9回	幼稚園のプール授業	(学修内容) プール授業で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) pp. 27-29の予習し、英作文の練習問題をしておく。 プール授業の流れを英語で説明できるようにする。
第10回	プール授業時の園児への対応	(学修内容) プール授業時の園児への対応 (事前事後学修課題の内容) pp. 30-32の予習し、英作文の練習問題をしておく。 プール授業時の園児への英語フレーズを使えるようにする。
第11回	園児とのパンケーキの調理実習	(学修内容) パンケーキ調理のときに使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) pp. 33-35の予習し、英作文の練習問題をしておく。 調理器具や調理方法を英語で言えるようにする。
第12回	園児との会食時間	(学修内容) 園児との食事の時に使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) pp. 36-38の予習し、英作文の練習問題をしておく。 食事の時に使う英語表現を使えるようにする。
第13回	園児への本の読み聞かせ	(学修内容) 読み聞かせのときに使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) pp. 39-41の予習し、英作文の練習問題をしておく。 読み聞かせをすときに使う英語フレーズをまとめてみる。
第14回	こども絵本	(学修内容) こども絵本について考える (事前事後学修課題の内容) pp. 42-44の予習し、英作文の練習問題をしておく。 園児に読み聞かせをしたい絵本を読んでみる。
第15回	園で使う日常表現	(学修内容) 園で使う日常表現について (事前事後学修課題の内容) 会話フレーズのページを見直しする。 登園から退園までの日常表現を言えるようにする。

授 業 名	保育英語コミュニケーション			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2443
英 文 名	Child Care English			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	早瀬 和栄			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	保育英語コミュニケーション に続き、演習形式の授業を通して、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4領域において総合的な英語力の基礎をバランスよく習得します。予習をしていることを前提にテキストを進めます。また、専門領域に関連する教材や、異文化理解にもつながる多読も授業に取り入れます。グループワークやプレゼンテーションを実践します。								
学修成果 到達目標	1) 会話や多読に必要な文法の基礎を身につけることができる。 2) 身近なトピックについて、簡単な単語を用いて意見を伝えることができる。 3) 平易な英語本を訳すことなく、英語のまま理解することができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 3 時間)								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名		保育英語コミュニケーション
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 保育英語について (事前事後学修課題の内容) シラバスを読む。 pp.42-44の予習し、英作文の練習問題をしておく。
第2回	幼稚園行事	(学修内容) 幼稚園行事で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) pp.45-47の予習し、英作文の練習問題をしておく。 幼稚園行事を英語でまとめる。
第3回	スイカのお絵描き	(学修内容) お絵描きで使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) pp.48-50の予習し、英作文の練習問題をしておく。 お絵描き指導の英語表現を使えるようにする。
第4回	お誕生日会	(学修内容) お誕生日会で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) pp.51-53の予習し、英作文の練習問題をしておく。 お誕生日会での英語表現を使えるようにする。
第5回	保護者あての招待状	(学修内容) 招待状を作成するときに使う英語表現、 (事前事後学修課題の内容) pp.54-56の予習し、英作文の練習問題をしておく。 保護者あての招待状を作成する。
第6回	子どもの遊びについてのプレゼンテーション	(学修内容) 子どもの遊びについてのプレゼンテーション (事前事後学修課題の内容) pp.57-59の予習し、プレゼンテーションの原稿を作成する。 子どもの遊びについてノートにまとめる。
第7回	サッカーの授業	(学修内容) サッカーの授業で使える英語表現 (事前事後学修課題の内容) pp.60-62の予習し、英作文の練習問題をしておく。 サッカー観戦時の応援フレーズをノートにまとめる。
第8回	赤ちゃんクラス	(学修内容) 赤ちゃんクラスを担当するときに使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) pp.63-65の予習し、英作文の練習問題をしておく。 赤ちゃん保育の方法をノートにまとめる。
第9回	赤ちゃん保育	(学修内容) 赤ちゃんの語りかけに使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) pp.66-68の予習し、英作文の練習問題をしておく。 赤ちゃんへの語りかけや子守歌などを練習する。
第10回	園児の歯磨き	(学修内容) 歯磨きを指導するときに使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) pp.69-71の予習し、英作文の練習問題をしておく。 園児の歯磨き指導で使うフレーズを言えるようにする。
第11回	乳児への語りかけ	(学修内容) 乳児室で使う英語表現 (事前事後学修課題の内容) pp.72-74の予習し、英作文の練習問題をしておく。 乳児室にある備品などの英単語をノートにまとめる。
第12回	園での演劇会	(学修内容) 演劇会での英語表現 (事前事後学修課題の内容) pp.75-77の予習し、英作文の練習問題をしておく。 演劇会の準備についてノートにまとめる。
第13回	演劇会への招待状	(学修内容) 演劇会への招待状の作成 (事前事後学修課題の内容) pp.78-80の文法説明を読み、招待状を作成する。 招待状作成の英語表現を使えるようにする。
第14回	ジンジャーブレッドハウスの作り方	(学修内容) ジンジャーブレッドハウスの作り方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) pp.81-82の文法説明を読み、レシピを読んでおく。 お菓子作りで学んだ英語表現を使えるようにする。
第15回	園児の「おやつ」	(学修内容) 園児にとってのおやつを考える (事前事後学修課題の内容) pp.83-85の文法説明を読み、園児にとってのおやつを考える。 おやつについての英語表現を使えるようにする。

授 業 名	日本国憲法		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1205
英 文 名	The Constitution of Japan		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	水野 彰子		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	日常生活の中で、憲法や法律について考える機会は少ないかもしれませんが。 しかし、憲法は、私たちの基本的な権利や国の根幹について定める、とても大事なものです。 この授業では、実は身近な「人権」の例や、社会生活の中で目にしうる法律問題を取り上げながら、憲法の基本的な考え方を学んで行きたいと思います。							
学修成果 到達目標	1) 日本国憲法を、くらしに関連する法律と共に、理解する。 2) 人生の各段階で直面する様々な問題を、法的側面から理解することができる。 3) 主権者として必要な知識を習得することができる							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ■ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (50%) ■ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 (50%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 ■ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	■ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()						
テキスト	プリントを毎回配布します。							
参 考 書	『おとめ六法』（上谷さくら・岸本学、KADOKAWA、2020年）、『マンガでわかる日本国憲法』（木山泰嗣監修、池田書店、2014年）、『こども六法』（山崎聡一郎、弘文堂、2019年）、『もしも世界に法律がなかったら』（木山泰嗣、日本実業出版社、2019年）、授業中に適宜紹介する							
課題に対する フィードバック の方法	理解度確認のための小テスト等を行い、授業時に解説・コメントを行います。							
留意事項	関連するニュースを取り上げ、発言・コメントを求めます。							
オフィス アワー	質問・相談等は、担当授業終了後に受け付けます。							
実践的教育	■ 実践的教育 教員の実務経験など：弁護士として執務							

授 業 名	日本国憲法	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション（憲法、法律、日常生活）	（学修内容）講義概要を紹介し、憲法・法律と日常生活の関係についての概要を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 本授業計画（シラバス）に目を通すとともに、日本国憲法を一読しておくこと。
第2回	幸福追求権と公共の福祉	（学修内容）日本国憲法で規定する「幸福追求権」と「公共の福祉」の関係、「自己情報コントロール権」など新たな自己決定権を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第3回	法の下での平等	（学修内容）平等の概念が、法律にどのように反映されているか、判例や男女雇用機会均等法などと共に学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第4回	表現の自由	（学修内容）SNSの普及によりネットでの中傷が社会問題化している。憲法に定めのある表現の自由と公共の福祉の関係などについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第5回	経済的自由と労働権	（学修内容）いわゆるフリマアプリにより若年層にも身近になった経済活動について、「職業選択の自由」などの憲法規定、労働法規とともに考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第6回	婚姻	（学修内容）婚姻は両性の合意のみによって成立する。恋愛関係と婚姻の違い、事実婚について学習する。また離婚の問題について扱う。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第7回	家族	（学修内容）家族には、相続や介護といった複雑な問題が付随してくる。家族関係で生じる権利や義務について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第8回	子ども	（学修内容）子ども（未成年）の権利と制約について、また親と社会の義務について、少年法や児童の権利条約について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第9回	生存権と社会保障	（学修内容）憲法が定める「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」に関連する社会福祉、社会保障、公衆衛生について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第10回	教育と学問	（学修内容）教育を受ける権利を中心に、義務教育と大学の教育の相違、学問の自由について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第11回	犯罪と刑罰	（学修内容）憲法は、犯罪と処罰について多くの条文を劃いている。被疑者の権利や私人逮捕など、犯罪に巻き込まれた場合に必要となる知識を学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第12回	財政と税金	（学修内容）納税の義務、納税の仕組み（確定申告と源泉徴収など）、納税に準じる年金などの制度、国家予算の仕組みについて学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第13回	行政と地方自治	（学修内容）現代の国家において、行政権は国民生活の広範に及んでいる。行政国家現象と称される実情、ならびに地方自治体が担う行政について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第14回	参政権、国会、憲法改正	（学修内容）選挙権年齢の18歳への引き下げ、多様な政治参加の進展、憲法改正問題など、現代の参政権とその課題について学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。
第15回	まとめ	（学修内容）これまでの授業で取り上げた、重要な論点を振り返る。 （事前事後学修課題の内容） 事前に主要な事例や法律を指示するので、インターネットや法令集などを利用して事前学習をすること。

授 業 名	教育心理学			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2221
英 文 名	Educational Psychology			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	渋谷 郁子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	幼児教育における学びとは、生活や遊びを通じた学びである。本講義では、心理学的側面から教育に関わる問題について学ぶことで、生活や遊びを通して、子どもたちの個々の発達の姿を把握する観察力を培い、適切な発達援助を行う実践力を培うことを目的とする。また、保育者間の協働、保護者との連携など、現代の保育課題についても理解を深めていく。テーマによってグループ討議等も行うので実践力を養ってほしい。								
学修成果 到達目標	1．教育心理学の基礎的知識を習得し、教育現場で応用できる力を身につける。 2．主に乳幼児期の各時期における精神活動の発達過程と発達特性について理解する。 3．子どもの発達や保育の中での人間関係などを心理学的に理解し、気持ちに沿った援助を考えることができる。 4．学習を支える教師の役割や意義を理解する。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ (							

授 業 名	教育心理学	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	心理学による子ども理解	(学修内容) 保育実践において、心理学的観点から子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修: 確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第2回	子どもに対する共感的理解	(学修内容) 子どもの気持ちを受容的に受け止め、肯定的配慮を行って自己実現を促す関わりを理解する。適宜グループワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修: 確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第3回	子どもの生活と学び	(学修内容) 子どもの生活を支える重要性を理解する。また、基本的生活習慣が発達に及ぼす影響を知る。適宜グループワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修: 確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第4回	子どもの遊びと学び	(学修内容) 子どもたちの遊びの発達について理解する。また、遊びを通じた学びの意義と遊びの環境について考える。適宜グループワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修: 確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第5回	子どもの主体性を引き出す教育のあり方	(学修内容) 子どもの主体的な学びを引き出す関わりについて考える。また、子どもの糧になる関わりを考える。適宜ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修: 確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第6回	子ども集団と仲間の発達(1) 仲間関係と自己主張・自己抑制	(学修内容) 仲間関係や自己主張と自己抑制の発達について理解する。適宜グループワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修: 確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第7回	子ども集団と仲間の発達(2) 仲間関係を育む関わり	(学修内容) 仲間関係を育む環境調整や保育的関わりについて考える。適宜グループワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修: 確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第8回	観察と記録を通した子ども理解(1) 子どもを観察する視点	(学修内容) 子どもを観察して理解するための視点をリストアップし、実際に試してみる。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修: 確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第9回	観察と記録を通した子ども理解(2) 子ども理解を深める視点	(学修内容) 子どもを観察して理解するための視点を修正し、バージョンアップする。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修: 確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第10回	観察と記録を通した子ども理解(3) 記録と省察	(学修内容) 観察したことをどのように記録するか、省察を深めることのできる記録のつけ方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修: 確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第11回	環境としての保育者	(学修内容) 実習を振り返りながら、環境としての保育者の重要性を学ぶ。適宜グループワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修: 確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第12回	パーソナリティの理解	(学修内容) 子どものパーソナリティを理解するため、パーソナリティについての理論やパーソナリティを把握する方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修: 確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第13回	葛藤やつまずきを乗り越える力	(学修内容) 子どものレジリエンスを高める関わりを考える。適宜ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修: 確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第14回	障害や発達に課題のある子どもの理解	(学修内容) 発達に課題があるとはどういうことか、発達に課題のある子どもをどのように理解するのかを考える。適宜グループワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修: 確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。
第15回	子どもの発達課題に応じた教育のあり方	(学修内容) 発達の個人差について理解する。また、個別のニーズに応じた支援を考える。適宜グループワークを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: 事前学修シートの該当箇所に記入する。 事後学修: 確認テストに解答し、振り返りコメントを提出する。

授 業 名	教育課程総論			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1311
英 文 名	Outline of Curriculum			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	柘植 誠子			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園における教育課程や全体的な計画の意義や目的、役割を理解し、年齢や発達の姿、保育の連続性を踏まえた教育課程や全体的な計画、さらに教育課程からつながる指導計画の作成方法を学びます。実際に短期の指導計画を作成し、発表、グループワーク等を通してさらに学びを深めます。また、教育課程や全体的な計画の編成から、保育の質の向上へと繋がるカリキュラム・マネジメントを行う意義や重要性を理解し、評価の基本を学びます。								
学修成果 到達目標	1) 教育課程・全体的な計画が有する役割・機能・意義や、基本原理に即した教育課程・全体的な計画の編成方法を理解できる。 2) カリキュラム・マネジメントの意義や重要性、評価の基本的な考えを理解できる。 3) 子ども理解を踏まえた指導計画の作成方法を理解し、自ら作成することができる。 4) 指導計画の理解や作成を通して、自己の課題を省察・評価・改善することができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 3 0 分)								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解				汎用的技能			
	○	態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	教育課程総論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 保育の基本について	（学修内容）授業概要の説明を把握する。 保育の定義や保育で重視していることを学ぶ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：教科書を読み、シラバスの内容を把握しておく。 事後：保育の基本について理解したことをまとめておく。
第2回	教育課程・全体的な計画の考え方	（学修内容）教育課程・全体的な計画の考え方や意義について学ぶ。 教育課程・全体的な計画の編成手順を事例から把握する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を書き出す。事後：教育課程・全体的な計画の事例を調べておく。
第3回	指導計画の基本的な考え方	（学修内容）指導計画を事例から学ぶ。教育課程・全体的な計画と指導計画の関係性や指導計画の様々な種類を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：指導計画について調べておく。 事後：幼稚園教育要領を読んで幼稚園について理解を深めておく。
第4回	幼稚園の基本	（学修内容）幼稚園の機能について学ぶ。幼稚園教育要領から幼稚園教育の特徴を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：幼稚園教諭の役割についてまとめ発表できるようにしておく。 事後：幼稚園教育要領から幼稚園の特徴をまとめる。
第5回	幼稚園における計画	（学修内容）幼稚園における指導計画がどのような考え方のもとに作成されているか学ぶ。幼稚園における教育課程から指導計画の流れを理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：実習に行く幼稚園について調べておく。 事後：教科書のワーク（幼稚園）をしておく。
第6回	保育所の基本	（学修内容）保育所の役割について理解する。 保育所保育指針から保育所保育の基本を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：保育所保育における環境はどのようなものなのかを調べ、発表できるようにしておく。事後：保育所の特徴をまとめておく。
第7回	保育所における計画	（学修内容）保育所の考え方に基づく指導計画の作成を理解する。保育所における全体的な計画から指導計画の流れを把握する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：保育所の一日を調べ、発表できるようにしておく。 事後：教科書のワーク（保育所）をする。
第8回	認定こども園の基本と計画	（学修内容）認定こども園の特徴を理解する。幼保連携型認定こども園教育・保育要領から教育及び保育の基本を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：認定こども園の様々な計画を調べ、発表できるようにしておく。 事後：認定こども園の認定についてまとめておく。
第9回	指導計画作成の基本とその方法	（学修内容）指導計画の作成方法や作成手順を理解する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストの「指導計画の手順」を読んでおく。 事後：作成手順を書き出しておく。
第10回	指導計画の作成方法（子どもの姿、保育者の願い）	（学修内容）指導計画の記載項目に応じて具体的に学ぶ。（子どもの姿、保育者の願い） （事前事後学修課題の内容） 事前：幼稚園教育要領から指導計画についてまとめておく。 事後：資料を参考に、子どもの姿、保育者の願いを書写しておく。
第11回	指導計画の作成方法（ねらい、内容、準備物等）	（学修内容）指導計画の記載項目に応じて具体的に学ぶ。（ねらい、内容、準備物等） （事前事後学修課題の内容） 事前：幼稚園教育要領の5領域のねらいを書写しておく。 事後：資料を参考に、ねらい、内容、準備物を書写しておく。
第12回	指導計画の作成方法（環境構成、予想される幼児の活動）	（学修内容）指導計画の記載項目に応じて具体的に学ぶ。（環境構成、予想される幼児の活動） （事前事後学修課題の内容） 事前：保育室の環境構成を調べておく。事後：資料を参考に、環境構成、予想される幼児の活動を書写しておく。
第13回	指導計画の作成方法（保育者の援助・配慮等）	（学修内容）指導計画の記載項目に応じて具体的に学ぶ。（保育者の援助・配慮等） （事前事後学修課題の内容） 事前：テキストの保育者の援助・配慮で意図の部分にチェックを入れておく。事後：資料を参考に、保育者の援助・配慮を書写しておく。
第14回	指導計画の作成	（学修内容）絵本の読み聞かせを実践し、その内容に応じた指導計画を作成する。 （事前事後学修課題の内容） 事前：絵本の読み聞かせの指導計画に使用したい絵本を選択し、内容を把握しておく。事後：指導計画をチェック票で点検しておく。
第15回	指導計画の発表、評価	（学修内容）グループ内で指導計画を発表したり、他者から学んだりする。 （事前事後学修課題の内容） 事前：指導計画の内容を点検しておく。事後：発表した指導計画について、反省、考察、課題等の評価を行い、その内容をまとめて提出する。

授 業 名	保育内容・健康			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2324
英 文 名	Child Care：Health			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	福井 百合子・眞崎 雅子			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	子どもにとって健康は、健全な成長・発達に必要なものである。領域「健康」は心身の健康に関する領域であり、子どもの健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す能力を培うことを目的とする。本授業では、領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、この視点で保育に必要な知識や技術を実践へ向けて深めていくことを目指す。特に乳幼児期の健康にかかわる心身の成長発達、生活習慣、運動発達の特徴の理解を深め、楽しく体を動かすことの意義や、遊びの重要性を理解し、適切な指導方法を身につける。適宜、課題ワーク、グループワークやディスカッション、活動の実践を行う。								
学修成果 到達目標	1．幼児教育の基本と、乳幼児の健康の概念と心身の健康に関する領域「健康」のねらいと内容が理解できる。 2．領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解できる、小学校教育へつなぐ、子どもの資質や能力の育みについて考えることができる。 3．乳幼児の成長・発達に関する基礎的な知識をふまえ、運動遊びや生活習慣獲得支援など子どもの健康を保障するための具体的方法を考えることができる。 4．子どもの発達にとって遊びが持つ意義と果たす役割について説明できる。 5．現代の子どもの健康を取り巻く諸問題を知り、保育者の役割を考えることができる								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	□ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ■ 実習・フィールドワーク □ I C T 活用 (双方向型授業) ■ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 ■ 筆記試験 □ レポート □ 制作物 (50%) □ 口述 □ 実習 ■ 実技				平常試験 ■ 筆記試験 ■ レポート □ 制作物 (50%) ■ 口述 □ 実習 ■ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	■ 知識・理解 ■ コミュニケーション能力 ■ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 ■ (課題(ミニテスト込)提出・実践内容) ■ (学習ノート)							
テキスト	河邊貴子・吉田伊津美 編『演習 保育内容「健康」―基礎的事項の理解と指導法―』建帛社								
参 考 書	●井狩芳子『演習 保育内容 健康―大人から子どもへつなぐ健康の視点』萌文書林 ●清水将之・相楽真樹子 編『実践例から学びを深める保育内容・領域 健康 指導法』わかば社 ●酒井幸子・松山洋平 編『保育内容健康 あなたならどうしますか?』萌文書林 ●勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行 編『保育者をめざすあなたへ子どもと健康 第2版』株式会社みらい								
課題に対する フィードバック の方法	課題やミニテストは提出後に答えと解説を表示する。課題や実践での学びは、提出返却後・実践後に全体で振り返りや内容を共有することがある。								
留意事項	・教科書とノートを持参して受講すること。(適時確認すること有) ・授業で使用する大学の備品は大切に丁寧に扱うこと。 ・授業内容や試験方法は状況により調整変更することがある。 ・健康や子どもの育ちに関心をもち、遊びや活動を楽しむことを大切にしましょう。 ・出欠回数や課題提出の未済は自己管理すること。								
オフィス アワー	授業ガイダンス時に知らせる。								
実践的教育	■ 実践的教育 教員の実務経験など：三次救急を扱う病院の救急病棟、産婦人科病棟、小児科外来で看護師、助産師として、実務経験を生かし、幼児の様子や病気・けがが対応がイメージできるよう授業を進めていく。コミュニティーセンターや幼稚園で保護者対象ダンス指導、小学校「リズム遊び・からだの遊び」講師、教育委員会主催体育研究会講師、親子体操講師の経験を活かし保育における「健康」について授業を進める。								

授 業 名	保育内容・健康	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス 健康の定義と乳幼児にふさわしい生活 体をよく動かす子どもを育てる	(学修内容) 授業の案内。健康の定義、乳幼児にふさわしい生活、体をよく動かす子どもを育てることについて考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前に教科書第1章を読む。事後はミニテストで復習する。
第2回	領域「健康」について ねらい、内容について 小学校教育へつなぐ資質や能力の育み	(学修内容) 乳幼児の年齢ごとの特性、発達段階・課題を踏まえて、成長発達を支援する保育の配慮と関わりについて動画視聴やワーク等を交えて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に教科書第8章、保育所保育指針と解説書を読む。事後はミニテストで復習する。
第3回	乳幼児の発達過程に応じた環境と配慮 0～2歳児の特性と発達段階に応じた環境構成と配慮	(学修内容) 0～2歳児の特性と運動機能の発達、生活動作の発達について学び、かわりや配慮について考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前に教科書第3章、第5章を読む。事後はミニテストで復習する。
第4回	乳幼児の発達過程に応じた環境と配慮 2～3歳児の特性と発達段階に応じた環境構成と配慮	(学修内容) 2～3歳児の特性と運動機能、生活動作、認知機能や社会性の発達について学び、それに応じた環境やかかわり、配慮について考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前に教科書第3章、第5章を読む。事後はミニテストで復習する。
第5回	乳幼児の発達過程に応じた環境と配慮 4～5歳児の特性と発達段階に応じた環境構成と配慮	(学修内容) 4～5歳児の特性と運動機能、生活動作、認知機能や社会性の発達について学ぶ。多様な動き、協応動作、統合の意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前に教科書第3章、第5章を読む。事後はミニテストで復習する。
第6回	0～1歳児の発達段階に合わせた運動遊びの実践	(学修内容) 道具を使った遊び、表現遊びの実践を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に0～1歳児の特性と運動機能の発達を復習しておく。事後に授業の振り返りを書く。
第7回	2～3歳児の発達段階に合わせた運動遊びの実践	(学修内容) 道具を使った遊び、鬼遊び、表現遊びの実践を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に2～3歳児の特性と運動機能の発達を復習しておく。事後に授業の振り返りを書く。
第8回	4～5歳児の発達段階に合わせた運動遊びの実践、指導計画案の作	(学修内容) 道具を使った遊び、鬼遊び、表現遊びの実践を通して学び、グループで指導計画案について話し合う。 (事前事後学修課題の内容) 事前に4～5歳児の特性と運動機能の発達を復習しておく。事後にグループの指導案を完成させる。
第9回	乳幼児期の基本的生活習慣の形成と配慮 生活習慣形成の意義、生活リズム、睡眠・休息	(学修内容) 基本的生活習慣(食事、排泄、睡眠、清潔、着脱衣、お手伝いやあいさつ等)の形成と、それを支援するかかわりや配慮について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に教科書第5章を読む。事後はミニテストで復習する。
第10回	「遊び」の意義 内発的動機からの主体性、繰り返しの重要性	(学修内容) 遊びの意義、運動遊びの重要性、仕掛けと動機付けについて学ぶ。子どもの内発的動機付けのためのかかわりや働きかけをGWを交えて考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前に教科書第6章を読む。事後はミニテストで復習する。
第11回	幼児期の基本的動作、遊びの中で体験する多様な動き	(学修内容) 幼児期の子どもの体力や運動能力の現状を学び、体力を高めるための保育者の支援について考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前に子どもの運動能力の現状とその課題について教科書等で調べておく。事後に授業の振り返りを書く。
第12回	模擬保育 運動遊びの立案と実践	(学修内容) 対象年齢ごとの運動遊びの模擬保育をグループで実践し、相互評価を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前にグループで役割分担を決めて模擬保育のリハーサルをしておく。事後、指導案の修正・加筆をする。
第13回	模擬保育 運動遊びの立案と実践	(学修内容) 対象年齢ごとの運動遊びの模擬保育をグループで実践し、相互評価を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前にグループで役割分担を決めて模擬保育のリハーサルをしておく。事後、指導案の修正・加筆をする。
第14回	模擬保育 運動遊びの立案と実践	(学修内容) 対象年齢ごとの運動遊びの模擬保育をグループで実践し、相互評価を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前にグループで役割分担を決めて模擬保育のリハーサルをしておく。事後、指導案の修正・加筆をする。
第15回	現代社会における保育施設、保育者の役割 全体の振り返り 定期試験ガイダンス	(学修内容) 現代社会における保育施設、保育者の役割について考える。全体の振り返り、質疑応答。定期試験の案内。 (事前事後学修課題の内容) 事前に全体の復讐をし質問があればまとめておく。

授 業 名	保育内容・言葉			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1314
英 文 名	Child Care：Language			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	坂本 渉			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	三法令(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領)に示された領域「言葉」のねらいおよび内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即した具体的な指導場면을想定して保育を構想する方法を身につける。併せて、さまざまな児童文化財や教材等の活用について適宜グループワークを実施し実践的に学ぶ。								
学修成果 到達目標	1)領域「言葉」のねらいや内容、子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点、評価の考え方、小学校の教科とのつながりについて理解している。 2)児童文化財が与える乳幼児への影響を考え、年齢・発達に応じた教材研究に取り組むことができる。 3)領域「言葉」に関わる遊びの具体的な指導場면을想定した指導案を作成し、実践（模擬保育）・評価・改善に取り組むことができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （ 1 回の授業の事前・事後学修時間の計 1 時間 ）								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用（双方向型授業） ☐ I C T 活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験 （ 60% ） ■ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	保育内容・言葉	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション/幼児期の教育の基本と領域について	(学修内容) 授業のねらいや概要の説明を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前:春学期に学修した「幼児と言葉」を想起する。事後:「領域」とは何か説明できるよう授業内容を振り返り、要点を整理する。
第2回	領域「言葉」とは	(学修内容) 領域「言葉」のねらいおよび内容について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前:「ねらい」と「内容」について、説明できるようにしておく。事後:領域「言葉」の「ねらい」と「内容」について要点を整理する。
第3回	領域「言葉」と他領域とのかかわり	(学修内容) 領域「言葉」と他領域とのかかわり、国語科教育とのつながりと相違について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前:他の領域の「ねらい」と「内容」について幼稚園教育要領等で確認しておく。事後:授業内容について振り返り、整理し要点をまとめる
第4回	言葉を育む環境構成と保育者の援助 子どもの話したい、聞きたいを育む	(学修内容) 子どもの話したい、聞きたいを育むための環境構成と保育者の援助について学ぶ。また、生活に必要な言葉を支える援助について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前:生活場面での話し言葉の役割について考える。事後:ディスカッションで得られた内容や授業内容を振り返り、整理し要点をまとめる。
第5回	言葉を育む環境構成と保育者の援助 言葉に課題をかかえる子どもへの支援	(学修内容) 言葉の遅れや吃音、またかみつきなど子どもの言葉に関する課題の原因や、園ではどのような対応を行えばよいのかについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前:幼稚園教育要領第1章の第5を読んで内容を理解しておく。事後:授業内容を振り返り、対応の仕方を自分なりに考える。
第6回	言葉を豊かにする言語教材 ストーリーテリング	(学修内容) ストーリーテリングの演じ方などの基礎知識を学ぶとともに、子どもにとっての物語体験の意義について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前:題材として相応しい物語の候補を考え、あらすじをまとめる。事後:必要な技能について整理し、実践できるよう練習する。
第7回	言葉を豊かにする言語教材 お話づくり	(学修内容) さまざまなお話づくり(絵カード・即興)の演習を通して、子どもにとってのお話づくりの意義について理解する。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) 事前:絵カードを基にお話をつくり、発表の練習をしておく。事後:自身の発表を振り返って自己評価を行い、その内容を配布資料にまとめる。
第8回	言葉を豊かにする言語教材 文字を使った遊び	(学修内容) 文字を使ったさまざまな遊びや、遊びの中に出てくる書き言葉の役割や機能について学ぶ。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) 事前:文字を使った遊びについて下調べをし、準備しておく。事後:授業内で経験した文字を使った遊びについて、指導法をまとめる。
第9回	言葉を豊かにする言語教材 ごっこ遊び・劇遊びへの展開	(学修内容) 絵本やお話の読み聞かせから遊びへの発展、具体的にはごっこ遊びや劇遊びへの展開方法や留意点について学ぶ。(グループワーク) (事前事後学修課題の内容) 事前:事前に配布した資料を読み、内容を理解しておく。事後:授業内容について振り返り、整理し要点をまとめる。
第10回	言葉を育む保育の実践 教材研究	(学修内容) 児童文化財を活用した保育の構想を練る。(グループワーク・ペアワーク) (事前事後学修課題の内容) 事前:児童文化財を使った保育の事例(3～5歳児)について調べておく。事後:保育実践、模擬保育に用いる児童文化財の教材研究をする。
第11回	言葉を育む保育の実践 指導案作成	(学修内容) 具体的な保育場面を想定した指導案の作成を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前:指導案の各項目について、その意味と記入の仕方について確認しておく。事後:授業を振り返り、指導案の書き方への理解を深める。
第12回	言葉を育む保育の実践 指導案の検討と修正	(学修内容) 指導案の検討と修正を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前:保育活動を想定して、援助や留意点についてまとめておく。事後:授業を振り返り、指導案を完成させる。
第13回	言葉を育む保育の実践 演習	(学修内容) 保育実践、模擬保育を指導案に基づき実施する。(グループワーク・ペアワーク) (事前事後学修課題の内容) 事前:一連の流れや教材の扱いについて練習しておく。事後:他のグループの保育実践について、肯定的側面等についてまとめる。
第14回	子どもの言葉を育む保育の実践 省察と改善	(学修内容) 保育実践、模擬保育を振り返り、その評価と改善について学ぶ。(ディスカッション) (事前事後学修課題の内容) 事前:保育実践を振り返り、評価を行い改善点を整理しておく。事後:異年齢保育での実施を想定した援助や留意点についてまとめておく。
第15回	学修のまとめと「言葉」の現代的課題について	(学修内容) これまでの学修を振り返るとともに、「言葉」をめぐる現代的課題について学ぶ。(ディスカッション) (事前事後学修課題の内容) 事前:「言葉」をめぐる現代的課題を調べ、疑問点を整理しておく。事後:これまでの学修内容を振り返り、要点を整理する。

授 業 名	保育内容・人間関係			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1303
英 文 名	Child Care：Human Relations			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	荘巖 茶茶			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	保育／教育の場における「人間関係」について、発達の視点、子どもの視点、保育者の視点、社会の視点等から多角的に捉え、子どもの「人間関係」の育みを支えるために必要な視座、方法論、資源について学ぶ。また、習得した知識を活用するワークにより、知識を応用へつなげるプロセスの実践学習をおこなう。								
学修成果 到達目標	1)子どもの「人間関係」の構成を多角的、多面的に捉えることができる。 2)子どもの「人間関係」の発達を理解し、説明することができる。 3)「人間関係」の育みを旨とした活動内容の展開を、積極的に考える姿勢を身につける。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	■ P B L □ ディスカッション・ディベート □ グループワーク □ プレゼンテーション □ 実習・フィールドワーク □ I C T 活用 (双方向型授業) □ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (70%) ■ 筆記試験 □ レポート □ 制作物 								

授 業 名	保育内容・人間関係	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業内容の概略、および授業計画の説明 (事前事後学修課題の内容) シラバスの内容を確認する。
第2回	子どもを取り巻く人間関係と社会的背景(1)—基本的生活習慣—	(学修内容) 現代社会における基本的生活習慣の問題と子どもの人間関係 (事前事後学修課題の内容) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第3回	子どもを取り巻く人間関係と社会的背景(2)—自己肯定感—	(学修内容) 現代社会における自己肯定感の問題と子どもの人間関係 (事前事後学修課題の内容) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第4回	子どもを取り巻く人間関係と社会的背景(3)—体験活動—	(学修内容) 現代社会における体験活動の問題と子どもの人間関係 (事前事後学修課題の内容) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第5回	乳幼児の育ちと人間関係	(学修内容) 乳幼児の発達と人間関係の育ち (事前事後学修課題の内容) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第6回	乳児保育における領域「人間関係」	(学修内容) 乳児保育の視点 (事前事後学修課題の内容) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第7回	幼児前期の保育における領域「人間関係」(1)—幼児前期の発達—	(学修内容) 幼児前期の発達の様相 (事前事後学修課題の内容) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第8回	幼児前期の保育における領域「人間関係」(2)—「ねらい」と「内容」—	(学修内容) 幼児前期の保育における領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」 (事前事後学修課題の内容) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第9回	幼児前期を対象とした指導計画	(学修内容) 幼児前期を対象とした指導計画の「ねらい」と「内容」の立案(PBL) (事前事後学修課題の内容) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第10回	幼児中後期の保育における領域「人間関係」(1)—幼児中後期の発達—	(学修内容) 幼児中後期の発達の様相 (事前事後学修課題の内容) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第11回	幼児中後期の保育における領域「人間関係」(2)—「ねらい」と「内容」—	(学修内容) 幼児中後期の保育における領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」 (事前事後学修課題の内容) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第12回	幼児中後期を対象とした指導計画	(学修内容) 幼児中後期を対象とした指導計画の「ねらい」と「内容」の立案(PBL) (事前事後学修課題の内容) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第13回	幼児期の人間関係の重要性	(学修内容) 専門家講話「ライフサイクルにおける子ども期の人間関係の意味・価値・大きさ」 (事前事後学修課題の内容) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第14回	多文化保育と人間関係	(学修内容) 我が国における多文化社会の現状と多文化保育の視点 (事前事後学修課題の内容) 前回の授業内容のノート整理、およびワークをおこない、疑問・質問等をまとめる。
第15回	まとめ、振り返り	(学修内容) 14回の学修内容の総括、振り返り (事前事後学修課題の内容) 全回の学修内容の流れを振り返ってノート整理をおこない、解決していない疑問・質問等をまとめる。

授 業 名	保育内容・環境		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CE1313
英 文 名	Child Care：Environment		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	鈴木 えり子		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	保育内容「環境」について、乳幼児期の環境とのかかわりの実際と発達の特徴を踏まえ、保育における環境とのかかわりを育むための保育内容の指導法を実践的に理解する。具体的な保育活動の実践を通して、必要な知識および技術を習得し、活動上の留意点などを理解できることを目的としている。子どもの成長発達には自然、もの、事象、文字や記号、地域、文化などの環境はとても重要であり大きな影響を与える。このような環境に対して、好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力（遊びや生活を広げ深めていく力）を養う指導者として豊かな感性を養う必要性を概説する。							
学修成果 到達目標	1）幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容について説明できる。 2）(1)を踏まえ、子どもを取り巻く身近な環境とのかかわりについて調べ、それらのまとめを発表することができる。 3）保育実践を通して保育活動へ活用することができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 3 0 分)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用（双方向型授業） ☒ I C T 活用（自主学習支援）							
評価方法	定期試験 （ 50% ） ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	保育内容・環境	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の目的や概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：シラバスの内容を読んでおく。事後：保育内容「環境」と環境整備の「環境」との相違をまとめておく。
第2回	季節による保育活動	(学修内容) 季節を取り入れた保育や秋植え野菜の栽培の目的について理解する。グループでディスカッションし栽培計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書p.142～143を参考に興味をもった秋野菜について調べておく。事後：栽培計画をレポートにまとめて提出する。
第3回	秋植え野菜の栽培について	(学修内容) グループで秋植え野菜を栽培する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：秋植え野菜に必要な道具や材料をグループで調達し栽培準備をする。事後：授業実践の振り返りをまとめておく。
第4回	子どもを取り巻く自然環境	(学修内容) 子どもや自分自身を取り巻く自然環境について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前：季節の変化で気づいた点をまとめておく。事後：自身の発表や他者の発表によって気付いた点をレポートにまとめて提出する。
第5回	保育における行事のとりえ方	(学修内容) 保育における行事の種類を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：情報機器を用いて園行事について調べておく。事後：グループごとに各月の行事を調べ、話し合いまとめたポスターを提出する。
第6回	年間行事と保育活動との関連	(学修内容) 園行事を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：園行事についてグループ発表の準備をする。事後：園行事についての発表をまとめて提出する。
第7回	身近な環境に親しむ(周囲の環境)	(学修内容) 保育内容・環境のねらいを実践を通して学ぶ。華頂フィールドワークをグループで活動実践する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：領域環境の「ねらい」「内容」を書写してくる。事後：華頂フィールドワークを通しての実践を振り返りレポートにまとめて提出する。
第8回	身近なモノ(紙粘土)とのかかわり	(学修内容) 身近なモノ(紙粘土)とのかかわりを実践を通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：紙粘土の特徴を調べてくる。事後：紙粘土以外の粘土の特徴をレポートにまとめて提出する。
第9回	身近なモノ(鏡・紙コップ・石)とのかかわり	(学修内容) 身近なモノを手掛かりに好奇心、探求心について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書を参考に子どもにとって身近なモノを調べて準備してくる。事後：授業実践を振り返りレポートにまとめて提出する。
第10回	数量・図形とのかかわり	(学修内容) 子どもの生活と数量・図形とのかかわりについて理解する (事前事後学修課題の内容) 事前：身の回りでいろいろな形の石を探してくる。事後：授業実践を振り返りレポートにまとめて提出する。
第11回	標識や文字とのかかわり	(学修内容) 子どもにとっての生活環境である文字や標識について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：ピストグラムについて調べてくる。事後：生活の中であったらいいと思う標識を考える。
第12回	季節による自然の変化に気づく	(学修内容) 季節が変化していることに気づき自然物を使った実践をする。 (事前事後学修課題の内容) 事前：自然物を使ったリースづくりに必要なものを考えて準備してくる。事後：実践後の振り返りを整理してまとめる。
第13回	栽培活動の意義	(学修内容) 栽培活動(秋植え野菜)の意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：栽培活動をグループでにまとめ発表準備をする。事後：発表後の振り返りをする。
第14回	幼児期の学びと小学校教育への接続	(学修内容) 伝承遊びの実践を通して幼児期の学びと小学校教育への接続を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：伝承遊びを調べてくる。事後：グループで伝承遊びのすごろくを作成し提出する。
第15回	保育内容「環境」について・まとめ	(学修内容) 保育内容「環境」のねらい、内容についてまとめを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前：授業全体を振り返っておく。事後：これまでの学修内容についてねらい・内容との関連について整理する。

授 業 名	子どもの食と栄養		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2333
英 文 名	Children's Food and Nutrition		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	森 久美子・田中 愛佳		対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	成長・発達過程にある子どもにとっての食は、身体の成長や生活リズムの形成、健全な心を育み、さらに将来の健康の基礎を築くうえで大切である。この授業では、食生活に関する基本的な知識を学ぶとともに、特に子どもの食について必要な配慮などについて学ぶ。また、現代の子どもたちが抱える食に関する問題点について学び、子どもの食生活がどうあるべきかを理解する等の目標を達成するために、グループワークや実習等を行う。							
学修成果 到達目標	1) 子どもにおける食の重要性と特徴を理解する。 2) 正しい食を営むための基本的な知識を習得する。 3) 子どもを取り巻く食の問題点を把握しその改善のためにどうすべきかを考え行動できる力を習得する。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 15 分)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☒ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (60%) ☒ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	子どもの食と栄養	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	子どもの健康と食生活の意義	(学修内容) 子どもの食生活の現状と課題について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前: 教科書第1章1、2を読んでおく 事後: 子どもの食生活における問題点を考えてみよう
第2回	小児の成長と発達	(学修内容) 小児の成長と発達について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前: 教科書第1章3を読んでおく 事後: 成長曲線の書き方を復習する
第3回	栄養素(炭水化物、たんぱく質、脂質)の働き	(学修内容) 三大栄養素の消化と吸収、役割について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前: 教科書第2章1～3を読んでおく 事後: 授業内容を復習しておく
第4回	栄養素(ビタミン)の働き	(学修内容) ビタミンの役割、欠乏症、過剰症について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前: 教科書第2章3を読んでおく 事後: 授業内容を復習しておく
第5回	栄養素(ミネラル)の働き	(学修内容) ミネラルの役割、欠乏症、過剰症について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前: 教科書第2章3を読んでおく 事後: 授業内容を復習しておく
第6回	小児の食事摂取基準、食事バランスガイド	(学修内容) 小児の食事摂取基準、食事バランスガイドについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前: 教科書第3章を読んでおく 事後: 3日分の食事記録を食事バランスガイドを用いて行う
第7回	妊娠期と授乳期の栄養の意義と食生活	(学修内容) 妊娠期と授乳期の栄養について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前: 教科書第4章を読んでおく 事後: 授業内容を復習しておく
第8回	乳児期の栄養の意義と食生活	(学修内容) 乳汁栄養の方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前: 教科書第5章1を読んでおく 事後: 調乳操作の方法をまとめておく
第9回	離乳期の栄養の意義と食生活	(学修内容) 離乳食の意義と進め方について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前: 教科書第5章2を読んでおく 事後: 離乳食の進め方についてまとめておく
第10回	幼児期の意義と食生活	(学修内容) 幼児食の意義と注意すべき点について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前: 教科書第6章を読んでおく 事後: 授業内容を復習しておく
第11回	学童期の食生活	(学修内容) 学童期の食生活について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前: 教科書第7章を読んでおく 事後: 授業内容を復習しておく
第12回	小児期の疾病と食生活	(学修内容) 疾病を持つ児の食生活について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前: 教科書第11、12章を読んでおく 事後: 授業内容を復習しておく
第13回	児童福祉施設の食生活	(学修内容) 児童福祉施設での栄養と食生活 (事前事後学修課題の内容) 事前: 教科書第10章を読んでおく 事後: 授業内容を復習しておく
第14回	小児期の食育の必要性	(学修内容) 食育の重要性と方法 (事前事後学修課題の内容) 事前: 教科書第9章 事後: 自分が受けたことがある食育を振り返る
第15回	まとめ	(学修内容) まとめ (事前事後学修課題の内容) これまでの学習内容を復習しておく

授 業 名	インターンシップ		開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CS1403
英 文 名	Internship		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	新矢 昌昭		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	夏季休暇中に行うインターンシップを通して社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。主としてインターンシップに向けての準備や企業研究をグループごとに行い発表する。講義内では、意見や質疑応答を積極的に行うことが重視される							
学修成果 到達目標	1) プレゼンテーション能力、探究心を養うことができる 2) 企業研究、自己分析をすることができる 3) インターンシップを通して、社会への理解、職業意識を高めることができる							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
		態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ■ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ■ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ■ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ (						

授 業 名	インターンシップ	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) 予め配布したプリントを読んで要点をまとめる。インターンシップとは何かをまとめる
第2回	グループワークの実践	(学修内容) 課題に対するグループワーク (事前事後学修課題の内容) 配布資料を読み、要点をまとめ、グループワークシートを記入
第3回	グループワークの復習	(学修内容) 課題に対するグループワークとグループワークの振り返り (事前事後学修課題の内容) 先週で学んだ自身の考え、反省点をまとめておく
第4回	事業所見学の準備	(学修内容) 会社見学先の企業研究発表 (事前事後学修課題の内容) 講義のまとめと疑問点を整理する。事業所の資料を読み、要点をまとめ質問を用意する
第5回	事業所見学の実施	(学修内容) 事業所見学 (事前事後学修課題の内容) 事業所見学先での意見や質問を考えておく
第6回	事業所見学のまとめ	(学修内容) 事業所見学の振り返り発表 (事前事後学修課題の内容) 事業所見学先で、自身が学んだことについてのレジュメ作成
第7回	インターンシップ説明会1回目(インターンシップ先事業所数社による説明会)	(学修内容) インターンシップ先事業所による内容と説明 (事前事後学修課題の内容) 当該事業所について、調べてまとめておく。インターンシップ先希望所を提出
第8回	インターンシップ説明会2回目(インターンシップ先事業所数社による説明会)	(学修内容) インターンシップ先事業所による内容と説明 (事前事後学修課題の内容) 当該事業所について、調べまとめておく。インターンシップ先希望書を提出
第9回	インターンシップ説明会3回目(インターンシップ先事業所数社による説明会)	(学修内容) インターンシップ先事業所による内容と説明 (事前事後学修課題の内容) 当該事業所について、調べまとめておく。インターンシップ先希望書を提出
第10回	インターンシップの準備	(学修内容) インターンシップ先の希望確認 (事前事後学修課題の内容) 発表会に向けてのレジュメを用意
第11回	事業所訪問1(インターンシップ先への訪問)	(学修内容) インターンシップ先への挨拶 (事前事後学修課題の内容) 当該事業所について、調べ、質問事項を用意しておく
第12回	事業所訪問2(インターンシップ先への訪問)	(学修内容) インターンシップ先への挨拶 (事前事後学修課題の内容) 当該事業所について、調べ、質問事項を用意しておく
第13回	事業所訪問3(インターンシップ先への訪問)	(学修内容) インターンシップ先への挨拶 (事前事後学修課題の内容) 当該事業所について、調べ、質問事項を用意しておく
第14回	インターンシップ事前発表会	(学修内容) インターンシップ先についての研究発表 (事前事後学修課題の内容) インターンシップ先についてレジュメ作成
第15回	インターンシップに向けて	(学修内容) インターンシップ先企業の最終確認と諸注意と抱負発表 (事前事後学修課題の内容) インターンシップに向けての自身の抱負を考えてまとめる。必要書類の作成

授 業 名	ビジネス英語		開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	IC2425
英 文 名	Business English		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	松尾 章子		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	ビジネスシーンで英語が使える人材の必要性は高い。ここでは、基本的なビジネスの場における英語表現を学修し、実際のビジネスシーンで活用できるようにする。また、ビジネス上重要な英語表現を反復し、ロールプレイを行うことで、英語で会話することへの抵抗感をなくし、楽しみながら生きた英語表現の修得を目指す。							
学修成果 到達目標	1) 英語で簡単な英語応対ができる。 2) プロトコルの基本的な考え方を理解している。 3) テキストに沿って、ビジネスEメールやビジネスレター、自身の英文履歴書を書くことができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 1 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解	○	汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	ビジネス英語	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の内容・進め方等説明、自己紹介 (事前事後学修課題の内容) 事前: シラバスを読み、テキストに目を通す 事後: 授業内容について振り返る
第2回	Unit 1 Receiving Visitors Part 1 来客対応の基本	(学修内容) Unit 1 内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: pp.8-10を声に出して読む 事後学修: p.11Exercise提出、会話テスト練習
第3回	Unit 2 Receiving Visitors Part 2 約束のない客、見送り	(学修内容) Unit 2 内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: pp.12-14を声に出して読む 事後学修: p.15Exercise提出、会話テスト練習
第4回	Unit 3 Telephoning Part 1 電話対応の基本	(学修内容) Unit 3 内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: pp.16-18を声に出して読む 事後学修: p.19Exercise提出、会話テスト練習
第5回	Unit 4 Telephoning Part 2 問い合わせ、伝言	(学修内容) Unit 4 内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: pp.20-22を声に出して読む 事後学修: p.23Exercise提出、会話テスト練習
第6回	Unit 5 Business Etiquette & Protocol Part 1 プロトコルの原則、出迎え、送迎	(学修内容) Unit 5 内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: pp.24-26を声に出して読む 事後学修: p.27Exercise提出、会話テスト練習
第7回	Units 6 & 7 Business Etiquette & Protocol Parts 2 & 3 車中での会話、観光案内、見送り	(学修内容) Units 6 & 7 内容確認、会話練習 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: pp.28-30, 32-34を声に出して読む 事後学修: pp.31&35Exercise提出、会話テスト練習
第8回	Unit 9 Presentation Part 2 自己紹介	(学修内容) Unit 9 内容確認、プレゼン練習 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: pp.40, 42を声に出して読む 事後学修: p.43Exercise提出、会話テスト練習
第9回	Unit 11 Business Email Writing Part 1 Eメールの構成	(学修内容) Unit 11内容確認、メール作成練習 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: pp.48-50を声に出して読む 事後学修: p.51Exercise提出、会話テスト練習
第10回	Unit 12 Business Email Writing Part 2 サンプルEメール	(学修内容) Unit 12内容確認、メール作成練習 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: pp.52-54を声に出して読む 事後学修: p.55Exercise提出、会話テスト練習
第11回	Unit 13 Business Letters ビジネス・レター	(学修内容) Unit 13内容確認、レター作成練習 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: pp.56-58を声に出して読む 事後学修: p.59Exercise提出、会話テスト練習
第12回	Unit 14 Job Hunting Part 1 英語による面接	(学修内容) Unit 14内容確認、面接練習 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: pp.60-62を声に出して読む 事後学修: p.63Exercise提出、会話テスト練習
第13回	自己紹介プレゼン(パワポ使用) 面接練習	(学修内容) プレゼン発表(自己紹介用パワポを作成)、面接練習 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: プレゼン用パワポを作成する、プレゼン練習を行う 事後学修: プレゼンの振り返りを行う
第14回	Unit 15 Job Hunting Part 2 英文履歴書の書き方	(学修内容) Unit 15内容確認、履歴書の書き方練習 (事前事後学修課題の内容) 事前学修: pp.64-66を声に出して読む 事後学修: p.67Exercise提出
第15回	総復習	(学修内容) 会話練習、総復習 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストを見直して、わからないところを探す 事後: 定期試験に向けて勉強する

授 業 名	消費者教育		開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	CS2431
英 文 名	Consumer Education		開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担 当 者	三室 久枝		対象学生	幼児教育2回生、総合文化2回生				
授業の概要	デジタル化、グローバル化等、現代社会の大きな動きの中で、消費生活の状況も刻々と変化しています。2022年4月に成年年齢が引下げられたことで、若い世代への消費者教育が一層注目されています。消費者を取り巻く現状や課題を理解し、消費生活トラブルの未然防止や早期解決のための基礎知識を身につけることが重要です。本授業では、消費生活に関する知識の習得とともに、消費者の権利や役割を認識して、自立した消費者として行動できる力の育成をめざします。また、理解を深めるためにグループワークやプレゼンテーション、ICT活用（双方向型授業）を取り入れます。							
学修成果到達目標	1.消費生活トラブルの現状や課題を理解し、消費者教育の必要性を説明できる。 2.契約の考え方や消費生活トラブルに巻き込まれたときの対処法を説明できる。 3.広告のルール、食品や電化製品等の表示の活用について説明できる。 4.製品等の事故予防に関するプレゼンテーションを5分間行うことができる。 5.持続可能な社会を見据えた消費行動について理解し、実践できる。							
事前事後学修について	各授業回到記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間)							
学位授与の方針との関連		知識・理解	○	汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	□ P B L □ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション □ 実習・フィールドワーク ■ I C T活用（双方向型授業） □ I C T活用（自主学習支援）							
評価方法	定期試験（50%） ☐ 筆記試験 ■ レポート □ 制作物 ☐ 口述 □ 実習 □ 実技			平常試験（50%） ☐ 筆記試験 ■ レポート □ 制作物 ■ 口述 □ 実習 □ 実技				
評価基準	主たる評価観点	■ 知識・理解 □ コミュニケーション能力 ■ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 □() □()						
テキスト	授業内でプリントを配布します。							
参 考 書	適宜、消費者庁、国民生活センター、nite等のweb教材を紹介します。							
課題に対するフィードバックの方法	課題はコメントを付して返却するとともに、次回授業で講評します。また、毎回、前回の授業内容について知識確認チェックを実施し、解説します。							
留意事項	消費生活に関する問題は社会の変化と密接に関連しているので、ニュースなど社会の動きに関心を持ってください。予習のほか、毎回授業の初めに前回授業の知識確認チェックを実施するので復習しておいてください。							
オフィスアワー	担当授業の前後に実施します。							
実践的教育	■ 実践的教育 教員の実務経験など：高校の家庭科非常勤講師、消費生活センターにおける消費者教育推進担当としての実務経験を活かして実践的な授業を行います。							

授 業 名	消費者教育	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、消費者教育とライフサイクル	(学修内容) 消費者教育の必要性、消費者教育推進法、ライフサイクルと生活生活（グループワーク）について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、シラバスを読み、確認したいことを準備する。事後、消費者教育の必要性、特に関心のある授業回についてまとめて提出。
第2回	消費者の権利と責任、消費者行政と消費者教育	(学修内容) 消費者の権利と責任、消費生活センターの役割、消費生活相談の現状について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、消費者庁のweb教材を読み、考えをまとめる。事後、消費生活センターの役割（相談対応と消費者教育）についてまとめて提出。
第3回	契約の基本とキャッシュレス社会	(学修内容) 契約の基礎知識、クレジットカード、電子マネー（ICT活用双方向型授業）について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、消費者庁のweb教材を読み、考えをまとめる。事後、クレジットカード利用の留意点をまとめて提出。
第4回	若い世代の消費生活トラブルと社会背景	(学修内容) 若い世代の消費生活トラブル事例と社会背景、心理、対処法（グループワーク）について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、国民生活センターのweb教材を読み、考えをまとめる。事後、指定された事例について問題点と対処法をまとめて提出。
第5回	消費者を守る法律（消費者契約法・特定商取引法等）	(学修内容) 契約の取消しや解除、クーリング・オフ制度について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、消費者庁の教材を読み、考えをまとめる。授業後、知識確認レポートをまとめて提出。。
第6回	ネットトラブル（情報を見る目、SNS利用の留意点、子どものネットトラブル）	(学修内容) SNSの特徴と情報のチェック点、トラブル事例と対処法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、SNSが関係するニュースを調べ、考えをまとめる。事後、SNS初心者に助言する場合の注意点をまとめて提出
第7回	ネットトラブル（ネット広告、ネット通販等）、プレゼンテーションの説明	(学修内容) 景品表示法、ネット通販のルールとトラブル事例・対処法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、消費者庁のweb教材を読み、考えをまとめる。事後、指定された事例について問題点と対処法をまとめて提出。
第8回	賃貸住宅の契約と不動産広告のルール	(学修内容) 不動産広告のルール、賃貸住宅契約時の留意点、原状回復をめぐるガイドラインについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、国民生活センターのweb教材を読み、知らない用語は調べる。事後、賃貸住宅を契約する場合の注意点をまとめて提出。
第9回	製品事故・子どもの事故と注意喚起（プレゼンテーション含む）	(学修内容) 事故事例と未然防止のための注意喚起について、プレゼンテーションを通して学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、プレゼンテーションの発表準備をする。事後、事故情報と注意喚起の周知についてまとめて提出。
第10回	高齢者の消費生活トラブル、啓発の工夫	(学修内容) 高齢者の消費生活トラブル事例と心理、啓発の工夫について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、国民生活センターのweb教材を読み、考えをまとめる。事後、指定された事例について、心理と啓発方法を考えて提出。
第11回	食品の表示と流通、デジタルマーケティングと消費者	(学修内容) 生鮮食品、加工食品の表示と活用（グループワーク）、デジタルマーケティングの特徴と消費者の関わり方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、日頃利用する加工食品のパッケージの表示を確認して持参する。事後、指定された加工食品の表示を見て、特徴をまとめて提出。
第12回	金融商品の特徴と活用	(学修内容) 社会保障のしくみ、保険・貯蓄・投資の特徴と生活設計への活かし方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、自分の進路、将来について考える。授業後、金融商品の利用について考えをまとめて提出。
第13回	災害への備えと災害時の消費生活トラブル	(学修内容) ハザードマップの活用、家庭での備え、災害時に多い消費生活トラブルと注意点（ICT活用双方向型授業）について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、記憶に残る自然災害について調べる。事後、周囲の人に伝えたいことをまとめて提出。
第14回	エシカル（倫理的）消費、SDGs、消費者志向経営	(学修内容) エシカル消費の意味とSDGsの関連、消費者・行政・企業の取組み、消費者志向経営について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、エシカル関連のマークのついた商品を探す。事後、エシカル消費周知のための消費者教育について考えをまとめて提出。
第15回	消費者市民社会と消費者教育	(学修内容) 消費者市民社会の考え方と消費者教育の重要性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、今までの授業資料を見直し、質問等があれば準備する。事後、今後の消費生活で実践していきたいことをまとめて提出。

授 業 名	情報サービス演習		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	渡邊 雄一		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	情報サービス、レファレンスサービス業務に必要な各種情報源（冊子体、電子データ）の基礎知識や検索理論・検索技法を講義と演習を通して学習する。また、図書館での蔵書検索、冊子体の文献情報の読み方、データベースの利用法等をテキストに記載されている演習課題を通して実践的に身につけていく。発信型情報サービスの理解を深めるために、グループワーク、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。							
学修成果 到達目標	1）図書館利用者の情報要求に対し、適切な情報源(電子情報、冊子情報)を用いて情報探索することができる。 2）情報検索理論を理解し、適切な情報検索技術を用いて検索することができる。 3）パスファインダーの調査成果についてプレゼンテーションすることができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	○	知識・理解			汎用的技能			
		態度・志向性		○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ■ プレゼンテーション ■実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ☐ I C T活用（自主学習支援）							
評価方法	定期試験 （50％） ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	情報サービス演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 本講義の概要を理解し、授業計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	情報サービスの設計と評価	(学修内容) 情報サービス、レファレンスサービスの概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容) テキスト1章、2章を読んで予習しておくこと。
第3回	情報探索の基礎	(学修内容) 情報検索理論について、検索方式、検索語、トランケーションを中心に学習する。 (事前事後学修課題の内容) テキスト2章を読んで予習しておくこと。
第4回	情報資源の探し方	(学修内容) さまざまな情報資源の種類、使い方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) 前回講義の検索基礎理論を理解しておくこと。テキスト3章を読んで予習すること。
第5回	Webページ、Webサイトの探し方	(学修内容) Webページ、Webサイト、検索エンジン、インターネット上の情報の探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) テキスト4章を読み予習すること。
第6回	図書情報の探し方	(学修内容) 図書情報の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) テキスト5章を読み予習すること。
第7回	雑誌および雑誌記事の探し方	(学修内容) 雑誌、雑誌記事の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) テキスト6章を読み予習すること。
第8回	新聞および新聞記事の探し方	(学修内容) 新聞の種類、特徴、探し方について学習する。(新聞記事集成については図書館にてレファレンス実習) (事前事後学修課題の内容) テキスト7章を読み予習すること。
第9回	言葉、事柄、統計の探し方	(学修内容) 言葉、事柄、統計資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館にてレファレンス実習) (事前事後学修課題の内容) テキスト8章を読み予習すること。
第10回	歴史、日時、地理、地名、地図の探し方	(学修内容) 歴史、日時、地理、地名、地図資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館にてレファレンス実習) (事前事後学修課題の内容) テキスト9章、10章を読み予習すること。
第11回	法律、判例の探し方	(学修内容) 法令、判例資料の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) テキスト12章1節を読み予習すること。
第12回	特許の探し方	(学修内容) 特許資料の種類、特徴、探し方について学習する。 (事前事後学修課題の内容) テキスト12章2節を読み予習すること。
第13回	人物、企業、団体の探し方	(学修内容) 人物、企業、団体資料の種類、特徴、探し方について学習する。(図書館にてレファレンス実習) (事前事後学修課題の内容) テキスト9、10章を読み予習すること。
第14回	発信型情報サービス	(学修内容) 発信型情報サービス(パスファインダー)の構築する。 (事前事後学修課題の内容) テキスト15章を読み予習すること。
第15回	パスファインダーの調査成果発表まとめ	(学修内容) パスファインダー調査成果を発表する。(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) 各自調査結果の発表準備を行う。

授 業 名	キャリアデザイン		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CS1401
英 文 名	Career Design		開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	堀出 雅人		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	キャリアとは、その語源をたどれば「人生」という意味をもつ。1回生のみなさんにとっては入学後間もない段階で次の進路を考えることに違和感を感じるかもしれない。しかし、この2年間の学びをより充実したものにするためには、これからの自分がどうありたいのか、目標や方向性を定めることが重要である。この授業を通して、人生100年時代と言われる今日受講生自身が人生の設計図を描き、その実現に向け行動する力を伸ばすことを目標としている。具体的には就職活動に向けた基礎的な知識やスキルを習得するとともに、人生の設計図を実現するためのライフイベント表（人生の出来事）とキャッシュフロー表（お金の流れ）の作成などである。授業の進捗度などによって、下記のシラバスの授業回の内容が前後する場合もある。授業中では、より学びを深めるために、プレゼンテーションやグループワークなど活動的な学習も行う予定もある。							
学修成果 到達目標	1）自らの将来を切り拓くため、働く意味、キャリアやキャリア・デザインの重要性を説明することができる。 2）進路実現のためインターンシップや実習や就職活動に取り組み意義と心構えを表現することができる。 3）人生の設計図としてライフイベント表とキャッシュフロー表を作成することができる。 4）仲間と積極的にコミュニケーションを取り協力して授業の課題に取り組むことができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ☐ I C T活用（自主学習支援）							
評価方法	定期試験 （50%） ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	キャリアデザイン	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) ガイダンスを聞き、なぜ人生設計が必要なのかを説明できる (事前事後学修課題の内容) 事前：シラバスを読んでくる 事後：授業の感想をまとめ提出
第2回	ライフキャリアの虹	(学修内容) ライフキャリアの虹を説明でき自らの予想図を描くことができる (事前事後学修課題の内容) 事前：キャリアの意味を調べてくる 事後：授業の感想をまとめ提出
第3回	自己分析	(学修内容) 過去から現在までの自分を振り返ることができる (事前事後学修課題の内容) 事前：これまでの人生で印象的だったことを思い出してくる 事後：授業の感想をまとめ提出
第4回	社会人基礎力	(学修内容) 社会人基礎力を説明できる (事前事後学修課題の内容) 事前：社会で求められる力を調べてくる 事後：授業の感想をまとめ提出
第5回	幼稚園、保育所、こども園について(基礎)	(学修内容) 保育者として勤務できる代表的な教育・保育施設について説明できる (事前事後学修課題の内容) 事前：幼稚園や保育所、こども園の機能について調べてくる 事後：授業の感想をまとめ提出
第6回	それぞれの園の特色(就職先選びの基礎)	(学修内容) ウェブページなどからいくつか園を調べ整理することができる 次回の発表に向けてプレゼンの計画を立てることができる (事前事後学修課題の内容) 事前：興味のある園を調べてくる 事後：プレゼン資料の作成
第7回	【プレゼンテーション】 学修成果の報告	(学修内容) プレゼンテーションを通して発信力を高めることができる (事前事後学修課題の内容) 事前：プレゼン資料の作成 事後：授業の感想をまとめ提出
第8回	ライフステージ(成長・探索段階)	(学修内容) 人生の成長・探索段階のイベントや課題を説明できる (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定する頁を読んでくる 事後：授業の感想をまとめ提出
第9回	ライフステージ(確立・維持段階)	(学修内容) 人生の確立・維持段階のイベントや課題を説明できる (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定する頁を読んでくる 事後：授業の感想をまとめ提出
第10回	ライフステージ(下降段階)	(学修内容) 人生の下降段階のイベントや課題を説明できる (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定する頁を読んでくる 事後：授業の感想をまとめ提出
第11回	ライフイベント表の作成	(学修内容) ライフイベント表を作成できる (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定する頁を読んでくる 事後：授業の感想をまとめ提出
第12回	キャッシュフロー表の作成	(学修内容) キャッシュフロー表を作成できる (事前事後学修課題の内容) 事前：テキストの指定する頁を読んでくる 事後：授業の感想をまとめ提出
第13回	【グループワーク】 ライフイベント表とキャッシュフロー表の成果共有	(学修内容) 作成したライフイベント表とキャッシュフロー表の要点を説明できる (事前事後学修課題の内容) 事前：作成した2つの表の説明する要点をまとめる 事後：他者からの意見をもとに2つの表を修正する
第14回	就職活動について(キャリアセンターによる説明)	(学修内容) 本学キャリアセンターの機能を理解し支援事業を活用することができる (事前事後学修課題の内容) 事前：これまで受けた進路指導を思い出し書き出してくる 事後：授業の感想をまとめ提出
第15回	インターンシップとアルバイト	(学修内容) キャリア開発に向けて学生時代に取り組みインターンシップとアルバイトの重要性について説明できる (事前事後学修課題の内容) 事前：アルバイトの経験やインターンシップの希望を書き出す 事後：授業の感想をまとめ提出

授 業 名	キャリア実践演習			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CS2120
英 文 名	Career Practical Seminar I			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	富川 拓			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	この授業では、目前に迫った進路決定の実現に向けて、計画的、綿密的な実践を行うことを目的とする。授業では、就職活動本番に向けてグループディスカッションや面接、発表、討議、各種書類の作成などを行う。また、企業や自治体、国や地域が抱える課題の解決策を検討することを通して、社会人としての基礎的な力を身につける。この講義を就職活動や進路活動と結びつけ、学生間で情報共有も図りたい。								
学修成果 到達目標	1) 自己の進路実現と連携する 2) 就職活動について、明確な意識を持つ 3) 就職活動情報を共有する								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 1 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	■ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク ■ I C T活用 (双方向型授業) □ I C T活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 □筆記試験 ■レポート □制作物 (50%) □口述 □実習 □実技				平常試験 □筆記試験 ■レポート □制作物 (50%) □口述 □実習 □実技				
評価基準	主たる評価 観点	□知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲 ■(社会人基礎力) □()							
テキスト	使用しない。プリントを配布								
参 考 書	授業中に適宜指示する								
課題に対する フィードバック の方法	グループワークや発表、レポートなどに関して、全体的な講評を行う。								
留意事項	キャリアセンターが実施する企画に参加する場合がある。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授 業 名	キャリア実践演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容、学修成果・到達目標、評価方法などについて。就職活動の諸注意 (事前事後学修課題の内容) 事前 シラバスを読んでおくこと。事後 自身の就職活動等の現状を踏まえ、今後の活動について検討する。
第2回	就職活動に向けて	(学修内容) 社会人基礎力について (事前事後学修課題の内容) 事前 就職活動のスケジュールを確認し整理しておくこと。 事後 エントリーシートの作成準備をすること。
第3回	エントリーシートの作成	(学修内容) 就職活動を想定して、エントリーシートを作成する (事前事後学修課題の内容) 事前 ワークシートをまとめておくこと。 事後 エントリーシートを完成させること。
第4回	履歴書等の作成	(学修内容) 就職活動を想定して、履歴書等を作成する (事前事後学修課題の内容) 事前 ワークシートをまとめておくこと。 事後 履歴書を完成させること。
第5回	コミュニケーション力を身につける その1 時事問題をもとにしたグループワークの実践	(学修内容) グループワークの実践。時事問題をもとに意見交換を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 時事問題に関する授業資料を各自で確認しておくこと。事後 グループワークを振り返り、自身の能力、長所・短所を再確認する。
第6回	コミュニケーション力を身につける その2 新聞記事をもとにしたグループワークの実践	(学修内容) グループワークの実践。各自が選定した新聞記事をもとに意見交換を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 新聞記事を選定しておくこと。自身の考えを整理しておく。事後 グループワークを振り返り、自身の能力、長所・短所を再確認する。
第7回	面接練習 その1 個人面接	(学修内容) 個人面接の練習 (事前事後学修課題の内容) 事前 ワークシートをまとめておくこと。事後 個人面接の練習を振り返り、自身の能力、長所・短所を再確認する。
第8回	面接練習 その2 グループ面接	(学修内容) グループ面接の練習 (事前事後学修課題の内容) 事前 ワークシートをまとめておくこと。事後 グループ面接の練習を振り返り、自身の能力、長所・短所を再確認する。
第9回	グループディスカッション	(学修内容) 就職活動を想定したグループディスカッションの練習 (事前事後学修課題の内容) 事前 ワークシートをまとめておくこと。事後 グループディスカッションを振り返り、自身の能力、長所・短所を再確認する。
第10回	ディベート	(学修内容) 就職活動を想定したディベートの練習 (事前事後学修課題の内容) 事前 ワークシートをまとめておくこと。事後 ディベートを振り返り、自身の能力、長所・短所を再確認する。
第11回	実践活動(発展編) その1 企業などの課題を把握	(学修内容) 企業や自治体、国や地域が実際に抱えている課題を取り上げ、その解決策を検討する (事前事後学修課題の内容) 事前 関連情報を収集しておくこと。 事後 解決策の検討に向けて、情報収集等を進める。
第12回	実践活動(発展編) その2 中間報告書の作成	(学修内容) 解決策を検討し、中間報告書を作成する (事前事後学修課題の内容) 事前 情報収集をすすめ、解決策の具体的な案を検討しておくこと。 事後 中間報告書の加筆修正を行う。
第13回	実践活動(発展編) その3 中間発表	(学修内容) 検討した解決策を発表し(中間発表)、意見交換を行う (事前事後学修課題の内容) 事前 中間発表に向けて発表練習をしておくこと。 事後 意見交換の結果をもとに、最終報告書の作成を進める。
第14回	実践活動(発展編) その4 最終発表	(学修内容) 検討した解決策を発表し(最終発表)、意見交換を行う (事前事後学修課題の内容) 事前 最終発表に向けて発表練習をしておくこと。事後 最終発表用資料を修正し提出する。実践活動の振り返りレポートを作成する。
第15回	まとめ、振り返り、今後の活動について	(学修内容) 授業内容を振り返り、今後の活動について検討する (事前事後学修課題の内容) 事前 これまでの授業資料の内容を再度確認し、理解を深めておくこと。 事後 今後の活動に関するレポートの作成

授 業 名	キャリア実践演習			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CE2445
英 文 名	Career Practical Seminar			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	富川 拓			対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	この授業では、実践を通して、社会人になるための心構えや知識を涵養することを目的とする。特に、「職場や地域社会で多様な人々と仕事、生活をしていくために必要な基礎的な力」である社会人基礎力を身につける。本授業ではICT活用する。（双方向型授業）								
学修成果 到達目標	1) 社会人基礎力を完成する 2) 現代社会を把握する 3) 自己の将来設計を明確にする								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 1時間）								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	■ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク ■ I C T活用（双方向型授業） □ I C T活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験 □筆記試験 ■レポート □制作物 （50%） □口述 □実習 □実技				平常試験 □筆記試験 ■レポート □制作物 （50%） □口述 □実習 □実技				
評価基準	主たる評価 観点	□知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲 ■（社会人基礎力 ）□（ ）							
テキスト	使用しない。プリントを配布する								
参 考 書	講義中に適宜指示する								
課題に対する フィードバック の方法	グループワークや発表、レポートなどに関して、全体的な講評を行う。								
留意事項	キャリアセンターが実施する企画に参加する場合がある。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授 業 名	キャリア実践演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容、学修成果・到達目標、評価方法などについて (事前事後学修課題の内容) シラバスを読んでおくこと
第2回	社会人基礎力 その1	(学修内容) 社会人基礎力について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読んでおく
第3回	社会人基礎力 その2	(学修内容) 引き続き、社会人基礎力について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読んでおく
第4回	新聞の読み方	(学修内容) 新聞の読み方やウェブ上のニュース記事の読み方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読んでおく
第5回	グループディスカッション その1	(学修内容) テーマにもとづき、グループディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読んでおく
第6回	グループディスカッション その2	(学修内容) テーマにもとづき、グループディスカッションを行う (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読んでおく
第7回	実践活動(入門編) その1	(学修内容) 企業や自治体が実際に抱えている課題について、企業や自治体の方からお話を伺う。 (事前事後学修課題の内容) 関連情報を収集しておく
第8回	実践活動(入門編) その2	(学修内容) 企業や自治体が実際に抱えている課題を取り上げ、その解決策を検討する (事前事後学修課題の内容) 関連情報を収集し、中間報告用資料を作成する
第9回	実践活動(入門編) その3	(学修内容) 企業や自治体が実際に抱えている課題を取り上げ、その解決策を検討する。検討した案を発表し(中間報告)、意見交換を行う。 (事前事後学修課題の内容) 中間報告の練習を行う
第10回	実践活動(入門編) その4	(学修内容) 中間報告、意見交換の結果をもとに、解決策を再検討する。 (事前事後学修課題の内容) 関連情報を収集し、最終報告用資料を作成する
第11回	実践活動(入門編) その5	(学修内容) 検討した案を発表し(最終報告)、意見交換を行う。 (事前事後学修課題の内容) 最終報告用資料を修正し、提出する。実践活動の振り返りレポートを作成する。
第12回	自己分析	(学修内容) 自己分析を行う (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読んでおく
第13回	自己PR文等の作成	(学修内容) 自己PR文等を作成する (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読んでおく
第14回	キャリアプランの作成	(学修内容) ジェンダー等の視点を踏まえ、キャリアプランを作成する (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読んでおく
第15回	まとめ、振り返り、今後の活動について	(学修内容) 授業内容を振り返り、今後の活動について検討する (事前事後学修課題の内容) 今後の活動に関するレポートの作成

授 業 名	情報ビジネス演習		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CS1402
英 文 名	Information Business Practice		開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	積 高之		対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	PCの基本操作からクラウドサービス、生成AIツールの活用方法までを包括的に学ぶ講義。女子短大生向けに、できるだけわかりやすく、かつ実践的な内容にする。短大のPC教室で実際に手を動かしながら、Canvaでポスターを作成したり、生成AIを使ってプレゼン資料や音楽を作ったりして、楽しみながらデジタルリテラシーを高める。							
学修成果 到達目標	1. PCの基本的な仕組みと操作（電源の入れ方、キーボード・マウス操作、ファイル操作など）ができる 2. オンラインアカウントの作成やクラウドストレージの使い方を理解し、安全に活用できる 3. Canvaなどのデザインツールを用いて、簡単な画像・ポスターなどを作れる 4. 生成AI（ChatGPTなど）を使ってプレゼン資料や音楽などを作成し、発表に生かせる 5. セキュリティやネットリテラシーの基本を理解し、安全にインターネットを利用できる							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）							
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ☐ I C T活用（自主学習支援）							
評価方法	定期試験（60%） ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験（40%） ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()						
テキスト	使用しない。公開されているウェブ教材、チュートリアルサイトなどを適宜利用。 必要に応じてテキストをPDFにて配布							
参 考 書	適宜紹介する							
課題に対する フィードバック の方法	授業内ないしコメントでフィードバック							
留意事項	"PC教室以外の場合、PC持参のこと。（学校貸出可） Macを推奨・事前に自分個人のGmailアドレスを習得しておくこと。 受講生の理解進捗度によって、講義内容を変更することもある。"							
オフィス アワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。メールで予約すること。							
実践的教育	☐ 実践的教育 教員の実務経験など：ITコーディネータ資格を持つコンサルタントとして10年の活動実績、チーフSNSマネージャーとして5年の経験、ウェブ解析士協会理事、デジタル庁デジタル推進委員など、事例の具体的な解説やワークショップなど、これらの経験を活かした実践的教育を行う。							

授 業 名	情報ビジネス演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・PCの基礎	(学修内容) 授業概要の説明PCの基本構成ログイン・ログアウトフォルダとファイルの概念<授業中演習> PC起動とファイル操作の確認 (事前事後学修課題の内容) 事前: 最低限ホーム画面に入れるようにする 事後: 今日学んだPC操作を復習
第2回	タイピング練習・文字入力の基本	(学修内容) 日本語入力(ローマ字)設定文章作成ソフト(Googleドキュメント)の基礎タイピングゲームなどで練習<授業中演習> 自己紹介文の作成 (事前事後学修課題の内容) 事前: 操作説明の資料にざっと目を通す 事後: タイピングゲームを週数回プレイし、スコア向上を目指す
第3回	インターネットの仕組みと検索のコツ	(学修内容) ブラウザの基本操作Google検索やSNSの活用検索キーワードの工夫と情報の信頼性<授業中演習> 検索ワードを変えて結果を比較 (事前事後学修課題の内容) 事前: 興味あるトピックを1つ考えておく 事後: 授業で学んだ検索テクニックを使って気になるテーマをリサーチ
第4回	クラウド活用(Googleドライブなど)	(学修内容) オンラインストレージにファイルのアップロード/ダウンロードフォルダ共有・アクセス権限設定管理やセキュリティ意識ファイルの共同編集 (事前事後学修課題の内容) 事前: クラウドサービスの種類を調べる 事後: アップロードしたファイルの共有リンクを家族や友人とテスト
第5回	Canvaでポスターづくり	(学修内容) Canvaアカウントの登録と基本操作・テンプレートを使ったデザイン文字・色・画像配置のポイント (事前事後学修課題の内容) 事前: Canva公式チュートリアルを眺めてイメージをつかむ 事後: 完成したポスターをPDFで出力し、SNSなどでシェア
第6回	生成AIの基礎(ChatGPTなど)	(学修内容) 生成AIツールの概要プロンプトの書き方とコツAIの得意・不得意の把握<授業中演習> ChatGPTに質問して生成文を比較・検討 (事前事後学修課題の内容) 事前: ChatGPTやAI関連のニュース記事を1つ読む 事後: 好きなトピックをAIに質問して追加情報をノートにまとめる
第7回	AIでプレゼン資料を作ってみる	(学修内容) AIの文章生成を下書きに活用し、プレゼンの構成を考える発表時の見せ方・話し方<授業中演習> AI生成文をスライドに活用して発表練習 (事前事後学修課題の内容) 事前: 簡単なプレゼンテーマを考えておく 事後: 作成したスライドを自宅で1回通し練習
第8回	AIで音楽・音声合成を試してみる	(学修内容) 音楽生成AI/音声合成ツールの紹介 簡単なBGMやナレーションを生成・編集 (事前事後学修課題の内容) 事前: 好きなアーティストや曲のイメージを考えておく 事後: 作成した音源をプレゼンや動画のBGMに流用
第9回	グループワーク ~作品づくり	(学修内容) Canva/生成AI/音楽ツールを活用し、ポスター・プレゼン資料・BGMなど複合的に制作アイデア出し、グループでテーマを決めて共同制作 (事前事後学修課題の内容) 事前: チーム内でどんなテーマにするか意見出し 事後: 分担パートを家庭や図書館PCで作業し、クラウドに共有
第10回	グループワーク ~作品ブラッシュアップ	(学修内容) AIで追加案を検討グラフィック/音楽の調整、中間発表とフィードバック共有、各グループが途中成果を発表し、アドバイスを交換 (事前事後学修課題の内容) 事前: 中間発表用の資料を簡単にまとめる 事後: もらった改善点を各自の担当パートに反映
第11回	セキュリティとネットリテラシー	(学修内容) ウイルスマルウェア、フィッシング詐欺の基礎、個人情報管理、強固なパスワードや二段階認証の重要性、アカウントのセキュリティ設定 (事前事後学修課題の内容) 事前: 自分のパスワード管理方法を振り返る 事後: 授業内容を家族や友人にもシェアして説明
第12回	便利なツールやサービスの活用	(学修内容) オンラインメモ(Google Keepなど)やカレンダー無料素材サイト(写真・イラスト)自分に合ったアプリ・サービスを選ぶコツ (事前事後学修課題の内容) 事前: 来週までの予定をざっくりまとめておく 事後: 見つけた無料素材サイトをクラスのオンライン掲示板で共有
第13回	発表準備	(学修内容) これまでの成果物を仕上げるデモやりハーサルを行い、見せ方・話し方を工夫、各自で最終プレゼンを想定したりハーサル (事前事後学修課題の内容) 事前: 前回までのフィードバックを整理 事後: 仕上げ中のスライドやポスターの完成度を高める
第14回	最終発表会	(学修内容) グループ/個人作品の発表講評とフィードバッククラウド上での共有方法確認<授業中演習> 本番発表と質疑応答 (事前事後学修課題の内容) 事前: 発表に使う資料をクラウドへアップしておく 事後: 発表会で得たフィードバックをレポートなどに反映
第15回	振り返りと今後の展望	(学修内容) 学んだスキルの振り返り今後の学習やキャリアへの応用講義全体のフィードバック<授業中演習> アンケートや感想文の共有 (事前事後学修課題の内容) 事前: これまでの学習を整理 事後: まとめレポート(A4で1枚程度)を提出

授 業 名	情報文化と倫理		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CE2431
英 文 名	Information Culture and Ethics		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	湯川 宗紀		対象 学生	幼児教育2回生				
授業の概要	PC、ネット、スマホ等々が日常に欠かせなくなり、意識さえしなくなった世界、それはどのような世界で我々にどんな恩恵をもたらし、どのような不幸をもたらすのか。 現代に至るまでのメディアの歴史、それによる社会変容、理論的研究を紹介し、現代における情報文化の問題点と倫理について資料・映像を使い、事例を交えながら考えていきます。 アクティブ・ラーニング対象授業							
学修成果 到達目標	1.メディアの変化を歴史的に学ぶことにより現状の情報文化を把握することができる。 2.これまでのメディア研究から情報に対する倫理を理解することができる。 3.現在のネット環境と自身との関わり方を考えることができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 3 0 分)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ■ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (100%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	情報文化と倫理	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 講義計画 (事前事後学修課題の内容) シラバスの内容を確認しておく
第2回	聞くことから観ること	(学修内容) 語りから文字への変化について (事前事後学修課題の内容) 事前:語りから文字への変化について思いつくことをメモしておく。 事後:語りから文字への変化についてまとめて復習する。
第3回	書物	(学修内容) グーテンベルクの活版印について (事前事後学修課題の内容) 事前:活版印刷について調べ、メモをして予習しておく。 事後:グーテンベルクについてまとめて復習する。
第4回	書物が誕生する社会的背景	(学修内容) 社会状況と印刷技術について (事前事後学修課題の内容) 事前:当時の社会状況について調べ、メモをして予習しておく。 事後:当時の社会状況についてまとめて復習する。
第5回	書物がもたらした社会変容	(学修内容) 技術による社会変容について (事前事後学修課題の内容) 事前:社会変容について思いつくことを調べ、予習しておく。 事後:技術による社会変容についてまとめて復習する。
第6回	出版メディアの誕生	(学修内容) マス・メディア、新聞の誕生について (事前事後学修課題の内容) 事前:マスメディアについて思いつくことを調べ、メモしておく。 事後:新聞の誕生についてまとめて復習する。
第7回	電子メディア・ラジオの誕生	(学修内容) ラジオと聴衆についての理論紹介 (事前事後学修課題の内容) 事前:ラジオについて思いつくことを調べ、メモをして予習しておく。 事後:理論についてまとめて復習する。
第8回	電子メディア・テレビの誕生	(学修内容) テレビと視聴者についての理論紹介 (事前事後学修課題の内容) 事前:テレビについて思いつくことを調べ、メモをして予習しておく。 事後:理論についてまとめて復習する。
第9回	コンピュータの歴史	(学修内容) コンピューターの発展とその背景について (事前事後学修課題の内容) 事前:コンピュータについて思いつくことを調べ、メモしておく。 事後:コンピュータの歴史についてまとめて復習する。
第10回	インターネットの歴史	(学修内容) インターネットの歴史、特に日本国内での歴史について (事前事後学修課題の内容) 事前:インターネットについて思いつくことを調べ、メモしておく。 事後:インターネットの歴史についてまとめて復習する。
第11回	「検索」が世界を創る	(学修内容) 検索システムによる社会変容について (事前事後学修課題の内容) 事前:検索システムについて思いつくことを調べ、メモしておく。 事後:検索システムによる社会変容についてまとめて復習する。
第12回	新しい『1984』 SNSで楽しみ進める監視・管理社会	(学修内容) SNSの問題点、倫理点について (事前事後学修課題の内容) 事前:SNSの問題点について思いつくことを調べ予習しておく。 事後:SNSの問題点、倫理点についてまとめて復習する。
第13回	IoTとビッグデータ	(学修内容) 現状のIT技術の紹介と問題点について (事前事後学修課題の内容) 事前:現状のIT技術について思いつくことを調べ、予習しておく。 事後:その問題点についてまとめて復習する。
第14回	意識すら出来ないIT化社会での倫理	(学修内容) 現代社会でのITリテラシーについて (事前事後学修課題の内容) 事前:ITリテラシーについて思いつくことを調べ、予習しておく。 事後:現代社会でのITリテラシーについてまとめて復習する。
第15回	まとめ	(学修内容) これまでのまとめ (事前事後学修課題の内容) 事前:情報文化と倫理について思いつくことを調べ、予習しておく。 事後:情報文化と倫理についてまとめて復習する。

授 業 名	情報サービス		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名	Information Service		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	渡邊 雄一		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	図書館における情報ニーズとサービス、レファレンスツール及びレファレンスプロセスについて学習する。情報サービスとは何か、また情報やサービスを提供する際に注意すべきことは何か、図書館と図書館員の役割を把握することが目的である。図書館における情報サービスの実際を理解するために、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを行いながら授業を進める。							
学修成果 到達目標	1）図書館における情報サービスの種類とその内容について説明することができる。 2）レファレンス事例とレファレンス資料に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。 3）情報検索システムにおける論理演算の役割について説明することができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解	○	汎用的技能				
		態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ☐ I C T活用（自主学習支援）							
評価方法	定期試験 （60％） ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 （40％） ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()						
テキスト	適宜、プリントを配布する。							
参 考 書	『情報サービス論』（現代図書館情報学シリーズ5）、山崎久道・原田智子・樹村房、2019年							
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして理解度を測る小テストを実施後、解答の解説を行います。							
留意事項	・図書館の情報サービスについて理解を深めるために、公共図書館などに出向き、興味関心のあるテーマについて図書館員に質問し、レファレンスサービスを体験していただくことが望ましい。 ・本講義において学習するレファレンスサービス理論及び情報検索理論は、「情報サービス演習」において発展的にレファレンス演習課題として取り組む際に必要となる理論である。本講義中に基礎的な理論はしっかりと理解し、「情報サービス演習」の学習に繋げてもらいたい。							
オフィス アワー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。							
実践的教育	☐ 実践的教育 教員の実務経験など：レファレンス担当図書館員として大学図書館に勤務、その経験を活かして事例の紹介など、実践的に進める。							

授 業 名	情報サービス	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) シラバスを読んでおくこと。
第2回	情報社会と図書館	(学修内容) 「情報の仲介者」としての図書館の役割について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 情報社会の特質についてまとめたプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第3回	情報サービスの実際 直接的サービス	(学修内容) 情報サービスのうち直接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 第1回授業で解説したレファレンスサービスの概要について復習し、レファレンスサービスの定義をまとめておくこと。
第4回	情報サービスの実際 間接的サービス	(学修内容) 情報サービスのうち間接的サービスの内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 情報サービスの種類と内容をまとめたプリントを読み、間接的サービスの内容をまとめておくこと。
第5回	レファレンスサービスの理論と実際	(学修内容) レファレンスサービスの理論を学習する。サービスの実施に関わる具体的問題についてグループディスカッションを行うことで理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) レファレンスサービスの理論に関わる配付プリントを読み、最大理論に関連する箇所をまとめておくこと。
第6回	レファレンスプロセス	(学修内容) レファレンスプロセスの概念について学習し、情報探索行動に対応したレファレンスプロセスの在り方について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) レファレンスプロセスに関するプリントを配付するのでよく読んでおくこと。
第7回	情報検索と情報検索システム 種類と内容	(学修内容) 情報検索の種類・内容について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 情報検索システムに関する配付資料を読み、蓄積過程に関連する箇所をまとめておくこと。
第8回	情報検索と情報検索システム 検索過程	(学修内容) 論理演算の概念を中心に情報検索システムにおける検索過程を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 図書館に行き、OPACを用いて特定のテーマに関する情報検索を行い、結果をまとめておくこと。
第9回	情報サービスにおける各種情報源の利用法	(学修内容) 個々の情報源の特性を理解し、多様な情報源を駆使した情報サービスを提供する技能を習得する。 (事前事後学修課題の内容) 図書館に行き、授業中に紹介した各種情報源を手に取り、利用すること。
第10回	情報サービスと知的財産権	(学修内容) 著作権法について概説し、図書館における複写サービスなどについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) 図書館に行き、複写サービスの内容と範囲を確認しておくこと。
第11回	オンラインデータベース	(学修内容) オンラインデータベースの作成から利用までの流れを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 図書館に行き、いくつかのオンラインデータベースを用いて情報検索を行い、それぞれのオンラインデータベースの特徴をまとめておくこと。
第12回	電子ジャーナル	(学修内容) 電子ジャーナルの種類について概説する。オープンアクセス雑誌と機関リポジトリについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) 図書館に行き、電子ジャーナルを利用しておくこと。
第13回	レファレンス事例について(プレゼンテーション)	(学修内容) レファレンス質問とその回答についてまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 発表レジュメを作成する。
第14回	レファレンス資料の概要について(プレゼンテーション)	(学修内容) 前回のレファレンス事例中にある参考資料について、レファレンス資料としての特徴をまとめ、プレゼンテーションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 発表レジュメを作成する。
第15回	まとめ	(学修内容) 今後の情報サービスのあり方について考える。 (事前事後学修課題の内容) 前回までの配付プリントを読んでおくこと。

授 業 名	プログラミング演習			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	IC2436
英 文 名	Programming Practice			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	北本 悠伍			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	本講義では、プログラミング未経験者／初学者を対象とし、色鮮やかな模様を描いたり、それらに動きを与えたりする等の、視覚表現に特化したプログラミング演習を実施する。 一般的に「プログラミング」といえば、専門領域にいる者だけが習得可能な技術・技能であると考えられがちだが、本講義では、プログラミングをより「視覚的」、あるいは「直観的」に捉えるという視点から、こうした既成概念を払拭する。 具体的には、入力文字や計算結果を画面上に表示させたり、表計算やグラフ等のシステムを構築していくといった「データサイエンス」的な手法ではなく、グラフィックデザインや絵画作品などの視覚表現を参照しながら、画面上のカラフルな絵柄を操作するといった「図画工作」的な手法を採用することで、プログラミングをより身近な「表現手法」のひとつとして体感することを目指す。 「表現としてのプログラミング」という切り口から本演習を実施するため、その過程を通じて、プログラミングに関わる								
学修成果 到達目標	(1) 平易なプログラムの記述や書き換えによって、画面上に色鮮やかな図柄や動きを生成することができる。 (2) グラフィックデザインや絵画作品などの視覚表現を参照し、別途独自のプログラムを制作することができる。 (3) 視覚的かつ双方向的なプログラミングを通して、プログラミングに関わる基礎的概念や思考方法を身につけ、活用することができる。 (4) プログラミングによる制作過程において生じた不明点を明確化・具体化し、適切な情報収集と必要な情報の取捨選択とによって、自身の手で解決することができる。 (5) (1) ～ (4) で培った技術・技能を活かし、自身のアイデアの企画・構想から成果物としてまとめ上げるまでの一連の流れを総合的に成し遂げることができる。 (6) (1) ～ (5) を通じて習得した情報収集力、取捨選択の判断力、アイデアの企画・構想から成果物としてアウトプットするまでの総合的な経験を活用し、自身のキャリアや将来の活動へと応用することができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 1 時間)								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	■ P B L □ ディスカッション・ディベート □ グループワーク □ プレゼンテーション □ 実習・フィールドワーク ■ I C T 活用 (双方向型授業) ■ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (60%) □ 筆記試験 □ レポート ■ 制作物 								

授 業 名	プログラミング演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：クリエイティブ・コーディング入門	(学修内容) 本講義における「プログラミング」とは何かについて共有する。また、講義時に利用するプラットフォームの基本準備を整える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：「p5.js」と画像検索し、興味をもった作品や記事を調べる。 事後：講義時に紹介した類似作品を探し、その表現の特徴を考える。
第2回	色と形のコラボレーション：基本的な描画方法	(学修内容) 色や形を用いた基本的な描画を通して、視覚的な切り口からプログラミングへと入門する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：色や形を活かしたデザインを観察し、印象に残ったものをまとめる。 事後：講義で作成したスケッチを改変し、異なる色や形を試す。
第3回	色と形のコラボレーション：描画スタイルと描画順	(学修内容) 線や塗りなどを工夫し、描画に多彩な表情を与える。また、プログラムの記述する順序によって描画にどのような変化が生じるかを探究する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：線や塗りが印象的なデザインを探し、描画スタイルを観察する。 事後：描画順を入れ替えたり、線や塗りを工夫したスケッチを試す。
第4回	規則的なデザイン：パターンを見抜く	(学修内容) 規則的に並んだ模様を作成することを通して、プログラムの強みである「数をこなすこと」を活かした表現やその仕組みについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：規則的な模様の使われたデザインを探し、その特徴を観察する。 事後：講義で作成したスケッチを改変し、配置や間隔を調整して試す。
第5回	予測不可能なデザイン：ランダム性を取り入れる	(学修内容) 規則的に配置された模様ランダムな要素を加えることで、「予測不可能なデザイン/偶然性のあるデザイン」の可能性について探る。 (事前事後学修課題の内容) 事前：規則的なデザインとランダムなデザインとを比較し、特徴を考える。 事後：講義のスケッチを改変し、ランダム性の効果を考察する。
第6回	アニメーションの基本：パラパラ漫画を通して	(学修内容) アニメーションの仕組みについて理解し、パラパラ漫画の原理を応用した動きのある表現を実現する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：パラパラ漫画やアニメの基本的な仕組みを調べる。 事後：講義で作成したアニメーションを改変し、動きの速度や軌道を調整する。
第7回	アニメーションの応用：さまざまなバリエーション	(学修内容) アニメーションの仕組みを踏まえ、動きのあるバリエーションを広げることによって、より多彩な表現を探る。 (事前事後学修課題の内容) 事前：多様なアニメーション表現を調べ、特徴や動きの違いを考える。 事後：講義のスケッチを改変し、動きのバリエーションを試す。
第8回	インタラクティブな表現：マウス入力とキーボード入力	(学修内容) マウスクリックやキーボード操作の仕組みを取り入れ、インタラクティブな(双方向的な)表現を実現する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：インタラクティブ作品を調べ、マウスやキー操作の活用を考える。 事後：講義のスケッチを改変し、マウスやキー操作の動作を試す。
第9回	文字のデザイン：タイポグラフィー	(学修内容) 「文字」をビジュアル要素として扱い、レイアウトやスタイルを工夫しながら、タイポグラフィーによる表現を探る。 (事前事後学修課題の内容) 事前：タイポグラフィーを活用したデザインを調べ、特徴を考える。 事後：講義のスケッチを改変し、文字の配置や装飾を試す。
第10回	画像を取り入れる：動的に変化するビジュアル	(学修内容) 「画像」を取り入れ、リアルタイムに変形・加工を加えることで、動的なビジュアル表現の可能性を探究する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：画像を活用した動的なビジュアル表現を調べ、特徴を考える。 事後：講義のスケッチを改変し、画像の変形や動きを試す。
第11回	音を取り入れる：視覚と聴覚のシンクロ	(学修内容) 「音」を取り入れることにより、視覚と聴覚とを組み合わせた動的なメディア表現を試みる。 (事前事後学修課題の内容) 事前：音と映像とが連動した作品を調べ、視覚と聴覚の関係を考える。 事後：講義のスケッチを改変し、音と連動した動きを試す。
第12回	グリッドのデザイン：パターンを組み立てる	(学修内容) 繰り返しのルールを活かし、グリッド状に配置されたパターンからなる表現を展開する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：規則的な模様やパターンを調べ、その特徴を考える。 事後：講義のスケッチを改変し、異なるパターンを試す。
第13回	ノイズのデザイン：自然な変動	(学修内容) 自然界に見られる「揺らぎ」を活かし、無秩序なランダム性との違いを考えながら、滑らかで有機的な変化を伴うデザインを探索する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：自然界の揺らぎやノイズを活用したデザインを調べる。 事後：講義のスケッチを改変し、ランダムとノイズの違いを考察する。
第14回	まとめ + 制作：アイデアの企画・構想	(学修内容) これまでの学びを総合し、最終作品のアイデアを整理する。また、表現の方向性を定め、制作へとつなげる。 (事前事後学修課題の内容) 事前：最終作品へ取りかかるため、参考となる類似作品や表現手法を調べてまとめる。 事後：最終作品の試作を進める。
第15回	まとめ + 制作：仕上げ	(学修内容) 最終作品を仕上げる。また、本講義で得た技術・技能などの経験を活かし、自身のキャリアへとどのように応用していくかを展望する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：最終作品の仕上げに取りかかる。 事後：本講義の経験を今後のキャリアへと応用するための展望をまとめる。

授業名	生涯学習			開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	IC2435
英文名	Lifelong Learning			開講時期	秋学期		必修選択	選択	
担当者	橋本 道範			対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような生涯学習社会の実現のため、学習者の特性の把握、生涯学習・社会教育の内容・方法・形態、生涯学習関連機関相互の連携のあり方、学習情報の提供と相談などの効果的なあり方を学び、生涯学習の新しい可能性を切り拓く力を育成する。グループディスカッションやプレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学修成果到達目標	1) 生涯学習の意義について説明することができる。 2) 生涯学習施設の支援のあり方について説明することができる。 3) 生涯学習振興策の内容と地域の生涯学習推進の実際についてプレゼンテーションを行うことができる。								
事前事後学修について	各授業回到記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間)								
学位授与の方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング 対象授業	☐ PBL ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ ICT活用(双方向型授業) ☐ ICT活用(自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (60%) ■ 筆記試験 □ レポート □ 制作物 □ 口述 □ 実習 □ 実技				平常試験 (40%) □ 筆記試験 ■ レポート □ 制作物 ■ 口述 □ 実習 □ 実技				
評価基準	主たる評価観点	■ 知識・理解 □ コミュニケーション能力 ■ プレゼンテーション能力 □ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 □ () □ ()							
テキスト	授業中にプリントを配布します。								
参考書	佐藤晴雄『生涯学習概論（第3次改訂版）』（学陽書房）など。適宜紹介します。								
課題に対するフィードバックの方法	添削後返却します。								
留意事項	地域の生涯学習施設を訪問し、学習活動に参加することが望ましい。								
オフィスアワー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育	■ 実践的教育 教員の實務経験など：滋賀県立琵琶湖博物館で学芸員として勤務、滋賀の食事文化研究会に属し、江戸時代のフナズシの再現実験に挑戦した経験から、食べる楽しみや健康づくりまでを視野においたフィールドワーク教育を行う。								

授 業 名	生涯学習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス：生き生き生きるために	(学修内容) 家族や知人など、身近な人々の学習について考えてみる。 (事前事後学修課題の内容) 身近な人々がどんな学習をしているか考えておく。
第2回	年齢に応じた学習	(学修内容) 年齢に応じてどのような学習が必要なのか解説する。 (事前事後学修課題の内容) 身近なところで学習がどのように行われているかについてまとめておく。
第3回	「生涯学習」の誕生	(学修内容) 生涯学習の理念について基本的な考えを解説する。 (事前事後学修課題の内容) 生涯学習を意義について考えてくる。
第4回	社会教育	(学修内容) 生涯学習の核である社会教育について解説する。 (事前事後学修課題の内容) 学校以外にどのような学習機関があるか考えてくる。
第5回	生涯学習政策	(学修内容) 生涯学習を支える法と政策を解説する。 (事前事後学修課題の内容) 生涯学習の実現方法について考えてくる。
第6回	公民館と生涯学習	(学修内容) 生涯学習を支える公民館活動について解説する。 (事前事後学修課題の内容) 家族や知人の公民館利用について考えておく。
第7回	図書館と生涯学習	(学修内容) 生涯学習を支える図書館活動について解説する。 (事前事後学修課題の内容) 家族や知人の図書館利用について考えておく。
第8回	博物館と生涯学習	(学修内容) 生涯学習を支える博物館活動について解説する。 (事前事後学修課題の内容) 家族や知人の博物館体験について考えておく。
第9回	その他の生涯学習施設	(学修内容) 生涯学習センターやスポーツ施設について解説する。 (事前事後学修課題の内容) 家族や知人の生涯学習活動についてまとめておく。
第10回	生涯学習の方法―参加型学習	(学修内容) 参加型学習についてその重要性を指摘する。 (事前事後学修課題の内容) 博物館でどんな活動をしてみたいか考えておく。
第11回	ボランティアについて	(学修内容) 日本におけるボランティアの展開について解説する。 (事前事後学修課題の内容) どんなボランティアがしてみたいか考えておく。
第12回	生涯学習と地域づくり	(学修内容) 生涯学習を活かしたまちづくりについて解説する。 (事前事後学修課題の内容) 自分が住む地方自治体のHPなどから生涯学習振興策を調べてまとめる。
第13回	生涯学習の効果	(学修内容) 生涯学習の効果に関する研究成果を解説する。 (事前事後学修課題の内容) 自分が住む地方自治体のHPなどから生涯学習実施状況を調べてまとめる。
第14回	新しい生涯学習―ウエルビーイング・キャリアデザイン	(学修内容) 新しい生涯学習の流れを解説する。 (事前事後学修課題の内容) 家族や知人の生涯学習をどのようにデザインするか考えてみる。
第15回	生き生き生きるために	(学修内容) 授業のまとめを行う。 (事前事後学修課題の内容) 家族や知人の生涯学習をどのようにデザインするか考えてみる。

授 業 名	インターンシップ			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CS1413
英 文 名	Internship			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	伊藤 茂樹			対象 学生	幼児教育1回生				
授業の概要	春季休暇中に行うインターンシップを通して、さらなる社会人に向けての心構え、職業意識の形成を培うことが目的である。インターンシップや講義を通して自分がどんな仕事や職種に向いているかという職業適性を把握する。特に、外部講師や企業見学先では、自身の意見や質問を積極的に行って欲しい。また、就職活動に向けて個人ごとに就職希望先企業の研究を行い発表する。								
学修成果 到達目標	1) 自身の職業適性を把握することができる 2) 自身の職業、職種選択を決定し、自身の将来を見据えることができる 3) 社会人を養うことができる								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 2 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ■ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ■ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	■ 知識・理解 ■ コミュニケーション能力 ■ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 ☐ (							

授 業 名	インターンシップ	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) シラバスを読む (事後) 春学期インターンシップの報告書をまとめる
第2回	インターンシップ報告会1	(学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (事前) 発表のレジュメをまとめる (事後) 報告書を作成し提出
第3回	インターンシップ報告会2	(学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (事前) 発表のレジュメをまとめる (事後) 報告書を作成し提出
第4回	インターンシップ報告会3	(学修内容) 春学期のインターンシップ体験発表 (事前事後学修課題の内容) (事前) 発表のレジュメをまとめる (事後) 報告書を作成し提出
第5回	企業交流会1	(学修内容) 複数の企業にお越しいただき、企業理念、インターンシップの内容を説明していただきます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 該当企業の情報、資料収集 (事後) 企業を調べてまとめる
第6回	事後学習	(学修内容) 該当企業の研究成果を発表し意見交換します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 該当企業の研究成果のレジュメ作成 (事後) 企業情報を整理する
第7回	企業交流会2	(学修内容) 複数の企業にお越しいただき、企業理念、インターンシップの内容を説明していただきます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 該当企業の資料、情報収集を行っておく (事後) 興味をもった企業を調べまとめる
第8回	事後学習	(学修内容) 該当企業の研究成果を発表し意見交換します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 当企業の研究成果のレジュメ作成 (事後)
第9回	個別面談	(学修内容) インターンシップ訪問先について相談します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) インターンシップについての自分の考えを明確にしておく (事後) インターンシップ候補の会社を調べる
第10回	福祉について	(学修内容) 福祉関係の方に講演を行ってもらいます。仕事への取り組み方、やりがい等を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 福祉について意見や質問を考えておく (事後) 講演内容をまとめる
第11回	京都以外の地方での就活について	(学修内容) 地方就職についての現状を学びます。L O活の方にお越しいただき、現状や活動方法を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 意見や質問を考えておく (事後) 大事な情報をまとめる
第12回	学外授業	(学修内容) 大阪企業家ミュージアム見学 (事前事後学修課題の内容) (事前) 大阪企業家ミュージアムについて調べる。 (事後) 体験をまとめる
第13回	インターンシップ先の確認	(学修内容) インターンシップ先企業の確認と諸注意、個別の面談を行います。 (事前事後学修課題の内容) (事前) インターンシップ先の企業を決める (事後) インターンシップ先の情報をまとめる
第14回	インターンシップ事前学習	(学修内容) インターンシップ先企業についての研究発表 (事前事後学修課題の内容) (事前) インターンシップ先企業についてのレジュメの作成 (事後) 業種の内容をまとめる
第15回	インターンシップ事前説明会	(学修内容) 職業体験の心構えと準備。京都若者就職支援センターの方にお越しいただき、身だしなみ、心構えについて教えていただきます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 『インターンシップの手引き』を読んでおく (事後) インターンシップへの準備を行う

授 業 名	キャリア形成基礎			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	
英 文 名	Basic Career Development			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	富川 拓			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	この授業では、目前に迫った進路決定の実現に向けて、計画的、綿密的な実践を行うことを目的とする。授業では、就職活動本番に向けてグループディスカッションや面接、発表、討議、各種書類の作成などを行う。また、企業や自治体、国や地域が抱える課題の解決策を検討することを通して、社会人としての基礎的な力を身につける。この講義を就職活動や進路活動と結びつけ、学生間で情報共有も図りたい。								
学修成果 到達目標	1) 自己の進路実現と連携する 2) 就職活動について、明確な意識を持つ 3) 就職活動情報を共有する								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	■ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション □実習・フィールドワーク ■ I C T活用 (双方向型授業) □ I C T活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 □筆記試験 ■レポート □制作物 (50%) □口述 □実習 □実技				平常試験 □筆記試験 ■レポート □制作物 (50%) □口述 □実習 □実技				
評価基準	主たる評価 観点	□知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 □授業態度・参加意欲 ■(社会人基礎力) □()							
テキスト	使用しない。プリントを配布								
参 考 書	授業中に適宜指示する。								
課題に対する フィードバック の方法	グループワークや発表、レポートなどに関して、全体的な講評を行う。								
留意事項	キャリアセンターが実施する企画に参加する場合がある。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育									

授 業 名	キャリア形成基礎	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容、学修成果・到達目標、評価方法などについて。就職活動の諸注意 (事前事後学修課題の内容) 事前 シラバスを読んでおくこと。事後 自身の就職活動等の現状を踏まえ、今後の活動について検討する。
第2回	就職活動に向けて	(学修内容) 社会人基礎力について (事前事後学修課題の内容) 事前 就職活動のスケジュールを確認し整理しておくこと。 事後 エントリーシートの作成準備をすること。
第3回	エントリーシートの作成	(学修内容) 就職活動を想定して、エントリーシートを作成する (事前事後学修課題の内容) 事前 ワークシートをまとめておくこと。 事後 エントリーシートを完成させること。
第4回	履歴書等の作成	(学修内容) 就職活動を想定して、履歴書等を作成する (事前事後学修課題の内容) 事前 ワークシートをまとめておくこと。 事後 履歴書を完成させること。
第5回	コミュニケーション力を身につける その1 時事問題をもとにしたグループワークの実践	(学修内容) グループワークの実践。時事問題をもとに意見交換を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 時事問題に関する授業資料を各自で確認しておくこと。事後 グループワークを振り返り、自身の能力、長所・短所を再確認する。
第6回	コミュニケーション力を身につける その2 新聞記事をもとにしたグループワークの実践	(学修内容) グループワークの実践。各自が選定した新聞記事をもとに意見交換を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 新聞記事を選定しておくこと。自身の考えを整理しておく。事後 グループワークを振り返り、自身の能力、長所・短所を再確認する。
第7回	面接練習 その1 個人面接	(学修内容) 個人面接の練習 (事前事後学修課題の内容) 事前 ワークシートをまとめておくこと。事後 個人面接の練習を振り返り、自身の能力、長所・短所を再確認する。
第8回	面接練習 その2 グループ面接	(学修内容) グループ面接の練習 (事前事後学修課題の内容) 事前 ワークシートをまとめておくこと。事後 グループ面接の練習を振り返り、自身の能力、長所・短所を再確認する。
第9回	グループディスカッション	(学修内容) 就職活動を想定したグループディスカッションの練習 (事前事後学修課題の内容) 事前 ワークシートをまとめておくこと。事後 グループディスカッションを振り返り、自身の能力、長所・短所を再確認する。
第10回	ディベート	(学修内容) 就職活動を想定したディベートの練習 (事前事後学修課題の内容) 事前 ワークシートをまとめておくこと。事後 ディベートを振り返り、自身の能力、長所・短所を再確認する。
第11回	実践活動(発展編) その1 企業などの課題を把握	(学修内容) 企業や自治体、国や地域が実際に抱えている課題を取り上げ、その解決策を検討する (事前事後学修課題の内容) 事前 関連情報を収集しておくこと。 事後 解決策の検討に向けて、情報収集等を進める。
第12回	実践活動(発展編) その2 中間報告書の作成	(学修内容) 解決策を検討し、中間報告書を作成する (事前事後学修課題の内容) 事前 情報収集をすすめ、解決策の具体的な案を検討しておくこと。 事後 中間報告書の加筆修正を行う。
第13回	実践活動(発展編) その3 中間発表	(学修内容) 検討した解決策を発表し(中間発表)、意見交換を行う (事前事後学修課題の内容) 事前 中間発表に向けて発表練習をしておくこと。 事後 意見交換の結果をもとに、最終報告書の作成を進める。
第14回	実践活動(発展編) その4 最終発表	(学修内容) 検討した解決策を発表し(最終発表)、意見交換を行う (事前事後学修課題の内容) 事前 最終発表に向けて発表練習をしておくこと。事後 最終発表用資料を修正し提出する。実践活動の振り返りレポートを作成する。
第15回	まとめ、振り返り、今後の活動について	(学修内容) 授業内容を振り返り、今後の活動について検討する (事前事後学修課題の内容) 事前 これまでの授業資料の内容を再度確認し、理解を深めておくこと。 事後 今後の活動に関するレポートの作成

授 業 名	観光実務		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2723
英 文 名	Practical Business in Tourism		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	湯川 宗紀		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	旅行業務取扱管理者試験の科目である「国内旅行実務」の中の「観光地理」を取り上げ、北海道から沖縄までの自然景観、世界遺産、温泉、祭、社寺など様々な視点から観光資源について広範囲にわたる知識の取得をめざす。							
学修成果 到達目標	1.日本の各地域の観光資源の特徴を把握できる 2.日本の各地域の観光資源の位置関係を把握できる 3.日本の各地域の観光資源の特徴、位置関係を把握することにより観光ルートの習得ができる							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 3 0 分)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	観光実務	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 講義概要 (事前事後学修課題の内容) シラバス内容を確認する
第2回	「観光」についての歴史と概要について	(学修内容) 「観光」についての歴史と概要についてを説明する (事前事後学修課題の内容) 事前: 「観光」についての歴史と概要についてまとめる 事後: 「観光立国」についての調べまとめる
第3回	「観光立国」とその背景について	(学修内容) 「観光立国」とその背景についてを説明する (事前事後学修課題の内容) 事前: 「観光立国」についてまとめる 事後: 世界遺産についての調べまとめる
第4回	世界遺産について	(学修内容) 世界遺産についてを説明する (事前事後学修課題の内容) 事前: 世界遺産についてまとめる 事後: 地域と観光についての調べまとめる
第5回	地域と観光について	(学修内容) 地域と観光についてを説明する (事前事後学修課題の内容) 事前: 地域と観光についてまとめる 事後: 地域行政と観光施策についての調べまとめる
第6回	地域行政と観光施策について	(学修内容) 地域行政と観光施策についてを説明する (事前事後学修課題の内容) 事前: 地域行政と観光施策についてまとめる 事後: 地域文化の観光資源化についての調べまとめる
第7回	地域文化の観光資源化について	(学修内容) 地域文化の観光資源化についての紹介と発表 (事前事後学修課題の内容) 事前: 地域文化の観光資源化についてまとめる 事後: 京都の観光資源についての調べまとめる
第8回	京都の観光資源について 1	(学修内容) 京都の観光資源と場所についての紹介と発表 (事前事後学修課題の内容) 事前: 京都の観光資源についてまとめる 事後: 京都の観光資源と場所についての調べまとめる
第9回	京都の観光資源について 2	(学修内容) 京都の観光資源と場所についての紹介と発表 (事前事後学修課題の内容) 事前: 京都の観光資源と場所についてまとめる 事後: 受講者の出身地域の観光資源と場所について調べまとめる
第10回	受講者の出身地域の観光資源について 1	(学修内容) 受講者の出身地域の観光資源と場所についての紹介と発表 (事前事後学修課題の内容) 事前: 受講者の出身地域の観光資源についてまとめる 事後: 受講者の出身地域の観光資源の発表準備を行う
第11回	受講者の出身地域の観光資源について 2	(学修内容) 受講者の出身地域の観光資源と場所についての紹介と発表 (事前事後学修課題の内容) 事前: 受講者の出身地域の観光資源についてまとめる 事後: 受講者の出身地域の観光資源の発表準備を行う
第12回	受講者の出身地域の観光資源について 3	(学修内容) 受講者の出身地域の観光資源と場所についての紹介と発表 (事前事後学修課題の内容) 事前: 受講者の出身地域の観光資源についてまとめる 事後: 受講者の出身地域の観光資源の発表準備を行う
第13回	受講者の出身地域の観光資源について 4	(学修内容) 受講者の出身地域の観光資源と場所についての紹介と発表 (事前事後学修課題の内容) 事前: 受講者の出身地域の観光資源についてまとめる 事後: 受講者の出身地域の観光資源の発表準備を行う
第14回	受講者の出身地域の観光資源について 5	(学修内容) 受講者の出身地域の観光資源と場所についての紹介と発表 (事前事後学修課題の内容) 事前: 受講者の出身地域の観光資源についてまとめる 事後: 受講者の出身地域の観光資源の発表準備を行う
第15回	まとめ	(学修内容) これまでのまとめ (事前事後学修課題の内容) これまでのまとめを行う

授 業 名	図書館サービス概論			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2711
英 文 名	Introduction to Library Services			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	四方 未来			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	図書館には様々なサービスがあります。図書館サービスの理念や構造などを知り、図書館でどんなことが出来るのかを学びます。 資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者・高齢者・多文化サービス等の各種のサービス、著作権、接遇・コミュニケーション等の基本を解説します。また、館種別のサービスや実際の現場でのサービスの形についても学ぶ。理解を深めるために、ビデオや写真を見たり、グループワークを行いながら授業を進めます。毎回授業内に小レポートまたは小テストをします。 受講生の関心ある内容や理解度、進路など受講生に合わせシラバスを変更する場合があります。								
学修成果 到達目標	1) 図書館サービスの理念や様々なサービスを理解し、説明することができる。 2) 図書館サービスの構造を知り、利用者に合わせたサービスを提供することができる。 3) 館種ごとのサービスの特徴や違いを知り、説明することができる。 4) 図書館サービスの課題を見つけ、維持・発展のために何が必要かを考え、新しいサービス等を提案できる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ■筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	図書館サービス概論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション（授業の概要説明）、図書館のサービスについて	（学修内容）授業の概要と説明、図書館サービスについて。 （事前事後学修課題の内容） 事前：シラバスを確認、図書館サービスについてイメージしておいてください。事後：イメージしていたサービス以外を記録してください。
第2回	図書館サービスの意義・理念・概要	（学修内容）図書館サービスの意義や理念、内容、構造について。図書館サービスの変換や図書館法についてもふれる。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、図書館のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：図書館サービスはなぜあるのか考えを記録しましょう。
第3回	図書館サービスと資料提供サービス（直接的サービス、間接的サービス）	（学修内容）貸出、リクエストなど資料提供サービスについて解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、図書館のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：netがあっても図書館が必要な理由を考えましょう。
第4回	図書館サービスと情報提供サービス（直接的サービス、間接的サービス）	（学修内容）レファレンスや情報発信など情報提供サービスについて解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、図書館のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：実際にどんなレファレンスがあったか調べてみましょう。
第5回	図書館サービスと利用空間の整備	（学修内容）図書館内の整備について解説。またどのような空間が利用しやすいか考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：よく利用している図書館のフロアマップの確認。事後：利用している図書館のフロアやサインを確認し記録しておきましょう。
第6回	図書館サービスと全域サービス	（学修内容）Mapなどを活用し、全域奉仕について考える。郷土資料のデジタル化やなどDXでどのように図書館サービスが変化するか考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：地元の市町村を印刷し図書館も場所に印をしましょう。事後：地元の図書館を利用する場合、行きやすさなどを考え記録しましょう。
第7回	図書館サービスと課題解決サービス支援	（学修内容）ビジネス支援や医療健康情報などを知り、社会の変化との関連を含め考える。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、図書館のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：どの図書館で課題解決サービスがあるか調べましょう。
第8回	図書館サービスと利用対象に応じたサービス1（児童・ヤングアダルトサービス、障がい者、高齢者、多文化サービスほか）	（学修内容）児童やヤングアダルト、障がい者、高齢者、多文化などのサービスについて解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、図書館のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：乳幼児向けにどのようなサービスが出来るか考えましょう。
第9回	図書館サービスと利用対象に応じたサービス2（児童・ヤングアダルトサービス、障がい者、高齢者、多文化サービスほか）	（学修内容）児童やヤングアダルト、障がい者、高齢者、多文化などのサービスについて解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、図書館のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：YA・高齢者へどのようなサービスが出来るか考えましょう。
第10回	図書館サービスと利用対象に応じたサービス3（児童・ヤングアダルトサービス、障がい者、高齢者、多文化サービスほか）	（学修内容）児童やヤングアダルト、障がい者、高齢者、多文化などのサービスについて解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け図書館のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：障害のある方へどのようなサービスが出来るか考えましょう。
第11回	館種別サービス1（公共図書館（都道府県市町村立）、国立国会図書館、学校図書館、大学図書館、専門学校図書館など）	（学修内容）公共図書館、国立国会図書館、学校図書館、大学図書館、専門学校図書館など様々な館種別のサービスの特徴や違いについて。 （事前事後学修課題の内容） 事前：この大学の図書館でされているサービスの確認。事後：館種別に利用対象者や収集している資料をまとめておきましょう。
第12回	館種別サービス2（公共図書館（都道府県市町村立）、国立国会図書館、学校図書館、大学図書館、専門学校図書館など）	（学修内容）公共図書館、国立国会図書館、学校図書館、大学図書館、専門学校図書館など様々な館種別のサービスの特徴や違いについて。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、図書館のサービスを実際に見て確認しましょう。事後：学校図書館の3つの機能を確認しましょう。
第13回	図書館サービスとボランティア、広報について	（学修内容）図書館でのボランティア活動や広報について。 （事前事後学修課題の内容） 事前：図書館でボランティアの募集があるか、またどんな活動をするのか確認。事後：利用していない人への利用促進の方法を考えましょう。
第14回	図書館サービスと著作権、課題について	（学修内容）図書館の複写など著作権について。館種別によくある事例も含め解説。「図書館だより」など配布物についても解説。 （事前事後学修課題の内容） 事前：図書だよりなど図書館配布物の確認。事後：図書だよりなどの配布物で著作権で注意する事を記録しておきましょう。
第15回	各種図書館とのネットワーク、利用者とのコミュニケーション、これまでの補足とまとめ	（学修内容）各種図書館とのネットワークや利用者とのコミュニケーションの重要性について。これまでの補足とまとめ。 （事前事後学修課題の内容） 事前：前回の授業を受け、図書館のサービスを実際に見て確認。事後：知る権利を守るためにどのようにサービスがあるかまとめましょう。

授 業 名	児童サービス論			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2712
英 文 名	Theory of Child Services			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	杉岡 和弘			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	公共図書館にとって児童サービスは重要な担当業務です。子どもは、生涯続く図書館利用者だからです。知識を得るだけでなく、業務の実際を体験しながら、自発的に考え行動する児童図書館員の育成をめざします。子どもの図書館にとって、1.子どもを知ること、2.子どもの本を知ること、3.子どもと本を結びつけること、が重要です。この3点を基軸に、子どもの読書、子どもの図書館、子どもの本を学習し、子どもの本を紹介する技術の習得を、ワークショップ形式で学んでいきます。								
学修成果 到達目標	1)公共図書館における児童サービスの役割を生涯学習者形成の観点から理解できること。2)児童図書館員の役割を主眼に、講義中の各テーマについて自分の視点に沿って意見を論述できること。3)グループ討論を通して、根拠に根ざした意見を他者に伝えるスキルを身につけること。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	■ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション □ 実習・フィールドワーク □ I C T 活用 (双方向型授業) □ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 □ 筆記試験 ■ レポート □ 制作物 (70%) □ 口述 □ 実習 □ 実技				平常試験 □ 筆記試験 ■ レポート □ 制作物 (30%) □ 口述 □ 実習 □ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	■ 知識・理解 ■ コミュニケーション能力 ■ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 ■ (レポートの完成度) ■ (グループ討議の積極性)							
テキスト	使用しない。(Google Classroomで授業スライドなどPDF配布)								
参 考 書	堀川照代編著、『児童サービス論』,日本図書館協会,2014,ISBN9784820413158 日本図書館協会児童青少年委員会児童図書館サービス編集委員会編、『児童図書館サービス1・2』,日本図書館協会,2011,ISBN9784820411062,ISBN9784820411079 杉岡和弘著、『子ども図書館をつくる』(図書館の現場 ; 4), 2005,勁草書房.ISBN9784326098309								
課題に対する フィードバック の方法	提出物については、ポータルにて講評及びコメントする。 コメントシートの記載内容については、授業内で適宜フィードバックする。								
留意事項	授業は、学んだことをグループ討論を通して学習していく。また、グループ学習の報告・課題のレポート提出・小テストが学習システムで求められる。積極的に授業参加し、課題解決できるように受講してほしい。課題・小テストは、随時与えられるので、心構えてほしい。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	■ 実践的教育 教員の実務経験など：香寺町立図書館における館長、姫路市立図書館における司書の実務経験をもとに、具体的な事例を紹介しながら解説します。								

授 業 名	児童サービス論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業オリエンテーション	(学修内容) 授業の概要や課題、学習方法を説明する。 (事前事後学修課題の内容) シラバスを読んで授業内容や到達目標と評価方法を確認しておく。自分の幼い時の読書体験、図書館利用を討議する。
第2回	子どもを知る	(学修内容) 子どもの成長に応じた、読書の変化、子どもの情報行動について学習する。 (事前事後学修課題の内容) 子どもの成長と読書の関係を、自分の経験をもとに考えておくこと。
第3回	子どもの図書館を知る	(学修内容) 子どもの図書館が歩んできた過程を通して、児童サービスの重要性を学習する (事前事後学修課題の内容) 自分の図書館経験をグループ討議します。また、課題「図書館見学レポート」が出題されます。
第4回	子どもの本を知る(1)	(学修内容) 就学前の子どもの本(わらべうた、なぞなぞ、昔話、絵本)を学びます。 (事前事後学修課題の内容) 書評(レビュー)スリップの作成課題が出題されます。課題の図書から、どの図書を選ぶか留意して授業に臨んでください。
第5回	子どもの本を知る(2)	(学修内容) 学童期の子どもの本(少年詩、児童文学、科学読み物、ノンフィクション)を学びます。 (事前事後学修課題の内容) 書評(レビュー)スリップの作成課題が出題されます。課題の図書から、どの図書を選ぶか留意して授業に臨んでください。
第6回	本を選ぶ(1)	(学修内容) 児童図書出版状況、選書の実際とその重要性を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 児童サービスにとって選書の大切さを整理しておくこと。次週、また課題の「書評(レビュー)スリップ」を利用して選書会議をします。
第7回	本を選ぶ(2)	(学修内容) 書評(レビュー)スリップを利用して、グループ討議を通して選書を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 選書会議で、得られた他メンバーの意見の相違点や類似点を書評(レビュー)スリップにまとめておくこと。
第8回	書評を書く	(学修内容) 書評を書くことを通して、子どもの本を正しく捉え、評価することを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 書評(レビュー)スリップをもとに、「書評を書く」課題について、締め切り、字数に留意して作成してください。
第9回	ブックリストを作る	(学修内容) 子ども向けの文章の違いを学び、子どものためのブックガイドの書き方、ブックリストを作成について考えます。 (事前事後学修課題の内容) グループ討議「テーマ探し」を参考に、課題「ブックリストを作る」について書評(レビュー)スリップをもとに取り組んでください。
第10回	子どもの本を紹介する	(学修内容) 公共図書館で行われている読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトークなど、子どもと本を結ぶ技術を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 子どもに直接、本を紹介する技術にはどのようなものがあるか、またそれぞれどのような違いがあるか整理してください。
第11回	子どもの図書館を考える	(学修内容) 図書館計画において子どものために留意する点について学びます。レポート「図書館見学」をもとにグループ討議します。 (事前事後学修課題の内容) 課題「図書館見学レポート」をもとに、グループ討議をします。子どもに対する配慮や利用しやすい図書館を考えます。
第12回	児童室のレイアウトを考える	(学修内容) 図書館の中の児童室の書架レイアウトを考えます。 (事前事後学修課題の内容) 課題「児童室のレイアウトをつくる」が出題されます。グループ討議の意見を参考にし、課題に取り組んでください。
第13回	子どもの図書館の運営	(学修内容) ヤングアダルト、特別なニーズを持つ子どもたちに対する図書館サービス、他機関の連携を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) ヤングアダルト文学の特徴、それぞれの特別なニーズに対してどのような資料があるか整理してください。
第14回	子ども読書活動推進計画を考える	(学修内容) 児童サービスを、政策として捉え、子どもの読書を推進していくための具体的な方法を考える。 (事前事後学修課題の内容) グループ討議「子ども読書活動推進計画を考える」を、次回授業時にプレゼンテーションで発表できるように準備をしてください。
第15回	おはなし会の実際とグループ発表「子ども読書活動推進計画」	(学修内容) 「子ども読書活動推進計画」をグループ発表をします。また、おはなし会の実際について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 他のグループの「子ども読書活動推進計画」との相違や類似について整理してください。

授 業 名	図書館情報技術論			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2718
英 文 名	Theory of Library Information Technology			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	岡 紀子			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	今日の図書館司書の業務は、コンピュータを中心とする情報機器に関する基礎知識と的確な情報処理を遂行するための実務の習得が不可欠である。本科目では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、コンピュータシステム、データベース、検索エンジン、図書館システム、電子資料等について学習する。授業では、ほぼ毎回授業内容に関する課題を行う。数回はグループディスカッションを行う。実践学習として、音声翻訳システムを体験する。								
学修成果 到達目標	1) 図書館の現場で必要となる基礎的な情報技術の知識を習得する。 2) 知識を活用して図書館が直面する今日的な課題に対応することができる。 3) インターネット上の情報源や電子出版の動向などを理解し、それらと連携した図書館サービスを企画・立案できる。 4) 情報サービス演習・、情報サービス論とあわせて履修することにより、「検索技術者検定3級」に合格できる実力を身に着ける。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間)								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ■筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	図書館情報技術論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	図書館情報技術論の概要とねらい	(学修内容) IT技術が重要な基盤となっている現代の図書館情報技術の重要性、および学習の概要とねらいについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) 該当箇所の予習
第2回	コンピュータの基礎	(学修内容) コンピュータの基本、仕組みについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 該当箇所の予習
第3回	ネットワークの基礎	(学修内容) ネットワーク、インターネット、WWWについて基礎を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 該当箇所の予習
第4回	情報技術と社会・法律	(学修内容) 情報化社会の特徴をふまえ情報技術との深い関わりを理解する。情報技術の法的保護の観点から、知的財産権、特に著作権について学習する。 (事前事後学修課題の内容) 該当箇所の予習
第5回	データベースの仕組み	(学修内容) データベースの定義、種類、データベースシステムなど。データ・情報・知識について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 該当箇所の予習
第6回	サーチエンジン(検索エンジン)の仕組み	(学修内容) ウェブ検索の歴史と検索エンジン、種類。ロボット型検索エンジンの特徴。新しい情報アクセス技術(RDF)について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 該当箇所の予習
第7回	コンピュータシステムの管理とセキュリティ	(学修内容) コンピュータシステムが安全確実に運用されるためのセキュリティシステムとその技術について学習する。 (事前事後学修課題の内容) 該当箇所の予習
第8回	図書館の業務とICT その1	(学修内容) 図書館の管理システムにつて、技術面から学習する。図書館システム、ICタグをはじめ図書館で利用されるシステムや機器について学習する。 (事前事後学修課題の内容) 該当箇所の予習
第9回	図書館の業務とICT その2	(学修内容) デジタルレファレンスサービス、レファレンス協同データベース、および学術機関リポジトリ。図書管理システムの導入と運用について (事前事後学修課題の内容) 該当箇所の予習
第10回	図書館と電子資料	(学修内容) 図書館で扱う電子資料と、その管理技術を学習する。電子ジャーナル、電子ブック、文献デリバリーおよび資料のデジタル化について。 (事前事後学修課題の内容) 該当箇所の予習
第11回	1) デジタルアーカイブ 2) 最終レポート課題設定: 提出期限は13回目 3) 図書館における障がい者支援のとりくみ M-DAISY作成の概要、アカウントとPWを配布	(学修内容) 1) デジタルアーカイブの定義、歴史、さらにその動向と意義、応用分野と特長、作成技術などについて。ウェブサイト例を紹介する。 (事前事後学修課題の内容) 該当箇所の予習
第12回	マルチメディアDAISY作成の演習(1)	(学修内容) 障がい者支援機能の一つである、マルチメディアDAISYについて学ぶ。 音声支援システムソフトを用いてmDAISY形式資料の編集を実践をする (事前事後学修課題の内容) アカウント・PWでアクセスの確認
第13回	最終レポート提出 発表(1) マルチメディアDAISY作成の演習(2)	(学修内容) レポート提出期限 受講者が少ない場合、最終レポート発表(1) マルチメディアDAISY作成の演習(2) (事前事後学修課題の内容) mDAISY編集作業を継続
第14回	最終レポートのプレゼンテーション(2) プレゼンの状況に応じて、 マルチメディアDAISY作成の演習(3)継続	(学修内容) 課題レポートの発表(2) マルチメディアDAISY作成の演習(3)継続 (事前事後学修課題の内容) 各自mDAISY編集作業を継続
第15回	最終レポートのプレゼンテーション(3) マルチメディアDAISY完成・提出(4)	(学修内容) 課題レポートの発表(3) mDAISY編集完成版の提出 (事前事後学修課題の内容) 各自mDAISY編集作業完成

授 業 名	情報資源組織演習			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2719
英 文 名	Bibliographic Organization Practice			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	松田 泰代			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	図書館で扱う情報資源の組織化（目録作業・分類作業・件名作業）を演習形式で学び、図書館で目録作成・分類作成ができる実務能力の育成を図る。 総合演習においてプレゼンテーションやグループワーク等を実施する。								
学修成果 到達目標	1）書誌データ作成についての基礎技術を身につける。 2）情報資源の主題をさまざまな観点から分析できる。 3）『日本十進分類法』をツールとして使えるようになり分類の付与ができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ■ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用（双方向型授業） ☐ I C T 活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験 （50％） ■ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	情報資源組織演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 情報資源組織論の概要と演習のねらい、演習の進め方、おさらい IFLA-LRM、国際標準書誌記述(ISBD)	(学修内容) 情報資源組織化の意義と目的、IFLA-LRM、国際標準書誌記述(ISBD) (事前事後学修課題の内容) 「情報資源組織論」で学習した内容を復習しておくこと。
第2回	書誌データ作成の実際(1) NCR2018: 記録に関する総則、属性総則	(学修内容) 『日本目録規則 2018年版』の概要と目録規則の理解 (事前事後学修課題の内容) 『日本目録規則 2018年版』を読んでおくこと。
第3回	書誌データ作成の実際(2) NCR2018: 体現形の属性の記録	(学修内容) 体現形に関する記録の解説と演習 演習課題の発表(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。
第4回	書誌データ作成の実際(3) NCR2018: その他の属性の記録	(学修内容) 著作・表現形の記録の解説と演習 演習課題の発表(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。
第5回	書誌データ作成の実際(4) NCR2018: アクセス・ポイントの構築	(学修内容) アクセス・ポイントの構築 演習課題の発表(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。
第6回	書誌データ作成の実際(5) 総合演習・試験(30点)	(学修内容) 総合演習と試験 (事前事後学修課題の内容) 前回までのプリントを見て、復習をしておくこと。
第7回	主題分析と分類作業の実際(1) NDC10の構成 主表、補助表、相関索引	(学修内容) 主題目録法、日本十進分類法(NDC)の構造、補助表の理解と適用 (事前事後学修課題の内容) 『日本十進分類法 第10版』に目を通しておくこと。
第8回	主題分析と分類作業の実際(2) NDC10の分類規程、小テスト	(学修内容) 日本十進分類法(NDC)の分類規程、小テスト 演習課題の発表(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。
第9回	主題分析と分類作業の実際(3) NDL10 各類別	(学修内容) 各類の理解と分類記号についての理解・演習 演習課題の発表(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。
第10回	主題分析と分類作業の実際(4) NDC10 応用編、小テスト	(学修内容) 分類記号の付与作業 基礎編、小テスト 演習課題の発表(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。
第11回	主題分析と分類作業の実際(5) 総合演習・試験(20点)	(学修内容) 分類記号の付与作業 応用編・試験 (事前事後学修課題の内容) 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。
第12回	主題分析と統制語彙適用の実際(1) BSH4 細目の結合順序	(学修内容) 基本件名標目表(BSH)の構成と主標目の付与演習、と細目の結合順序 演習課題の発表(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) 『基本件名標目標 第4版』に目を通しておくこと。
第13回	主題分析と統制語彙適用の実際(2) BSH 一般件名規定、特殊件名規定、小テスト	(学修内容) 件名規程(一般件名規定、特殊件名規定)、小テスト 演習課題の発表(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。
第14回	主題分析と統制語彙適用の実際(3) 総合演習、小テスト	(学修内容) 件名の付与作業、小テスト 演習課題の発表(プレゼンテーション) (事前事後学修課題の内容) 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。
第15回	主題分析と統制語彙適用の実際(4) BSHとNDLSH、小テスト	(学修内容) BSHとNDLSHの比較、Web NDL Authorities、小テスト (事前事後学修課題の内容) 前回のプリントを見て、復習をしておくこと。

授 業 名	図書・図書館史			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	CL2713
英 文 名	History of Books and Libraries			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	渡邊 雄一			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	図書の形態、印刷、普及、流通に関して歴史的に概説し、あわせて図書館の歴史的な展開についても解説する。古代知識の集積と図書館のはじまり、中世社会の思想と図書館との関係、近世図書館思想の広まりから公共図書館の誕生までの歴史を、西欧、中国、日本の視点から考えていく。図書館の歴史に対する理解を深めるために、グループワークやプレゼンテーションを行いながら授業を進める。								
学修成果 到達目標	1) 図書を中心とするメディアの歴史や、西洋・東洋の図書館の歴史を説明することができる。 2) 図書館の歴史的意義、文化的意義を説明することができる。 3) 日本の図書館の歴史に関するプレゼンテーションを10分間行うことができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	図書・図書館史	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。 (事前事後学修課題の内容) シラバスの内容を確認しておくこと。
第2回	古代の図書館(西洋)	(学修内容) 文字の発生と記録、古代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容) 古代の文字の種類とその記録媒体について調べ、まとめておくこと。
第3回	中世の図書館(西洋)	(学修内容) 修道院図書館や大学図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容) テキストP.62～P.77を読み、中世前期の修道院図書館についてまとめておくこと。
第4回	近世の図書館(西洋)	(学修内容) ガブリエル・ノーデやライプニッツの図書館思想などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) テキストP.94～P.111を読み、ライプニッツの図書館観をまとめておくこと。
第5回	近現代の図書館(西洋)	(学修内容) 大英博物館図書館やボストン公共図書館の成立などについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) テキストP.134～P.146を読み、大英博物館図書館についてまとめておくこと。
第6回	中国の図書の歴史(古代・中世)	(学修内容) 紙の発明、四部分類について学習する。 (事前事後学修課題の内容) テキストP.27～P.40を読み、紙の発明と伝播についてまとめておくこと。
第7回	中国の図書の歴史(近世・近代)	(学修内容) 印刷時代の図書について学習する。 (事前事後学修課題の内容) テキストP.123～P.131を読み、近世の印刷術についてまとめておくこと。
第8回	古代の図書館(日本)	(学修内容) 奈良時代・平安時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容) テキストP.50～P.60を読み、貴族社会と図書館との関連箇所をまとめておくこと。
第9回	中世の図書館(日本)	(学修内容) 鎌倉時代・室町時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容) テキストP.86～P.91を読み、武家社会と図書館との関連箇所をまとめておくこと。
第10回	近世の図書館(日本)	(学修内容) 江戸時代の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容) テキストP.112～P.122を読み、江戸幕府と図書館との関連箇所をまとめておくこと。
第11回	近代の図書館(日本)	(学修内容) 明治・大正・昭和前期の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容) テキストP.147～P.166を読み、大都市における図書館活動に関連する箇所をまとめておくこと。
第12回	現代の図書館(日本)	(学修内容) 第二次世界大戦以降の図書館について学習する。 (事前事後学修課題の内容) テキストP.183～P.204を読み、「中小レポート」以降の図書館活動についてまとめておくこと。
第13回	日本の図書館の歴史について(グループワーク) 図書館の概要	(学修内容) これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の概要をワークシートに従って調査する。 (事前事後学修課題の内容) 取り上げる図書館について、テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
第14回	日本の図書館の歴史について(グループワーク) 関わった人物	(学修内容) これまでの授業で説明を受けた図書館の中から日本の図書館を一つ取り上げ、その館の創立に関わった人物について調査する。 (事前事後学修課題の内容) 図書館に行き、取り上げる図書館について記載されている資料を閲覧しておくこと。
第15回	日本の図書館の歴史について(プレゼンテーション)	(学修内容) 前回までの調査で明らかになった事項をパワーポイントを用いて発表する。 (事前事後学修課題の内容) 前回までの調査で明らかになった事柄を整理し、パワーポイント資料を作成する。

授 業 名	秘書実務		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2720
英 文 名	Practical Business in Office Administration		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	市川 順子		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	「秘書の仕事内容の理解と求められる基礎能力の習得」 秘書学概論で学んだことを具現化する。秘書業務を系統立てて具体的に学びながら、秘書だけでなくあらゆる業種や職種において必要とされるビジネス実務のマナー、ルールにまで理解を広げる。ペアあるいはグループワークも取り入れながら、学んだ知識を実践で活用できる能力を修得する。							
学修成果 到達目標	1. 秘書活動の基盤となる知識・技能を身につけることができる。 2. ロールプレイング(役割演習)などを通して秘書業務を演習し、秘書業務が「できる」人材になる。 3. さまざまな場面、状況を想定し、臨機応変に対応できる能力を身につけた人材になる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	○	知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (50%) ☒ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	秘書実務	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 「秘書実務」では何を学ぶのか	(学修内容) 授業計画について 秘書の仕事とは (事前事後学修課題の内容) 事前にシラバスを読み、学習内容を確認しておく
第2回	第1章 言葉遣い	(学修内容) 場面に応じた適切な敬語、接遇用語を使うことができるよう演習によって学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト(第1章)を読み、各Exercise問題を考えておく 授業内で実施した各Exercise問題を復習する
第3回	第2章 ビジネスマナー	(学修内容) 来客対応(おじぎ・受付・名刺交換・案内・席次)の流れを理解し、演習によって学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト(第2章)を読み、各Exercise問題を考えておく 授業内で実施した各Exercise問題を復習する
第4回	第3章 電話対応 1	(学修内容) 電話の特性を学び、基本的な受け方・かけ方を演習によって学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト(第3章)を読み、各Exercise問題を考えておく 学んだことを日常生活など色々な場面で可能な限り実践する
第5回	第3章 電話対応 2	(学修内容) 電話のさまざまなパターンの受け方を演習によってまなぶ 簡潔でわかりやすい伝言メモの書き方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) 学んだことを日常生活など色々な場面で可能な限り実践する
第6回	第4章 指示の受け方と報告の仕方	(学修内容) 指示の受け方のポイントを学ぶ 報告の仕方のポイントと報告書の書き方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) 報告書の書き方を復習しておく
第7回	第5章 スケジュール管理	(学修内容) スケジュール表作成のポイントを学ぶ アポイントメントの申し込みと受ける際のポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト(第5章)を読み、各Exercise問題を考えておく 授業内で実施した各Exercise問題を復習する
第8回	第6章 出張業務	(学修内容) 切符の予約・手配の仕方を学ぶ 旅程表を作成する (事前事後学修課題の内容) 出張前、出張中、出張後の仕事について考えておく
第9回	第7章 ファイリング	(学修内容) 書類・名刺の整理方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト(第7章)を読んでおく
第10回	第8章 会議・会合	(学修内容) 会議・会合の準備・会議中の仕事・会議後の仕事について学ぶ 議事録作成について学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト(第8章)を読んでおく 授業内で実施した各Exercise問題を復習する
第11回	第9章 ビジネス文書 1 社内文書と返信ハガキの書き方	(学修内容) 社内文書のレイアウトを学び、作成する 返信ハガキの書き方のポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容) 授業内で実施した各Exercise問題を復習する
第12回	第9章 ビジネス文書 2 社外文書と封筒の書き方	(学修内容) 社外文書の特徴を学び、社外文書の作成について学ぶ 封筒の書き方とメール作成のポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容) 授業内で実施した各Exercise問題を復習する
第13回	第10章 受信と発信	(学修内容) 文書の取り扱いについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト(第10章)を読み、各Exercise問題を考えておく
第14回	第11章 慶弔	(学修内容) 慶事、弔事のマナーと心得を学ぶ さまざまな上書きを学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト(第11章)を読んでおく 授業で学んだことを復習する
第15回	まとめ	(学修内容) これまでのまとめ(インバースケットによって秘書業務の復習) (事前事後学修課題の内容) これまで学習したことを実践できるように確認しておく

授 業 名	秘書学概論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、「秘書とは」	(学修内容) 授業内容の確認、「秘書学概論」では何を学ぶのか (事前事後学修課題の内容) (事前) シラバスを確認し、テキストの目次に目を通しておく (事後) 著名な秘書について調べておく
第2回	第2章 秘書の歴史的考察	(学修内容) 秘書の歴史について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (事前) 世界の秘書と日本の秘書の成り立ちを確認しておく (事後) 授業後に、世界の秘書と日本の秘書の違いを確認しておく
第3回	第3章 秘書の職能	(学修内容) 秘書の職能と上司の職能について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (事前) 職能とは何かを事前に調べておく (事後) 上司と職能と秘書の職能の違いを確認しておく
第4回	第4章 秘書の業務	(学修内容) 秘書の具体的な業務を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (事前) テキストを読み秘書の業務内容について理解を進めておく (事後) 秘書の業務内容を学んだうえで、自分ごとに置き換えてみる
第5回	第5章 組織と秘書	(学修内容) 会社組織についての理解を深める (事前事後学修課題の内容) (事前) 会社組織の中で秘書の位置について確認しておく (事後) 会社組織の違いについて確認しておく
第6回	第6章 秘書の形態	(学修内容) 秘書の形態について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (事前) テキストで秘書の形態を理解しておく (事後) 組織による秘書の形態を確認する
第7回	第7章 秘書の国際比較	(学修内容) 日米の秘書について色々な角度から共通点と異なる点を学ぶ (事前事後学修課題の内容) (事前) 日本の秘書と欧米の秘書の違いを理解しておく (事後) 秘書の業務内容の違いを確認しておく
第8回	第8章 会社の組織形態	(学修内容) 会社の組織形態について深く学ぶ (事前事後学修課題の内容) (事前) 日本の会社の組織形態を確認しておく (事後) 気になる企業の組織形態を調べてみる
第9回	第9章 秘書の資質と能力	(学修内容) 秘書として求められる資質と能力について確認する (事前事後学修課題の内容) (事前) 教科書を読み秘書に求められる資質と能力につき理解しておく (事後) 自分の資質や能力と比べてみる
第10回	第10章 秘書と人間関係	(学修内容) 秘書を取り巻く人間関係について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (事前) 会社における秘書の立場について確認しておく (事後) 就職先での人間関係について確認しておく
第11回	第11章 秘書とコミュニケーション	(学修内容) 秘書にとってコミュニケーションの大切さを理解する (事前事後学修課題の内容) (事前) コミュニケーションが悪いとどうなるのか考えておく (事後) 自身のコミュニケーションについて確認しておく
第12回	第12章 秘書の専門分化	(学修内容) 専門分化した秘書について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (事前) 身近なところでの秘書について調べておく (事後) 専門分化した秘書について詳しく調べる
第13回	第13章 秘書と心身の健康	(学修内容) 秘書にとって心身の健康が重要であることを理解する (事前事後学修課題の内容) (事前) 仕事上でのストレスについて考えておく (事後) ストレスをためない工夫について考えてくる
第14回	第14章 秘書と情報	(学修内容) 秘書が扱う情報について学ぶ (事前事後学修課題の内容) (事前) 秘書の業務を理解した上で情報管理について考えておく (事後) 身の回りでの情報の在り方について理解を深めておく
第15回	第15章 秘書とキャリア	(学修内容) 今後求められる秘書像と自分のキャリアデザインを考える (事前事後学修課題の内容) (事前) 授業振返りとキャリアデザインを考えておく (事後) 自分自身の今後の働き方について確認をしておく

授 業 名	ビジネス実務総論		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2715
英 文 名	Outline of Practical Business Affairs		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	市川 順子		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	私たちの日々の生活は、衣食住の提供はもちろん、家庭を維持する礎である収入や保険まで、企業とのかかわりをなくしては考えられません。職業人として社会に出るまでの準備としてビジネス社会の仕組みや活動について学修します。また、テキストの第3部を予習・復習に使い理解を深め、社会人としての基礎能力を身につけていきます。							
学修成果 到達目標	1) ビジネス社会を理解できる。 2) 職業人として求められる基本的な知識を理解できる。 3) ビジネス実務全体に必要な情報業務や対人業務に関する知識・スキル・態度およびそれらを活用するための力を身につけることができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用(双方向型授業) ☐ I C T活用(自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	ビジネス実務総論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション/ビジネス社会とは	(学修内容) 授業計画について (事前事後学修課題の内容) 事前にシラバスの内容をよく読んで確認しておくこと。
第2回	企業の種類	(学修内容) 企業の種類・組織について学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキストを読み、ふりかえりシートを使って予習しておく。 両親等身近な人が働く企業の種類を確認する。
第3回	社会と企業	(学修内容) 社会における企業の役割を学ぶ (事前事後学修課題の内容) 各自が興味のある企業のCSRを調べておく。
第4回	企業のCSR (ゲストスピーカー)	(学修内容) 企業の方を招聘して、企業のCSRについて詳しく学ぶ 授業を受けた感想を書いて提出する (事前事後学修課題の内容) 自分自身が調べた企業のCSRと招聘した方の企業のCSRを比較して 振り返る。授業を受けた感想を書いて提出する。
第5回	企業の会計	(学修内容) 企業会計について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 各自が興味のある企業の決算について調べておく。
第6回	日本経済の流れと身の回りの経済	(学修内容) 戦後から現代までの経済の流れについて学び、日常生活と経済について の関係について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 身の回りのものの値段について調べてみる。 ふりかえりシートを使って復習する。
第7回	税と社会保障	(学修内容) 税金の種類と社会保障について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 税金の種類、社会保険について調べておく。 授業で視聴した社会保障についての動画を復習のため再度視聴する。
第8回	労働と法律	(学修内容) 労働者を守る法律について学ぶ 正規雇用と非正規雇用の違いを考える (事前事後学修課題の内容) 労働三法について調べておく。 ふりかえりシートを使って復習する。
第9回	人生とお金 (ゲストスピーカー)	(学修内容) 企業の方を招聘して、人生にかかわるお金について学び、自分自身のラ イフプランを考えてみる 授業を受けた感想を書いて提出する (事前事後学修課題の内容) 生活にかかるお金(費用)を調べておく。 ライフプラン作成後、今、自分は何をするべきか考える。
第10回	企業研究1 今まで学習した内容をふまえて(CSRや福利厚生に 視点を置いて)調べたい企業を決める	(学修内容) グループで興味のある企業を選び、その企業について調べる (事前事後学修課題の内容) グループで選んだ企業について、各人でも調べて資料を作成しておく。
第11回	企業研究2 一つに絞った企業について発表用の資料を作成す る	(学修内容) グループで調べた企業について、PPT等の資料を作成し、発表の準備を する (事前事後学修課題の内容) 発表のための準備(資料作成・発表の練習)をする。
第12回	企業研究3 グループごとに発表する	(学修内容) 各グループが調べた企業について発表する (事前事後学修課題の内容) 発表後、振り返りをする。 他のグループと自分たちの発表を比較検討する(良い点・改善点)。
第13回	ボランティア	(学修内容) ボランティアについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) 自分自身ができるボランティア活動を考えてみる。 できれば、調べたボランティア活動に参加する。
第14回	さまざまな働き方	(学修内容) 働く意義や働き方の変化について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 回りの人々(両親等)がどのような働き方をしているのか調べておく。 自分がどのような働き方をしたいのか考える。
第15回	まとめ	(学修内容) これまで学習したことを整理し、確認する (事前事後学修課題の内容) 自分自身のキャリアプランを考える。 どのような企業でどのように働きたいのか、10年先の目標を考える。

授 業 名	ビジネス実務実践演習			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2722
英 文 名	Practical Business Affairs			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	市川 順子			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	社会に出たときに必要とされる知識とスキルを学び、即、実践できることを目標に、演習を行います。								
学修成果 到達目標	1) 職業人として必要な基本的知識を身に付け実践する力をつけることができる。 2) 仕事を進める上での課題を見つけ、問題解決に向けて論理的思考ができる。 3) さまざまな場面・状況を想定し、臨機応変に対応することができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用(双方向型授業) ☐ I C T活用(自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技				平常試験 (50%) ■筆記試験 □レポート □制作物 ■口述 □実習 ■実技				
評価基準	主たる評価 観点	■知識・理解 ■コミュニケーション能力 ■プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲 □() □()							
テキスト	『新・ビジネスとオフィスワーク』 宮田篤/水原道子/上田知美 著 樹村房								
参 考 書									
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題に対しては確認をして返却し、解説については授業内で行います。 実技(ロールプレイング)については、その都度コメントします。								
留意事項	受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。 学んだことは、できる限り実践して身に付けるよう心がけてください。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施します。								
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：一般企業において10年間、受付対応、電話対応、秘書業務、総務・経理事務の実務経験がある。また、一般企業での新人研修や、大学・高等学校での就職対策授業、インターンシップ事前マナー研修、大学・専門学校での検定対策授業等を担当。秘書技能検定準1級面接審査員、サービス接遇実務検定準1級面接審査員の経験を活かして実践的教育を行う。								

授 業 名	ビジネス実務実践演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画について (事前事後学修課題の内容) 事前にシラバスを読み、学習内容を確認しておく。
第2回	言葉遣い1 敬語・クッション言葉・改まった表現	(学修内容) 敬語を復習し、お客さまとの会話、社内での会話を演習によって学ぶ (事前事後学修課題の内容) 敬語・クッション言葉・接遇用語について確認しておく。
第3回	言葉遣い2 さまざまな場面での言葉遣い	(学修内容) 遅刻しそうなとき、休暇をとるときなど、さまざまな場面での言葉遣いを演習によって学ぶ (事前事後学修課題の内容) 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する。
第4回	報・連・相	(学修内容) 社内における報告・連絡・相談のポイントを学ぶ (事前事後学修課題の内容) 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する。
第5回	電話応対 1(基本演習)	(学修内容) 電話応対の基本を確認し、演習によって学ぶ (事前事後学修課題の内容) 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する。
第6回	電話応対 2(応用演習)	(学修内容) 電話応対の応用を確認し、演習によって学ぶ わかりやすい伝言メモを書くコツを学ぶ (事前事後学修課題の内容) 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する。
第7回	来客応対(演習)	(学修内容) 来客応対の基本(受付・案内・見送り)を確認し、演習によって学ぶ (事前事後学修課題の内容) 学んだことを日常生活などいろいろな場面で、可能な限り実践する。 名刺交換については、友人や家族と練習しておく。
第8回	文書作成 1 社内文書(案内文)	(学修内容) 文書作成の基本的ルールを学び、簡単な社内文書を作成する (事前事後学修課題の内容) 文書作成のポイント・レイアウトを確認しておく。
第9回	文書作成 2 社内文書(報告書)	(学修内容) 報告書のフォーム(レイアウト)を学び、報告書を作成する (事前事後学修課題の内容) 報告書に必要な項目は何か確認しておく。
第10回	文書作成 3 社外文書と内定のお礼状	(学修内容) 社外文書のポイントを学び、簡単な取引文書を作成する 内定のお礼状の書き方を学び、作成する (事前事後学修課題の内容) 頭語と結語、時候のあいさつについて確認しておく。 例にならって、お礼状を作成する。
第11回	慶弔業務	(学修内容) 慶弔業務のそれぞれの対応について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 上書き等、学んだことを確認しておく。
第12回	郵便の知識・ファイリング	(学修内容) 郵便の知識とファイリングの方法を学ぶ (事前事後学修課題の内容) 自分自身の資料・プリントをファイリングしてみる。
第13回	接客応対	(学修内容) お客さまを意識した接客応対を学ぶ 相手の立場になったの声かけを考える (事前事後学修課題の内容) 日常で目にする接客について考えてみる。
第14回	クレーム対応	(学修内容) 誠実なクレーム対応について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) クレームの理由や対応について確認しておく。
第15回	まとめ	(学修内容) これまで学習したことを整理し、確認する (事前事後学修課題の内容) これまでの学習したことを実践できるよう確認しておく。

授 業 名	応用ビジネス実務論			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	CL2721
英 文 名	Theory of Business Practice			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	変化の厳しい現代社会の中にあって、社会人として必要な資質や役割を理解し、ビジネス実務の存在する意義は何か、ビジネス行動の最適化を図るにはどのように考えて行動すべきかなどデータ分析の実践を通して、理論的に考察していく。 課題の提出にはICTを活用していく。 受講者の状況によって、進度・内容を随時調整することがあります。								
学修成果 到達目標	1) 創造的なビジネス実務を行うための知識・技能について理解を深めることができる。 2) 対話の能力、課題発見・課題解決能力を培うことができる。 3) 論理的に学ぶことによって、ビジネス実務能力を発揮できるような考え方を学修することができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解				汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (60%) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名		応用ビジネス実務論
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業計画・内容・注意事項等。家計調査の内容について、説明します。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、シラバスを一読しておいてください。事後、授業内容を整理してみてください。
第2回	マーケティングに使える家計調査について	(学修内容) 家計調査の内容について、説明します。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、授業で使用する家計調査のデータ内容をみておいてください。事後、授業の内容を整理してください。
第3回	データの加工について	(学修内容) データの加工の手順について実践します。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、家計調査のデータを用いて、データを整理してみてください。事後、授業の内容を整理してみてください。
第4回	図の示し方について	(学修内容) 相手に伝わるように、データを図で示す方法について説明します。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、どのようなところで折れ線グラフ、帯グラフ、円グラフが使われているのか調べてみる。事後、授業内容を整理してみる。
第5回	地域で異なる消費支出について ---肉類	(学修内容) 実際にデータを用いて、地域による肉類の消費支出額の違いを分析していきます。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、地域により牛肉、豚肉、鶏肉の消費支出額はどのように異なるのか考えてみる。事後、作成したデータとのズレを考察してみる。
第6回	地域で異なる消費支出について ---野菜類	(学修内容) 実際にデータを用いて、地域による野菜類の消費支出額の違いを分析していきます。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、地域により野菜類の消費支出額はどのように異なるのか考えてみる。事後、作成したデータとのズレを考察してみる。
第7回	地域で異なる消費支出について ---魚類	(学修内容) 実際にデータを用いて、地域による魚類の消費支出額の違いを分析していきます。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、地域により魚類の消費支出額はどのように異なるのか考えてみる。事後、作成したデータとのズレを考察してみる。
第8回	地域で異なる消費支出について ---果物類	(学修内容) 実際にデータを用いて、地域による果物類の消費支出額の違いを分析していきます。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、地域により果物類の消費支出額はどのように異なるのか考えてみる。事後、作成したデータとのズレを考察してみる。
第9回	年齢で異なる消費支出について ---食品	(学修内容) 実際にデータを用いて、年齢による食品の消費支出額の違いを分析していきます。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、年齢により食品の消費支出額はどのように異なるのか考えてみる。事後、作成したデータとのズレを考察してみる。
第10回	年齢で異なる消費支出について ---教養娯楽サービス	(学修内容) 実際にデータを用いて、年齢による教養娯楽サービスの消費支出額の違いを分析していきます。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、年齢により教養娯楽サービスの消費支出額はどのように異なるのか考えてみる。事後、作成したデータとのズレを考察してみる。
第11回	収入で異なる消費支出について ---食品	(学修内容) 実際にデータを用いて、収入による食品の消費支出額の違いを分析していきます。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、収入により食品の消費支出額はどのように異なるのか考えてみる。事後、作成したデータとのズレを考察してみる。
第12回	収入で異なる消費支出について ---教養娯楽サービス	(学修内容) 実際にデータを用いて、収入による教養娯楽サービスの消費支出額の違いを分析していきます。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、収入により教養娯楽サービスの消費支出額はどのように異なるのか考えてみる。事後、作成したデータとのズレを考察してみる。
第13回	仮説の設定について	(学修内容) 仮説の設定について説明します。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、これまで作成したものを振り返って、どのような傾向がみられたのか整理してみる。事後、仮説を設定してみる。
第14回	検証について	(学修内容) 検証について説明します。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、これまで作成したものを振り返って、どのように検証できるのか、整理してみる。事後、自分で設定した仮説を検証してみる。
第15回	まとめ	(学修内容) データ作成について考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前に、レポートで提出する仮説を整理してみる。事後、仮説から検証へと展開するレポートを書いてみる。

授 業 名	介護過程		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1709
英 文 名	Nursing Care Process I		開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	杉原 優子		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	利用者の望む生活の実現のためには、利用者ひとりひとりの生活上の課題を明確にし、根拠に基づいた介護実践が求められる。この授業では、演習やディスカッションを取り入れながら、利用者の課題解決の思考過程および実践過程としての介護過程について理解する。							
学修成果 到達目標	1．介護過程の意義を理解し、介護過程の全体像を説明できる。 2．諸科目で学んだ知識・技術を統合し、利用者の状態像に合わせて介護過程を展開することを理解する。 3．場面ごとの介護実践に根拠があり、それを説明できるようになることが求められていることを理解する。 4．把握すべき情報を統合、課題を明確化でき、介護実践に結びつく計画が立てられる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 1 時間)							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解	○	汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	■ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ■ 実習・フィールドワーク □ I C T 活用 (双方向型授業) □ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 □ 筆記試験 ■ レポート □ 制作物 (50%) □ 口述 □ 実習 □ 実技			平常試験 ■ 筆記試験 ■ レポート □ 制作物 (50%) □ 口述 □ 実習 □ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	■ 知識・理解 ■ コミュニケーション能力 □ プレゼンテーション能力 □ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 □ () □ ()						
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会編 「最新 介護福祉士養成講座9 介護過程」中央法規							
参 考 書	適宜、授業内で紹介する							
課題に対する フィードバック の方法	授業の中で、補足・講評を行う							
留意事項	授業で使用了プリントや作成したシートは、毎回持参してください。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。また、随時、メールでの質問を受け付ける。							
実践的教育	■ 実践的教育 教員の実務経験など：大学卒業後、特別養護老人ホームの介護職員として従事。その後、同一法人内で介護支援専門員、老人短期入所施設施設長、認知症高齢者グループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所管理者等を経験。現在は地域密着型高齢者施設の複数の拠点の統括施設長をしています。これまでの経験を活かし、実際の現場の事例などを用いて、授業を進める予定です。							

授 業 名	介護過程	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 生活とは何か	(学修内容) 科目オリエンテーション・生活とは何かを振り返る 生活はどのような要素から成り立っているのかを理解する (事前事後学修課題の内容) 事前に自分自身がどのような生活を送っているかを振り返り出席する。 テキストの第1章第1節を読む。復習は授業内容をまとめ次回発表する。
第2回	介護過程の意義と目的 介護過程のプロセス	(学修内容) 生活上の課題を実体験に則して考える。 日常生活の問題解決の思考過程から介護過程の展開の重要性を理解する (事前事後学修課題の内容) 前回授業で示したテキストの該当箇所を読んで授業に出席すること・授業の最後に課題を出すので、次回授業で発表すること
第3回	アセスメント 情報収集「事実のとらえ方」	(学修内容) 事実をどのようにとらえるか 人のものの味方の特徴、記録の仕方(動画演習) (事前事後学修課題の内容) 予習は、前回授業で示した課題を記入し完成させて出席する・事後課題は授業の最後に示すので、次回授業に提出すること
第4回	<施設見学実習> 情報収集「情報収集の方法」	(学修内容) 利用者とのコミュニケーション場面等で得た情報を収集する 実際に高齢者施設を見学しその方法や留意点を学ぶ (事前事後学修課題の内容) 予習は見学する施設の類型と利用者像を調べる・事後はレポート課題をまとめ提出する。
第5回	アセスメント ICFの視点	(学修内容) 情報をICFの視点で整理する (事前事後学修課題の内容) テキスト第2章第1節第2節を読んで授業に出席すること・事後課題は授業の最後に示すので、次回授業で発表すること
第6回	アセスメント 情報の解釈・関連付け・統合化	(学修内容) 情報のとらえ方、理解の仕方について考える。 利用者の生きてきた時代と私の生きてきた時代の比較 (事前事後学修課題の内容) テキストの第2章第3節を読んで授業に出席すること・事後課題は授業の最後に示すので、次回授業で発表すること
第7回	アセスメント 情報の解釈・関連付け・統合化	(学修内容) 情報のとらえ方、理解の仕方について考える。 在宅で暮らす高齢者、施設で暮らす高齢者、幅広い対象者像の比較 (事前事後学修課題の内容) テキストのP62～64を読んで授業に出席すること・事後課題は授業の最後に示すので、次回授業で発表すること
第8回	アセスメント 情報収集「課題の明確化」	(学修内容) 生活課題とはなにか 課題の優先度について考える (事前事後学修課題の内容) テキストの第2章第3節を読んで授業に出席すること・事後課題は授業の最後に示すので、次回授業で発表すること
第9回	介護計画の立案	(学修内容) 「目標」とは何か。「目標設定」について学ぶ。期間、実施可能性など (事前事後学修課題の内容) テキストの第2章第4節を読んで授業に出席すること・事後課題は授業の最後に示すので、次回授業で発表すること
第10回	介護計画の立案	(学修内容) 目標と援助内容の関連性。具体的援助内容・方法と社会資源についての理解。家族の思いの理解。 (事前事後学修課題の内容) テキストの第2章第4節を読んで授業に出席すること・事後課題は授業の最後に示すので、次回授業で発表すること
第11回	実施・評価	(学修内容) 計画を実施するうえでのチームアプローチ・多職種連携の重要性について理解する。評価の方法について学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキストの第2章第5節を読んで授業に出席すること・事後課題は授業の最後に示すので、次回授業で発表すること
第12回	介護過程の展開の理解(事例検討) 施設の利用者の事例	(学修内容) 施設における自立支援、自己決定について考える。施設におけるチームの在り方を学ぶ (事前事後学修課題の内容) 前回授業で配布した資料を読んで授業に出席すること・事後課題は授業の最後に示すので、次回授業で発表すること
第13回	介護過程の展開の理解(事例検討) 在宅の利用者の事例	(学修内容) 在宅生活継続のために求められる支援の視点を考える。 (事前事後学修課題の内容) 前回授業で配布した資料を読んで授業に出席すること・事後課題は授業の最後に示すので、次回授業で発表すること
第14回	介護過程の展開の理解(事例検討) 地域密着型サービスの事例	(学修内容) 地域での生活継続に必要な社会資源を知り、介護過程の展開を考える (事前事後学修課題の内容) 前回授業で配布した資料を読んで授業に出席すること・事後課題は授業の最後に示すので、次回授業で発表すること
第15回	介護過程展開の実際 まとめ レポート課題のプレゼンテーションと意見交換	(学修内容) 生活の主体者への視点を構築する。介護実践において、今後求められる知識、技術について考える。 (事前事後学修課題の内容) 第1回授業から第14回授業までの配布資料を読み直す。発表レポートを完成させる。

授 業 名	介護総合演習			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CW1711
英 文 名	Nursing Care Practce I			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	高岡 理恵・野田 隆生			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護実習に必要な知識・技術・態度等について習得することをねらいとする。介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。介護実習の教育効果を高めるため、介護実習に向けての心がまえ、動機付け、事前に実習する施設や事業所についての理解を行う。具体的には、専門職の倫理や施設理解のための講義を中心とするが、施設見学やディスカッションを通し、理解を深められるように進めていく。								
学修成果 到達目標	介護実習の目的や目標を理解し、それらに必要な事前の準備及び学習をすることができる。 介護福祉士が仕事とする対象や施設の理解をすることができる。 実習のイメージを膨らませ、自身の実習目標や学習課題を整えることができる。								
事件事後学修 について	各授業回到記載の「事件事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 2 時間)								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ☐ プレゼンテーション ■ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 (50%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ■ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	■ 知識・理解 ■ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 ☐ (							

授 業 名	介護総合演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 介護実習の概要 介護総合演習の位置づけを理解する	(学修内容) シラバスを見ながら授業の内容を確認する。 介護実習の全体概要を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 シラバスを、内容の質問ができるようにする。 事後 テキスト(介護実習の意義・目的)を読み要約する。
第2回	介護実習の基本的理解 介護実習の意義と目標を理解する	(学修内容) 介護実習の意義と目的についてディスカッションしながら学ぶ。 介護実習の場について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト(介護実習の意義・目的)を読み要約する。 事後 配付した資料を読みわからない語句に下線を引いておく。
第3回	介護実習の場の理解1 入所施設の理解(障がい児・者施設)	(学修内容) 障害児(者)施設の基本的な理解と利用者像について理解する。施設実習(障がい者施設)で学ぶべきポイントを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 障害児(者)施設の法的根拠を調べる。 事後 見学で質問できるように考えておく。
第4回	介護実習の場の理解2 障が者者施設見学	(学修内容) 障がい者施設へ行き、講義理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前 見学で質問できるように考えておく。 事後 特別養護老人ホームの法的根拠を調べてくる。
第5回	介護実習の場の理解 1 入所施設の理解(高齢者施設)	(学修内容) 特別養護老人ホーム、老人保健施設の基本的な理解と利用者像について理解する。実習での学ぶべきポイントを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 特別養護老人ホームの法的根拠を調べる。 事後 ホームヘルパー、ショートステイ、デイサービスの箇所を読む。
第6回	介護実習の場の理解 3 利用サービス事業所の理解(在宅3本柱)	(学修内容) ホームヘルプ事業、ショートステイの基本的な理解と利用者像について理解する。施設見学を行い実習での学ぶべきポイントを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト(HH、ショートステイ、デイサービス)の箇所を読む。 事後 デイサービスの役割について調べてくる。
第7回	介護実習の場の理解 4 デイサービスセンター見学	(学修内容) デイサービスセンターへ見学へ行き講義理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前 デイサービスの役割について調べてくる。 事後 見学実習を終えてレポート提出。
第8回	事前学習の内容と方法 1 実習にあたっての心構えと注意点を理解する	(学修内容) 介護実習事前準備と事務手続きを行う。実習にあたっての心構え、注意点の再確認を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 見学実習を終えてレポート提出。 事後 事務手続きを行い提出する。
第9回	事前学習の内容と方法 2 実習記録の理解と方法、書きかたについて理解する	(学修内容) 介護実習記録の意義と目的、書き方について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 事務手続きを行い提出する。 事後 実習記録の書き方宿題。(授業中に広報)
第10回	事前学習の内容と方法3 プロセスレコードの理解と方法、書きかたについて理解する	(学修内容) プロセスレコードを書く意味について理解し、書き方と活用法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習記録の書き方宿題の提出。 事後 プロセスレコードの宿題。(授業中に広報)
第11回	事前学習の内容と方法4 事前オリエンテーションの持ち方と留意	(学修内容) 自身の実習する施設での事前オリエンテーションへの連絡や留意点について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 プロセスレコードの宿題提出。 事後 実習へ行く施設について調べて実習記録に記載する。
第12回	事前学習の内容と方法5 実習目標の意義と考え方について理解する	(学修内容) 実習施設の基本的理解を行い、ディスカッションを行い実習目標を作成する。自己の目標を明確化する。口述で確認。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習へ行く施設について調べて実習記録に記載する。 事後 実習目標の下書きを行う。
第13回	事前学習の内容と方法6 実習目標指導	(学修内容) 個別指導 自己の目標を明確化したものを言語化しディスカッションを通し、実習目標を完成させる。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習目標の下書きを行う。 事後 実習目標を完成させる。
第14回	介護実践の研究 エビデンスの構築に繋がる実践研究の意義	(学修内容) 介護実践の意義と目的、研究方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習目標を完成させる。 事後 気になる介護課題(テーマ)について考える
第15回	総合演習のまとめ	(学修内容) 実習前に必要な記録物の確認及び作成を行う。総合演習のまとめを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 記録物の整理を行う。 事後 介護実習記録への書き込める事項を書きこむ。

授 業 名	リハビリテーション論		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1703
英 文 名	Rehabilitation Theory		開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	中平 剛志		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	リハビリテーションの理念を理解し、「障害」に対するリハビリテーションの視点を学びます。 対象者の自立支援に向けた「リハビリテーション」の専門性に触れ、介護との接点を考えることが 授業全体の共通したテーマになります。個人の考えを他者に伝え、考え方の多様性に触れることを目的として、 グループワークやプレゼンテーションなども実施します。							
学修成果 到達目標	1) リハビリテーションに関連する職種を理解し、その専門性を説明することができる 2) 基本的な介護技術について、運動学的な分析を元に、リハビリテーションの理論や技術を活用できる 3) 障害の構造について理解し、グループワークを通して I C F の理解を深めることができる 4) 事例を通じて「 I C F 」モデルを活用してアセスメントができ、プレゼンテーションを通じて理解を深めることがで きる 5) 介護とリハビリテーションの連携について説明することができる							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 1 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解	○	汎用的技能				
		態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (90%) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 (10%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☒ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☒ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☒ 授業態度・参加意欲 ☐ (						

授 業 名	リハビリテーション論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	リハビリテーションの理念・歴史・役割について リハビリテーションを担う関連職種について	(学修内容) リハビリテーションの語源、リハビリテーションの歴史と定義について 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士について理解する (事前事後学修課題の内容) 事前: リハビリテーションという言葉に対するイメージを書き出しておく 事後: 事前に書いたイメージとの共通点、相違点を整理する。
第2回	疾病と障害について	(学修内容) 疾病(疾患)と障害の関係について、一次障害と二次障害について理解する (事前事後学修課題の内容) 事前: リハビリテーションの対象となる病気(疾病)を列挙しておく 事後: 病気を整理し、そこからどのような障害が生じるかを考えておく
第3回	リハビリテーション・ゴールについて 障害を受容することについて	(学修内容) ニーズの構造について、リハビリテーションのゴール設定について、障害受容の諸段階について理解する (事前事後学修課題の内容) 事前: リハビリテーションの目標設定はどのように行うかを考えてみる 事後: 目標設定に関わる因子を説明できるようにする
第4回	基本的動作の観察と分析・動作の介助技術(1) 寝返り動作、起き上がり動作の分析と介護技術の理論	(学修内容) 寝返り動作、起き上がり動作について運動学的に分析することで、介助技術の理論を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 基本的な介護技術を復習しておく 事後: 介護技術の理論的な背景が説明できるようにする
第5回	基本的動作の観察と分析・動作の介助技術(2) 立ち上がり動作、移乗動作の分析と介護技術の理論	(学修内容) 立ち上がり動作、移乗動作を運動学的に分析することで、介助技術の理論を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 基本的な介護技術を復習しておく 事後: 介護技術の理論的な背景が説明できるようにする
第6回	介護とリハビリテーションの連携(1) 拘縮の病態の理解について 介護負担との関係について	(学修内容) 事例を提示して介護とリハビリテーションの連携について検討する 「長期臥床者へのリハビリテーションアプローチと介護の視点」 (事前事後学修課題の内容) 事前: 寝たきりの状態にある対象者の様子をイメージしておく 事後: 拘縮の病態を理解できるように復習すること
第7回	介護とリハビリテーションの連携(2) 拘縮の予防や治療について	(学修内容) 事例を提示して介護とリハビリテーションの連携について検討する 「長期臥床者へのリハビリテーションアプローチと介護の視点」 (事前事後学修課題の内容) 事前: 寝たきりの状態にある対象者の様子をイメージしておく 事後: 拘縮に対する介護やリハビリを説明できるように復習する
第8回	障害学(1) 脳障害の病態と機能障害	(学修内容) 脳卒中の病態と機能障害について、リハビリテーションの実際と予後について理解する (事前事後学修課題の内容) 事前: 脳卒中のイメージを記録しておく 事後: 脳卒中の病態とそこから生じる症状をまとめる
第9回	障害学(2) 神経筋疾患の病態と機能障害 パーキンソン病について	(学修内容) パーキンソン病の病態と機能障害について、リハビリテーションの実際と予後について理解する (事前事後学修課題の内容) 事前: パーキンソン病のイメージを記録しておく 事後: パーキンソン病の病態とそこから生じる症状をまとめる
第10回	障害学(3) 神経筋疾患の病態と機能障害 ALS/脊髄小脳変性症について	(学修内容) ALSや脊髄小脳変性症の病態と機能障害について、リハビリテーションの実際と予後について理解する (事前事後学修課題の内容) 事前: ALSや脊髄小脳変性症のイメージを記録しておく 事後: ALSや脊髄小脳変性症の病態とそこから生じる症状をまとめる
第11回	障害学(4) 脊髄損傷の病態と機能障害	(学修内容) 脊髄損傷の病態と機能障害について、リハビリテーションの実際と予後について理解する (事前事後学修課題の内容) 事前: 脊髄損傷のイメージを記録しておく 事後: 脊髄損傷の病態とそこから生じる症状をまとめる
第12回	基本的動作の観察と分析・動作の介助技術(3) 歩行動作の分析と介護技術の理論	(学修内容) 歩行補助具の種類や目的を理解する。歩行動作を運動学的に分析することで、介助技術の理論を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 杖や車いすの知識を復習しておく 事後: 介護技術の理論的な背景が説明できるようにする
第13回	機能解剖学と関節運動の技術(1) 下肢の関節	(学修内容) 股関節・膝関節・足関節の機能解剖学を理解し、介護技術に応用する (事前事後学修課題の内容) 事前: 基本的な構造を復習しておく 事後: 構造の知識に関節の運動学を加えて理解する
第14回	機能解剖学と関節運動の技術(2) 上肢の関節	(学修内容) 肩関節の機能解剖学を理解し、介護技術に応用する (事前事後学修課題の内容) 事前: 基本的な構造を復習しておく 事後: 構造の知識に関節の運動学を加えて理解する
第15回	総括(介護とリハビリテーションの接点)	(学修内容) 1回～14回の授業内容を振り返り、共通したリハビリテーションの視点を整理する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 振り返りの為の要点を提示するので考えをまとめておく 事後: 授業を通じての要点を加えて、まとめを完成させる

授 業 名	こころとからだのしくみ			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1715
英 文 名	Structure of Mind and Body			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	早川 京子			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。								
学修成果 到達目標	こころのしくみが理解できる。 からだのしくみが理解できる。 介護実践に必要な観察力、判断力の基礎となる知識を理解する事ができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 3 0 分)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 (50%) ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 (50%) ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()							
テキスト	最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 第2版 堺 章 「新訂 目でみるからだのメカニズム」								
参 考 書	江連和久 村田栄子「看護学生のための解剖生理」								
課題に対する フィードバック の方法	小テストの実施及び前回の授業内容の要約プリント配布								
留意事項	介護をする上で、基本的なこころやからだのしくみの理解は非常に大切です。十分理解するために予習復習をしておきましょう。								
オフィス アワー	事前に申し出てください。								
実践的教育									

授 業 名	こころとからだのしくみ	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 「健康」とは	(学修内容) 授業の進め方・主な内容・評価方法についての説明 「健康」とは何か 健康を阻害する要因 (事前事後学修課題の内容) テキストのP2～12をよく読んでおく。
第2回	人間の欲求の基本的理解 自己概念と尊厳	(学修内容) 基本的欲求、社会的欲求など 自己概念に影響する要因 自律の意欲と自己概念 (事前事後学修課題の内容) テキストP14～23をよく読んでおくこと
第3回	こころのしくみの理解	(学修内容) 脳とこころのしくみの関係 学習、記憶、思考のしくみ (事前事後学修課題の内容) テキストP24～38をよく読んでおくこと
第4回	からだのしくみの理解(からだのづくり)	(学修内容) からだのづくりの理解 身体各部の名称 (事前事後学修課題の内容) 配布した資料及びテキストP42～43をよく読んでおくこと
第5回	からだのしくみの理解 (脳と神経)	(学修内容) 脳と神経を理解する (事前事後学修課題の内容) テキストP48～53をよく読んでおくこと
第6回	からだのしくみの理解 (骨格系と筋系)	(学修内容) 骨格系、筋系を理解する (事前事後学修課題の内容) テキストP43、46～47、P65～72をよく読んでおくこと
第7回	からだのしくみの理解 (皮膚、感覚器系)	(学修内容) 皮膚、感覚器系(視覚器官、聴覚器官)を理解する (事前事後学修課題の内容) テキストP53～56をよく読んでおくこと
第8回	からだのしくみの理解 (呼吸器系)	(学修内容) 呼吸器系を理解する (事前事後学修課題の内容) テキストP56～58を読んでまとめておくこと
第9回	からだのしくみの理解 (心臓)	(学修内容) 血液、循環器系(心臓機能、体循環と肺循環)を理解する (事前事後学修課題の内容) テキストP58～60を確認しておくこと
第10回	からだのしくみの理解 (血管系)	(学修内容) 血液、循環器系(動脈・静脈系)を理解する (事前事後学修課題の内容) テキストP59～60、P78～80を読んでおくこと
第11回	からだのしくみの理解 (消化器系)	(学修内容) 消化器系を理解する (事前事後学修課題の内容) テキストP60～63を確認しておくこと
第12回	からだのしくみの理解 (腎・泌尿器系)	(学修内容) 腎・泌尿器系を理解する (事前事後学修課題の内容) テキストP63～64を確認しておくこと
第13回	からだのしくみの理解 (生殖器系、内分泌系)	(学修内容) 生殖器系、内分泌系を理解する (事前事後学修課題の内容) テキストP72～78を読んでおくこと
第14回	生命維持をするしくみ	(学修内容) 生命を維持するしくみ ホメオスタシス (事前事後学修課題の内容) テキストP81～86を読んでおくこと
第15回	全体のまとめ	(学修内容) 配布資料のまとめ (事前事後学修課題の内容) 配布した資料をすべて確認しておくこと

授 業 名	発達と老化		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1713
英 文 名	Development and Aging		開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	福井 百合子		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	人間の成長と発達過程と、ライフサイクル各期の特徴を理解し、老化（加齢）に伴う身体的・心理的・社会的変化と、それらが生活や日常生活動作に及ぼす影響について学ぶ。老年期の特徴に応じた生活支援を考え実践するための基礎的な知識を習得する。理解を深めるために、適宜、動画視聴、ワーク、ディスカッションを実施する。また学習内容や理解度の確認のため、適宜、課題発表やプレゼンテーションの機会を設ける。							
学修成果 到達目標	発達段階における老年期の特徴と老化に伴う心身の変化を理解し、介護職に必要な知識を身につけ、高齢者に寄り添う態度を養う。 人間の各発達段階の特徴と発達課題について知り、老年期の特徴と発達課題を説明できる。 老化に伴う身体的・心理的・社会的変化の特徴と起こりやすい疾患について学び、生活および日常生活動作への影響を説明できる。 根拠に基づいた介護の実践につながる知識を身につけ、適切な支援を考えることが出来る。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解	○	汎用的技能				
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用（双方向型授業） ☐ I C T 活用（自主学習支援）							
評価方法	定期試験 （50%） ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 （50%） ■ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 ■ 口述 ☐ 実習 ■ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	■ 知識・理解 ■ コミュニケーション能力 ■ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 ■（提出課題や小テスト ） ☐ （ ）						
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会 編「最新 介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解」中央法規							
参 考 書	長谷川和夫・長嶋紀一・遠藤英俊 編「こころとからだのしくみ 発達と老化の理解 介護の視点からみる高齢者の心理と健康」建帛社							
課題に対する フィードバック の方法	授業後の小テストや課題に対して提出後、受講者間での発表やディスカッション、教員コメントバックなどにより学びや気付きを深める。							
留意事項	人間の成長と発達の過程と各段階での発達課題の特徴をおさえた基礎知識をもとに、老年期について理解を深め、支援を考えられるようになることが求められる。							
オフィス アワー	初回の授業で連絡する。							
実践的教育	■ 実践的教育 教員の実務経験など：病院での看護師・助産師の実務経験、大学での指導経験から、高齢者の様子や状況がイメージしやすいよう工夫しながら授業を進めていく。							

授 業 名	発達と老化	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業ガイダンス 人間の成長・発達の原則 影響要因	(学修内容) 授業の案内。成長・発達の概念と、成長・発達の原則および影響要因について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第1章を読む。子どもの保健、子どもの健康と安全で学んだ発育の原則と子どもの特徴を復習。事後：発育過程を整理する。
第2回	形態的発育(身体発育)の過程と評価 出生後の身体変化	(学修内容) 形態的発育(体重、身長、頭囲・胸囲)の過程と評価方法(身体発育曲線、体格指数)、出生後の身体変化(呼吸・循環)を踏まえ養育支援を考察 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第2章第3節を読む。子どもの保健、子どもの健康と安全で学んだ形態的発育の復習。事後：形態的発育の過程を整理して覚える。
第3回	人間の発達段階と発達課題 発達理論 各期の発達課題と支援	(学修内容) 人の発達段階の各期の特徴とライフイベント、発達課題について、理論を交えて学び、各期の生活支援について話し合い考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第2章第1～2節を読む。年齢ごとの特徴と発達課題を復習。事後：発達過程に応じた支援を発達課題をふまえて整理する。
第4回	身体的機能の発達 運動機能の発達 粗大運動と微細運動 感覚統合と協応動作の発達	(学修内容) 原始反射、運動機能の発達(微細運動・粗大運動)、姿勢の変化、骨と歯の成長について学び、適切な支援について考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第2章第3節を読む。デンバー式発達判定法、基本動作36を見て運動機能の発達過程を復習。事後：運動機能の発達過程を整理。
第5回	認知機能の発達と心の発達 心理社会性の発達 言語の発達 発達障害	(学修内容) 理論(ボウルヴィ、エリクソン、ピアジェ)を交え、認知機能の発達、心理社会性の発達、言語の発達と、各発達段階の特徴を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書教科書第4～5章を読む。愛着形成について調べておく。事後：認知機能の発達、言語の発達について整理して覚える。
第6回	老化(加齢)と老年期 老化や高齢者の捉え方 老年期の特徴と発達課題 現代における高齢者を取り巻く環境	(学修内容) 老化や高齢者に対する個々の概念を出し合いながら、現代社会における老化(加齢)と高齢者の捉え方について学び、思考を広げる。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第3章、第5章第2節を読む。高齢者の特徴を思い浮かべ挙げる。事後：老化や高齢者の実状を意識して情報や知識を蓄積する。
第7回	老年期の発達段階と発達課題 老年期のライフイベントと高齢者の生活支援	(学修内容) 高齢者の生活支援について社会的背景をふまえる。50～60年前の日本の情勢を調べ(ワーク)高齢者の過ごしてきた時代背景を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第2章第5節、第3章第3節を読む。各ライフステージと特徴について復習する。事後：生活支援に影響を及ぼす要因を整理する。
第8回	老化に伴う身体的変化とよくみられる不調や疾患 生理機能(恒常性、睡眠、免疫)	(学修内容) 老化に伴う生理機能の変化と日常生活面への影響について学び、高齢者の生活支援の際の留意点について考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第4章第1節を読む。事後：老年期の生理機能の特徴について整理する。
第9回	老化に伴う身体的変化とよくみられる不調や疾患 骨格筋 日常生活動作への影響	(学修内容) 老化に伴う骨格筋系の変化と疾患、日常生活動作への影響について学び、高齢者の生活支援の際の留意点について考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第4章第2節を読む。廃用症候群、フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニアを調べる。事後：介護予防対策を考察。
第10回	老化に伴う身体的変化とよくみられる不調や疾患 感覚器	(学修内容) 老化に伴う感覚器の変化と疾患、日常生活面への影響について学び、高齢者の生活支援の際の留意点について考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第4章第1節、第5章第3節を読む。事後：高齢者の感覚機能の変化に応じた援助や留意点をまとめる。
第11回	老化に伴う身体的変化とよくみられる不調や疾患 消化器、内分泌、排泄機能	(学修内容) 老化に伴う消化器、内分泌、排泄機能の変化と日常生活面への影響について学び、高齢者の生活支援の際の留意点について考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第5章第3節を読む。糖尿病と低血糖、嚥下機能の仕組みについて調べる。事後：消化や排泄の変化に応じた援助や留意点を整理。
第12回	老化に伴う心理社会的変化 認知機能 動機、適応 パーソナリティ	(学修内容) 高齢者の認知機能や心理面の変化や特徴、適応や動機について学び、高齢者の生活支援の際の留意点について考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第4章第2節を読む。事後：高齢者の認知機能の変化に応じた援助や介護予防支援についての気付きや学びを整理する。
第13回	老化に伴う心理社会的変化 生活や社会的役割の変化	(学修内容) 高齢者の社会的背景の変化や、心理的な特徴と変化について学び、高齢者の生活支援の際の留意点について考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第4章第3節を読む。事後：高齢者の役割変化やライフイベントの影響を整理してまとめる。
第14回	現代社会の状況と高齢者支援 高齢者世帯(老々介護)の実際を実録動画を通して考える	(学修内容) 高齢化が進む現代社会における高齢者の生活支援について、実際の老々介護の夫婦とそれを支える家族の実録DVD視聴により現状を知る。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書第5章第4節を読む。自らの考え、気付き、感想などをまとめる。事後：動画内の本人・家族の状況と必要な支援内容を整理する。
第15回	現代社会の状況と高齢者支援 高齢者世帯(老々介護)の実際を実録動画を通して考える 定期試験の案内	(学修内容) 実際の老々介護の夫婦と支える家族の実録DVD視聴から、必要な社会資源や支援活動、現代社会の課題について、互いに話し合い考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：動画内の本人・家族の状況と必要な支援内容と実際活用していた支援内容を整理して挙げる。事後：授業全体の復習。

授 業 名	医療的ケア		開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CW1763
英 文 名	Medical Care		開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	中島 香織		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護福祉士の基礎的教育をベースとして医療的ケアを安全・適切に実施するための、専門的知識を習得する。医療的ケアを安全かつ感染防止をふまえ、演習を通して技術を習得する。							
学修成果 到達目標	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 評価基準に沿って、シミュレータを用いて喀痰吸引を実施することができる。 評価基準に沿って、シミュレータを用いて経管栄養を実施することができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 3 0 分)							
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解			汎用的技能			
	○	態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (60%) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	医療的ケア	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	6-(4)経管栄養実施手順 * 経管栄養の器具・器材とそのしくみ * 挿入部の清潔 * 感染予防、事故発生時の対応	(学修内容) 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストP205～P210、P191～P200まで読み物品名を覚えておく。 事後: 経管栄養の感染に対する予防について復習する。
第2回	6-(5)経管栄養実施手順 * 経管栄養の技術と留意点 * 経管栄養に伴うケア	(学修内容) 経管栄養に伴う技術・留意点・感染予防・事故発生時の対応を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストP210～P225まで読んで感染予防について考えておく。 事後: 栄養剤による違いについて注入方法と注意点をレポート提出。
第3回	5-(4)喀痰吸引手順 * 喀痰吸引の器具・器材とそのしくみ * 喀痰吸引の技術と留意点	(学修内容) 喀痰吸引で用いる器具・器材のしくみを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストP142～P159まで読み物品名を覚えておく。 事後: 吸引前、吸引中、吸引後の注意点をレポート提出。
第4回	5-(5)喀痰吸引手順 * 喀痰吸引に伴うケア * 感染予防 * 事故発生時の対応	(学修内容) 喀痰吸引に伴うケア・感染予防・事故発生時の対応を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストP159～163、P126～138まで読んで感染予防を理解する。 事後: 介護福祉士として喀痰吸引に伴うケアに復習する。
第5回	7、医療的ケアまとめ	(学修内容) 医療的ケアの概論及び実施手順について再確認する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 過去のレポートを再読する。 事後: 介護福祉士として医療的ケアを行う必要性について感想提出。
第6回	5-(6)喀痰吸引手順 * YouTube視聴 5- 喀痰吸引演習(口・鼻・気管)	(学修内容) 吸引部位(口・鼻・気管)の実施研修評価票の流れを理解、演習を5回行う (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト喀痰吸引AR(口腔)を視聴、流れを理解する。 事後: 喀痰吸引の評価項目に合わせた手順を理解しておく。
第7回	5- 喀痰吸引演習(口・鼻・気管)	(学修内容) 吸引部位(口・鼻・気管)の実施研修評価票の流れを理解、演習を5回行う (事前事後学修課題の内容) 事前: 喀痰吸引の評価項目(口腔)に合わせた手順を覚える。 事後: 演習後、自己評価を提出する。
第8回	5-(7)喀痰吸引手順 * YouTube視聴 5- 喀痰吸引演習(口・鼻・気管)	(学修内容) 吸引部位(口・鼻・気管)の実施研修評価票の流れを理解、演習を5回行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト喀痰吸引AR(鼻腔)のを視聴、流れを理解する。 事後: 喀痰吸引の評価項目に合わせた手順を理解しておく。
第9回	5- 喀痰吸引演習(口・鼻・気管)	(学修内容) 吸引部位(口・鼻・気管)の実施研修評価票の流れを理解、演習を5回行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 喀痰吸引の評価項目(鼻腔)に合わせた手順を覚える。 事後: 演習後、自己評価を提出する。
第10回	5-(8)喀痰吸引手順 * YouTube視聴 5- 喀痰吸引演習(口・鼻・気管)	(学修内容) 吸引部位(口・鼻・気管)の実施研修評価票の流れを理解、演習を5回行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト喀痰吸引AR(気管)を視聴、流れを理解する。 事後: 喀痰吸引の評価項目に合わせた手順を理解しておく。
第11回	5- 喀痰吸引演習(口・鼻・気管)	(学修内容) 吸引部位(口・鼻・気管)の実施研修評価票の流れを理解、演習を5回行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 喀痰吸引の評価項目(気管)に合わせた手順を覚える。 事後: 演習後、自己評価を提出する。
第12回	6-(6)経管栄養実施手順 * YouTube視聴 6- 経管栄養演習(胃瘻・経鼻)	(学修内容) 経管栄養(胃瘻・経鼻)の実施研修評価票の流れを理解、演習を5回行う (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト経管栄養実施AR(胃瘻、半固形)を視聴、理解する。 事後: 経管栄養の評価項目に合わせた手順を理解しておく。
第13回	6- 経管栄養演習(胃瘻・経鼻)	(学修内容) 経管栄養(胃瘻・経鼻)の実施研修評価票の流れを理解、演習を5回行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 経管栄養の評価項目に合わせた手順を覚える。 事後: 演習後、自己評価を提出する。
第14回	6-(7)経管栄養実施手順 * YouTube視聴 6- 経管栄養演習(胃瘻・経鼻)	(学修内容) 経管栄養(胃瘻・経鼻)の実施研修評価票の流れを理解、演習を5回行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキスト経管栄養実施AR(経鼻経管栄養)を視聴、理解する。 事後: 経鼻経管栄養の評価項目に合わせた手順を理解しておく。
第15回	6- 経管栄養演習(胃瘻・経鼻)	(学修内容) 経管栄養(胃瘻・経鼻)の実施研修評価票の流れを理解、演習を5回行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 経鼻経管栄養の評価項目に合わせた手順を覚える。 事後: 演習後、自己評価を提出する。

授 業 名	社会の理解		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1701
英 文 名	Understanding Society		開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	野田 隆生		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	わたしたちは、生計が安定し、安心して安全な地域社会の中で暮らすことができれば、特段の不満は生まれないでしょう。しかし、日本経済の不況や自然災害による被災者の二次被害などが、容赦なく国民の生活を奈落の底へと誘っている現実がある。そうした時に、国は社会保障という枠組みで、国民の生活を立て直す施策を展開するという仕組みがある。 本講では、国民一人ひとりに付与されている尊厳の保持や権利擁護の視点に基づきながら、地域の中で生きていくために必要とされる社会保障について理解することを目的とします。主なテーマとしては、わたしたちの暮らし、地域共生社会、社会保障制度の仕組み、高齢者に関する法制度などの問題を取り上げ、その現状と背景を分析しながら原因と解決策を考えていきたい。							
学修成果 到達目標	1) 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養うことができる。 2) 対象者の生活を地域の中で支えていく視点から、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につけることができる。 3) さまざまな環境にある対象者への介護実践に対応できるように、社会保障の制度や施策についてその基礎的な知識を身につけることができる。 4) 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養うことができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解			汎用的技能			
		態度・志向性		○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (70%) ■ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 (30%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ■ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	■ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ■ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()						
テキスト	介護福祉士養成講座 第2巻『社会の理解』中央法規							
参 考 書	講義時に随時、文献・資料を紹介する。							
課題に対する フィードバック の方法	小レポートにはコメントを添えて返却する。 プレゼンテーションの後には、批評ならびにコメントを行う。							
留意事項	平素より時事問題に目を向け、批判的な視点で考究するようにして下さい。							
オフィス アワー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室(1R-404)に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内G-mailを利用して下さい。							
実践的教育								

授 業 名	社会の理解	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに	(学修内容) 本講の進め方や成績評価の方法について説明する (事前事後学修課題の内容) 事前 テキストのはしがきと目次を読み気になる項目について調べる 事後 「生活」についてワークシート(WS)にまとめる
第2回	生活を考える	(学修内容) 「生活」についてグループディスカッションを通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第1章(pp.2-40)を読み気になる項目について調べる 事後 WSに必要事項をまとめる
第3回	人と向き合うこと	(学修内容) 自分史を作成する (事前事後学修課題の内容) 事前 前回の内容をまとめておくこと 事後 レポートを作成する
第4回	地域で生活するということ	(学修内容) 現代社会における福祉的課題について、ディスカッションを通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第2章(pp.42-65)を読み気になる項目について調べる 事後 気になる項目の整理を行う
第5回	地域包括ケアシステムについて	(学修内容) 地域共生社会や地域包括ケアシステムが、今、なぜ必要とされるのかについて考える (事前事後学修課題の内容) 事前 基本用語について各自で調べ、ノートに記述しておくこと 事後 基本用語を再確認しておくこと
第6回	社会保障の意義と役割とその機能	(学修内容) 社会保障が、なぜ必要とされるのかについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第3章(pp.66-78)を読み気になる項目について調べる 事後 身近な事例を探しておくこと
第7回	社会保障制度の発達過程	(学修内容) 戦後の歴史的展開過程について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第3章(pp.79-90)を読み気になる項目について調べる 事後 出来事と人物を整理しておくこと
第8回	社会保障制度のしくみ	(学修内容) 社会保険や公的扶助のしくみについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第3章(pp.91-118)を読み気になる項目について調べる 事後 基本用語を再確認しておくこと
第9回	高齢者保健福祉の動向	(学修内容) 現代社会における高齢者の動向とその課題についてディスカッションを通して考える (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第4章(pp.122-139)を読み気になる項目について調べる 事後 基本用語を再確認しておくこと
第10回	高齢者保健福祉に関連する法体系	(学修内容) 高齢者保健福祉に関連する法体系について、その理念を取り上げながら学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第4章(pp.140-147)を読み気になる項目について調べる 事後 法体系を再確認しておくこと
第11回	介護保険制度のあゆみと現在の動向	(学修内容) なぜ介護保険制度が必要とされているのかについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第4章(pp.148-163)を読み気になる項目について調べる 事後 高齢者施設のHPを見て、施設のあゆみについてまとめる
第12回	介護保険制度のしくみとサービス概要	(学修内容) 介護保険制度のサービスの種類とその内容について、法改正と照らしながら学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第4章(pp.163-204)を読み気になる項目について調べる 事後 動画を検索し、その内容についてレポートにまとめる
第13回	障害児者福祉の現状と課題	(学修内容) 障害児者の現状を統計資料より理解し、その課題について考える (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第5章(pp.198-224)を読み気になる項目について調べる 事後 課題を整理し、その内容についてまとめる
第14回	障害児者に関する制度とそのサービスの概要	(学修内容) 障害児者に関する福祉サービスの体系について学びながら、障害児者の生きる権利について考える (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第5章(pp.225-251)を読み気になる項目について調べる 事後 サービスの概要について整理し、まとめる
第15回	まとめにかえて ～介護の魅力って、なに？～	(学修内容) 介護の魅力について、ディスカッションを通して学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前 時事問題を取り上げ、WSに概要を記入する 事後 定期試験に向けて資料の整理をする

授 業 名	介護技術		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1708
英 文 名	Nursing Care Work Skills		開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	高岡 理恵		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	対象者の保有する力を活用し、自立を支援するための生活支援技術（食事・排泄・清潔保持等）の基本を習得する。自分が行った技術について、科学的に説明できる能力を身につけるための学習とする。 この授業は、2コマを利用し、理論と実践を行う。理論では講義を中心にしながら、グループワークやディスカッションで理解を深める。実践では、自身が行った介護技術を動画にとり技術を確認する。さらに、自分自身が対象者になる実体験を行う。入浴介護では、協力施設に出向いて実践を行うこともある。							
学修成果 到達目標	1）基本的な生活支援技術を身につける。 2）実践の根拠について説明できる。 3）介護を受ける側の気持ちを理解できる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）							
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解		○	汎用的技能			
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ☐ I C T活用（自主学習支援）							
評価方法	定期試験 （50%） ☒ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	介護技術	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 感染予防の理解と予防	(学修内容) 授業の受け方や基本的態度を学ぶ。介護実習室の使用方法を理解する。 感染予防の技術を身に付ける。 (事前事後学修課題の内容) 事前 シラバスを読んでおくこと。 事後 自身の食文化について人に説明できるようにしておく。
第2回	自立にむけた食事の介護 食事介助の基本	(学修内容) 食事をする意義(生理的、心理的、社会的、文化的)についてディスカッションしながら理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 自身の食文化について人に説明できるようにしておく。 事後 テキスト p 2 ~ 40でわからない語句を調べノートにまとめる。
第3回	自立にむけた食事の介護 用具の選択と食事形態	(学修内容) バリアフリー展へ行き、食事等に必要な様々な用具を見学する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト p 2 ~ 40でわからない語句を調べノートにまとめる。 事後 バリアフリー展で学んだ内容をレポートにする。
第4回	自立にむけた食事の介護 障害に応じた食事介護	(学修内容) 視覚障害、片マヒ、内部障害者への食事介護の技術を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 バリアフリー展でのレポート作成。 事後 テキスト p 41 ~ 80でわからない語句を調べノートにまとめる。
第5回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔の介護の意義と目的	(学修内容) 入浴・清潔保持の意義(生理的、精神的、社会的、文化的)をディスカッションしながら理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト p 41 ~ 80でわからない語句を調べノートにまとめる。 事後 テキスト p 81 ~ 150でわからない語句を調べノートにまとめる。
第6回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の基本的介護	(学修内容) 「清潔保持」ための準備、環境整備を行い、介護技術を実践(実習)する。足浴、手浴の実践。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト p 81 ~ 150でわからない語句を調べノートにまとめる。 事後 テキスト p 151 ~ 220でわからない語句を調べノートにまとめる。
第7回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の基本的介護 入浴におけるリスクとリスクマネジメント	(学修内容) 入浴における事故と対応を学ぶ。全身清拭の実践。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト p 151 ~ 220でわからない語句を調べノートにまとめる。 事後 テキスト p 221 ~ 270でわからない語句を調べノートにまとめる。
第8回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の基本的介護 洗髪の介護	(学修内容) 「清潔保持」を行うための準備、環境整備を行い、洗髪の実践をする。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト p 221 ~ 270でわからない語句を調べノートにまとめる。 事後 テキスト p 271 ~ 330でわからない語句を調べノートにまとめる。
第9回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 心身の状態に応じた入浴・清潔保持の介護 特殊入浴を行う利用者	(学修内容) 入浴介護での留意に配慮し入浴体験及び入浴介護を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト p 271 ~ 330でわからない語句を調べノートにまとめる。 事後 配付資料を読む
第10回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 心身の状態に応じた入浴・清潔保持の介護 最新の特殊入浴を行う利用者	(学修内容) 協力施設の見学実習を行い、新しい入浴機器と使用方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 配付資料を読む 事後 見学レポートを書き発表できるようにする。
第11回	自立にむけた入浴・清潔保持の介護 口腔ケアの介護	(学修内容) 口腔ケアの意義や目的、方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 見学レポートを書き(800字にまとめる)発表できるようにする 事後 テキスト p 330 ~ でわからない語句を調べノートにまとめる。
第12回	自立にむけた排泄の介護 排泄介護の意義と目的	(学修内容) 排泄介護の意義(生理的、精神的、社会的、文化的)についてディスカッションしながら理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト p 330 ~ でわからない語句を調べノートにまとめる。 事後 テキスト排泄の介護を読み、わからない語句を調べてくる。
第13回	自立にむけた排泄の介護 排泄の基本的介護	(学修内容) 「排泄介護」を行うための準備、環境整備を行い、介護技術を実践する用具を使用した排泄介護(ポータブルトイレ、便器、おむつ)。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト排泄の介護を読み、わからない語句を調べてくる。 事後 ストマについて調べてくる。
第14回	自立にむけた排泄の介護 心身の状態に応じた排泄介護	(学修内容) 内部障害のある人(ストマのある方)への排泄介護について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 ストマについて調べてくる。 事後 実技テストのための練習をする。
第15回	実技テストと振り返り	(学修内容) 実技テストを行い、その後振り返りグループワークで振り返りを行う。なぜその方法をとったのかということを説明する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実技テストの準備として練習を行う。 事後 実技テストに必要な知識について用紙にまとめ提出する。

授 業 名	生活支援技術			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1706
英 文 名	Livelihood Support Skills I			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	吉島 紀江			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	本講義では、「生活支援の理解」「住環境の整備」「自立に向けた家事の介護」生活を支える基盤の家事の基本を学びます。さらに、高齢者が暮らす施設や介護予防事業で行われているレクリエーション活動や介護予防運動を実施するためのアセスメントの視点、素材の選び方と展開の方法をペアワークやディスカッションを行いながら実践に応用できるよう学習をします。								
学修成果 到達目標	1) 介護福祉士が行う生活支援の基本的な考え方を説明することができる。 2) 生活の意欲を引き出す介護予防活動を企画できる。 3) 生活を行うための家事支援が実践できる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	生活支援技術	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 生活と介護福祉士が行う生活支援の理解	(学修内容) 授業概要の説明、生活とは何かを概説する 個人ワーク (事前事後学修課題の内容) 事前 テキストの目次項目を読む 事後 祖父母・親世代と現代の生活の違いを調べる
第2回	社会の変化に伴う生活の変化についての理解 1 ライフサイクルと心の豊かさについて	(学修内容) 生活に伴う変化について、工夫の実際に触れ理解を深める フィールドワーク (事前事後学修課題の内容) 事前 祖父母・親世代と現代の生活の違いを調べる 事後 介護保険、介護サービス「生活援助」の内容を調べてくる
第3回	社会の変化に伴う生活の変化についての理解 2 生活習慣と生活支援	(学修内容) 事前課題の口頭発表とディスカッションを通して、生活習慣を理解し介護福祉士が行う生活支援について考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前 介護保険、介護サービス「生活援助」の内容を調べてくる 事後 1日に行われる家事、食文化についてのワークシートを埋める
第4回	自立生活を支える家事 1 裁縫の介助方法	(学修内容) 衣類の補修の方法、縫い方を理解し、実際に雑巾縫い・ボタン付けを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 介護保険、介護サービス「生活援助」の内容を調べてくる 事後 衣類の保管方法と洗濯表示について調べ整理する
第5回	自立生活を支える家事 2 洗濯の介助方法	(学修内容) 衣類の洗濯表記を理解し、洗濯の方法やシミの取り方、アイロンの方法を理解する (事前事後学修課題の内容) 事前 衣類の保管方法と洗濯表示について調べ整理する 事後 地域におけるゴミ回収のルールを調べる
第6回	自立生活を支える家事 3 室内環境と掃除の介助方法	(学修内容) 掃除やごみ捨ての基本を理解し、疾患に応じた掃除の方法や地域の回収ルールを理解する (事前事後学修課題の内容) 事前 地域におけるゴミ回収のルールを調べる 事後 クーリングオフ制度と成年後見制度について調べる
第7回	自立生活を支える家事 5 家計管理の介助方法(クーリングオフを含む)	(学修内容) I C Fに基づき、家計管理を行うときの視点や介助手順を理解し、家計管理の方法を知る (事前事後学修課題の内容) 事前 クーリングオフ制度と成年後見制度について調べる 事後 買い物計画及び調理手順書の作成
第8回	自立生活を支える家事 4 生活支援 日用品の買い物 (フィールドワーク)	(学修内容) 介護保険の介護サービスを踏まえて、生活が自立するための生活支援とサービスについて理解する。実際に買い物を行う (事前事後学修課題の内容) 事前 買い物計画及び調理手順書の作成 事後 食品の保存方法と調理方法を整理する
第9回	自立生活を支える家事 6 調理の介助方法と食品の保存方法	(学修内容) I C Fに基づき、調理に関する一連の流れを理解し、在宅で行う調理の基本を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 食品の保存方法と調理方法を整理する 事後 一般介護予防サービスに、整理する
第10回	介護予防 1 一般介護予防サービス	(学修内容) 介護予防の実際と介護予防の実践方法についてグループワークを通して理解する(計画を含む) (事前事後学修課題の内容) 事前 一般介護予防サービスに、整理する 事後 通いの場で行われている内容を調べ、実施準備をする
第11回	介護予防 2 介護予防推進センターの取り組み	(学修内容) 通いの場における活動について、実際に計画～実施、評価までを理解する (事前事後学修課題の内容) 事前 通いの場で行われている内容を調べ、実施準備をする 事後 大学周辺地図より災害時に想定される要介護者の課題を抽出する
第12回	介護予防 3 地域における様々な介護予防及び災害時の準備 フィールドワーク	(学修内容) 地域における様々な介護予防及び災害時に向けて準備をフィールドワークを通して災害予防の実際に触れる (事前事後学修課題の内容) 事前 大学周辺地図より災害時に想定される要介護者の課題を抽出する 事後 フィールドワークでの結果を整理し、発表準備をする
第13回	介護予防 4 介護施設・事業所における業務継続計画(BCP) ゲストスピーカー	(学修内容) フィールドワークの結果報告と課題抽出をし、介護が必要な人の災害時の支援を理解する (事前事後学修課題の内容) 事前 フィールドワークでの結果を整理し、発表準備をする 事後 災害時支援チームを調べる
第14回	介護予防 5 災害時支援チームの理解 災害時派遣福祉チーム(DWAT) 災害死亡者家族支援チーム(DMORT)	(学修内容) 災害時派遣福祉チーム(DWAT) 災害死亡者家族支援チームDMORTについて、理解を深める (事前事後学修課題の内容) 事前 災害時支援チームを調べる 事後 発表の準備をする
第15回	介護予防 6 災害時支援チームの理解 災害時の介護福祉士の役割	(学修内容) BCPや災害時支援チームの取り組みなどから介護福祉士の災害時の役割を理解する 学びを総括し発表する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 発表の準備をする 事後 15回の授業とテキストを照らし合わせて、整理をする

授 業 名	生活支援技術		開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CW1755
英 文 名	Livelihood Support Skills		開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	鈴木 みどり		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	多様な住まいにおいて、安全・安心・快適な生活環境の確保のための居住環境整備について理解する。 また福祉用具の機能を理解し、対象者の能力や生活環境に応じた福祉用具を選択・活用する技術を学び、望む暮らしを実現するための視点や工夫を学ぶ。 実際の福祉用具を使用しながら体験的に学ぶ。また、多様な福祉用具の機能と活用方法を理解するために見学実習を行う。（見学ができない場合は、動画などを活用する。） グループワークやディスカッションを行いながら授業を進める。							
学修成果 到達目標	住まいの多様性を理解し自立支援のための居住環境の整備について理解する。 対象者の能力や生活環境に応じた福祉用具を選択・活用することができる。 福祉用具利用時のリスクマネジメントができる。 快適な生活環境を整備するためのアセスメントと住環境改善計画ができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （ 1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間 ）							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用（双方向型授業） ☐ I C T 活用（自主学習支援）							
評価方法	定期試験 （ 60% ） ☒ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 （ 40% ） ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☒ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☒ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☒ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()						
テキスト	新・介護福祉士養成講座 『生活支援技術 』							
参 考 書	授業にて指示する。 プリントを使用する。							
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートについては、コメントを付けて返却します。口述については、その都度コメントを返します。							
留意事項	もしも自分が車椅子で生活しているならば、どんなことがバリアになるか・・日常生活している環境の中で想像してみてください。バリアフリーやユニバーサルデザインも気にしてみてください。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施します。 または、Gメールを活用して連絡をしてください。							
実践的教育	☒ 実践的教育 教員の実務経験など：福祉用具販売・レンタル、住宅リフォームをしている会社の代表をしています。 福祉用具専門相談員・福祉住環境コーディネーター2級・2級建築士として25年以上の実務経験があります。							

授 業 名	生活支援技術	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーションについて 住まいについて	(学修内容) 授業の概要説明 色々な住まいについて考える (事前事後学修課題の内容) シラバスの内容を確認しておくこと。福祉用具や住環境の整備について どんなことが学びたいか発表できるようにまとめておく。
第2回	自立に向けた居住環境の整備：居住環境の整備の 意義と目的	(学修内容) 住まいの役割や居住環境整備の身体的・心理的・文化的意義と目的、生 活空間について理解できる (事前事後学修課題の内容) 予習として、自分が動作がしにくい状態であるという想定で、自宅内外 でバリアになると思うことを書き出しておく。振り返りを記載する。
第3回	自立に向けた居住環境の整備：自立に向けた居住 環境整備の視点	(学修内容) 快適な室内環境の整備（熱環境・通風・明るさ・音について） (事前事後学修課題の内容) 予習として、自宅の室内環境について（自室・リビングなど）発表でき るようにまとめておく。復習として授業後の気づきをまとめる。
第4回	自立に向けた居住環境の整備：住まいの変遷と住 居の維持管理や災害に対する備えについて 制度を利用した住宅改修について	(学修内容) 快適な室内環境の整備、住居の維持管理や災害に対する備えについて理 解する。介護保険など制度を利用した住宅改修について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 予習としてテキストを読んでくる。復習として、介護保険でできる住宅 改修についてレポートにまとめて提出する。
第5回	自立に向けた居住環境の整備：ショールームなど で住宅設備等の見学・体験・講義	(学修内容) 実際の住宅設備等を見学体験しながら理解を深める 商材を実際に見ながらの講義 (事前事後学修課題の内容) 予習としてどのような復習として、見学体験して気づいたことを発表で きるようにノートにまとめておく
第6回	自立に向けた居住環境の整備：ショールームなど で住宅設備等の見学・体験・振り返り	(学修内容) 実際の住宅設備等を見学体験しながら理解を深める (事前事後学修課題の内容) 復習として、見学体験して気づいたことを発表できるようにノートにま とめておく
第7回	自立に向けた居住環境の整備：居住環境整備のア セスメント	(学修内容) 利用者の状況・状態に応じた居住環境のアセスメントについて事例を通 じて理解する (事前事後学修課題の内容) 復習として、利用者の状況・状態に応じた居住環境についてノートにま とめておく
第8回	自立に向けた居住環境の整備：居住環境整備のア セスメントと計画	(学修内容) 利用者の状況・状態に応じた居住環境のアセスメントと改善計画をグル ープワークをして理解する (事前事後学修課題の内容) 復習として、アセスメントと改善計画をしてみの気づきをノートにま とめておく
第9回	福祉機器の意義と活用：福祉用具の概念と目的	(学修内容) 福祉用具活用の意義と目的、福祉用具の分類や介護ロボットについて理 解する (事前事後学修課題の内容) 予習として、身近にある福祉用具を書き出しておく
第10回	福祉機器の意義と活用：利用者の能力や住環境に 応じた福祉用具の機能と活用方法（ベッド関連・ 排泄関連・入浴関連他）	(学修内容) 福祉用具の機能やそれぞれのメリット・デメリットについて理解する （ベッド関連・排泄関連・入浴関連他） (事前事後学修課題の内容) 復習として、福祉用具（ベッド関連・排泄関連・入浴関連他）のそれぞ れの機能と活用についてレポートにまとめて提出する
第11回	福祉機器の意義と活用：利用者の能力や住環境に 応じた福祉用具の機能と活用方法（移動移乗関 連・コミュニケーション関連・自助具他） 制度を利用した福祉用具について	(学修内容) 福祉用具の機能やそれぞれのメリット・デメリットについて理解する 介護保険など制度を利用した福祉用具について理解する (事前事後学修課題の内容) 復習として、福祉用具（移動移乗関連・コミュニケーション関連・自助 具他）のそれぞれの機能と活用についてレポートにまとめて提出する
第12回	福祉機器の意義と活用：福祉用具の見学・体験	(学修内容) 福祉用具を体験しながら理解を深める (事前事後学修課題の内容) 復習として、福祉用具の体験を通じて学んだことや感じたことを発表で きるようにノートにまとめておく
第13回	福祉機器の意義と活用：福祉用具の見学・体験	(学修内容) 福祉用具を体験しながら理解を深める (事前事後学修課題の内容) 復習として、福祉用具の体験を通じて学んだことや感じたことを発表で きるようにノートにまとめておく
第14回	福祉機器の意義と活用：リスクマネジメント	(学修内容) 福祉用具のリスクとリスクマネジメントについてグループディスカッ ションを通じて理解する (事前事後学修課題の内容) 予習として、福祉用具を利用している時に起こり得る事故について想像 し、ノートに書き出しておく
第15回	福祉機器の意義と活用と自立に向けた居住環境の 整備まとめ	(学修内容) 事例を通じて福祉用具購入や住環境改善にあたり、多職種連携や状態の 変化に気づくことの大切さを学ぶ 全体の振り返り (事前事後学修課題の内容) 予習として、福祉用具購入や住環境改善にあたり連携する職種を書き出 しておく

授 業 名	介護過程		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1758
英 文 名	Nursing Care Process		開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	高岡 理恵		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	この授業で介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法が理解できることを目的とする。その方法として、一つ目は、夏季実習で行った介護過程の展開を見直し、目標と照らしながら個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるように、再度行った介護過程を見直す。二つ目は、事例を使用し、介護過程の展開を行い、個別の事例から発展的に検討できるように進めていく。3つめは、介護過程を人に理解してもらえるよう口述できるようにすることです。介護過程の展開を行うためには、科学的根拠が必要となり様々な知識を必要とするので、専門書を読み戦後の歴史を理解しておく必要があります。							
学修成果 到達目標	1．チームの一員として介護過程を展開することの意義を理解できる。 2．対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開ができる。 3．介護過程の展開について、根拠とともに人に説明することができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解		○	汎用的技能			
		態度・志向性			総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ■ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (60%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ■ 制作物 							

授 業 名	介護過程	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 介護過程とチームアプローチ 他の専門職のケアとの関係	(学修内容) 夏季実習で行った介護過程の展開を再確認する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 再確認に必要な資料を集めておく。 事後 まとめたものを発表できるように資料を作成する。
第2回	介護過程とチームアプローチ チームとしての介護過程の展開 カンファレンスの持ち方についての理解	(学修内容) 介護過程を行う上でのチームとチームアプローチについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 まとめたものを発表できるように資料を作成する。 事後 発表する準備を行う。
第3回	介護過程とチームアプローチ カンファレンスの持ち方についての理解	(学修内容) チームの目標設定とチームケアの必要性について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 発表する準備を行う。 事後 カンファレンスの行い方について予習しておく。
第4回	介護過程とチームアプロー カンファレンス	(学修内容) 夏季実習で行った介護過程の展開を再確認したものを資料を基にカンファレンスを体験する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 カンファレンスの行い方について予習しておく。 事後 情報の読み込みに必要な資料を集める。
第5回	介護過程の展開の理解 事例理解 自然科学・人間科学の理解	(学修内容) 事例を基に個の理解を深め、自然科学・人間科学の視点から情報収集の理解をする。 (事前事後学修課題の内容) 事前 情報の読み込みに必要な資料を集める。 事後 I C F について復習しておく。
第6回	介護過程の展開の理解 事例理解 I C F の観点を踏まえた情報の統合・分析	(学修内容) 事例から I C F への分類を行い、I C F の理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前 I C F について復習しておく。 事後 分析に必要な資料を集める。
第7回	介護過程の展開の理解 事例理解 分析	(学修内容) 事例を基に情報を統合し分析を行い、分析に必要な知識を再確認する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 分析に必要な資料を集める。 事後 自身の介護過程の足りないところを追記しておく。
第8回	介護過程の展開の理解 事例理解 ニーズの抽出と優先を考える	(学修内容) 事例からニーズを抽出しニーズの考え方、利用者主体について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 自身の介護過程の足りないところを追記しておく。 事後 マズローの欲求段階を復習しておく。
第9回	介護過程の展開の理解 事例理解 目標設定	(学修内容) 事例からその人の望む目標設定の考え方について学ぶ。短期目標、長期目標を考えかたを確認する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 マズローの欲求段階を復習しておく。 事後 計画に必要な内容をまとめ模造紙に仕上げる。
第10回	介護過程の展開の理解 事例理解 計画策定	(学修内容) 優先順位の高い目標設定を行い、実現可能となるための計画を策定する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 計画に必要な内容をまとめ模造紙に仕上げる。 事後 プレゼンテーションができるように発表内容をまとめておく。
第11回	介護過程の展開の理解 プレゼンテーション	(学修内容) 介護過程の振り返りを行い、介護過程について理解し他者に発信する。反転授業を実施する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 今までに配布した資料、参考になる図書をまとめ持参する。 事後 教授するために必要なレジュメを作成する。
第12回	介護過程の教授法 介護過程について整理する	(学修内容) 介護過程を教えるため(言語化)にディスカッションを行いながら必要なレジュメの作成する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 教授するために必要なレジュメを作成する。 事後 レジュメに必要な図書を集める。
第13回	介護過程の教授法 レジュメ作成	(学修内容) 介護過程を教えるため(言語化)に必要な根拠資料を収集するレジュメを作成する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 レジュメに必要な図書を集める。 事後 レジュメを作成する。
第14回	介護過程の教授法 プレゼンテーション準備	(学修内容) プレゼンテーションを行うために、レジュメを作成する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 レジュメを作成する。 事後 レジュメを最後まで完成させる。
第15回	介護過程の教授 プレゼンテーション	(学修内容) 介護過程の教授法をプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容) 事前 発表に必要な物品等の準備を行う。 事後 事後指導された内容を含め振り返り制作物にして提出する。

授 業 名	介護の基本			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1702
英 文 名	Fundamental Nursing Care I			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	高岡 理恵			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護福祉士の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉士の専門職としての能力と態度を養う学習とする。 具体的には、一つに、介護福祉の歴史や法、介護福祉養成教育の変化をもとに、社会から求められる介護福祉士人材が変化していることについて学ぶとともに、介護福祉士の基本理念である「尊厳と自立」について学びを深める。 二つに、国家資格である介護福祉士の諸規定から介護実践における倫理について理解するとともに、介護福祉士の活動の場と役割について理解する。 この授業は、講義を主とするが、ディスカッションを行いながら進めていく。								
学修成果 到達目標	多様化・高度化する介護ニーズ、介護福祉を取り巻く状況について理解することができる。 介護福祉士の専門性について理解できる。 介護福祉士に求められる専門職としての態度が形成される。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (60%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	介護の基本	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 介護の目的、基本的な役割	(学修内容) シラバスに沿って授業の進め方を知る。介護とは何か、ディスカッションを行いながら介護福祉士のイメージを膨らませる。 (事前事後学修課題の内容) 事前 介護とは何か、介護福祉士の職務は何かを考え言語化しておく。 事後 ノーマライゼーションについて調べ発言できるようにしておく。
第2回	介護の歴史 1 ノーマライゼーションの理念	(学修内容) ケアの変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 ノーマライゼーションについて調べ発言できるようにしておく。 事後 基本的人権について調べ発言できるようにしておく。
第3回	介護の歴史 2 基本的人権と尊厳の保持	(学修内容) 優生思想、戦争時における障がいを持つ人の歴史を知り、ノーマライゼーションや基本的人権、尊厳について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 基本的人権について調べ発言できるようにしておく。 事後 メアリー・リッチモンドについて調べてくる。
第4回	ケースワークと介護福祉	(学修内容) リッチモンドの問題提起をもとに介護福祉士という専門職は福祉が基盤であることを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 メアリー・リッチモンドについて調べてくる。 事後 テキスト p 15～30を読みわからない語句に下線を引く。
第5回	日本の社会福祉史における介護福祉の位置づけ	(学修内容) 日本社会、家族機能の変化と高齢者に対する介護の変遷について学ぶ。 (施設介護、在宅介護) (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト p 15～30を読みわからない語句に下線を引く。 事後 テキスト p 30～35 わかるように他の資料を調べる。
第6回	社会福祉政策と老人福祉法	(学修内容) 老人福祉法前後の社会を理解しどのような考えのもとに老人福祉法が成立したかについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト p 30～35 わかるように他の資料を調べる。 事後 ゴールドプラン、新ゴールドプランの内容を調べてくる。
第7回	介護福祉制度のなりたちと発展	(学修内容) 時代に伴う介護ニーズの変化と措置制度から契約制度への変化を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 ゴールドプラン、新ゴールドプランの内容を調べてくる。 事後 介護福祉士法第1条を調べ人に説明できるようにしておく。
第8回	介護保険制度の基本的な考え方	(学修内容) 社会保障制度の一つである介護保険制度を学び、契約のメリット、デメリットについて考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前 介護福祉士法第1条を調べ人に説明できるようにしておく。 事後 介護福祉士法変遷について調べてくる。
第9回	介護福祉士の役割と機能 1 法的根拠と介護福祉士法	(学修内容) 社会福祉士及び介護福祉士法の成立及び介護福祉士養成の変遷について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 介護福祉士法変遷について調べてくる。 事後 介護福祉職の職業倫理について調べる。
第10回	介護福祉士の役割と機能 2 専門職の倫理	(学修内容) ディスカッションをしながら介護福祉職の職業倫理や法遵守について理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前 介護福祉職の職業倫理について調べる。 事後 自身の考える「自立支援」とは何かを明確にしてくる。
第11回	介護福祉士の役割と機能 3 介護福祉の基本理念	(学修内容) 介護福祉士の基本理念である「尊厳」「自立支援」を支える介護について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 自身の考える「自立支援」とは何かを明確にしてくる。 事後 もとめられる介護福祉士像10項目を調べておく。
第12回	介護福祉士の役割と機能 4 求められる介護福祉士像	(学修内容) 求められる介護福祉士像についてグループワークをしながら理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前 もとめられる介護福祉士像10項目を調べておく。 事後 テキスト p 94～106を読み、必要な個所に下線を引く。
第13回	介護福祉士の役割と機能 5 介護福祉士への期待	(学修内容) 介護福祉現場での中心的役割、チームリーダーとしての期待について考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト p 94～106を読み、必要な個所に下線を引く。 事後 介護福祉を取り巻く社会での課題について考えてくる。
第14回	介護福祉を取り巻く課題1 利用者の権利侵害	(学修内容) 高齢者虐待や身体拘束等、利用者の権利侵害がおこる状況を考える。成年後見制度の制度を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 介護福祉を取り巻く社会での課題について考えてくる。 事後 外国人介護人材の受け入れの違いについて調べてくる。
第15回	介護福祉を取り巻く課題2 介護人材不足	(学修内容) 外国人介護人材の受け入れについて考える。 E P A、技能実習生、在留資格介護、特定技能の違い。 (事前事後学修課題の内容) 事前 外国人介護人材の受け入れの違いについて調べてくる。 事後 レポートを書くための準備をする。

授 業 名	認知症の理解	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 認知症の基本的理解 ― 認知症とは何か―	(学修内容) 認知症のある高齢者の現状と今後及び認知症の定義、全体像を学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキストp2～13を読んでおくこと
第2回	認知症の医学的側面の基本的理解 ― 脳のしくみ―	(学修内容) 脳のしくみについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキストp14～26を読んでおくこと 事後：認知症とうつ病とせん妄の特徴を整理すること
第3回	認知症の心理的側面の基本的理解 ― 認知症の人の心理―	(学修内容) 認知症の人の心理について学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキストp27～31を読んでおくこと
第4回	認知症の症状 ― 中核症状―	(学修内容) 中核症状の理解について学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキストp34～41を読んでおくこと
第5回	認知症の症状 ― 生活障害―	(学修内容) 生活障害の理解について学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキストp42～48を読んでおくこと 事後：認知症に特有の生活障害を整理する
第6回	認知症の症状 ― BPSD―	(学修内容) BPSDの理解について学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキストp49～64を読んでおくこと 事後：BPSDに影響を及ぼす要因を整理する
第7回	認知症の診断 ― 認知症の診断と重症度―	(学修内容) 認知症の診断と重症度について学ぶ HDS-Rを演習する (事前事後学修課題の内容) テキストp65～77を読んでおくこと 事後：認知症の評価尺度を整理する
第8回	認知症の診断 ― 認知症の原因疾患と症状―	(学修内容) 認知症の原因疾患と症状・生活障害の資料を作成 (事前事後学修課題の内容) テキストp78～95を読んでおくこと
第9回	認知症の診断 ― 認知症の原因疾患と症状―	(学修内容) 認知症の原因疾患と症状・生活障害についてパワーポイントを使って発表する。 (事前事後学修課題の内容) 認知症の症状と経過の理解するためのシートに目を通しておくこと
第10回	認知症の治療と予防	(学修内容) 認知症の治療薬と予防を学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキストp96～107を読んでおくこと
第11回	認知症の人を取り巻く状況	(学修内容) 認知症を取り巻く状況について年表を作成する (事前事後学修課題の内容) テキストp110～120を読んでおくこと
第12回	認知症ケアの理念と視点	(学修内容) 認知症ケアの理念と視点について学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキストp121～135を読んでおくこと 実習施設の理念を事前に検索しておくこと
第13回	認知症当事者の視点からみえるもの ― 認知症の人の思い―	(学修内容) 認知症当事者の視点を学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキストp136～151を読んでおくこと
第14回	認知症当事者の視点からみえるもの ― 認知症による体験が生活に及ぼす影響―	(学修内容) 配布資料をもとに、グループワーク及びディスカッションをする (事前事後学修課題の内容) 事前に配布した資料を読んでおくこと
第15回	認知症当事者の視点からみえるもの ― 認知症の人の思いを尊重したサポート方法―	(学修内容) 「本人ガイド」をまとめる (事前事後学修課題の内容) 本人ガイドの準備をしておくこと

授 業 名	医療的ケア		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1762
英 文 名	Medical Care		開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	中島 香織		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護福祉士の基礎的教育をベースとして、医療的ケア実施に関連する制度の概要及び医療低ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療職と介護職の連携の重要性」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」等についての基礎的な知識を理解する。							
学修成果 到達目標	個人の尊厳と自立、医療的ケアに関係する法律・制度について説明できる。 医療的ケアについて医療職と介護職の連携について説明できる。 感染について学び、予防方法を説明することができる。 医療的ケアの実施において、リスクマネジメントやヒヤリハットなど安全な療養生活について説明できる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 30分)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用(双方向型授業) ☐ I C T活用(自主学習支援)							
評価方法	定期試験 ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 (60%) ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 (40%) ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()						
テキスト	最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 中央法規出版							
参 考 書								
課題に対する フィードバック の方法	提出されたレポートは、コメントをつけて返却します							
留意事項	・教科書中心に進めるので、事前学習・復習をして授業に臨んでください。 ・わからないことは調べたり、聞くなどして明らかにし、その都度理解しておいてください。							
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。							
実践的教育	☐ 実践的教育 教員の実務経験など：済生会京都府病院 看護師 管理者 水無瀬訪問看護ステーション 管理者兼ケアマネジャー 水無瀬ケアプランセンター センター長兼看護師 実践事例をもとに介護について話します。 島本町地域包括支援センター							

授 業 名	医療的ケア	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	1-1医療的ケア * 医療的ケアとは * 医行為との違い * 医療の倫理 * 個人の尊厳お自立	(学修内容) 医療的ケアと医行為の違い(介護福祉士が行ってよい行為)、医療の倫理と介護福祉士の倫理、個人の尊厳と自立を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストP2～P10読み医療的ケアと医行為の違いまとめておく。 事後: 介護福祉士としての倫理を理解、レポート提出する。
第2回	1-2喀痰吸引等制度 * 医療制度とその変遷 * 喀痰吸引等制度の概要 1-3医療的ケアと喀痰吸引等の背景 * 喀痰吸引等の研修	(学修内容) 医療保険制度の変遷から、なぜ医療的ケアを学ぶようになったのかを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストP11～P27まで読み喀痰吸引研修内容をまとめておく。 事後: 医療的ケアを学ぶ意義についてレポート提出する。
第3回	1-4その他の制度 * 介護保険法 * 障がい者総合支援法 * 健康保険法 * その他の制度	(学修内容) 保健医療に関する制度と医療的ケア提供の場について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストP28～P35まで読み各制度の特徴を調べておく。 事後: 医療的ケアが必要な対象者について復習する。
第4回	1-5チーム医療と介護職の連携 * チーム構成員の役割 * 多職種連携(事例を通して)	(学修内容) チームの構成員の種類と役割についてグループワークする。 (事前事後学修課題の内容) 事前: チーム構成員の種類と役割について調べておく。 事後: 事例の感想をレポート提出する。
第5回	2-1安全な療養生活 * リスクマネジメント * ヒヤリハットとアクシデントの違い 2-2救急蘇生 * 救急蘇生の必要性和方法	(学修内容) リスクマネジメント及びヒヤリハットとアクシデントを理解する。リスクについてグループワークする。救急蘇生の必要性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: ヒヤリハットとアクシデントの違いについて調べておく。 事後: JRC蘇生ガイドラインを復習する。
第6回	2-3救急蘇生法 演習	(学修内容) 急変状態及び救急蘇生を理解、実践としてAEDを使用して救急蘇生法を学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストP292～P312まで読み手順をイメージしておく。 事後: 演習の感想を提出する。
第7回	3-1清潔の保持と感染予防 * 感染について * 感染予防(スタンダードプリコーション)	(学修内容) 感染症及び感染予防(スタンダードプリコーション)を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストP62～P75読みスタンダードプリコーション理解する。 事後: 感染予防の必要性を復習する。
第8回	3-2介護職員の感染予防 * 予防接種 * ガウンテクニック 3-3消毒と滅菌について * 消毒方法	(学修内容) 介護職員の感染予防及び健康管理の必要性、滅菌と消毒の違いを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: 予防接種の種類を調べておく。 事後: 感染源と消毒方法についてレポートを提出する。
第9回	4-1健康状態の把握 * 平常時の状態 * バイタルサイン	(学修内容) 健康状態の把握、バイタルサインや観察内容を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストP80～P93まで読みバイタルサインをまとめておく。 事後: 健康状態について復習する。
第10回	5-(1)喀痰吸引基礎的知識 * 呼吸器のしくみ * いつもと違う呼吸	(学修内容) 呼吸器各部位の名称やしくみを理解、通常の呼吸と異常の呼吸を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストP96～P102まで読み名称を覚えておく。 事後: 呼吸器のしくみについて復習する。
第11回	5-(2)喀痰吸引基礎的知識 * 痰の吸引とは * 人工呼吸器と吸引	(学修内容) 痰を排出するしくみと痰貯留を示す状態、痰吸引の必要性を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストP102～P118まで読み、各項をまとめておく。 事後: 喀痰吸引の必要性について学んだことをレポート提出する。
第12回	5-(3)喀痰吸引基礎的知識 * 子どもの吸引 * 吸引を受ける利用者や家族の気持ち	(学修内容) 子どもの呼吸の状態観察と呼吸の異常の観察、吸引を受ける利用者や家族の気持ちを理解、対応を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストP118～P126まで読み子どもの特徴を理解しておく。 事後: 介護福祉士として、できることをまとめレポート提出する。
第13回	6-(1)経管栄養基礎的知識 * 消化器のしくみと働き * 消化吸収と消化器の症状	(学修内容) 消化器各部位の名称やしくみを理解、消化吸収と消化器の症状を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストP168～P175まで読み名称を覚えておく。 事後: 消化器のしくみについて復習する。
第14回	6-(2)経管栄養基礎的知識 * 経管栄養とは * 経管栄養の種類と栄養剤 * 経管栄養実施上の留意点	(学修内容) 経管栄養が必要な人を理解、経管栄養の種類・栄養剤及び実施上の留意点を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストP176～P185まで読み各項をまとめておく。 事後: 経管栄養の必要性について学んだことをレポート提出する。
第15回	6-(3)経管栄養基礎的知識 * 子どもの経管栄養とは * 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ち	(学修内容) 高齢者と子どもの食事摂取から消化吸収の違いを理解、又、経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちを考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストP185～P200まで読み子どもの特徴を理解しておく。 事後: 経管栄養演習に向けて必要性を復習しておく。

授 業 名	介護技術		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1757
英 文 名	Nursing Care Work Skills		開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	高岡 理恵		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	対象者の保有する力を活用し、対象者の状態・状況に応じた自立を支援するための生活支援及び及び医療との連携や人生の最終段階の介護方法を習得する。また、実践の根拠について説明できる能力を身につける。 この授業は、2コマ連続で、理論と実技を同時に行います。介護技術の総まとめですので、他の授業で学んだ知識を活かし、テキストを読み込み、わからない語句がないようにノートに調べまとめておくようにしてください。							
学修成果 到達目標	医療との連携において介護福祉士としての役割を明確にし、それを言語化することができる。 基本的な介護技術を習得することができる。 実践の根拠について他者に説明できる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解	○	汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☒ 制作物 							

授 業 名	介護技術	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 介護技術 ・ の復習	(学修内容) 授業の進め方の理解を行う。 介護技術 ・ の復習を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 介護技術 ・ で学んだことを見直しておくこと。 事後 実習で学んだ介護技術と根拠についてまとめレポートにする。
第2回	心身の状態に応じた休息・睡眠の介護 睡眠が心身に及ぼす影響	(学修内容) 休息と睡眠の介護の意義(生理的、精神的、社会的、文化的)についてディスカッションしながら理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習で学んだ介護技術と根拠についてまとめレポートにする。 事後 テキスト2～30を読み、わからない語句を調べる。
第3回	心身の状態に応じた休息・睡眠の介護 良質な睡眠と睡眠障害	(学修内容) 良質な睡眠のための方法をディスカッションを行い根拠とともに考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト2～30を読み、わからない語句を調べる。 事後 テキストp31～45を読み、わからない語句を調べる。
第4回	心身の状態に応じた休息・睡眠の介護の実際 良質な睡眠を得るための環境整備	(学修内容) 良質な睡眠のための環境整備についてディスカッションを行い他者の考え方にふれる。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキストp31～45を読み、わからない語句を調べる。 事後 テキストp45～62を読み、わからない語句を調べる。
第5回	心身の状態に応じた休息・睡眠の介護の実際 褥瘡予防と安楽な体位	(学修内容) 褥瘡の発生要因を学び予防方法を考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキストp45～62を読み、わからない語句を調べる。 事後 テキストp63～90を読み、わからない語句を調べる。
第6回	心身の状態に応じた休息・睡眠の介護の実際 心身を安楽にするリラクゼーションの方法	(学修内容) リラクゼーションの方法を学び、施設へ赴きリラクゼーションの実践を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキストp63～90を読み、わからない語句を調べる。 事後 テキストp91～120を読み、わからない語句を調べる。
第7回	心身の状態に応じた休息・睡眠の介護の実際 適切な電法の用い方	(学修内容) 症状を軽減させるために家庭で行っている温電法と冷電法の方法を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキストp91～120を読み、わからない語句を調べる。 事後 テキストp121～157を読み、わからない語句を調べる。
第8回	医療と介護 介護福祉士と医療行為、医療的ケアの違いを学ぶ	(学修内容) 医師法第17条に基づく内容の理解を行い、介護福祉士が医療的ケアを行う法的、歴史的意味について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキストp121～157を読み、わからない語句を調べる。 事後 テキストp158～195を読み、わからない語句を調べる。
第9回	医療と介護 家庭でおきやすい緊急時の対応	(学修内容) 異常時の発見と在宅における緊急時の対応について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキストp158～195を読み、わからない語句を調べる。 事後 テキストp196～228を読み、わからない語句を調べる。
第10回	医療と介護 心肺蘇生法	(学修内容) 心肺蘇生法やA E Dの使い方を学び、普通救急救命を取得する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキストp196～228を読み、わからない語句を調べる。 事後 テキストp246～294を読み、わからない語句を調べる。
第11回	医療と介護 薬剤の知識と介護福祉士が行う薬剤使用の留意点	(学修内容) 介護福祉士が行う薬剤使用の方法、留意点について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキストp246～294を読み、わからない語句を調べる。 事後 ティーチングするための資料作成を行う。
第12回	人生の最終段階における介護 死を迎える人の介護への関わり方	(学修内容) 人生の最終段階の意義とその段階にある人への介護の視点を理解し、臨終に向かうプロセスと生活支援について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 ティーチングするための資料作成を行う。 事後 ティーチングするための資料作成を行う。
第13回	人生の最終段階における介護 死後のからだを整える	(学修内容) 死後に行う介護や家族支援、グリーフケアについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 ティーチングするための資料作成を行う。 事後 介護技術試験の作成をする。
第14回	知識と技術の統合 介護技術試験の作成	(学修内容) グループで介護技術試験を考え作成する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 作成に必要な根拠となる資料を集めておく。 事後 介護技術試験を仕上げ発表できるようにしておく。
第15回	知識と技術の統合 介護技術試験発表と振り返り	(学修内容) 介護技術試験のプレゼンテーションを行い、内容を振り返りディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 作成した試験を行えるよう準備しておく。 事後 行ったあとの振り返りをレポートにして提出する。

授 業 名	介護ソーシャルワーク論		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1704
英 文 名	Theory of Nursing Care		開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	吉島 紀江		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護福祉士の役割は、ひとり一人の生活の安定としあわせを願いながら、介護が必要な人の生活、人生、生き方に関わり、支えていくことです。本講義では、しあわせな生活や安定した生活とその支援について、思想的・理論的に学んでいきます。ソーシャルワークの考えをベースにした介護実践ができるよう実際の事例を用いて学びを深めていきます。							
学修成果 到達目標	1) ソーシャルワークの基礎理念が自分の言葉で説明できる。 2) ソーシャルの実践原則を理解し、介護場面での活用ができる。 3) ソーシャルワークの価値・倫理・知識・技術の基本的事項が理解でき、介護場面での活用がイメージできる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間)							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	○	知識・理解		汎用的技能				
		態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 (50%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ■ 制作物 ■ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	■ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()						
テキスト	必要に応じてプリント、資料等を配布する。							
参 考 書	・宮沢賢治『雨ニモマケズ風ニモマケズー宮沢賢治の言葉(「生きる言葉」シリーズ)』求龍堂・2011 ・吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫・1982 ・キャロル・マックラウド『しあわせのバケツ』TOブックス; 改訂版 ・森達也『世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい』筑摩書房・2008							
課題に対する フィードバック の方法	提出課題(レポート等)については口頭でコメントもしくは、コメントを記入して現物を返却する。							
留意事項	介護をどのように捉えるか、固定概念にとらわれることなく積極的な意見交流を期待しています。							
オフィス アワー	研究室に掲示し、授業時に口頭でも伝える。							
実践的教育	■ 実践的教育 教員の実務経験など：保育士、社会福祉士、介護福祉士資格を所持 高年齢施で勤務経験があるので勤務経験がある							

授 業 名	介護ソーシャルワーク論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション・介護福祉におけるソーシャルワークの意義	(学修内容) 社会福祉の概念理解と介護福祉士を目指す学生がソーシャルを学ぶを学ぶ意義を理解する (事前事後学修課題の内容) 事前 シラバスの内容を読む 事後 新聞記事の収集をする
第2回	ソーシャルワークが求められる社会背景	(学修内容) 新聞記事を整理し、新聞記事の内容にグループワークを通して社会状況とソーシャルワークの関係を理解する (事前事後学修課題の内容) 事前 新聞記事の切り抜きをする 事後 社会福祉士及び介護福祉士法における相談援助の定義を調べる
第3回	ソーシャルワークの構成要素 4つの要素	(学修内容) 切り抜いた新聞記事を4つの構成要素に分類し、ソーシャルワークの構成要素を実際的に理解する (事前事後学修課題の内容) 事前 社会福祉士及び介護福祉士法における相談援助の定義を調べる 事後 人権に該当する日本国憲法を読む
第4回	ソーシャルワークの基本理念 人権の尊重、社会正義	(学修内容) ソーシャルワークの基本理念である人権の尊重と社会正義について、介護福祉の仕事と照らし合わせて理解する (事前事後学修課題の内容) 事前 人権に該当する日本国憲法を読む 事後 事例を読み自己の考えを整理しておく
第5回	ソーシャルワークの基本理念 利用者本位、尊厳の保持	(学修内容) 事例を活用し、ソーシャルワークの基本理念である利用者本位と尊厳の保持について、理解する (事前事後学修課題の内容) 事前 事例を読み自己の考えを整理しておく 事後 成年後見制度について調べる
第6回	ソーシャルワークの基本理念 権利擁護・自立(律)支援	(学修内容) 事例を通して、ソーシャルワークにおける権利擁護、自立支援について、介護福祉士の視点から理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 成年後見制度について調べる 事後 障害者の優性保護思想について調べる
第7回	ソーシャルワークの基本理念 ノーマライゼーション、インクルージョン、エンパワメント	(学修内容) ヘレン・ケラーとジェーン・アダムスの障害者観からディスカッションし、理解を深める (事前事後学修課題の内容) 事前 障害者の優性保護思想について調べる 事後 日本介護福祉士会倫理綱領を読む
第8回	ソーシャルワークの価値・理念価値と手段的価値	(学修内容) 様々な専門職の倫理綱領を比較し介護福祉士が学ぶべき価値と倫理について理解する (事前事後学修課題の内容) 事前 日本介護福祉士会倫理綱領を読む 事後 バイステックの7原則を復習しておく
第9回	ソーシャルワークの原則	(学修内容) 対人援助職としての原則が理解できる (事前事後学修課題の内容) 事前 バイステックの7原則を復習しておく 事後 メアリー・リッチモンドについて調べる
第10回	ソーシャルワークの体系 ケースワーク	(学修内容) ケースワークの考え方と介護福祉士の利用者理解の関係を理解する (事前事後学修課題の内容) 事前 メアリー・リッチモンドについて調べる 事後 自宅周辺の介護福祉に関する社会資源を調べる
第11回	ソーシャルワークの構成要素 身近な社会資源	(学修内容) 身近な社会資源と活用方法について理解できる (事前事後学修課題の内容) 事前 自宅周辺の介護福祉に関する社会資源を調べる 事後 担当分野の専門職を調べ資料を作成する
第12回	ソーシャルワークに関わる専門職 福祉行政における専門職	(学修内容) 福祉行政における専門職が理解できる (事前事後学修課題の内容) 事前 担当分野の専門職を調べ資料を作成する 事後 社会資源を調べ、メリットデメリットを整理する
第13回	ソーシャルワークに関わる専門職 雇用関係をもたない社会福祉の担い手	(学修内容) 雇用関係を持たない福祉の担い手について、理解をする (事前事後学修課題の内容) 事前 社会資源を調べ、メリットデメリットを整理する 事後 例示された課題を3つのレベルに分けて考える
第14回	ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象とソーシャルワーク	(学修内容) 映像教材を使用し、レベルに合わせた支援方法を理解する (事前事後学修課題の内容) 事前 例示された課題を3つのレベルに分けて考える 事後 社会福祉協議会、地域包括支援センターについて調べる
第15回	ジェネラリストの視点に基づく総合的・包括的支援の意義と内容	(学修内容) 誰もが安心して暮らせる地域にするための課題や援助活動の実際を映像を通して知る (事前事後学修課題の内容) 事前 社会福祉協議会、地域包括支援センターについて調べる 事後 複合的課題に対して生活を支える方法を考察する

授 業 名	ターミナルケア論		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1753
英 文 名	Thory of Terminal Care		開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	野田 隆生		対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	「死」とは何か? 「いのち」って何だろう? この問いにははっきりとした応えはあるのだろうか。人は必ず死ぬという事実は、知識としてみなさんは理解しています。しかし、あなた自身や親しい人が余命いくばくもないと告知を受けたとしたら、あなたはどのような思いを抱きますか。 本講では、まず現代社会における「死」の様相を明らかにし、次いで「死にゆく人」への関わりについて社会福祉なかなんぞく介護においてどのような視点で捉えていくことが必要とされるのかについて考察を深めていきたい。							
学修成果 到達目標	1) 現代社会における「死」と「生」について意見を述べることができる。 2) 自らの死生観を養うことができる。 3) 介護における終末期の関りについて「こころ」と「からだ」の両面より支援する技術と創造力を身につけることができる。 4) 「生きること」への執着ではなく人生観を見出すことができる。 5) 安楽死や尊厳死の違いについて説明することができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解		汎用的技能				
		態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学习支援)							
評価方法	定期試験 (60%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 (40%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ■ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	■ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()						
テキスト	随時資料を配布する。							
参 考 書	講義時に随時、文献・資料を紹介する。							
課題に対する フィードバック の方法	小レポートにはコメントを添えて返却する。							
留意事項	平素より時事問題に目を向け、批判的な視点で考究することができるようにして下さい。							
オフィス アワー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室に在室していれば対応します。また、急な質問等については学内g-mailを利用して下さい。							
実践的教育								

授 業 名	ターミナルケア論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	はじめに ～「死」とは何なのか？～	(学修内容) 講義の進め方、成績評価の方法について説明する。 「死」に関してディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 シラバスより学びの道筋をイメージしておく。 事後 自らの「死」について考える。
第2回	現代社会における誕生と死	(学修内容) 統計資料に基づき誕生と死の現状を把握し、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 『国民の福祉と介護の動向』『国民衛生の動向』や人口動態統計のサイトを閲覧しておく。事後 意見をまとめる。
第3回	社会問題としてのターミナル・ケア	(学修内容) ターミナル・ケアが社会問題となっている背景について学び、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 時事問題の中から気になる話題を選択しておく。 事後 意見をまとめる。
第4回	ターミナル・ケアの歴史 ～ホスピス・PCUの成立過程～	(学修内容) ターミナル・ケアの歴史をその語義よりたどりながら、ホスピスならびにPCUへと変遷する過程について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 紹介した書籍を読み、終末期ケアについて考える。 事後 学んだ内容をまとめる。
第5回	ターミナル・ケアの歴史 ～ビハラの誕生と成立過程～	(学修内容) 仏教と基礎としたターミナル・ケアの成立過程について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 紹介した書籍を読み、仏教用語を抽出する。 事後 学んだ内容をまとめる。
第6回	全人的ケアについて ～4つの痛みへのアプローチ～	(学修内容) 全人的痛みの理解とその援助について事例を通じて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 紹介した書籍を読み、痛みについて調べる。 事後 学んだ内容をまとめる。
第7回	ホスピス病棟の実際 ～がん看護専門看護師を通じて～	(学修内容) ビデオ鑑賞；ホスピス病棟では、どのようなケアが展開されているのかを知り、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 ホスピスの意味について調べておく。 事後 小レポート(文字数800字)を課題とする。
第8回	ビハラ病棟の実際 ～病と向き合う僧侶を通じて～	(学修内容) ビデオ鑑賞；ビハラ病棟では、僧侶がどのようなケアを展開し、患者と向き合っているのかを知り、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 ビハラについて調べておく。 事後 小レポート(文字数800字)を課題とする。
第9回	痛みを緩和する ～寄り添うケアに向けて～	(学修内容) ビデオ鑑賞；終末期の患者をアセスメントし、シートに記入する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 アセスメントについて理解をしておく。 事後 アセスメントシートに患者のニーズをまとめる。
第10回	痛みを緩和する ～遭されるものへのケア～	(学修内容) ビデオ鑑賞；遺族の気持ちに寄り添いながら展開される緩和ケアについて知り、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 ビリーブメント・ケアについて理解をしておく。 事後 小レポート(文字数800字)を課題とする。
第11回	生死をめぐる諸問題 ～生殖補助医療とその課題～	(学修内容) 生殖補助医療の現状と代理出産の現実から主題に迫っていく。 資料をよく読み込んだ上で、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 配布したワーク・シートを作成しておくこと。 事後 学んだ内容をまとめる。
第12回	生死をめぐる諸問題 ～安楽死と尊厳死～	(学修内容) 安楽死と尊厳死の違いを理解し、現場にて齟齬なく意見を述べるができるよう事例を通して学び、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 配布したワーク・シートを作成しておくこと。 事後 学んだ内容をまとめる。
第13回	満足な看取りは可能か？ ～福祉施設での看取り～	(学修内容) ビデオ鑑賞；福祉施設での看取りについて考え、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 満足な看取りについて考える。 事後 小レポート(文字数800字)を課題とする。
第14回	満足な看取りは可能か？ ～在宅緩和ケアの現場より～	(学修内容) ビデオ鑑賞；在宅での緩和ケアの現場を取り上げ、家で看取ることについてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 在宅ケアの拠点についてHPを利用し、調べる。 事後 小レポート(文字数800字)を課題とする。
第15回	まとめにかえて ～「生ききる」ことを支える介護とは～	(学修内容) 「生ききる」ことを支えることのできる地域社会の構築について考え、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 これまでの学びについて各回の要点をまとめておくこと。 事後 「生ききる」ことについてまとめる。

授 業 名	コミュニケーション技術			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CW1705
英 文 名	Communication Skills I			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	名賀 亨（R6～）			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護に焦点をあてソーシャルワークの視点から、介護を必要とする人と支援する人の関係を良好なものにするために必要な「コミュニケーション」について、ロールプレイやグループワークなどを通してその理念を理解するとともに具体的スキルを修得することを目指す。								
学修成果 到達目標	1）人間関係におけるコミュニケーションの意味と大切さを理解できる 2）具体的に相手との適切なコミュニケーションを実践することができる 3）相手の意識を高め自主性を高めるようなファシリテーションを理解し実践することができる								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ☐ I C T活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験 （70％） ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	コミュニケーション技術	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	第1回 オリエンテーション	(学修内容) 授業内容や進め方評価方法など全体について説明する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: シラバスを確認しておく 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第2回	コミュニケーションの基本	(学修内容) 介護におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストを読み、自分の考えをまとめる。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第3回	援助関係とコミュニケーション	(学修内容) 介護福祉職の職務とコミュニケーションとの関りを理解する。また、対象者との援助関係を意識したコミュニケーションを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストを読み、自分の考えをまとめる。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第4回	コミュニケーション態度に関する基本技術	(学修内容) 傾聴、受容、共感等基本的なスキル、またコミュニケーションにおける利用者との距離を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストを読み傾聴、受容、共感について考えをまとめる。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第5回	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本	(学修内容) 言語・非言語・準言語などのコミュニケーション方法についてその内容と役割を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストを読み言語・非言語・準言語について考えをまとめる。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第6回	目的別のコミュニケーション技術	(学修内容) 利用者の意欲を高めるための動機付け、事実を共有するための技術、意思決定支援などについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストを読み、目的別のコミュニケーションについてまとめる。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第7回	集団におけるコミュニケーション技術 1	(学修内容) 集団の特徴や集団でのコミュニケーションの意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストを読みグループワークについてまとめる。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第8回	集団におけるコミュニケーション技術 2	(学修内容) 集団でのコミュニケーションの意味や方法、あるいはその効果などについて、グループワーク体験を経験して実践的に理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: グループワークの方法や効果などについてまとめる。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第9回	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 1	(学修内容) 視覚障害、聴覚障害、構音障害の人たちとのコミュニケーションについて疑似体験などを通して理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストを読み視覚障害や聴覚障害などについてまとめる。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第10回	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 2	(学修内容) 失語症、認知症の人たちとのコミュニケーションについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストを読み失語症、認知症についてまとめる。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第11回	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 3	(学修内容) うつ病、抑うつ状態の人、知的障害のある人、発達障害のある人などのコミュニケーションについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストを読みうつ病、知的障害、発達障害についてまとめる。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第12回	家族とのコミュニケーション	(学修内容) 家族との協働の支援について理解し、家族との関係づくりを考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストを読み家族との協働関係についてまとめる。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第13回	チーム内でのコミュニケーションについて	(学修内容) チーム力を最大限に発揮するコミュニケーションについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストを読み自分の考えをまとめておく。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第14回	グループでのコミュニケーションについて	(学修内容) ディスカッション体験と振り返りを通して、コミュニケーション、相互作用について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: グループワークでの相互作用について自分の考えをまとめる。 事後: その日の授業内容を整理し、疑問・質問をまとめる。
第15回	まとめ	(学修内容) 演習を通してこれまでの授業内容を総括し、それぞれがまとめたものを発表する。 (事前事後学修課題の内容) 事前: ここまでの授業を振り返り疑問点を洗い出しておく。 事後: その日の授業を整理するとともに、授業全体を整理しまとめる。

授 業 名	生活支援技術			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1756
英 文 名	Livelihood Support Skills			開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	福井 百合子・細辻 珠紀			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護を実践するにあたって、様々な対象や場面に必要とされる支援が求められる。本授業では、介護予防、生活機能の維持、安全管理についての内容、家事を自立的に行うことを支援するために必要な基本的事象について取り扱う。介護者に必要な技術の一部を演習し、介護者と介護を受ける側の双方の体験を通じて、学生間での振り返りや話し合いにより介護の視点を深める。								
学修成果 到達目標	1．生活に関わる基本的な知識を身につけ、一部実践することができる。 2．介護の対象者が個々の状態に応じて家事を自立的に行えるよう支援できる。 3．獲得した知識を、福祉の現場で役立てることができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	生活支援技術	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	授業前半のガイダンス 要介護者の自立支援について	(学修内容) 授業案内。自立支援の考え方、ICFについて学び、利用者の自己決定を尊重した支援について考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：介護の基本 第4章1～2節を熟読。日常生活の中で自己決定している事を考える。ICFとICIDHについて調べる。事後：授業内容を復習。
第2回	介護予防とリハビリテーション 自立支援	(学修内容) 実際の支援活動の見学から介護予防と自立支援について考える(ただし、見学施設の予定変更など見学が出来なかった場合は学内授業) (事前事後学修課題の内容) 事前：リハビリテーション論の復習と、バリアフリーとユニバーサルデザインについて調べておく。事後：自立支援のポイントを整理する。
第3回	介護の実践(心と体の健康、身体動作、認知、安全管理に配慮した援助)	(学修内容) 実際の路上(歩道)での車いすの介助、杖歩行の介助を実践し、介助する側とされる側の体験を通して介助時の留意点についてGWで検討する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：車いすの介助方法の復習。通学経路の歩道の傾斜や段差、障害者用トイレ、エレベーターの場所の下調べ。事後：体験内容を整理する。
第4回	安全管理とリスクマネジメント	(学修内容) リスクとハザード、危険予知と危険回避、薬の服用、感染予防、事故防止について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：介護の基本 第4章第4節を熟読。老化や機能低下予防の運動や習慣を各自2つ以上調べる。事後：介護場面のリスク・ハザードを考察。
第5回	介護実践の場での他職種連携	(学修内容) 実習場面を思い出しながら、介護実践の場での介護福祉に関わる業種と役割、および多職種協働について考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：介護の基本 第4章を熟読。実習時を思い出し、業種と役割を挙げておく。事後：他職種連携と協働、介護福祉士の役割を整理する。
第6回	介護者自身の健康管理、心と体の健康管理	(学修内容) 介護従事者にとっての心と体の健康管理について学び、自己の健康管理を振り返る。 (事前事後学修課題の内容) 事前：介護の基本 第3章を熟読。ストレスについて調べる。体調良好時と不良時の違いを考える。事後：健康管理のポイントを整理。
第7回	前半授業の振り返り、知識の確認	(学修内容) 前半の振り返りとまとめ、ミニワークやミニテストによる知識の確認。 (事前事後学修課題の内容) 事前：前半全体の復習。事後：知識の確認後、不足部分の再学習。
第8回	授業後半のガイダンス 食生活と栄養	(学修内容) 食生活とその意義を考える。 ・食生活の現状と課題についてグループワーク。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書の関連部分をよく読んでおく。自分の食生活の現状を把握しておく。事後：配布プリントで学習内容を確認する。
第9回	栄養素の種類と消化・吸収・代謝	(学修内容) 五大栄養素について、その特徴と主な働きを見るときともに、それらがどのように消化・吸収され、代謝されるかを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：食材の旬や加工食品の食品表示部分の情報を収集する。事後：配布プリントで学習内容を確認する。
第10回	食事摂取基準 食材の特徴と使い方	(学修内容) 何をどれだけ食べればよいのか。(日本人の食事摂取基準) ・自分の食事のバランスは適正か否か。食材の旬や加工食品を考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：食材の旬や加工食品の食品表示部分の情報を収集する。事後：配布プリントで学習内容を確認する。
第11回	献立作成	(学修内容) 献立作成に必要な基本的知識と生活習慣病における留意点。調理実習は数回に分けて実施。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書の関連(食品、栄養、熱量、献立、調理に関する)部分をよく読んでおく。事後：家庭料理のレシピなどの情報を収集しておく。
第12回	栄養補給方法	(学修内容) 栄養補給方法について学ぶ。 ・経口栄養法、(強制栄養法)経腸栄養法・静脈栄養法の分類と特徴。 (事前事後学修課題の内容) 事前：生活場面で入手可能な経腸栄養剤(食品)等の情報を収集しておく。事後：配布プリントで学習内容を確認する。
第13回	食の安全と食中毒	(学修内容) 食の安全をめぐる諸問題を学ぶ。 ・食中毒の種類や予防、食品衛生、環境衛生、人の衛生管理について。 (事前事後学修課題の内容) 事前：食の安全をめぐる最近のニュース、情報を収集しておく。事後：配布プリントで学習内容を確認する。
第14回	健康と食生活 生活支援における食生活の振り返りとまとめ	(学修内容) 生活習慣病予防やサルコペニア予防の食生活を学ぶ。 ・要介護因子となる生活習慣病、サルコペニアについて。振り返りまとめ (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書や新聞、ネット情報より関連部分の情報を収集しておく。事後：配布プリントで学習内容を確認する。
第15回	授業全体の振り返り 定期試験ガイダンス	(学修内容) 授業全体の振り返り 確認問題と解説、筆記試験問題にチャレンジ (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書を再度読み返して復習し、わからない所を明確にしておく 事後：取り組んだ試験問題内容を確認する。

実 習 名	介護実習 (CW1712)	対象学生	専攻科介護専攻
担 当 者	野田 隆生・高岡 理恵		
実習の概要	1. 実習の目的 講義、演習、学内実習で学んだ理論と技術を実際に活用し、利用者への総合的な介護が実践できるための基礎能力を習得する。 実習指導者の指導を受けながら、実習目標に沿った介護計画のたてかたや記録について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を養い、介護福祉士の役割について理解を深めることを目的とする。 2. 実習内容の区分及び形態 「実習施設・事業等（ ）」及び「実習施設・事業等（ ）」に区分して、210時間の介護実習を実施する。 「実習施設・事業等（ ）」 利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて、利用者、家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践・多職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置く。 秋学期に「介護総合演習」を配当し「実習施設・事業等（ ）」において5日間の実習を行う。1日8時間。		
備 考	実習先でオリエンテーションを受け、実習担当職員からの指導・助言を受けながら実習を行います。 介護総合演習を履修していなければ介護実習ができません。 個人情報保護法違反を行った時、介護総合演習で注意される態度を取ったとき、感染予防に配慮できなかった等、実習施設に不利益を与えてしまったときには実習中止となり介護福祉士資格を取ることはできません。		

授 業 名	介護の基本			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1751
英 文 名	Fundamental Nursing Care			開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	高岡 理恵			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	本講義のねらいは、介護を必要とする人の理解 地域理解とフォーマル及びインフォーマルな社会資源の理解と活用方法 安全な介護を行うため、基礎的知識や事故への対応（リスクマネジメント）、介護従事者の安全の意義、管理方法、環境整備について理解を中心に行います。介護を必要とする人は在宅生活を継続させながら地域に多く存在します。その人の生活を理解し、地域に存在する社会資源を結びつける役割であることを念頭において、秋学期の在宅実習に繋がります。自分の住む地域の理解ができるよう市町村役所や社会福祉協議会に赴き、リーフレット等をもらったり、広報誌に目を通すようにしてください。この授業は講義を中心とするがグループワークやディスカッションを取り入れ、理解を深めたい。								
学修成果 到達目標	1．地域理解とそこに住む対象者の生活を支えるフォーマル・インフォーマルサービスが理解できる 2．介護における安全の確保とリスクマネジメントの重要性が理解できる 3．介護従事者の安全の意義、管理方法、環境整備について理解できる								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解				汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ☐ I C T活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験（50%） ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☒ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験（50%） ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☒ 制作物 ☒ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☒ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☒ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()							
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会編『介護の基本 』中央法規 2019年								
参 考 書	必要に応じて授業で紹介します。								
課題に対する フィードバック の方法	提出物には、コメント等評価を添えて返却する。								
留意事項	授業の概要にも書いていますが、自分の住む地域の理解を行うために行政に足を運びリーフレットをもらったり、行政の広報に目を通したりしながら地域理解を深めてください。施設実習時に介護におけるリスクとそれが起きやすい環境に目を向けて、書き留めておいてください。								
オフィス アワー	授業終了時及び研究室に在室時、対応します。								
実践的教育	☒ 実践的教育 教員の実務経験など：社会福祉協議会で訪問介護及び介護支援専門員として従事								

授 業 名	介護の基本	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 介護福祉を必要とする人の理解 1	(学修内容) 実習で出会った対象者をもとにケアが必要な人の施設での暮らしの理解をする。 (事前事後学修課題の内容) 事前：シラバスを読んでおくこと。 事後：実習施設に入所されているかたの聞き取りをまとめておく。
第2回	介護福祉を必要とする人の理解 2 介護福祉士を必要とする人の暮らし	(学修内容) 認知症であり生活者として地域で生活しているゲストスピーカーによる講演 (事前事後学修課題の内容) 事前：実習施設に入所されているかたの聞き取りをまとめておく。 事後：授業の感想を書く。
第3回	介護福祉を必要とする人の理解 3 その人らしさと生活ニーズの理解	(学修内容) 京都市東山地域の理解を行い、地域包括支援システムの意義を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：授業の感想を書く。 事後：「すこやか介護」をもらってくる。
第4回	介護福祉を必要とする人の理解 4 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 1 地域理解と実践的な取り組み	(学修内容) 東山地域で困りごとをもつ高齢者への支援を実践的に行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前：「すこやか介護」をもらってくる。 事後：社会資源に関する資料をまとめる。
第5回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 2 生活を支えるフォーマルサービス	(学修内容) フォーマルサービスの概要について、スケッチブックを使用し具体的に地域の社会資源を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：社会資源に関する資料をまとめる。 事後：社会資源に関する資料を発表資料としてまとめる。
第6回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 3 生活を支えるインフォーマルサービス	(学修内容) インフォーマルサービスの概要とサービスの開発について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：社会資源に関する資料を発表資料としてまとめる。 事後：地域で調べる内容を確認しておく。
第7回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 4 実践的な取り組み	(学修内容) 地域の社会資源調査をフィールドワークにて実践的に学習する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：地域で調べる内容を確認しておく。 事後：地域で調べた内容をまとめる。
第8回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 5 まとめ	(学修内容) 生活者としての視点から社会資源を検討する。成果をプレゼンテーションする。 (事前事後学修課題の内容) 事前：地域で調べた内容をまとめる。 事後：配付資料をよみ、わかりにくいところにラインを引く。
第9回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 6 判断能力が低下した人を支えるしくみ	(学修内容) 日常生活自立支援事業と成年後見制度を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：配付資料をよみ、わかりにくいところにラインを引く。 事後：テキスト「リスクマネジメントとは何か」を読む。
第10回	介護における安全の確保とリスクマネジメント 1 リスクマネジメント	(学修内容) リスクとリスクマネジメントについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：テキスト「リスクマネジメントとは何か」を読む。 事後：実習でおきたヒヤリハットをまとめておく。
第11回	介護における安全の確保とリスクマネジメント 2 施設におけるヒヤリハットと事故記録	(学修内容) 実習施設で起きたヒヤリハットについて原因を考え予防についてディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) 事前：実習でおきたヒヤリハットをまとめておく。 事後：施設の事故記録の書き方を読んでおく。
第12回	介護における安全の確保とリスクマネジメント 3 ヒヤリハット事例と観察	(学修内容) 事例をもとにディスカッションしながら、リスクマネジメントの方法を考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前：施設の事故記録の書き方を読んでおく。 事後：テキスト内、労働安全衛生法を読みまとめる。
第13回	介護従事者の安全 1 労働安全衛生法、労働基準法	(学修内容) 労働者を守るための法律について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前：テキスト内、労働安全衛生法を読みまとめる。 事後：施設における労働環境について整理しておく。
第14回	介護従事者の安全 2 労働環境の整備	(学修内容) 労働条件と労働環境について、調べたことについて発表し、ディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前：施設における労働環境について整理しておく。 事後：目指すべき介護福祉士像について自己の考えをまとめておく。
第15回	介護従事者の安全 3 目指す介護福祉士像	(学修内容) 保育士が介護を学ぶ意義と社会から期待されることについて、自己の考えをまとめる。 (事前事後学修課題の内容) 事前：目指すべき介護福祉士像について自己の考えをまとめておく。 事後：レポートにできるようにまとめる。

授 業 名		認知症の理解
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション パーソン・センタード・ケアとは	(学修内容) パーソン・センタード・ケアについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 154～163を読んでおく。
第2回	アセスメントツール —センター方式—	(学修内容) センター方式について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 164～171を読んでおく。
第3回	アセスメントツール —ひもときシート—	(学修内容) ひもときシートについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 172～190を読んでおく。
第4回	認知症の人とのコミュニケーション	(学修内容) 認知症の人とのコミュニケーションについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 191～196を読んでおく。
第5回	認知症の人へのケア	(学修内容) 認知症の人へのケアについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 197～224を読んでおく。
第6回	認知症の人へのアプローチ - ユマニチュード -	(学修内容) ユマニチュードについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 225～229を読んでおく。
第7回	認知症の人へのアプローチ - バリデーション等 -	(学修内容) バリデーションやその他各種アプローチについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 229～234を読んでおく。
第8回	認知症の人へのアプローチ - 回想法 -	(学修内容) 回想法について学ぶ。 自分のテーマに沿った、回想法の資料を作成をする。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 234～235を読んでおく。
第9回	認知症の人へのアプローチ - 回想法 -	(学修内容) ライフレビューの発表をする。 (事前事後学修課題の内容) ライフレビューの発表準備をしておく。
第10回	認知症の人の終末期医療と介護と環境づくり	(学修内容) 認知症の人の終末期医療等について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 239～260を読んでおく。
第11回	家族への支援と介護職への支援	(学修内容) 介護者の現状とレスパイトケア、家族の会について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 264～281を読んでおく。
第12回	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア	(学修内容) 認知症ケアバス及び具体的なケアシステムについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 300～313を読んでおく。
第13回	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア	(学修内容) 自分の地域でのサービス、機関、地域づくりの実際について調べる。 (事前事後学修課題の内容) パワーポイントにまとめておく。
第14回	認知症の人の地域生活支援	(学修内容) 前回まとめたものを発表する。 他の受講生との違いについてディスカッションをする。 (事前事後学修課題の内容) 発表の準備をする。
第15回	多職種連携と協働	(学修内容) 多職種連携と協働について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 314～330を読んでおく。

授 業 名	介護技術		開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CW1707
英 文 名	Nursing Care Work Skills		開講時期	春学期		必修選択	必修	
担 当 者	木村 あい		対象学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	科学的根拠を踏まえながら、居住環境の整備、移動の介護、身支度の介護技術を実践する。学生自身が援助者・モデルになり、利用者の気持ちの理解を深める。また、利用者の気持ちを知ること、介護実践に活かせるよう工夫をする。 ＩＣＦの視点に基づいたアセスメントを行い、対象者の能力を活用・発揮できるようからだの動きを理解した上で、基本的な介護技術を学ぶ。また、住環境や最新の福祉用具を学ぶために、フィールドワークとしてバリアフリー展に参加する。							
学修成果到達目標	介護実践の根拠を説明できる 基本的な介護技術を身につける。 される側(介助を受ける側)の気持ちを理解できる							
事前事後学修について	各授業回到記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (１回の授業の事前・事後学修時間の計　２時間)							
学位授与の方針との関連		知識・理解	○	汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ☐ I C T活用（自主学習支援）							
評価方法	定期試験（70％） ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ■実技			平常試験（30％） ☐ 筆記試験 ■レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ■実技				
評価基準	主たる評価観点	■知識・理解 ■コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ () ☐ ()						
テキスト	最新 介護福祉士養成講座6『生活支援技術』中央法規：春学期 「生活支援技術」-高岡先生担当、秋学期「生活支援技術」-鈴木先生担当でも使用 最新 介護福祉士養成講座7『生活支援技術』中央法規：春学期「介護技術」-高岡先生担当でも使用 最新 介護福祉士養成講座8『生活支援技術』中央法規：秋学期「介護技術」-高岡先生担当でも使用							
参 考 書	適宜紹介する							
課題に対するフィードバックの方法	次の授業時にフィードバックを行う。							
留意事項	予習・復習をしっかり行ってください。 介護技術を実践しますので、上靴と動きやすい服装を準備してください。授業内で確認します。							
オフィスアワー	初回の授業で説明する。							
実践的教育	■実践的教育 教員の実務経験など：障害者の入所施設で生活指導員として勤務 シリアダマスカス脳性麻痺教育センターに青年海外協力隊員として派遣							

授 業 名	介護技術	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 介護技術の進め方と考え方 (事前事後学修課題の内容) シラバスを確認しておくこと
第2回	自立に向けた環境の整備 ベッドメイキング	(学修内容) バリアフリー展参加 住環境の意義、居住環境のアセスメント、掃除について (事前事後学修課題の内容) 住環境の意義、居住環境のアセスメント、掃除の予習をしておくことノートをまとめておく
第3回	自立に向けた環境の整備 シーツ交換	(学修内容) シーツ交換、物品整理について (事前事後学修課題の内容) 前回のまとめとシーツ交換、物品整理予習
第4回	自立に向けた移動の介護 移動の意義と目的、ボディメカニクス	(学修内容) 移動の意義と目的、ボディメカニクスについて (事前事後学修課題の内容) 前回のまとめと移動の意義と目的、ボディメカニクスの予習
第5回	自立に向けた移動の介護 ＩＣＦの視点に基づくアセスメントと移動・移乗の介護	(学修内容) ＩＣＦの視点に基づくアセスメントと移動・移乗の介護について (事前事後学修課題の内容) 前回までの復習
第6回	自立に向けた移動の介護 ベッド上での移動	(学修内容) 安全で的確な移乗・移動の介助方法 ベッド上での移動について (事前事後学修課題の内容) 前回までの復習とベッド上での移動の予習
第7回	自立に向けた移動の介護 車いすへの移乗	(学修内容) 安全で的確な移乗・移動の介助方法 車いすへの移乗について (事前事後学修課題の内容) 前回までの復習と車いすへの移乗の予習
第8回	自立に向けた移動の介護 福祉用具を活用した移乗	(学修内容) 安全で的確な移乗・移動の介助方法 福祉用具を活用した移乗について (事前事後学修課題の内容) 前回までの復習と福祉用具を活用した移乗の予習
第9回	自立に向けた移動の介護 フィールドワーク 歩行等移動	(学修内容) 安全で的確な移乗・移動の介助方法 歩行等移動について フィールドワーク (事前事後学修課題の内容) 前回までの復習と歩行等移動の予習
第10回	自立に向けた身支度の介護 生活習慣と装いの楽しみを支える介護	(学修内容) 生活習慣と装いの楽しみを支える介護について (事前事後学修課題の内容) 前回までの復習と生活習慣と装いの楽しみを支える介護について教科書を読んでおく
第11回	自立に向けた身支度の介護 整容	(学修内容) 整容(爪きり、化粧、髭剃り、洗顔、整髪、耳掃除等)について (事前事後学修課題の内容) 前回までの復習と整容についての予習
第12回	自立に向けた身支度の介護 衣服の着脱	(学修内容) 衣服の着脱について (事前事後学修課題の内容) 前回までの復習と衣服の着脱についての予習
第13回	自立に向けた身支度の介護 衣服(着物)の着脱	(学修内容) 衣服(着物)の着脱と着物のたたみ方について (事前事後学修課題の内容) 前回までの復習と衣服(着物)の着脱と着物のたたみ方
第14回	演習課題 事例	(学修内容) 事例をもとにアセスメントし介護技術を実践する (事前事後学修課題の内容) 前回までの復習
第15回	総括	(学修内容) 全15回の授業の振り返り (事前事後学修課題の内容) 復習

授 業 名	障害の理解		開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CW1761
英 文 名	Study of Disability		開講時期	秋学期		必修選択	必修	
担 当 者	武田 康晴		対象学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	本講義のタイトルは「障害の理解」ではあるが、単に医学レベルでの障害の理解ではなく、社会モデル（「障害」は社会が作り出している側面が大きいという考え方）としての障害理解を重視し、また障害をもちながら営む「生活」という視点で障害について理解を深めていく。障害に関するとらえ方は医学モデルから生活モデル、社会モデルへと変遷し、介護福祉士は介護という専門性を用いて生活支援に取り組むソーシャルワーカーだからである。具体的には、障害概念の変遷、主観としての障害、障害者福祉の制度、障害種別と生活、障害種別と介護等について扱っていく。単なる知識の習得だけではなく実践に活用できる応用力・実践力の獲得を目指すため、学生同士、教員と学生による対話、ディスカッションを取り入れながら授業を進める。							
学修成果到達目標	1) 障害者福祉の基本理念であるノーマライゼーションについて、成り立ちを含め説明することができる。 2) 障害概念について、医学モデルと生活モデル、社会モデルの違いについて明確に説明することができる。 3) 自立支援について、介護場面における具体例をあげて説明することができる。 4) 各種の障害（身体障害、知的障害、精神障害、発達障害など）について、特徴を説明することができる。 5) 各種の障害特性と介護の留意点について、基礎的な事柄を説明することができる。 6) その他、介護福祉士国家試験において合格ラインをクリアする水準を到達目標とする。							
事前事後学修について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間)							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	☐ P B L ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ☐ I C T活用（自主学習支援）							
評価方法	定期試験（70%） ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験（30%） ☒ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☒ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価観点	☒ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☒ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()						
テキスト	介護福祉士養成講座編集委員会『介護福祉士養成講座14 障害の理解』中央法規出版 専攻科として一括購入							
参 考 書	授業の中で随時紹介する。							
課題に対するフィードバックの方法	レポート等に関してはコメントの記入、口頭での解説で対応する。							
留意事項	実戦を想定して授業を実施するので、常に自分の考えを持ちながら授業に参加する。							
オフィスアワー	研究室前に掲示し、授業中に口頭でも伝える。							
実践的教育								

授 業 名	障害の理解	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 障害に対するイメージ	(学修内容) シラバスを活用しながら授業計画について説明する。 障害に対するイメージについて、講師と学生がディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) 事前：シラバスの内容を確認しておく。事後：再度、自分のもつイメージを確認しながら授業内容を復習する。
第2回	障害者福祉の基本理念 ノーマライゼーションについて	(学修内容) 障害者福祉の基本理念のうちノーマライゼーションについて、定義、内容、達成過程、現代的意義について解説する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめておく。事後：ノーマライゼーション達成過程の具体例についてまとめる。
第3回	障害者福祉の基本理念 自立と自立支援	(学修内容) 障害者福祉の基本理念である自立と自立支援について、概念成立の背景から福祉分野での意味について具体例を交えながら解説する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：自立と自立支援に関する自分なりの考えをまとめておく。事後：自立と自立支援について、介護現場での具体例を書き出してみる。
第4回	障害とは 医学モデルと生活モデル	(学修内容) 医学モデルから生活モデルへの価値の転換という視点から、国際障害分類及び国際生活機能分類について具体例を交えて解説する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書の該当箇所を読み、分かったことをまとめておく。事後：ICFを活用した介護支援の例について書き出してみる。
第5回	障害とは 法制度に見る障害の定義	(学修内容) 障害者基本法など各種法制度に位置付けられた障害の定義について、法律の成立や改正の背景も含めて解説する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書の該当箇所を読み、障害の定義にあたる部分に線を引いてくる。事後：各障害について、特徴の概要についてノートにまとめる。
第6回	障害とは 障害が及ぼす心理的影響（障害の主観的側面）	(学修内容) 障害をもつ人の側に立ち、障害の心理的・主観的側面について基本事項を解説し、ディスカッションにより共感的理解に近づけていく。 (事前事後学修課題の内容) 事前：書籍またはインターネットで障害者の記事を探し、気持ちに着目して読んでくる。事後：ディスカッションで感じたことをまとめる。
第7回	障害の理解とその援助 身体障害（肢体不自由・内部障害）の理解と援助	(学修内容) 身体障害のうち肢体不自由と内部障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後：介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第8回	障害の理解とその援助 進退障害（視覚障害・聴覚障害）の理解と援助	(学修内容) 身体障害のうち視覚障害と聴覚障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後：介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第9回	障害の理解とその援助 知的障害の理解と援助	(学修内容) 知的障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後：介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第10回	障害の理解とその援助 発達障害の理解と援助	(学修内容) 発達障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後：介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第11回	障害の理解とその援助 精神障害の理解と援助	(学修内容) 精神障害について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後：介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第12回	障害の理解とその援助 難病の理解と援助	(学修内容) 難病について基本事項をおさえ、援助の留意点について検討する。 (事前事後学修課題の内容) 事前：教科書の該当箇所を読み、質問事項をまとめてくる。事後：介護場面での留意点という視点からまとめなおしてみる。
第13回	事例研究（地域サポート体制、チームアプローチ） 障害者福祉の事例について介護福祉の視点から分析、検討	(学修内容) これまで学んできた知識を総括的に活用し、障害者福祉の事例について介護福祉の視点から分析、検討しディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前：これまでの学修内容を振り返り、不明な点は解決しておく。事後：ディスカッションの内容をまとめる。
第14回	事例研究（家族への支援、社会的介護の課題） 障害者福祉の事例について介護福祉の視点から分析、検討	(学修内容) これまで学んできた知識を総括的に活用し、障害者福祉の事例について介護福祉の視点から分析、検討しディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前：これまでの学修内容を振り返り、不明な点は解決しておく。事後：ディスカッションの内容をまとめる。
第15回	授業の総括と質疑応答	(学修内容) 全ての授業内容を総括的に振り返りながらまとめ、学生の質問に質疑応答形式で答えながら内容をさらに深めていく。 (事前事後学修課題の内容) 事前：これまでの授業を振り返り質問事項をまとめておく。事後：特に不得意な部分を中心に介護福祉士の過去問に取り組む。

[illegible]

授 業 名	コミュニケーション技術	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方 介護実習の振り返り (事前事後学修課題の内容) シラバスの内容を確認しておくこと。介護実習について説明できるように準備をしておくこと事後：授業ノートの整理
第2回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 実習からの気づき	(学修内容) 実習で困った場面をピックアップして、それをロールプレイで再現する。 ビデオ撮影をする。 (事前事後学修課題の内容) 実習の振り返りを行う。 事後：授業ノートの整理
第3回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 実習からの気づき	(学修内容) ビデオを視聴し、自身のコミュニケーションの特徴を知り、よりよい方法を考える(ディスカッション)。 (事前事後学修課題の内容) 実習での自らの課題について振り返りを行うこと。 事後：授業ノートの整理
第4回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 視覚障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) 視覚障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫について考え、実践する。 (事前事後学修課題の内容) 傾聴、共感についてを復習しておく 事後：授業ノートの整理
第5回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 聴覚障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) 聴覚障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫について考え、実践する。 (事前事後学修課題の内容) 非言語コミュニケーションについてを復習しておく。 事後：授業ノートの整理
第6回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 言語障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) 言語障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫を考え、実践する。 (事前事後学修課題の内容) 非言語コミュニケーションを復習しておく。 事後：授業ノートの整理
第7回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 コミュニケーション障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) コミュニケーション障がいのある人の事例でロールプレイを行う。 (事前事後学修課題の内容) コミュニケーションについてを復習しておく。 事後：授業ノートの整理
第8回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 精神障がい、発達障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) 発達障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫を考え、実践する。 (事前事後学修課題の内容) 受容について復習しておく。 事後：授業ノートの整理
第9回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 知的障がいのある人とのコミュニケーション	(学修内容) 知的障がいのある人とのコミュニケーションの留意点や工夫を考え、実践する。障害者支援施設に行き、コミュニケーションを図る (事前事後学修課題の内容) 受容についてを復習しておく。 事後：授業ノートの整理
第10回	障害の特性に応じたコミュニケーション技法 重度障害児とのコミュニケーション	(学修内容) 重度障害児とのコミュニケーションの留意点や工夫を考える。 (事前事後学修課題の内容) 受容についてを復習しておく。 事後：授業ノートの整理
第11回	介護における家族とのコミュニケーション 配慮・気遣い	(学修内容) 家族とのコミュニケーションにおいて、配慮すべき事項や・気遣いについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) コミュニケーションの技法を復習しておく。 事後：授業ノートの整理
第12回	介護における家族とのコミュニケーション 利用者本人と家族の意向の調整を図る技法	(学修内容) 利用者本人と家族の意向の調整を図る技法を事例を通し実践する。 (ロールプレイ) (事前事後学修課題の内容) コミュニケーションの技法を復習しておく。 事後：授業ノートの整理
第13回	介護における家族とのコミュニケーション 相談、助言、指導	(学修内容) 家族とのコミュニケーションにおける、相談、助言、指導について学ぶ (グループワーク)。 (事前事後学修課題の内容) 相談援助についてを復習しておく。 事後：授業ノートの整理
第14回	介護におけるチームのコミュニケーション 報告、連絡、相談 チーム運営の基本(チームの機能と構成、リーダーの機能と役割、リーダーシップとフォローシップ、課題発見と解決の過程PDCA)	(学修内容) その人を支えるチーム内のコミュニケーションにおいて、報告、連絡、相談の重要性について事例を通して考える。(ロールプレイ) (事前事後学修課題の内容) 相談援助を復習しておく。 事後：授業ノートの整理
第15回	介護におけるチームのコミュニケーション アサーティブコミュニケーション	(学修内容) アサーティブコミュニケーションについて グループワーク (事前事後学修課題の内容) コミュニケーションのまとめ 事後：授業ノートの整理

授 業 名	介護過程			開講 学年	1回生	単位数	1単位	科目 コード	CW1710
英 文 名	Nursing Care Process			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	高岡 理恵			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	対象者の望む生活の実現のためには、対象者ひとりひとりの生活上の課題を明確にし、根拠に基づいた介護実践が求められる。この授業では、その課題を解決していく介護過程について、基礎的知識を踏まえたうえで事例を通して学んでいく。 演繹法をとる介護過程では、対象者理解(アセスメント)を間違えると対象者の望む生活実現は叶わない。そのため徹底的に利用者理解に重心を置く。グループワークやディスカッションしながら事例を通して学生相互の考え方や価値観をすりあわせる。 ゲストスピーカーから介護過程の展開事例を聞き、専門職として介護を行う上での思考過程、実践過程に介護過程の展開が必須であることを学びます。								
学修成果 到達目標	1)介護過程の全体像を説明できる。 2)介護過程の各プロセスの思考方法を理解できる。 3)事例を通して、介護過程の展開を実施できる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 1 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解				汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学习支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()							
テキスト	最新 介護福祉士養成講座『介護過程』中央法規を使用します。 必要に応じてプリントを配付する。								
参 考 書	大川弥生 「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用 中央法規								
課題に対する フィードバック の方法	提出された課題は、コメントをつけて返却する。								
留意事項	授業で使用了プリントや作成したシートなどは、毎回持参してください。								
オフィス アワー	担当授業終了後に実施する。								
実践的教育	☐ 実践的教育 教員の実務経験など：島本町社会福祉協議会 訪問介護、介護支援専門員として勤務。								

授 業 名	介護過程	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 介護過程の意義と目的	(学修内容) 授業概要についてシラバスをもとに説明。 介護を行う上で介護過程を学ぶ意味について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 シラバスを確認しておいてください。 事後 配布資料を読み、理解しにくい箇所に下線を引く。
第2回	アセスメント1 バイタルサインの理解と測定方法	(学修内容) バイタルサインの意味の理解を行い、自身のバイタルサインが正常・異常を知る。 (事前事後学修課題の内容) 事前 配付資料を読み、理解しにくい箇所に下線を引く。 事後 宿題の対象者の情報収集(できるところから)を行う。
第3回	アセスメント2 観察力の構築	(学修内容) DVD(事例)を視聴し観察できた事柄をまとめる。 (事前事後学修課題の内容) 事前 宿題の対象者の情報収集(できるところから)を行う。 事後 観察した事柄を表にまとめる。
第4回	アセスメント3 主観・客観を意識した観察	(学修内容) 主観的・客観的情報の違いについて理解した上で、DVDを再度視聴し観察を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 DVDを視聴し観察を行い表にまとめる。 事後 ICFの考え方を調べてくる。
第5回	アセスメント4 ICFの考え方について理解する	(学修内容) アセスメントにおける専門的諸知識の統合についてICFの概念、考え方の理解を事例を通して理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 ICFの考え方を調べてくる。 事後 ICFの考え方を自分の言葉で説明できるようにしておく。
第6回	アセスメント5 情報の整理	(学修内容) ICFの考え方に沿って情報を整理し、対象の全体像を把握する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 ICFの考え方を自分の言葉で説明できるようにしておく。 事後 事例の情報を表にして整理してくる。
第7回	アセスメント6 情報の解釈、関連付け、統合	(学修内容) 統合の意味や方法を理解し整理した情報に、他の科目で学習した知識を活用し、解釈、関連付けをする。 (事前事後学修課題の内容) 事前 事例に情報を表にして整理してくる。 事後 情報の解釈に必要な知識を調べ解釈を行う。
第8回	アセスメント7 情報の解釈、関連付け、統合を深め全体像を把握する	(学修内容) 対象者の情報に解釈分析を加え発表を行う。ディスカッションを通して、事例の全体像を把握する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 情報の解釈に必要な知識を調べ解釈を行う。 事後 今日の授業で行った内容を整理し提出できるようにしておく。
第9回	アセスメント8 総括(情報収集、統合、関連付け、解釈)	(学修内容) 事後課題をもとにアセスメントを行う。ディスカッションを通して全体像を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前 今日の授業で行った内容を整理し提出できるようにしておく。 事後 アセスメント表を提出できるようにしておく。
第10回	アセスメント9 解釈に必要な知識の整理とニーズの捉え方	(学修内容) 解釈に必要な知識を調べ、ニーズの理解を行い、ニーズの優先を決定する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 アセスメント表を提出できるようにしておく。 事後 ニーズの優先を考えてくる。
第11回	介護目標の理解と計画作成の留意点	(学修内容) 介護目標を立てるときの留意を理解し目標をたて、計画作成を行う。 事例の介護目標の設定、計画を作成する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 ニーズの優先を考えてくる。 事後 長期・短期目標を考えてくる。
第12回	介護目標の優先と計画作成の実際	(学修内容) ニーズの優先第一位の短期目標計画を策定する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 長期・短期目標を考えてくる。 事後 介護計画表を完成させる。
第13回	介護目標の評価と評価観点、モニタリング	(学修内容) 目標の評価の方法を理解し次の新たな目標・終結の方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 グループワークを通して介護計画表を完成させる。 事後 実習に必要な書類の整理。
第14回	在宅で生活する利用者の介護過程の実際	(学修内容) 実習先での介護過程の展開をゲストスピーカーに話を聞き、実践的に理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習に必要な書類の整理。 事後 感想文を書く。(800字以上)
第15回	施設で生活する利用者の介護過程の実際	(学修内容) 実習で行う介護過程の展開について時期や方法について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 感想文を書く。(800字以上) 事後 実習に必要な準備(必要書類の整理)を行う。

授 業 名	介護総合演習	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 介護実習事後指導 1	(学修内容) 秋学期授業の進め方とルーブリックを使用して夏季実習の自己評価を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習の自己評価を行う。 事後 夏季実習の報告をまとめておく。
第2回	介護実習事後指導 2 カンファレンス準備	(学修内容) 夏季実習の振り返りをまとめ、カンファレンスの準備を行う。資料の作成を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 夏季実習の報告をまとめておく。 事後 実習報告資料作成。
第3回	介護実習事後指導 3 カンファレンスの実際	(学修内容) 施設職員と共にカンファレンスを行い、それぞれの学びの進捗を理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習報告資料作成。 事後 実習施設の概要について調べてくる。資料持参すること。
第4回	事前学習の内容と方法1 実習施設の理解	(学修内容) 小規模多機能型居宅介護の理解及び在宅3本柱についての復習を行い実習準備に進む。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習施設の概要について調べてくる。資料持参すること。 事後 事務手続きに必要なものを準備する。
第5回	事前学習の内容と方法2 在宅実習事務手続き	(学修内容) 実習に必要な書類や課題について整理しマナーやルールについて確認を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 事務手続きに必要なものを準備する。 事後 実習に必要な書類を完成させておく。
第6回	事前学習の内容と方法3 実習目標の作成	(学修内容) 実習目標を整え清書を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習に必要な書類を完成させておく。 事後 実習記録に実習目標を清書しておく。
第7回	在宅実習事前オリエンテーション	(学修内容) 実習へ行く前の準備と守秘義務等についての再確認を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 実習記録に実習目標を清書しておく。 事後 自己の評価を主観的に評価する。
第8回	実習の振り返り 1 実習での学びを振り返る	(学修内容) 実習で学んだことを目標に沿って振り返り記録にとどめる。 (事前事後学修課題の内容) 事後 介護実習記録に施設の概要等を記録する。 事後 介護実習の振り返りを発表できるよう資料を作成する。
第9回	実習の振り返り 2 実習での学びを共有する	(学修内容) 目標に沿った振り返りを発表しディスカッションしながら実習内容を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前 介護実習の振り返りを発表できるよう資料を作成する。 事後 自己の評価を主観的に評価する。
第10回	実習評価の確認と自己覚知	(学修内容) 客観的・主観的に居宅実習評価を行い、自己覚知を行う。(個別指導) (事前事後学修課題の内容) 事前 自己の評価を主観的に評価する。 事後 学校での学びから探究したい事柄についてテーマを考える。
第11回	介護実践探求 1 研究を行う意義と方法	(学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶとともに、春学期に選定した自己のテーマに沿って文献を収集し研究をすすめる。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テーマに即した必要な文献等を収集する。 事後 「はじめに」を完成させる。
第12回	介護実践探求 2 執筆作業(個別)	(学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶ。 文献の取り扱いや表記の方法について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 「はじめに」を完成させる。 事後 配布した資料(研究方法)を読み研究を進める。
第13回	介護実践探求 3 執筆作業(個別)	(学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶ。 章立てに基づいて研究を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 配布した資料(研究方法)を読み研究を進める。 事後 必要な文献を探す。
第14回	介護実践探求 4 執筆作業	(学修内容) 介護実践研究の方法を学ぶ。 発表資料を作成する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 必要な文献を探す。 事後 事例研究をまとめる。
第15回	介護実践探求 5 研究発表	(学修内容) 自身の介護実践研究をプレゼンテーションする。 他の発表者の研究を聞く。 (事前事後学修課題の内容) 事前 事例研究をまとめる。 事後 質疑応答した内容をまとめて提出する。

授 業 名	チームマネジメント論			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	CW1752
英 文 名	Theory of Team Management			開講 時期	秋学期		必修 選択	必修	
担 当 者	高岡 理恵			対象 学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	介護実践は介護従事者のみならず保健医療等からなる包括的なチームによる実践です。この授業では、介護実践を行うために必要な組織の運営と管理、人材育成の活用、それらに必要なリーダーシップとフォロワーシップなどを学び、チームで働く力を養うためのマネジメントについて理解を深めます。また、介護実践は感情労働であることから、ストレスとストレスマネジメントの基礎的な知識を身につけます。 本授業では講義の他、施設を訪問し、多様なメンバーでの会議や事業所組織の経営、事業所内研修等について学ぶ機会をもちます。 講義では、反転授業を行うため、事前にしておかなければならない学修課題については必須です。さらに、グループワークやディスカッションを通して授業内容を深めたいと考えています。								
学修成果 到達目標	福祉サービスにおける組織の機能や構造を説明できる。 チームでケアを展開するために必要なチームの構成や役割について説明できる。 スーパービジョンの機能について説明できる。 チームで働くためのストレスマネジメントについて自分自身のマネジメント方法を見つけることができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☒ 制作物 								

授 業 名	チームマネジメント論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 実習から学ぶチームマネジメント	(学修内容) 介護実習施設において求められるチームの職種理解を行う。指導者の指導方法についてディスカッションを行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 シラバスを読んでくる。 事後 テキスト p 203～218で大切だと思う箇所に下線を引く。
第2回	介護実践におけるケアチームの実際	(学修内容) 1回目授業をもとに、実習で学んだことをディスカッションしながら、チームの目的とリーダーとフォロワーの役割について確認する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト p 203～218で大切だと思う箇所に下線を引く。 事後 チームを構成するメンバー(実習において)を整理しておく。
第3回	施設や居宅で働く他職種の理解	(学修内容) チームで働く専門職の役割についてまとめたことを発表しあう。 (事前事後学修課題の内容) 事前 チームを構成するメンバー(実習において)を整理しておく。 事後 連携に必要な要素について考えてくる。
第4回	連携の目的と他職種との連携方法	(学修内容) 連携の意味を捉え、専門職同士の具体的な連携方法について事例を通してディスカッションを行い自己の考え方を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前 連携に必要な要素について考えてくる。 事後 配布プリントに目を通してくる。
第5回	介護従事者の心身の管理 1 介護労働と感情労働	(学修内容) 感情労働の意味と感情労働である介護福祉職の働き方を理解し、働き方への影響について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 配布プリントに目を通してくる。 事後 ストレスについて具体的な例を挙げ説明できるようにする。
第6回	介護従事者の心身の管理 2 ストレスとストレスマネジメント	(学修内容) 介護労働におけるストレス要因とマネジメント方法について自身のストレス軽減方法を出し合いながら考察する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 ストレスについて具体的な例を挙げ説明できるようにする。 事後 防衛機制について調べたことをまとめてくる。
第7回	介護従事者の心身の管理 3 スーパービジョンの機能と役割	(学修内容) スーパービジョンの機能(教育的機能)について事例を通して理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前 防衛機制について調べたことをまとめてくる。 事後 人間関係を構築するための基本的姿勢について調べる。
第8回	介護従事者の心身の管理 4 スーパービジョンの機能と役割	(学修内容) スーパービジョンの機能(支持的、管理的機能)について事例を通して理解を深める。 (事前事後学修課題の内容) 事前 人間関係を構築するための基本的姿勢について調べる。 事後 施設で質問できるよう第3章4節に目をとおしておく。
第9回	チーム運営の基本 1 組織と運営管理	(学修内容) 協力施設へ赴き、介護サービス事業所における組織、施設の設備、備品、人材確保について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 施設で質問できるよう第3章4節に目をとおしておく。 事後 キャンパスライフ p 7をみてどんな部署があるのかを知る。
第10回	チーム運営の基本 2 組織と運営管理の実際	(学修内容) 本学の組織図を参照し、前回学んだ組織体制について復習する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 キャンパスライフ p 7をみてどんな部署があるのかを知る。 事後 テキスト第3章1節を読み、大切だと思うところに下線を引く。
第11回	チーム運営の基本 3 実践力を高めるためのチームマネジメント	(学修内容) 介護サービスの4つの特性や他のサービスとの相違点から介護現場で求められるチームマネジメントについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 テキスト第3章1節を読み、大切だと思うところに下線を引く。 事後 事例を読み役作りを行う。
第12回	人材の育成と管理 1 コーチングの基本的な考え方	(学修内容) コーチングの基本を理解し、事例をもとにロールプレイングを行いながら傾聴、話し方の工夫を行う。 (事前事後学修課題の内容) 事前 事例を読み役作りを行う。 事後 協力施設に聞きたいこと、質問内容を考えてくる。
第13回	人材の育成と管理 2 キャリア開発の仕組み	(学修内容) 協力施設に出向き、委員会やOJTが、どのように策定されているのかを学習する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 協力施設に聞きたいこと、質問内容を考えてくる。 事後 学んだ内容をまとめレポートにして提出する。
第14回	人材の育成と管理 3 プリセプター制度の意義、目的、方法	(学修内容) プリセプター制度の意義と目的・方法について反転授業を用い、自分たちが調べてきたことを共に学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) 事前 学んだ内容をまとめレポートにして提出する。 事後 学んだ内容をまとめレポートにして提出する。
第15回	社会人基礎力(リテラシーとコンピテンシー)	(学修内容) 社会人基礎力をもとに、求められる社会人像を明確にし、人間関係を作るための傾聴力、情動のマネジメントについて学習する。 (事前事後学修課題の内容) 事前 学んだ内容をまとめレポートにして提出する。 事後 なりたいリーダー像についてまとめレポートにする。

授業名	こころとからだのしくみ			開講学年	1回生	単位数	2単位	科目コード	CW1716
英 文 名	Structure of Mind and Body			開講時期	春学期		必修選択	必修	
担当者	早川 京子			対象学生	専攻科介護専攻				
授業の概要	生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ及び機能低下が生活に及ぼす影響について理解する。								
学修成果到達目標	基礎で学んだからだ及びやこころのしくみを応用することができる。 それぞれの生活上の場面に応じたからだ及びこころのしくみを理解できる。 人生の最終段階のケアに応じたからだ及びこころのしくみを理解できる。								
事前事後学修について	各授業回到記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (１回の授業の事前・事後学修時間の計　３０分)								
学位授与の方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ラーニング対象授業	☐ P B L☒ ディスカッション・ディベート☐ グループワーク☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク☐ I C T活用（双方向型授業）☐ I C T活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験（５０％） ☐ 筆記試験 ☐ 口述				平常試験（５０％） ☒ 筆記試験 ☐ 口述				
評価基準	主たる評価観点		☒ 知識・理解 ☒ コミュニケーション能力 ☒ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力						
			☒ 授業態度・参加意欲 ☐) ☐						
テキスト	最新　介護福祉士養成講座11　こころとからだのしくみ　第2版　中央法規出版								
参 考 書	新訂　目でみるからだのメカニズム　医学書院 東京都健康長寿医療センター研究所島田千穂　伊藤美緒「認知症・超高齢者の看取りケア実践」日総研（2016年） 「死」が教えてくれた　幸せの本質　瀬戸崇史　株式会社ユサブル 「死ぬ瞬間」E・キューブラー・ロス　読売新聞社								
課題に対するフィードバックの方法	小テスト及びワークシートで学びを深めます。								
留意事項	基礎的なことに加えて、専門用語を多く用います。事前事後学習をしっかりしておいてください。								
オフィスアワー	随時表示します。確認しておいてください。								
実践的教育	☒ 実践的教育 教員の業務経験など：臨床と地域福祉の現場で18年勤務								

授 業 名	こころとからだのしくみ	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 移動に関連したからだのメカニズム	(学修内容) 授業の進め方・主な内容・評価方法についての説明 移動に関連したからだのメカニズムについて学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) シラバスをよく読んでおくこと
第2回	心身の機能低下が移動に及ぼす影響、変化の気づきと対応	(学修内容) 心身の機能低下が移動に及ぼす影響、変化の気づきと対応 (事前事後学修課題の内容) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第3回	身じたくのしくみ	(学修内容) 身じたくのしくみについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第4回	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響、変化の気づきと対応	(学修内容) 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響、変化の気づきと対応について学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第5回	食事のしくみ	(学修内容) 人間に必要な栄養素及び食事のしくみについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと。食事ワークシートを準備する。
第6回	心身の機能低下が食事に及ぼす影響、変化の気づきと対応	(学修内容) 心身の機能低下が食事に及ぼす影響、変化の気づきと対応について学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第7回	入浴・清潔保持のしくみ	(学修内容) 入浴・清潔保持のしくみを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第8回	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響、変化の気づきと対応	(学修内容) 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響、変化の気づきと対応について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第9回	排泄のしくみ	(学修内容) 排泄のしくみについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第10回	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響、変化の気づきと対応	(学修内容) 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響、変化の気づきと対応について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 排尿日誌を準備する。キスト及び配布資料をよく読んでおくこと。排尿日誌を準備する。
第11回	休息・睡眠のしくみ	(学修内容) 休息・睡眠のしくみを学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第12回	心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響、変化の気づきと対応	(学修内容) 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響、変化の気づきと対応について、パワーポイントを使って発表する。 (事前事後学修課題の内容) 睡眠シートを準備する。テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第13回	人生の最終段階に関する「死」の捉え方	(学修内容) 「死」のとらえ方を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと
第14回	「死」に対する心の理解	(学修内容) 「死」に対する心の理解を学ぶ。DVDを視聴する。 (事前事後学修課題の内容) テキスト及び配布資料をよく読んでおくこと。
第15回	終末期から危篤状態、死後のからだの理解及び医療職との連携	(学修内容) 終末期から危篤状態、死後のからだの理解及び医療職との連携について学ぶ。前回視聴のDVDについて、グループでディスカッションする。 (事前事後学修課題の内容) 今までの資料すべてに目を通しておくこと

授業名	装いの文化		開講学年	2回生	単位数	2単位	科目コード	IC2323
英文名	Clothing Culture		開講時期	春学期		必修選択	選択	
担当者	馬場 まみ		対象学生	総合文化2回生				
授業の概要	人々の装いは、時代により、また地域により変化してきた。本講義では、日本と西洋の女性の装いの変化と現代の服飾文化を概観し、装いの文化の豊かさ、多様性を理解する。さらに、人々が装いによって何を表現してきたのかを考える。理解を深めるために、適宜映像を鑑賞する。							
学修成果到達目標	１．日本の服飾文化の変化を理解することができる。 ２．西洋の服飾文化を理解することができる。 ３．現代の装いの文化について理解できる。							
事前事後学修について	各授業回到記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。（１回の授業の事前・事後学修時間の計　４時間）							
学位授与の方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ラーニング対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ☐ I C T活用（自主学習支援）							
評価方法	定期試験（70％） ■筆記試験 □レポート □制作物 □口述 □実習 □実技			平常試験（30％） □筆記試験 ■レポート □制作物 □口述 □実習 □実技				
評価基準	主たる評価観点	■知識・理解 □コミュニケーション能力 □プレゼンテーション能力 ■課題発見・解決能力 ■授業態度・参加意欲 □() □()						
テキスト	使用しない。適宜資料を配付する。							
参 考 書	随時紹介する。							
課題に対するフィードバックの方法	提出物については理解度を確認し解説を行う。							
留意事項								
オフィスアワー	毎週1回（休業期間中を除く）設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。							
実践的教育								

授 業 名	装いの文化	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 講義内容と授業の進め方について (事前事後学修課題の内容) シラバスを読んで読んで学びの目標を理解する。
第2回	社会と装い	(学修内容) 様々な社会の装いと多様性を理解する (事前事後学修課題の内容) 事前に興味ある地域の装いについて調べる。授業後に様々な装いを見た感想を提出する。
第3回	平安時代の装い：貴族の装い	(学修内容) 平安時代の身分階級と貴族の装いを理解する (事前事後学修課題の内容) 平安時代の貴族の生活について予習する。授業後貴族の服装をまとめる。
第4回	平安時代の装い：文様と色彩	(学修内容) 平安時代時代の装いと文様・色彩について理解する (事前事後学修課題の内容) 平安時代の文化について予習する。授業後に文様と色の名称を復習する。
第5回	安土・桃山時代の装い	(学修内容) 安土・桃山時代の染織品と装いを理解する (事前事後学修課題の内容) 安土・桃山時代の生活について予習する。安土・桃山時代の服飾を見た感想を提出する。
第6回	江戸時代の装い：小袖の文様と色彩	(学修内容) 江戸時代の女性の装いと文様、色彩を理解する (事前事後学修課題の内容) 江戸時代の服飾について予習する。授業後江戸時代の小袖遺品の図版を見直す。
第7回	江戸時代の装い：小袖・帯・化粧	(学修内容) 江戸時代をとおして小袖・帯・化粧が変化したことを理解する (事前事後学修課題の内容) 江戸時代の装いについて予習する。授業後江戸時代の絵画や服飾品を見て装いの変化をまとめる。
第8回	近代の装い：洋服と和服	(学修内容) 近代における洋服の導入と和服について理解する (事前事後学修課題の内容) 近代における洋服の導入について予習する。授業後洋服導入に関わる年表を作成する。
第9回	近代の装い：和服文様の近代化	(学修内容) 近代的な和服文様について (事前事後学修課題の内容) 近代の和服文様について予習する。授業後近代に作られた特徴的な着物を調べる。
第10回	西洋のファッション：近代までの歴史	(学修内容) 近代までの西洋ファッションの歴史 (事前事後学修課題の内容) 洋服の歴史について予習する。授業後前近代の貴族の装いの特徴をまとめる。
第11回	西洋のファッション：近代的洋服の成立	(学修内容) 産業革命による社会の変化と近代的洋服の成立について (事前事後学修課題の内容) 産業革命について予習する。授業後社会の変化と装いの変化について感想を提出する。
第12回	西洋のファッション：シャネル	(学修内容) シャネルの生涯とファッションを理解する (事前事後学修課題の内容) 事前にシャネルについて調べる。授業後シャネルの人生、ファッションについて感想を提出する。
第13回	西洋のファッション：戦後の装いとディオール	(学修内容) ディオールのファッションを理解する (事前事後学修課題の内容) ディオールについて予習する。授業後ディオールブランドについて感想を提出する。
第14回	日本人デザイナー	(学修内容) 日本人デザイナーの活動を理解する (事前事後学修課題の内容) 事前に日本人デザイナーを一人とりあげて調べる。授業後に日本人デザイナーの活動をまとめる。
第15回	現代の装いの文化	(学修内容) 装いの文化の多様性を理解し、現代の装いの特徴を考える (事前事後学修課題の内容) 様々な社会の装いをまとめる。

授 業 名	日本の民俗		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名	Japanese Folklore		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	工藤 美和子		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	民俗学とは、人間が誕生し死ぬまでの間、習俗や慣習などを体験し社会とのつながりや、自分と他者の関係を考える学問である。本講義では、1月から12月までのさまざまな民俗や行事がなぜ行われるのかについて、史資料を用いながら探究するとともに、民俗学の今日的課題を考える。							
学修成果 到達目標	(1) 民俗学とは何かについて理解することができる。 (2) 1年間の民俗行事についてどのような由来で行われるのかを説明することができる。 (3) 民俗学の今日的課題について考える視点を養うことができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解	○	汎用的技能				
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用(双方向型授業) ☐ I C T活用(自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (80%) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	日本の民俗	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業概要の説明。「民俗学」に持つイメージについて受講生の意見を交えながら考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) シラバスを確認する。民俗学と何かを各自考える。(120分) (事後) 民俗学とは何かを整理する。次回授業の資料を読む(120分)
第2回	柳田国男と折口信夫	(学修内容) 民俗学者の柳田国男と折口信夫が唱えた民俗学とは何か、共通点や相違点について考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 柳田国男と折口信夫について歴史・民俗学辞典等で調べる。 (事後) 柳田国男と折口信夫の民俗学を比較し整理する。
第3回	暦と時間	(学修内容) 旧暦と新暦の違いや、新暦となったことで変化したことは何か、また時間感覚について受講生の意見を交えながら考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 旧暦と新暦について調べる。 (事後) 暦の変化がもたらした影響を整理する。次回資料を読む。
第4回	正月の民俗—修正会	(学修内容) 正月の民俗行事に何があるかを考え、その1つの修正会について考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 修正会について辞書等で調べる。資料を読んでおく。 (事後) 修正会に関する民俗行事を整理する。次回資料を読む。
第5回	2月の民俗—節分	(学修内容) 節分とは何か、節分に関連する民俗行事について考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 節分の意味について辞書等で調べる。 (事後) 節分に関する民俗行事を整理する。次回資料を読む。
第6回	3月の民俗—上巳の節句	(学修内容) 上巳の節句(ひな祭り)に関する民俗行事について考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 五節句について辞書等で調べる。 (事後) 上巳の節句に関する民俗行事を整理する。次回資料を読む。
第7回	4月の民俗—観桜	(学修内容) 「桜」に関する古代と近世の史料を読み、受講生の意見を交えながら、日本人が抱く「桜」に対する意識の変遷を考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 各自、「桜」にもつイメージを考えておく。 (事後) 「桜」への見方の変遷を整理する。次回資料を読む。
第8回	5月の民俗—端午の節句	(学修内容) 端午の節句に関する民俗行事について考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 端午の節句について辞書等で調べる。 (事後) 端午の節句に関する民俗行事を整理する。次回資料を読む。
第9回	6月の民俗—夏越の祓	(学修内容) 夏越の祓に関する民俗行事について考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 「祓」とは何かを辞書等で調べる。 (事後) 夏越の祓に関する民俗行事を整理する。次回資料を読む。
第10回	7月の民俗—七夕	(学修内容) 七夕の節句に関する民俗行事について考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 七夕の節句を辞書等で調べる。 (事後) 七夕の節句に関する民俗行事を整理する。次回資料を読む。
第11回	8月の民俗—盆供養	(学修内容) 盂蘭盆(うらばん)と地蔵盆について考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) お盆について辞書等で調べる。 (事後) お盆や地蔵盆に関する民俗行事を整理する。次回資料を読む。
第12回	9月の民俗—重陽の節句と彼岸	(学修内容) 重陽の節句と彼岸に関する民俗行事について考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 重陽の節句と彼岸を辞書等で調べる。 (事後) 重陽の節句と彼岸に関する民俗行事を整理し次回資料を読む。
第13回	10月の民俗—粟田祭(学外調査)	(学修内容) 京都の10月を代表する祭礼の1つである粟田祭について考える。学外調査を行う。調査後は各自の考えや気づいた点を課題にまとめる。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 学外調査先の粟田神社や粟田祭について調べる。 (事後) 調査後にレポート課題を作成し提出する。次回資料を読む。
第14回	11月の民俗—お火焚き	(学修内容) 京都で行われる火に関する民俗行事について考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) お火焚きについて調べる。資料を読んでおく。 (事後) お火焚きに関する民俗行事を整理する。次回資料を読む。
第15回	12月の民俗—冬至	(学修内容) 冬至とは何か、冬至関連の民俗行事について考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 冬至について辞書等で調べる。 (事後) 冬至に関する民俗行事を整理する。授業全体を振り返る。

授 業 名	京都の食文化			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	
英 文 名	Food Culture of Kyoto			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	橋本 道範			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	2013年12月に和食がユネスコの無形文化遺産に登録されている。京都にはその風土と四季に育まれた旬の食材や「ケ」の食とされる " おばんざい " がある。京料理が生み出された歴史と日々の暮らしで培われた「始末の心得」を学び。時代と共に変化し伝承されてきた「京都の食文化」から、食べる楽しみや健康づくりまでを視野において推考し、座学に留まらず京野菜など食材の今をフィールドワークにより探求する。								
学修成果 到達目標	1) 京都の食文化における特徴を気候風土、食材、加工法、調理法、食べ方などから捉えることができる。 2) 京都の食文化を歴史的観点、社会的背景などからも考察することができる。 3) 京都の食文化と和食の優れた点をフィールドワークで体験し、今後に役立てることができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 1 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ■ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (60%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 (40%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 ■ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	■ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ■ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 ■ (思考力、創造力)) ■ (協調力)							
テキスト	京都の食文化：佐藤洋一郎 著 (中公新書)								
参 考 書	・開き書 日本の食生活全集 京都の食事：畑明美・他 著 (農山漁村文化協会) ・新版増補 京都・観光文化検定試験公式テキストブック：森谷剋久 監修 (淡交社)								
課題に対する フィードバック の方法	添削後返却します。								
留意事項	・何をどう食べるかだけでなく食べ方や歴史と風土、文化などから食べる楽しみや健康づくりに役立つ「食と工夫」について複眼的に捉え理解することが大切です。 ・京都検定の受験なども目指し、授業を進めます。 ・受講人数や時間割により、内容調整や変更があります。								
オフィス アワー	初回の授業で連絡します。								
実践的教育	■ 実践的教育 教員の実務経験など：滋賀県立琵琶湖博物館で学芸員として勤務、滋賀の食事文化研究会に属し、江戸時代のフナズシの再現実験に挑戦した経験から、食べる楽しみや健康づくりまでを視野においたフィールドワーク教育を行う。								

授 業 名	京都の食文化	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション、食文化とは何でしょう！	(学修内容) 授業概要の説明 身近な食文化についての情報交流 (事前事後学修課題の内容) 皆さんの住まいや家族が関係する地域における食文化の情報をまとめて持ち寄り、紹介・交流する。
第2回	京都の風土と四季 1：京都の季節と水の都	(学修内容) 京都の特徴である「夏の酷暑と冬の底冷え」と、伏流水からもたらされる食の恵みを考える。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 1～26を読んでおくこと。 気候が食文化にどう関係するかを調べてくる。
第3回	京都の風土と四季 2：京都の地形と川の恵み	(学修内容) 京盆地の特徴ある風土と川からの恵みを考える。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 27～58を読んでおくこと。 水が食文化にどう関係するかを調べてくる。
第4回	京都と京都市人 1：京都の歴史と発酵食品、食の始末	(学修内容) 京都の歴史と発酵食品(漬物・酢・酒)、始末屋の心得”もったいない”を学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 59～76を読んでおくこと。 身近な発酵食品について調べてくる。
第5回	フィールド学習 1	(学修内容) フィールドワーク(京の食文化ミュージアム探索)を通じて食文化と食材の今を学ぶ。尚、調整により行き先や実施日に変更あり。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 200～220を読んでおくこと。事後に感想を発表していただきます。
第6回	京都と京都市人 2：おばんざいと京野菜	(学修内容) 「ハレ」の食と「ケ」の食から生まれたおばんざいと京野菜の今とこれからを考える。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 77～100を読んでおくこと。 おばんざいについて調べてくる。
第7回	京都と京都市人 3：パンと喫茶、学生の街	(学修内容) パン食が多い！その理由と喫茶について、学生の街、麵・中華料理店も多いとされる理由を探索。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 101～128を読んでおくこと。 興味のあるパン、喫茶、学生の街について調べてくる。
第8回	京料理 1：京都の季節感と行事食	(学修内容) 旬の食材を生かした料理と、それを取り入れた行事食と工夫について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 129～142を読んでおくこと。 関心のあった内容を調べてくる。
第9回	京料理 2：京料理と公家料理・武家料理	(学修内容) 京料理と五体系について学び、その根流にある公家料理、武家料理を探索する。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 143～151を読んでおくこと。 興味のある京料理について調べてくる。
第10回	京料理 3：精進料理、擬き料理を学ぶ	(学修内容) 精進料理の歴史とその特徴を考える。精進料理に秘められた擬き料理の工夫について学ぶ。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 152～164を読んでおくこと。 興味のある精進料理・擬き料理について調べてくる。
第11回	京料理 4：京都のお茶と菓子	(学修内容) 京都のお茶にまつわる歴史とその活用法から、菓子との組み合わせやその特徴について考える。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 165～184を読んでおくこと。 興味のあるお菓子について調べてくる。
第12回	フィールド学習 2	(学修内容) フィールドワーク(錦市場探索)を通じて食文化と食材の今を学ぶ。尚、調整により行き先や実施日に変更あり。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 221～230を読んでおくこと。 事後に感想を発表していただきます。
第13回	京都の食文化 1：京都というブランドと鯖街道	(学修内容) 京都というブランドとその現状を探索。北前船と鯖街道からもたらされた食材について考える。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 185～199を読んでおくこと。 京都のブランドと鯖街道で興味ある点を調べてくる。
第14回	京都の食文化 2：食文化を支える食材や器	(学修内容) 食材、料理、器、料理人から”京都の食文化”とその課題を考える。 (事前事後学修課題の内容) テキスト p 231～241を読んでおくこと。 関心のあった内容を調べてくる。
第15回	京都の食文化 3：未来の食文化	(学修内容) 食にまつわる様々な現実と未来の食文化を議論する。 (事前事後学修課題の内容) レポートに向けた準備をします。

授 業 名	人物史		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	IC2331
英 文 名	History of Great People		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	工藤 美和子		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	本講義では、著名な歴史上の人物を取り上げるが、現代に生きる我々は彼らにある固定したイメージを持っている。しかし、彼ら自身はどのように時代に生きて何を考えていたのだろうか。そこでその人物の目指した理想や理念を彼らが残した言葉から考えてみたい。同時に、現代社会に生きる我々が、なぜ彼らに対してある一定のイメージを持つようになったのかも考える。							
学修成果 到達目標	(1) 歴史上の人物の生涯や思想について説明することができる。 (2) 取り上げた人物から彼らが果たした意義を掴むことができる。 (3) 歴史上の人物と現代に生きる我々との考えの違いや共通点を考えることができる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解	○	汎用的技能				
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ■ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (80%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	人物史	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス 人物史について	(学修内容) 授業全体の概要を説明する。人物史とは何かについて考える。各自、興味関心がある歴史上の人物を取り上げ、次回の発表準備をする。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 歴史の教科書に取り上げられている人物を考える。(100分) (事後) 興味関心がある人物を調べ、課題を作成する。(140分)
第2回	個人発表(1)	(学修内容) それぞれ興味関心がある歴史上の人物を1人選び、その理由や調べたことを発表する。発表者以外は意見や質問等を述べる。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 人物について調べスライドを作成する。(PowerPoint使用) (事後) 発表内容を整理し、レポート課題としてまとめる。
第3回	個人発表(2)	(学修内容) それぞれ興味関心がある歴史上の人物を1人選び、その理由や調べたことを発表する。発表者以外は意見や質問等を述べる。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 人物について調べスライドを作成する。(PowerPoint使用) (事後) 発表内容を整理し、レポート課題としてまとめる。
第4回	偉業の超人(1) 聖徳太子	(学修内容) 聖徳太子の生涯とその思想について『日本書紀』や『上宮聖徳法王帝説』等の太子信仰に関する史料をもとに考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 聖徳太子と太子信仰について調べる。 (事後) 太子信仰の展開について整理する。次回資料を読む。
第5回	偉業の超人(2) 行基	(学修内容) 行基の生涯とその思想について『続日本紀』や『日本霊異記』の史料をもとに考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 行基について調べる。 (事後) 行基伝承について整理する。次回資料を読む。
第6回	偉業の超人(3) 空海	(学修内容) 空海の生涯とその思想について。残された書簡や『性霊集』等の史料をもとに考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 空海と大師信仰について調べる。 (事後) 空海の思想と伝承について整理する。次回資料を読む。
第7回	権力者の横顔(1) 藤原道長	(学修内容) 藤原道長の生涯とその思想を、願文・『御堂関白記』・『栄花物語』等の史料をもとに考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 藤原家と藤原道長について調べる。 (事後) 藤原道長が考えた摂関政治を整理する。次回資料を読む。
第8回	権力者の横顔(2) 白河法皇	(学修内容) 白河法皇がはじめた院政とは何かについて、日記・物語・願文等の史料をもとに考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 院政と白河法皇について調べる。 (事後) 院政に対する白河法皇の考えを整理する。次回資料を読む。
第9回	権力者の横顔(3) 平清盛	(学修内容) 平清盛の生涯とその思想について『平家納経』や『平家物語』をもとに考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 平家と平清盛について調べる。 (事後) 平清盛と『平家物語』との関係を整理する。次回資料を読む。
第10回	天下を目指して(1) 織田信長	(学修内容) 織田信長の生涯とその思想について、ルイス・フロイス『日本史』や太田牛一『信長公記』等をもとに考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 戦国時代と織田信長について調べる。 (事後) 織田信長について整理する。次回資料を読む。
第11回	天下を目指して(2) 豊臣秀吉	(学修内容) 豊臣秀吉の生涯とその思想について、秀吉の書簡や太田牛一『太かうさまぐんきのうち』等をもとに考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 戦国時代と豊臣秀吉について調べる。 (事後) 豊臣秀吉の業績について整理する。次回資料を読む。
第12回	天下を目指して(3) 新選組	(学修内容) 新選組の活動とその思想について、新選組の隊士が記した書簡等をもとに考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 幕末と新選組について調べる。 (事後) 新選組の今昔のイメージを整理する。次回資料を読む。
第13回	日本三大怨霊(1) 菅原道真	(学修内容) 菅原道真の生涯と思想を、『菅家文草』から、また怨霊となった経緯を『天神縁起絵巻』等をもとに考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 菅原道真と天神信仰について調べる。 (事後) 道真が怨霊から天神となる変遷を整理する。次回資料を読む。
第14回	日本三大怨霊(2) 平将門	(学修内容) 平将門の生涯とその思想、怨霊になった経緯を『将門記』をはじめ後世に記された将門に関する史料をもとに考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 平将門と将門の乱について調べる。 (事後) 将門が怨霊になる変遷を整理する。次回資料を読む。
第15回	日本三大怨霊(3) 崇徳上皇	(学修内容) 崇徳上皇の生涯とその思想を、和歌や願文、怨霊になった経緯を『保元物語』をもとに考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 崇徳上皇の生涯や詠んだ和歌、保元の乱について調べる。 (事後) 崇徳が怨霊となる変遷を整理する。授業全体を振り返る。

授 業 名	ことばと文化			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名	Language and Culture			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	伊藤 茂樹			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	言葉とは私たちが毎日使う大切なツールです。言葉の持つ意義は多様であり、その成立と発展を知ることは重要です。方言、また文字、書籍というように私たちが身近に感じている言葉について総合的に学びます。								
学修成果 到達目標	1) 言葉の成立や伝来、言葉の変遷について理解出来る。 2) フィールドワークでの発見をレポートにまとめることが出来る。 3) 言葉の持つ多様な可能性を理解できる。 4) 言葉と社会のつながり、またその関連性について理解出来る。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 2 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ■ 実習・フィールドワーク ■ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (70%) ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	ことばと文化	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業内容とすすめ方について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：シラバスを読んでおく。 事後学修：授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第2回	方言について	(学修内容) 地元でしか使わない言葉。方言について皆で話し合いましょう。 (事前事後学修課題の内容) 事前：前回の授業の内容を振り替え選り、疑問点を確認しておく。 事後：地元の方言について調べまとめる。
第3回	京言葉について	(学修内容) 京都の人が使う言葉、どのような言葉があるか探ります。 (事前事後学修課題の内容) 事前：前回の授業内容を読み、疑問点を確認しておく。 事後：京ことばについてまとめる。
第4回	言葉の変遷について	(学修内容) 私たちが使う言葉は、どのようなところからはじまり変化するのか。生活の中で使う言葉を題材に考えます。 (事前事後学修課題の内容) 事前：自ら探った方言、京言葉を読み特色を確認しておく。 事後：授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第5回	フィールドワーク清水寺	(学修内容) 今年の世相をあらわした漢字1字が年末に発表されます。その発表の舞台である清水寺で言葉を学びます。 (事前事後学修課題の内容) 事前：清水寺の歴史を確認しておく。 事後：発見したことをまとめる。
第6回	フィールドワーク事後学習	(学修内容) フィールドワークでの発見と感想を発表します。 (事前事後学修課題の内容) 事前：発表内容をまとめる。 事後：発表内容を整理してレポートにまとめる。
第7回	漢字と文化	(学修内容) 東アジア文化の特色の一つである漢字について概説します。 (事前事後学修課題の内容) 事前：漢字とは何か。辞書等を使い調べる。 事後：授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第8回	書と文化 中国の書法	(学修内容) 書道の歴史、書体について概説します。 (事前事後学修課題の内容) 事前：書道について調べる。 事後：授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第9回	書と文化 日本の書法	(学修内容) 日本の著名な書家の筆跡を学びます。 (事前事後学修課題の内容) 事前：書道について前回の復習を行い、疑問点を確認しておく。 事後：授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第10回	フィールドワーク黄檗山宝蔵院	(学修内容) 宝蔵院を見学します。 (事前事後学修課題の内容) 事前：漢字博物館を調べる。 事後：発見したことや気づきをまとめる
第11回	フィールドワーク事後学習	(学修内容) 宝蔵院での発見や感想について発表してもらいます。 (事前事後学修課題の内容) 事前：発表内容をまとめる。 事後：発表内容を整理してレポートをまとめる。
第12回	書籍文化について	(学修内容) 書籍文化について歴史的に学びます。 (事前事後学修課題の内容) 事前：出版について、辞書等でまとめて確認する。 事後：授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第13回	本について	(学修内容) 本の成り立ち、本の種類について歴史的に学びます。 (事前事後学修課題の内容) 事前：本の基礎的な知識を調べる。 事後：授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。
第14回	フィールドワーク漢字博物館	(学修内容) 漢字博物館に行きます。 (事前事後学修課題の内容) 事前：フィールドワーク先を調べる。 事後：気づきをまとめる。
第15回	総括	(学修内容) フィールドワークでの発見、感想を発表してもらいます。そして授業全体のふりかえりをを行います。 (事前事後学修課題の内容) 事前学修：これまでの授業内容を振り返り、疑問点を確認しておく。 事後学修：授業の内容を復習し、配付プリントやノートを見直す。

授 業 名	京都体験			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	
英 文 名	Kyoto Experiences			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	工藤 美和子			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	江戸時代後期、京都の名所を描いた『都名所図会』・『拾遺都名所図会』等の文献資料を用いて、事前学習を踏まえ描かれた場所を実際に訪れ、様々な観点から観察・調査等を実施する。学外調査後は、事後学習としてレポートや発表などの課題を通して理解を深める。								
学修成果 到達目標	(1)『都名所図会』等の史料を読解し、京都の歴史や文化への興味・関心を深めることができる。 (2)学外調査を通して京都の今昔を比較し、課題を発見することができる。 (3)発表やレポートを通して、テーマに基づいた調べ方や考えたことを発信していく力を身につけることができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 1時間)								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ■ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 (60%) ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験 ☐ 筆記試験 ■ レポート ☐ 制作物 (40%) ■ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ■ コミュニケーション能力 ■ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ■ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()							
テキスト	使用しない。授業内で資料を配付する。								
参 考 書	・宗政五十緒『都名所図会を読む』(東京堂出版、1997年) ・宗政五十緒・西野由紀『京都名所図会：絵解き案内』(小学館、1997年) ・本渡章『京都名所むかし案内―絵とき「都名所図会」』(創元社、2008年) ・(ホームページ)国際日本文化センター「データベース：図会・人物志」								
課題に対する フィードバック の方法	・提出された課題にはコメントを記して返却する。 ・発表への評価点や改善点などは口頭で伝える。								
留意事項	・学外調査をともなう授業である。事前・事後のグループワークなどには積極的に参加すること。 ・発表に対しては質問や活発な意見交換を望む。 ・学外調査は、天候等や調査場所によっては授業時間外で日程の調整をすることがある。 ・授業の進行の妨げや、他の学生の参加意欲を損なうような行為はしないこと。								
オフィス アワー	研究室前に日時を掲示する。それ以外の時間でも研究室に在室していれば対応する。急ぎの場合は事前に G メールで連絡をとること。								
実践的教育									

授 業 名	京都体験	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の概要を説明する。名所図会とは何かを学ぶ。第3回・4回の発表のためのグループ分けをする。 (事前事後学修課題の内容) (事前) シラバスを確認し授業内容を理解する。(30分) (事後) 予習として、配付した資料を読んでおく。(30分)
第2回	京都の名所図会を読む(1) 円山公園界隈の今昔—文献資料の読解	(学修内容) 円山公園が造られる以前には何があったのか、京都の人々にとってどのような場所だったのかを史料を読解しながら考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 配付資料を読み、分からない事項を調べる。 (事後) 役割分担しテーマや調査項目を考え、発表準備をする。
第3回	京都の名所図会を読む(2) 円山公園界隈の今昔—事前学習発表(Aグループ)	(学修内容) 事前学習のグループ発表を行う(Aグループ)。発表者以外は意見等を述べる。 (事前事後学修課題の内容) (事前) スライド作成し、発表準備をする。(PowerPoint使用) (事後) 発表内容を振りかえり、再点検する。
第4回	京都の名所図会を読む(3) 円山公園界隈の今昔—事前学習発表(Bグループ)	(学修内容) 事前学習のグループ発表を行う(Bグループ)。発表者以外は意見等を述べる。 (事前事後学修課題の内容) (事前) スライドを作成し、発表準備をする。(PowerPoint使用) (事後) 発表内容を振り返り、再点検する。
第5回	第1回学外調査	(学修内容) 事前学習に基づいて、円山公園界隈の学外調査を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (事前) グループごとに学外調査の最終確認をする。 (事後) 発表準備のためのスライド作成をする。(PowerPoint使用)
第6回	第1回学外調査の成果発表(Aグループ)	(学修内容) グループごとに学外調査の成果をスライドを用いて発表する。(PowerPoint使用) 発表者以外は意見等を述べる。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 発表用のスライド作成や発表の役割分担をする。 (事後) 発表後は内容を振り返り、レポート課題を作成し提出する。
第7回	第1回学外調査の成果発表(Bグループ)	(学修内容) グループごとに学外調査の成果をスライドを用いて発表する。(PowerPoint使用) 発表者以外は意見等を述べる。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 発表用のスライド作成や発表の役割分担をする。 (事後) 発表後は内容を振り返り、レポート課題を作成し提出する。
第8回	京都の名所図会を読む(4) 岡崎・蹴上界隈の今昔—文献資料の読解	(学修内容) 岡崎や蹴上界隈の今と昔の様子の違いや、変わらない点は何かについて史料を用いて考える。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 配付資料を読み、分からない事項を調べる。 (事後) 授業後は個人でテーマや調査項目を考え、発表準備をする。
第9回	京都の名所図会を読む(5) 岡崎・蹴上界隈の今昔—事前学習発表(個人)	(学修内容) 史料をもとに事前学習した内容をレジュメに作成し、個人発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 各自テーマに基づいた事項を調べ、レジュメを作成する。 (事後) 発表後は内容を振り返り、整理・修正をする。
第10回	京都の名所図会を読む(6) 岡崎・蹴上界隈の今昔—事前学習発表(個人)	(学修内容) 史料をもとに事前学習した内容をレジュメに作成し、個人発表を行う。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 各自テーマに基づいた事項を調べ、レジュメを作成する。 (事後) 発表後は内容を振り返り、整理・修正をする。
第11回	第2回学外調査	(学修内容) 事前学習に基づいて、第2回目の学外調査を実施する。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 学外調査前に各自調査する内容を確認をする。 (事後) 課題作成のスライドを作成する。(PowerPoint使用)
第12回	第2回学外調査の成果発表(個人発表)	(学修内容) 学外調査の成果をスライドを用いて個人発表をする。(PowerPoint使用) 発表者以外は意見等を述べる。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 発表用のスライドを作成し、発表準備をする。 (事後) 発表を振りかえり、課題レポートを作成し提出する。
第13回	第2回学外調査の成果発表(個人発表)	(学修内容) 学外調査の成果をスライドを用いて個人発表をする。(PowerPoint使用) 発表者以外は意見等を述べる。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 発表用のスライドを作成し、発表準備をする。 (事後) 発表を振りかえり、課題レポートを作成し提出する。
第14回	京都の名所図会を読む(7) 課題設定と調査(個人)	(学修内容) 各自で『都名所図会』『拾遺都名所図会』から調査地を1つ選び、史料を読解し調査したいテーマを考え、調査する。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 調査対象地を設定し、史料を読み分からない事項は調べる。 (事後) 課題(ガイドブック)作成の準備をする。
第15回	京都の名所図会を読む(8) 課題作成(個人)	(学修内容) 各人が選んだ調査地についてテーマを考え、課題(ガイドブック)を作成し提出する。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 課題を作成し点検する。提出の準備をする。 (事後) 課題を提出する。授業全体を振り返る。

授 業 名	女性史	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	科目ガイダンス	(学修内容) 講義の概要と目的 (事前事後学修課題の内容) シラバスを読み、これまでに学んだ女性の歴史について振り返る。
第2回	女性史における課題	(学修内容) 女性史の発展と女性史が取り上げる課題を理解する (事前事後学修課題の内容) 女性史の発展について予習する。授業後女性史研究者の活動をまとめる。
第3回	近世社会と女性	(学修内容) 江戸時代の女性の身分と階層を理解する (事前事後学修課題の内容) 江戸時代の身分制について予習する。授業後女性の身分・階級についてまとめる。
第4回	近世社会と女性：女訓書とは	(学修内容) 女訓書の成立と概要を理解する (事前事後学修課題の内容) 事前に女訓書とは何か調べる。授業後女訓書の概要を復習する。
第5回	近世社会と女性：女訓書を読む	(学修内容) 近世の女訓書を読み記述内容を理解する (事前事後学修課題の内容) 事前に女訓書を読んで疑問点をあげる。授業後女訓書の概要をまとめる。
第6回	近世社会と女性：女訓書にみる女性像	(学修内容) 女訓書に記載されている女性の役割を理解する (事前事後学修課題の内容) 事前に女訓書を読み女性の役割を考える。授業後女訓書に書かれた女性の役割をまとめる。
第7回	近代社会と女性：良妻賢母教育	(学修内容) 近代において女性対して良妻賢母教育が行われたことを理解する (事前事後学修課題の内容) 良妻賢母教育について予習する。授業後近代の男女の教育の差と女子教育の内容をまとめる。
第8回	近代社会と女性：家政書にみる女性像	(学修内容) 近代の家政書を読み女性の役割を理解する (事前事後学修課題の内容) 事前に配付資料を読んで女性の役割を考える。授業後近代に求められた女性の役割について感想を提出する。
第9回	近代社会と女性：明治民法と女性	(学修内容) 明治民法における女性の位置づけを理解する (事前事後学修課題の内容) 明治民法の家族に関する項目を予習する。授業後明治民法と現代の民法の違いをまとめる。
第10回	近代社会と女性：近代の女性観	(学修内容) 近世と近代の女性観の違いを理解する (事前事後学修課題の内容) 事前に資料から女性観の違いについて考える。授業後江戸時代と近代の女性観の違いをまとめる。
第11回	現代社会と女性：戦後から高度経済成長期の女性と教育	(学修内容) 戦後における女性に対する教育について理解する (事前事後学修課題の内容) 戦後の女性政策について予習する。戦後の女性政策によって変化した点を復習する。
第12回	現代社会と女性：戦後から高度経済成長期の女性と労働	(学修内容) 戦後における女性の労働について理解する (事前事後学修課題の内容) 女性が従事していた仕事について予習する。戦後から高度経済成長期の女性の労働状況をまとめる。
第13回	現代社会と女性：女性差別撤廃条約	(学修内容) 女性差別撤廃条約の内容と批准 (事前事後学修課題の内容) 女性差別撤廃条約について予習する。授業後女性差別撤廃条約により変化したことをまとめる。
第14回	現代社会と女性：男女共同参画社会	(学修内容) 男女共同参画社会基本法がめざす社会像を理解する (事前事後学修課題の内容) 男女共同参画社会基本法について予習する。授業後基本法の理念をまとめる。
第15回	現代の課題と今後の展望	(学修内容) 現代の課題と今後の展望について考える (事前事後学修課題の内容) これまでの授業内容を振り返り現代における課題を考える。

授 業 名	マンガ・アニメ・ゲーム文化		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	IC2325
英 文 名	Manga, Anime, and Game Culture		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	小林 翔		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	本授業では、マンガ・アニメ・ゲーム文化について、主に歴史的な観点、産業としての観点、表現についての観点の3つの視点から学んでいきます。 自身とマンガ・アニメ・ゲーム文化との関わり方を意識して考えられるようになることを目標としています。							
学修成果 到達目標	1) マンガ・アニメ・ゲーム文化に対する理解を深める。 2) 自身とマンガ・アニメ・ゲーム文化との関わり方を意識して考えられるようになる。 3) グループワーク、ディスカッション、発表などに主体的に取り組むことができるようになる。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 1時間)							
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用(双方向型授業) ☐ I C T活用(自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (70%) ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	マンガ・アニメ・ゲーム文化	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) 授業の内容、学修成果・到達目標、評価方法などについての説明 (事前事後学修課題の内容) シラバスを読んでおくこと
第2回	アニメ文化その1 アニメーションとはなにか	(学修内容) アニメーションという表現・作品について、具体的な事例を参照しつつその成立について学びます。 (事前事後学修課題の内容) 振り返りレポートの作成
第3回	アニメ文化その2 日本初のアニメーション	(学修内容) 日本におけるアニメーション制作の最初期の事例を具体的な作品を参照しつつ学びます。 (事前事後学修課題の内容) 振り返りレポートの作成
第4回	アニメ文化その3 アニメと手塚治虫	(学修内容) 今日のテレビアニメーション放送の成立について、マンガ家・手塚治虫によるアニメ制作を中心に学びます。 (事前事後学修課題の内容) 振り返りレポートの作成
第5回	アニメ文化その4 アニメブームとオタクの成立	(学修内容) アニメ作品が若者の支持を得て社会現象となる最初期の事例と、それらの消費者としてのオタクの成立について学びます。 (事前事後学修課題の内容) 振り返りレポートの作成
第6回	アニメ文化その5 声優論	(学修内容) 日本のアニメ作品制作に欠くことのできない声優という職業の成立と発展の歴史について学びます。 (事前事後学修課題の内容) 振り返りレポートの作成
第7回	グループ学習1	(学修内容) アニメ文化について、グループでの調べ学習と発表、ディスカッションを行います。 (事前事後学修課題の内容) 発表資料の作成
第8回	マンガ文化その1 マンガとはなにか	(学修内容) マンガという表現・作品について、具体的な事例を参照しつつその成立について学びます。 (事前事後学修課題の内容) 振り返りレポートの作成
第9回	マンガ文化その2 近代マンガ史	(学修内容) 現在主に読まれているマンガが成立する以前のマンガ的な表現・作品の歴史について、具体的な事例を参照しつつ学びます。 (事前事後学修課題の内容) 振り返りレポートの作成
第10回	マンガ文化その3 現代マンガ史	(学修内容) 現在主に読まれているストーリーマンガの成立の発展について、具体的な事例を参照しつつ学びます。 (事前事後学修課題の内容) 振り返りレポートの作成
第11回	マンガ文化その4 マンガ表現論	(学修内容) 現在主に読まれているストーリーマンガについて、読み方・描き方といった表現の観点から学びます。 (事前事後学修課題の内容) 振り返りレポートの作成
第12回	ゲーム文化その1 ビデオゲームの成立	(学修内容) 最初期のビデオゲームの開発と誕生について、メディアやテクノロジーとのかわりという観点から学びます。 (事前事後学修課題の内容) 振り返りレポートの作成
第13回	ゲーム文化その2 ゲームの「攻略」について	(学修内容) ゲームを遊ぶ上で重要な「攻略」という考え方について、その成立と文化的意義について学びます。 (事前事後学修課題の内容) 振り返りレポートの作成
第14回	ゲーム文化その3 ゲームを「見る」という体験	(学修内容) Youtubeなどで流行している「ゲーム配信」について、ゲームを「見る」という体験が持つ意味について学びます。 (事前事後学修課題の内容) 振り返りレポートの作成
第15回	グループ学習2	(学修内容) マンガ文化、ゲーム文化についてグループでの調べ学習と発表、ディスカッションを行います。 (事前事後学修課題の内容) 発表資料の作成

授 業 名	ホスピタリティ	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション ホスピタリティとホスピタリティ産業について	(学修内容) 授業概要とシラバスの内容、授業の進め方説明 ホスピタリティの語源とホスピタリティ産業の構造について (事前事後学修課題の内容) (事前)シラバスの内容確認とサービスとホスピタリティの違いを考える (事後)サイト検索PC操作と提出Form記入方法の確認
第2回	ホスピタリティと日本のおもてなしとの異同性について	(学修内容) リッツカールトンホテルでのホスピタリティ・マインドと和倉温泉の加賀屋のおもてなしマインドの異同性について理解します (事前事後学修課題の内容) (事後)興味のあるホテル・旅館について調べる
第3回	茶の湯をベースにした日本のおもてなしの源流について	(学修内容) 万葉人の宴とカラオケ接待の「おもてなしの暗黙のルール」の相似性について歴史的、理論的に理解します (事前事後学修課題の内容) (事前)茶の湯のおもてなしの資料に目を通してくる (事後)日本のおもてなしの源流を歴史的、理論的に理解する
第4回	ホスピタリティ業界のビジネスモデルの特徴について	(学修内容) サービス・プロフィット・チェーン (SPC) モデルに基づいてホスピタリティ業界の理想的な経営戦略について理解します (事前事後学修課題の内容) (事前)顧客満足と従業員満足との関係をイメージしてくる (事後)SPCモデルについて理解を深める
第5回	サービス・プロフィット・チェーンの事例研究：石川県和倉温泉の加賀屋のケーススタディ	(学修内容) SPCのフレームワークに沿って加賀屋のケースを学習します (事前事後学修課題の内容) (事前)旅館業における顧客満足と従業員満足の関係をイメージしてくる (事後)旅館業におけるSPCの特徴を理解する
第6回	サービス・プロフィット・チェーンの事例研究：旭山動物園のケーススタディ	(学修内容) SPCのフレームワークに沿って旭山動物園のケースを学習します (事前事後学修課題の内容) (事前)動物園の飼育展示係の仕事内容をイメージしてくる (事後)旭山動物園のビジネスモデルの特徴を深く理解する
第7回	サービス・プロフィット・チェーンの事例研究：パーキンソン病患者に特化した老人ホーム「PDハウス」を全国に展開しているサンウェルズのケーススタディ	(学修内容) SPCのフレームワークに沿って介護施設のケースを学習します (事前事後学修課題の内容) (事前)介護施設の従業員エンゲージメントをイメージしてくる (事後)介護施設のビジネスモデルの特徴を深く理解する
第8回	ホスピタリティ業界で活躍できる人材の特徴：新幹線のカリスマ販売員のケーススタディ	(学修内容) 『コギャルだった私が、カリスマ新幹線販売員になった理由』という書物に基づき新幹線カリスマ販売員の技巧を学習します (事前事後学修課題の内容) (事前)新幹線の販売員に必要な能力をイメージしてくる (事後)新幹線カリスマ販売員が工夫している点を整理する
第9回	ホスピタリティ業界で活躍できる人材の特徴：理論的考察	(学修内容) ホスピタリティ業界で活躍している人たちに共通している要因を「非認知的能力」に焦点を合わせて学習します (事前事後学修課題の内容) (事前)顧客と従業員のエンゲージメントの相互作用をイメージしてくる (事後)自分の非認知的能力の強みと弱みについて省察する
第10回	旅行業界の最近の傾向について：マスツーリズムからの差異化戦略についてのケーススタディ	(学修内容) マスツーリズムからの脱却傾向について学習します (事前事後学修課題の内容) (事前)マスツーリズムのメリットとデメリットを考えてくる (事後)オーバーツーリズム現象の問題点について整理する
第11回	旅行業界の最近の傾向について：コミュニティ・ベースト・ツーリズムのケーススタディ	(学修内容) コミュニティ・ベースト・ツーリズム (CBT) の動向について学習します (事前事後学修課題の内容) (事前)観光地の地域コミュニティの発展が必要な理由を考えてくる (事後)CTBの特徴をマス・ツーリズムとの比較で整理する
第12回	旅行業界の最近の傾向について：トランスフォーマティブ・ツーリズムのケーススタディ	(学修内容) 文字通り「自分探しの旅」であると考えられるトランスフォーマティブ・ツーリズム (TRT) の動向について学習する (事前事後学修課題の内容) (事前)TRTとマス・ツーリズムの特徴を比較してくる (事後)TRTが求められる理由を整理する
第13回	ホスピタリティ業界におけるコミュニケーション能力の涵養：ソーシャル・スタイル理論について	(学修内容) お客様のタイプをソーシャル・スタイル理論をベースに知り、その応対を考える (事前事後学修課題の内容) (事前)自分のソーシャル・スタイルを考えてくる (事後)ソーシャル・スタイル理論の4タイプの特徴について整理する
第14回	ホスピタリティ業界におけるコミュニケーション能力の涵養(続)：ソーシャル・スタイル理論に基づいたケーススタディ	(学修内容) 交流分析から来客応対を考える (事前事後学修課題の内容) (事前)友人3名のソーシャル・スタイルを同定する (事後)ソーシャル・スタイル別のコンフォートゾーンを明確にする
第15回	ホスピタリティ・マネジメント まとめ(レポート説明)	(学修内容) トランスフォーマティブ・ホスピタリティ・サービス (THS) 概念を紹介する。また、最終レポートの書き方を説明します。 (事前事後学修課題の内容) (事前)TRSとマス・ツーリズムの特徴を比較してくる (事後)関心のあるホスピタリティ企業の研究レポートの構成を考える

授 業 名	平和を考える		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名	Peace Studies		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	新矢 昌昭		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	この講義では、平和について戦争を通して考えていきます。近・現代社会における戦争は、国際関係の暴力的な縮図と言えるでしょう。そしてその上に平和があると言ってもいいでしょう。平和と戦争について近・現代社会との関係について考えていきます。特に、「総力戦」「メディア」をキーワードとして考えていきます。							
学修成果 到達目標	1) 戦争について考えることができる 2) 平和を考えることができる 3) 「わたし」自身はどうするかを考えることができる							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解	○	汎用的技能				
		態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (80%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 (20%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()						
テキスト	使用しない。プリントを配布							
参 考 書								
課題に対する フィードバック の方法	適宜コメントを加える							
留意事項	わからないところは、講義後に聞くこと。学外授業については、先方と調整するので、前後の回数がずれる場合がある。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する							
実践的教育								

授 業 名	平和を考える	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義はどのようなことをするのか (事前事後学修課題の内容) 予め配布するプリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第2回	暴力と戦争	(学修内容) 暴力と戦争はどのように違うのか (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第3回	前近代の戦争 その1	(学修内容) 前近代の戦争の特徴 (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第4回	前近代の戦争 その2	(学修内容) 前近代の戦争技術 (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第5回	前近代の平和	(学修内容) 平和条約、和睦 (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第6回	近代国家と戦争	(学修内容) 近代国家の戦争の特徴 (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第7回	近代国家と国民	(学修内容) 戦争と工業、徴兵制 (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第8回	総力戦の時代	(学修内容) 総力戦とは何か (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第9回	第一次世界大戦	(学修内容) 第一次世界大戦の特徴 (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第10回	第二次世界大戦	(学修内容) 第二次世界大戦の特徴 (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第11回	国際連盟と国際連合	(学修内容) 平和としての機能 (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第12回	事前学習	(学修内容) 博物館への学習についての事前発表 (事前事後学修課題の内容) レジュメを用意する
第13回	学外学習	(学修内容) 博物館見学 (事前事後学修課題の内容) 各自のテーマについて調べる
第14回	事後学習	(学修内容) 事後発表 (事前事後学修課題の内容) レジュメを用意する
第15回	平和は可能か	(学修内容) 平和はどのようにすれば、実現できるのか (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する

授 業 名	現代の人権		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名	Human Rights in the Modern World		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	新矢 昌昭		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	一般に、人権とは、誰もが生まれながらにもっている自分らしく幸せに生きる権利とされています。そして、人権は基本的人権として憲法に掲げられています。にもかかわらず、差別・偏見は一向にありません。それは何故なのでしょう？ この講義では、わたしたちの身近にある、外国人、ホームレス、性など、さまざまな差別・偏見について考えていきます。また、この講義の目標として、こうした差別・偏見が「わたし」の心の中にあるかもしれないことを自覚していきます。そのための一環として、グループによる発表・討論を取り入れる予定です。							
学修成果 到達目標	1) 人権を理解できる 2) 人権を自身の問題として捉えることができる 3) 人権の可能性について捉えることができる							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
		態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ■ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (80%) ■ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 (20%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ■ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ■ コミュニケーション能力 ■ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()						
テキスト	使用しない。プリントを配布する							
参 考 書								
課題に対する フィードバック の方法	適宜コメントを加える							
留意事項	残酷な映像や写真を見るので、苦手な方は受講をすすめません。わからないところは、講義後に聞くこと。学外授業は、先方と調整するので、前後の回数がずれる場合がある。							
オフィス アワー	研究室の扉に掲示する							
実践的教育								

授 業 名	現代の人権	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義はどのようなことをするのか (事前事後学修課題の内容) 予め配布したデータを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第2回	ちがいのちがいの	(学修内容) 思い込みをみつめる (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第3回	人権とは何か	(学修内容) 人権の基礎的理解 (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第4回	人権に対する疑い	(学修内容) 人権への疑いを通して人権を考える (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第5回	偏見	(学修内容) 偏見はどのように生まれるのか (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第6回	差別	(学修内容) 差別はどのように生まれるのか (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第7回	ホームレス	(学修内容) ホームレス問題の理解 (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第8回	事前発表	(学修内容) 人権に関する博物館の事前発表 (事前事後学修課題の内容) レジューメを用意しておく
第9回	学外授業	(学修内容) 当該博物館の見学 (事前事後学修課題の内容) 事後発表に向けた各自のテーマを調べる
第10回	事後発表	(学修内容) 人後に関する博物館の事前発表 (事前事後学修課題の内容) レジューメを用意しておく
第11回	性差	(学修内容) 男女差別についてかんがえる (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第12回	ダイバーシティ	(学修内容) 多様性の理解 (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第13回	人権を考えるための発表 その1	(学修内容) 各自が取り挙げたテーマについての発表 (事前事後学修課題の内容) レジューメを用意しておく
第14回	人権を考えるための発表 その2	(学修内容) 各自が取り挙げたテーマについての発表 (事前事後学修課題の内容) レジューメを用意しておく
第15回	人権の可能性	(学修内容) 人権の今後を考える (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する

授 業 名	現代社会を考える		開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1203
英 文 名	Contemporary Society		開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	新矢 昌昭		対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	社会学を通して考えると、さまざまな社会に起こっている現象はどのように見えてくるのだろうか。この講義では、わたしたちの身近なできごとから現代社会の特徴を考えるとともに、わたしたちがいかに社会に左右される存在なのか、について考えていく。主として、現代社会における家族を見て行くが、現代社会に対する複眼的な目を養って欲しい。							
学修成果 到達目標	1) 現代社会を理解できる 2) 複眼的な視野を養える 3) 社会と人間の関係を考えられる							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
		態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ■ ディスカッション・ディベート ■ グループワーク ■ プレゼンテーション ■ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (80%) ■ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 (20%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ■ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ■ コミュニケーション能力 ■ プレゼンテーション能力 ■ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ (						

授 業 名	現代社会を考える	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義の進め方 (事前事後学修課題の内容) 事前に配布したプリントを読み、まとめておく。自己にとっての社会問題をまとめる。
第2回	近代家族の誕生ー西欧	(学修内容) 近代家族の誕生ー西欧 (事前事後学修課題の内容) 配布資料を読み、まとめておく。近代社会とは何かについて、調べまとめておく。
第3回	近代家族の誕生ー日本	(学修内容) 日本の家族史 (事前事後学修課題の内容) 配布資料を読み、まとめておく。日本の近代社会とは何かについて、調べまとめておく。
第4回	現代家族の行方	(学修内容) 現代家族の特徴、家族の未来 (事前事後学修課題の内容) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第5回	恋愛結婚	(学修内容) 現代社会における貧困問題について (事前事後学修課題の内容) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第6回	ジェンダー	(学修内容) 現代社会とジェンダー (事前事後学修課題の内容) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第7回	「見えない貧困」	(学修内容) 現代社会における貧困問題について (事前事後学修課題の内容) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第8回	若者論	(学修内容) 現代社会における若者の生きづらさ (事前事後学修課題の内容) 配布する新聞記事を読み、考えをまとめておく
第9回	グループワーク	(学修内容) 若者論を疑う (事前事後学修課題の内容) グループワークで使用するプリントを予め読んでおくこと
第10回	「わたし」とは何か	(学修内容) アイデンティティの確立は可能か (事前事後学修課題の内容) 自らの「わたし」像についてまとめておく。
第11回	「世間」とは何か	(学修内容) 日本は社会ではなく、「世間」ではないのか (事前事後学修課題の内容) 配布資料を読み、考えをまとめておく
第12回	「空気」とは何か	(学修内容) 「空気」に敏感なわたしたち (事前事後学修課題の内容) 配布資料を読み、考えをまとめておく
第13回	閉塞感を感じる社会	(学修内容) 何故、わたしたちは閉塞感を感じてしまうのか (事前事後学修課題の内容) 配布資料を読み、考えをまとめておく
第14回	実施見学	(学修内容) 授業で関連する博物館などの見学 (事前事後学修課題の内容) 講義で関連する博物館などを見学する。行先は、講義中で決める。その博物館などの施設についてレジュメを作成しておくこと
第15回	事後報告	(学修内容) 前回のレジュメ発表 (事前事後学修課題の内容) 博物館などの施設見学について感想文の提出

授 業 名	メディアコンテンツ		開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	
英 文 名	Media Contents		開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	積 高之		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	メディアコンテンツ制作に必要な基礎知識と実践力を身につけることを目的とする科目である。ポスターなどの静的なビジュアル制作から動画の企画・撮影・編集まで、幅広いメディア表現を体験しながら、アイデア発想や構成員、技術的なスキルを総合的に磨く。グループワークを通じて制作プロセスを学び、他者との意見交換やフィードバックを積極的に行うことで、創造力とコミュニケーション能力の向上を図る。							
学修成果 到達目標	1. グラフィックデザインや映像制作など、メディアコンテンツを構成する基本的な要素と手法を理解し、実際の作品制作に応用できるようになる。 2. テーマ設定やストーリーボード、デザイン案作成を通じて、コンテンツ制作の企画プロセスを体得する。論理的かつ創造的にアイデアをまとめ、作品の方向性を明確に打ち出せるようになる。 3. 画像編集ソフトや動画編集ソフトなどの基本操作を学び、撮影・編集などの工程で必要となる技術を獲得する。用途や目的に応じて機材やソフトを使いこなし、作品のクオリティを高める。 4. グループ制作を通じ、他者とのコミュニケーションや役割分担を経験し、相互にフィードバックし合いながら作品を磨き上げる力を身につける。 5. 制作物をプレゼンテーションし、作品の意図や制作プロセスを分かりやすく伝えられるようになる。さらに、授業後の振り返りを通じて学びや今後の課題を明確にし、次のステップへつなげる。"							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 1 時間 3 0 分)							
学 位 授 与 の 方針との関連	☐	知識・理解		汎用的技能				
	☐	態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (60%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 							

授 業 名	メディアコンテンツ	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業概要と目標の確認、受講生同士の交流と作品制作の流れ説明 (事前事後学修課題の内容) 事前:シラバスを読んで気になるテーマを考える 事後:本授業のテーマや質問事項をまとめる
第2回	メディアコンテンツ論概論	(学修内容) メディアコンテンツの種類と特徴、近年のトレンドや事例紹介 (事前事後学修課題の内容) 事前:興味のあるメディアコンテンツを1つ調べる 事後:調べた事例のポイントをA4一枚でまとめる
第3回	アイデア発想と企画立案	(学修内容)ブレインストーミングの方法、コンテンツ制作の企画プロセス (事前事後学修課題の内容) 事前:過去の優れたコンテンツ企画書を確認する 事後:自分のコンテンツアイデアを簡単に書き出す
第4回	ポスター制作の基礎	(学修内容)レイアウト デザイン要素、タイポグラフィの基礎 演習の進め方 (事前事後学修課題の内容) 事前:参考になるポスターデザインを3つ探す 事後:良いデザインの共通点を整理して次回発表に備える
第5回	デザインソフト演習	(学修内容)画像編集ソフトやイラスト制作ソフトの基本操作、簡単な演習 (事前事後学修課題の内容) 事前:インストールや使い方動画を視聴 事後:授業で学んだ機能を使いサンプル作成
第6回	ポスター制作ワークショップ	(学修内容)テーマに沿ったポスター案の制作、グループで相互フィードバック (事前事後学修課題の内容) 事前:作りたいポスターのテーマ設定と資料集め 事後:授業で指摘された点をブラッシュアップ
第7回	中間発表(ポスター展示とプレゼン)	(学修内容)ポスターの完成発表、デザインや構成に関する意見交換 (事前事後学修課題の内容) 事前:発表で使う資料を準備 事後:フィードバックをもとに最終仕上げを行う
第8回	動画制作の基礎	(学修内容)映像表現の基本構成、シナリオとカット割りの基礎 (事前事後学修課題の内容) 事前:好きな動画作品を1つ見て構成を分析 事後:自分なりに構成メモを作成
第9回	ストーリーボードと撮影計画	(学修内容)ストーリーボード作成方法、撮影スケジュールの立て方 (事前事後学修課題の内容) 事前:簡単なストーリーボード案を作る 事後:グループ内で案を交換しアイデアを膨らませる
第10回	撮影技術の演習	(学修内容)カメラや照明 マイクの基本操作、シーン別の撮影手法 (事前事後学修課題の内容) 事前:身近なシーンを短い動画で撮影してみる 事後:撮った動画を振り返り問題点を洗い出す
第11回	編集ソフト演習	(学修内容)動画編集ソフトの基本操作、テロップ BGMの入れ方など (事前事後学修課題の内容) 事前:編集ソフトのチュートリアルを視聴 事後:短いクリップを編集してみる
第12回	グループ制作と編集作業	(学修内容)実際の動画制作(グループワーク)、撮影素材の整理と編集の流れ (事前事後学修課題の内容) 事前:必要な小道具や撮影場所などを手配 事後:各担当が撮影した映像を編集ソフトに取り込む
第13回	映像表現の最終調整	(学修内容)ナレーションや効果音の追加、色調整など仕上げの演習 (事前事後学修課題の内容) 事前:ナレーション原稿や効果音素材を準備 事後:グループで完成版を試写し細部を修正
第14回	最終プレゼン(動画上映会)	(学修内容)完成動画の発表と相互評価、製作プロセスの振り返り (事前事後学修課題の内容) 事前:発表用のスライドや話す内容をまとめる 事後:他グループの映像を視聴して感想を記入
第15回	まとめと振り返り	(学修内容)全体の講評と反省点の共有、今後の応用や発展の可能性90 (事前事後学修課題の内容) 事前:各自学んだことをレポートで整理 事後:最終レポートまたはアンケートを提出

授 業 名	社会的包摂		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名	Social Inclusion		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	新矢 昌昭		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	この講義では、社会的包摂とは何かについて、対局概念である社会的排除の視点から考えていきます。社会的包摂は、多様な社会の中で、誰一人たりとも社会の一員として認めることだと言えます。しかし、人々の中には排除されている人々が多くいます。例えば、ホームレス、貧困状態、性、民族などによってです。この講義では、様々な問題点を考えながら、社会的包摂の可能性について考えていきます。							
学修成果 到達目標	1) 社会的包摂を理解できる 2) 社会的排除を理解できる 3) 社会的包摂の可能性について考えることができる							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解		汎用的技能				
		態度・志向性		総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (80%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 (20%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()						
テキスト	使用しない。プリントを配布							
参 考 書								
課題に対する フィードバック の方法	発表や考えについてコメントを述べる							
留意事項	わからないところは、講義後に聞くこと。フィールドワークは、先方と調整するので、前後の回数がずれる場合がある。							
オフィス アワー	研究室の扉に貼付							
実践的教育								

授 業 名	社会的包摂	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	ガイダンス	(学修内容) この講義はどのようなことをするのか (事前事後学修課題の内容) 予め配布したデータを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第2回	社会的包摂とは何か	(学修内容) 概念の理解 (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第3回	社会的排除とは何か	(学修内容) 概念の理解 (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第4回	社会的排除とホームレス問題	(学修内容) ホームレス問題とは何か (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第5回	社会的排除と貧困問題 その1	(学修内容) 貧困問題とは何か (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第6回	社会的排除と貧困問題 その2	(学修内容) 貧困問題の現状 (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第7回	社会的排除と民族問題	(学修内容) 民族問題とは何か (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第8回	社会的排除と性	(学修内容) 様々な性の理解 (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第9回	社会的排除と暴力	(学修内容) 社会的排除と暴力の関係について (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第10回	事前発表	(学修内容) フィールドワーク先についての事前発表 (事前事後学修課題の内容) 各自が設定したテーマについてのレジメの用意
第11回	フィールドワーク	(学修内容) フィールドワークでの調査 (事前事後学修課題の内容) 各自が設定したテーマを中心に学習する
第12回	事後発表	(学修内容) フィールドワーク先についての事後発表 (事前事後学修課題の内容) フィールドワークかた学んだ各自が設定したテーマについてのレジメの用意
第13回	本質主義	(学修内容) 本質主義とは何か (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第14回	社会的排除、包摂、後期近代	(学修内容) 現代社会での社会的排除、包摂の関連性 (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する
第15回	社会的包摂は可能か	(学修内容) 社会的包摂の可能性について (事前事後学修課題の内容) 配布プリントを読み、要点をまとめる。講義のまとめと疑問点を整理する

授 業 名	やさしい日本語			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	
英 文 名	Plain Japanese			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	松尾 章子			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	日本に住む外国人が増え、2023年の統計では在留外国人数が過去最高の195カ国322万人となっています。日本に3か月以上滞在する彼らと交流するときに「やさしい日本語」の使用が有効とされています。では、「やさしい日本語」とはどのようなものでしょうか。私たちが使用する日本語とどのように異なるのでしょうか。この授業では、「やさしい日本語」誕生の歴史や「やさしい日本語」の作り方、どのような人々に使用することができるかなどを学びます。								
学修成果 到達目標	1)「やさしい日本語」とは何かを説明できる。 2)「やさしい日本語」変換へのルールを説明できる。 3)「やさしい日本語」を心がけて使用することができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 1 時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
		態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	やさしい日本語	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション バーンガ体験	(学修内容) 授業の進め方の説明、バーンガ体験、自己紹介 (事前事後学修課題の内容) 事前：シラバスを読み、テキストに目を通す 事後：授業内容を振り返り、まとめて提出する
第2回	第1章：やさしい日本語とは	(学修内容) やさしい日本語とは何か、やさしい日本語誕生の歴史 (事前事後学修課題の内容) 事前：第1章を読み、質問事項をまとめる 事後：授業内容を振り返り、まとめて提出する
第3回	第2章：外国語としての日本語	(学修内容) 母語、母国語、公用語、第二言語とは何か (事前事後学修課題の内容) 事前：第2章を読み、質問事項をまとめる 事後：授業内容を振り返り、まとめて提出する
第4回	第3章：柳川やさしい日本語ツーリズムの誕生	(学修内容) やさしい日本語を使ってできること (事前事後学修課題の内容) 事前：第3章を読み、質問事項をまとめる 事後：授業内容を振り返り、まとめて提出する
第5回	第4章：コツ 文の「構造」をかんたんに	(学修内容) 文の構造とツール活用 (事前事後学修課題の内容) 事前：第4章を読み、質問事項をまとめる 事後：授業内容を振り返り、まとめて提出する
第6回	第5章：コツ ワセダ式ハサミの法則	(学修内容) ルールを学んでやさしい日本語に書き換え (事前事後学修課題の内容) 事前：第5章を読み、質問事項をまとめる 事後：授業内容を振り返り、まとめて提出する
第7回	第6章：AI翻訳活用術	(学修内容) 様々なツールと使用時の問題点 (事前事後学修課題の内容) 事前：第6章を読み、質問事項をまとめる 事後：授業内容を振り返り、まとめて提出する
第8回	第7章：練習してみよう	(学修内容) やさしい日本語書き換えの練習 (事前事後学修課題の内容) 事前：第7章を読み、質問事項をまとめる 事後：授業内容を振り返り、まとめて提出する
第9回	第8章：外国語学習への応用	(学修内容) やさしい日本語に整えるとは、外国語の文字 (事前事後学修課題の内容) 事前：第8章を読み、質問事項をまとめる 事後：授業内容を振り返り、まとめて提出する
第10回	第9章：日本人にも必要なやさしい日本語	(学修内容) 日本人とは、やさしい日本語を必要とする日本人とは (事前事後学修課題の内容) 事前：第9章を読み、質問事項をまとめる 事後：授業内容を振り返り、まとめて提出する
第11回	第10章：「第三者返答」～「言語」より大きい 「態度」の問題～	(学修内容) 第三者返答とは何か (事前事後学修課題の内容) 事前：第10章を読み、質問事項をまとめる 事後：授業内容を振り返り、まとめて提出する
第12回	第11章：みんなで「やさしいせかい」をつくろう	(学修内容) やさしい日本語の広がり (事前事後学修課題の内容) 事前：第11章を読み、質問事項をまとめる 事後：授業内容を振り返り、まとめて提出する
第13回	ゲストスピーカー（調整により、内容・日時に変更有）	(学修内容) やさしい日本語に関する活動をしているゲストスピーカーの話を聞く (事前事後学修課題の内容) 事前：これまでの授業内容を振り返り、質問する内容を考える 事後：授業内容を振り返り、まとめて提出する
第14回	やさしい日本語によるプレゼンテーション（調整により、日程に変更有）	(学修内容) やさしい日本語を使用したプレゼンテーション（受講人数により、発表形態を調整する） (事前事後学修課題の内容) 事前：プレゼン用資料を作成する 事後：自身の発表を振り返り、まとめて提出する
第15回	総復習	(学修内容) プレゼンテーションの振り返りと授業内容の総復習 (事前事後学修課題の内容) 事前：これまでの授業内容を振り返り、質問する内容を考える 事後：授業内容を振り返り、レポート試験に向けて準備する

授 業 名	国際理解			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	IC2327
英 文 名	International Understanding			開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	秋山 裕之			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	グローバル化の進む現在、世界全体が一つのシステムに統合されつつあるように見える局面がある。しかし、今なお国家、あるいは近隣国家群（地域）において、それぞれの風土、歴史、民族、宗教、文化などに由来する独自性が息づいている。本講義ではそれらを地域別に概観し、世界の多様性に関する知識を得て、諸外国に対する理解を深めることを目的とする。 とくに植民地時代の宗主国の影響に焦点を当てる。 学期の終盤でグループワークによるプレゼンテーションを行う。								
学修成果 到達目標	1) 世界の諸国・諸地域の現状について、歴史的な経緯を含めた教養を身につける。 2) 様々な事柄について、国際的な視野のもとで考えることができる。 3) 調べ学習を通して、世界の多様性についての理解を深めることができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （ 1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間 ）								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用（双方向型授業） ☐ I C T 活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験 （ 50% ） ■筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	国際理解	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション：知識の確認	(学修内容)世界の国々に関するクイズ (事前事後学修課題の内容) 事前：シラバスをしっかりと読んでくる 事後：クイズの復習
第2回	国とは	(学修内容)国の定義、国境、民族、言語などの関係 (事前事後学修課題の内容) 事前：キーワード予習<国家> 事後：復習して分からないところを質問する
第3回	東アジア	(学修内容)東アジアの近現代、台湾情勢 (事前事後学修課題の内容) 事前：キーワード予習<漢字文化圏><台湾> 事後：復習して分からないところを質問する
第4回	東南アジア	(学修内容)東南アジアの近現代 (事前事後学修課題の内容) 事前：キーワード予習<ASEAN> 事後：復習して分からないところを質問する
第5回	オセアニア	(学修内容)オセアニアの歴史と現在 (事前事後学修課題の内容) 事前：キーワード予習<ポリネシア><ミクロネシア><メラネシア> 事後：復習して分からないところを質問する
第6回	インド・イスラム	(学修内容)インドとイスラムを取り巻く国際情勢 (事前事後学修課題の内容) 事前：キーワード予習<イスラム教><インド・パキスタン関係> 事後：復習して分からないところを質問する
第7回	サハラ以南アフリカ	(学修内容)アフリカの歴史と現在 (事前事後学修課題の内容) 事前：キーワード予習<アフリカ分割><奴隷貿易> 事後：復習して分からないところを質問する
第8回	中南米	(学修内容)中南米の近現代 (事前事後学修課題の内容) 事前：キーワード予習<ラテンアメリカ><インカ帝国> 事後：復習して分からないところを質問する
第9回	北米	(学修内容)アメリカの成り立ち (事前事後学修課題の内容) 事前：キーワード予習<アメリカ独立戦争><南北戦争> 事後：復習して分からないところを質問する
第10回	ヨーロッパ(1)	(学修内容)ヨーロッパの国々の概要 (事前事後学修課題の内容) 事前：キーワード予習<北欧><旧東欧> 事後：復習して分からないところを質問する
第11回	ヨーロッパ(2)	(学修内容)冷戦後のヨーロッパ情勢 (事前事後学修課題の内容) 事前：キーワード予習<NATO><EU> 事後：復習して分からないところを質問する
第12回	戦争・紛争	(学修内容)人類と戦争、その歴史と現在 (事前事後学修課題の内容) 事前：キーワード予習<戦争><紛争> 事後：復習して分からないところを質問する
第13回	世界のことについて調べ学習	(学修内容)グループに分かれて国際的な多様性を知るための調べ学習を行う。グループのテーマ決定、役割分担、下調べなど。 (事前事後学修課題の内容) 事前：調べ学習のテーマをいくつか考えてくる 事後：スライド作成を進める
第14回	復習テスト	(学修内容)これまでの授業で取り上げた事柄をクイズ形式で出題、その解答と解説 (事前事後学修課題の内容) 事前：これまでの総復習 事後：間違えたところをしっかりと復習する
第15回	発表「多様な世界」	(学修内容)グループワークの成果をパワーポイントを用いて発表 (事前事後学修課題の内容) 事前：発表用の資料を完成させ、発表の準備をする 事後：他の発表も合わせて復習する

授 業 名	多文化交流体験			開講 学年	2回生	単位数	1単位	科目 コード	IC2433
英 文 名	Multicultural Exchange Experience			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	松尾 章子			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	変化の激しい現代社会を理解するには、基礎的・専門的な知識を身につけるだけでなく、それらを活用し応用する能力が必要となる。グローバル化の進む現在、様々な背景や文化を持つ人々と円滑にコミュニケーションをとるスキルが求められ、異文化に対する理解や協調性・柔軟性が不可欠となるため、多文化交流を体験し現代社会で必要とされるスキルを身につける。								
学修成果 到達目標	1)「やさしい日本語」を意識して話すことができる。 2)文化的背景が異なる人と交流し、話を続けることができる。 3)世界の異なる文化を3つ紹介することができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1回の授業の事前・事後学修時間の計 1時間)								
学 位 授 与 の 方針との関連	○	知識・理解			○	汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用(双方向型授業) ☐ I C T活用(自主学習支援)								
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	多文化交流体験	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション 異文化、多文化とは	(学修内容)「異文化」「多文化」の言葉の違い、交流内容について説明 (事前事後学修課題の内容) 事前:「異文化」「多文化」をキーワードに、いろいろ調べてみる 事後:授業内容を振り返り、まとめて提出する
第2回	「やさしい日本語」	(学修内容)「やさしい日本語」の練習 (事前事後学修課題の内容) 事前:「やさしい日本語」とは何か調べる 事後:「やさしい日本語」の書き換え練習をする
第3回	交流準備 コミュニケーション	(学修内容)コミュニケーションスタイルや異文化コミュニケーションについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前:「コミュニケーション」をキーワードにいろいろと調べる 事後:授業内容を振り返り、まとめて提出する
第4回	多文化交流 (調整により、日程変更の可能性有)	(学修内容)多文化交流体験 (事前事後学修課題の内容) 事前:交流相手と話す・行う事柄について準備する 事後:交流についての意見・感想を書いて提出する
第5回	交流振り返り 交流後の意見・感想の共有(交流実施日より、日程変更の可能性有)	(学修内容)交流体験(特にコミュニケーション)について共有し考える。 (事前事後学修課題の内容) 事前:交流を振り返り、授業での共有内容を検討する 事後:授業内で話し合った内容を反芻しまとめて提出する
第6回	世界の文化(調べる)	(学修内容)世界の異なる文化について調べる (事前事後学修課題の内容) 事前:「世界の文化」をキーワードにいろいろと調べる 事後:授業内容を振り返り、まとめて提出する
第7回	世界の文化(プレゼン準備)	(学修内容)発表する内容をまとめ、資料を作成する (事前事後学修課題の内容) 事前:発表する内容を調べて決めておく 事後:発表内容をまとめて資料を作成する
第8回	交流準備 アイデンティティ	(学修内容)移動する人々と国籍、アイデンティティについて学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前:「アイデンティティ」をキーワードにいろいろと調べる 事後:授業内容を振り返り、まとめて提出する
第9回	多文化交流 (調整により、日程変更の可能性有)	(学修内容)多文化交流体験 (事前事後学修課題の内容) 事前:交流相手と話す・行う事柄について準備する 事後:交流についての意見・感想を書いて提出する
第10回	交流振り返り 交流後の意見・感想の共有(交流実施日より、日程変更の可能性有)	(学修内容)交流体験(特にアイデンティティ)について共有し考える (事前事後学修課題の内容) 事前:交流を振り返り、授業での共有内容を検討する 事後:授業内で話し合った内容を反芻しまとめて提出する
第11回	世界の文化(プレゼンテーション)	(学修内容)世界の文化について発表 (事前事後学修課題の内容) 事前:発表の準備・練習をする 事後:発表の振り返りを書き、資料を修正して提出する
第12回	交流準備 現代のイミグレーション政策	(学修内容)日本のイミグレーション政策について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 事前:「イミグレーション政策」をキーワードにいろいろと調べる 事後:授業内容を振り返り、まとめて提出する
第13回	多文化交流 (調整により、日程変更の可能性有)	(学修内容)多文化交流体験 (事前事後学修課題の内容) 事前:交流相手と話す・行う事柄について準備する 事後:交流についての意見・感想を書いて提出する
第14回	交流振り返り 交流後の意見・感想の共有(交流実施日より、日程変更の可能性有)	(学修内容)交流体験(特に在住資格)について共有し考える (事前事後学修課題の内容) 事前:交流を振り返り、授業での共有内容を検討する 事後:授業内で話し合った内容を反芻しまとめて提出する
第15回	まとめ	(学修内容)総復習を行い、今後の多文化交流について考える (事前事後学修課題の内容) 事前:授業で学んだ内容を見直す 事後:レポート試験提出に向けて準備する

授 業 名	ジェンダー論			開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名	Gender Studies			開講 時期	秋学期		必修 選択	選択	
担 当 者	上田 有里奈			対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	「女性である」「男性である」ということは、あまりに当たり前すぎて日常的に意識化されないことが多い。しかし、人は生まれた瞬間から女性または男性いずれかのカテゴリーに入れられ、文化的・社会的にふさわしい行動が期待される。本講義ではまず、どのような過程を経て、女性、男性になっていくのかを「社会化」という視点からとらえ、「ジェンダー（文化的・社会的性差）」を相対化することを試みる。そして、ジェンダーは現実の生活の中でどのような課題を含んでいるのかを探っていく。								
学修成果 到達目標	1）ジェンダーとは何かについて理解することができる。 2）現代社会におけるジェンダー差の課題について理解することができる。 3）ジェンダーの課題について、自分事として捉え、考えることができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）								
学 位 授 与 の 方 針 と の 関 連	○	知識・理解				汎用的技能			
	○	態度・志向性			○	総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☒ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T活用（双方向型授業） ☐ I C T活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験（70%） ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				平常試験（30%） ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 ☒ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☒ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☒ 課題発見・解決能力 ☒ 授業態度・参加意欲 ☐ () ☐ ()							
テキスト	テーマに応じて資料を適時、配布します。								
参 考 書	『初めて学ぶジェンダー論』伊田広行 著（大月書店）、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子ほか編著（ミネルヴァ書房）、『未来をひらく男女共同参画 - ジェンダーの視点から』西岡正子編（ミネルヴァ書房）、『働く女子の運命』濱口桂一郎（文春新書）、『炎上CMでよみとくジェンダー論』瀬地山角（光文社新書）、『「男女格差後進国」の衝撃―無意識のジェンダー・バイアスを克服する―』治部れんげ(小学館新書)ほか、随時紹介する。								
課題に対する フィードバック の方法	フィードバックとして、リアクションペーパーに対してコメントをします。								
留意事項	ジェンダーについて、遠くの誰かの問題ではなく、自分自身の問題として考えてください。グループディスカッションを行う予定です。受講者は授業への積極的な参加が求められます。また授業計画について、実際に授業を進めていくなかで、進度や内容に多少の変更が生じる可能性があります。								
オフィス アワー	毎週1回オフィスアワーを設けます。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください。								
実践的教育									

授 業 名	ジェンダー論	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション セックスとジェンダーの違い	(学修内容) 今後の授業スケジュールについて説明する。 セックスとジェンダーの概念について理解する。 (事前事後学修課題の内容) シラバスを読み、授業計画の全体像を把握しておく。
第2回	「らしさ」とは何か	(学修内容) 社会的・文化的に作られる「女らしさ/男らしさ」について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 「女/男らしさ」と聞いて思い浮かべるイメージを挙げ、それがどのような経験や影響(家庭や学校など)によって形成されたかを考える。
第3回	作られる「女らしさ」「男らしさ」	(学修内容) メディアや学校教育などがジェンダーに与える影響について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 自分が普段接しているメディアや小中高時代の学校教育のなかで、「女/男らしさ」を意識させられた経験がないかを考える。
第4回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラムとは	(学修内容) 自分の経験をもとに、隠れたカリキュラムの実態について考える。 (事前事後学修課題の内容) 学校現場において「女/男らしさ」を意識させられた経験がないか考える(例：制服、クラス内での役割分担、先生の発言、学習教材など)。
第5回	教育とジェンダー：ジェンダー平等の視点に立った教育のために	(学修内容) 教育現場におけるジェンダー格差の歴史を学び、ジェンダー平等の視点に立った教育のために何が必要かを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 学校のカリキュラム、教科書、制服、部活動などにおけるジェンダーバイアスを減らすための具体的な取り組みを考える。
第6回	「お姫様」とジェンダー(初期作品の映像分析)	(学修内容) 「お姫様」を扱った物語の映像を視聴・分析し、気になった点をレポートにまとめる(1回目) (事前事後学修課題の内容) 「お姫様」のイメージを自由に想像し、そのイメージはどこから影響を受けていると思うかを具体的に考える。
第7回	「お姫様」とジェンダー(現代作品の映像分析)	(学修内容) 「お姫様」を扱った物語の映像を視聴・分析し、気になった点をレポートにまとめる(2回目) (事前事後学修課題の内容) 伝統的な作品と現代の作品との比較分析を行う。
第8回	「お姫様」とジェンダー(映像分析結果と議論)	(学修内容) 第6回目と第7回目でまとめたレポート内容について、グループで具体的な気付きについて共有・議論する。 (事前事後学修課題の内容) グループでの話し合いのなかから生じた気付きや新たな課題等について、まとめる。
第9回	デートDV・性犯罪とジェンダー	(学修内容) ジェンダーと性犯罪の関連について考える。デートDVのメカニズムについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) 「デートDV」という言葉を聞いて思い浮かぶイメージや、「性犯罪」についてどのような加害者・被害者像を持っているかを考える。
第10回	家庭生活におけるジェンダー格差	(学修内容) 家庭生活におけるジェンダー格差の実態や背景について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 家族の中で誰がどのような家事を担当しているか、その分担はどのように決められ、その分担に対して感じることを考える。
第11回	就労とジェンダー	(学修内容) 就労環境におけるジェンダー格差の実態や背景について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 就業環境におけるジェンダー格差の解消のために何が必要かを考える。
第12回	ジェンダーの視点からみた子育ての課題	(学修内容) ジェンダーの視点から、日本社会の子育ての課題について理解する。 (事前事後学修課題の内容) ジェンダーの視点からみた日本社会の子育ての課題や、企業・政府・家庭各レベルで育児負担を公平にするための具体策について考える。
第13回	長時間労働と男性の生きづらさ	(学修内容) 女性だけではなく男性の生きづらさについて理解する。 (事前事後学修課題の内容) 「男性の生きづらさ」と聞いて思い浮かぶイメージや具体的な事例を考える。
第14回	真の男女平等とは	(学修内容) 男女双方の生きづらさを学び、真の平等政策とは何かを理解する。 (事前事後学修課題の内容) 男女それぞれにどのような生きづらさがあるか、それは社会のどのような価値観や制度によって生じているのかについて考える。
第15回	多様な性をめぐる課題	(学修内容) 男性・女性を越境する多様な性を生きる人たちが直面している課題について理解する。 (事前事後学修課題の内容) 誰もが生きやすい社会を作っていくにはどうすれば良いかを自分なりに考える。

授 業 名	アジアの文化	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	アジアの文化とは何か？東アジアについて	(学修内容) アジアの文化とは何かを概説します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) アジアに関連する本を図書館で探し読む。 (事後) 配布したプリントを読み返す。ノートを整理する。
第2回	フィールドワーク 事前学習	(学修内容) フィールドワークで行く博物館学習の内容を調べ発表する。 (事前事後学修課題の内容) (事前) レジューメを作成する。 (事後) 発表内容を整理し関心のある内容を探す。
第3回	フィールドワーク 博物館	(学修内容) 博物館を見学します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 調べた内容を振り返り問題点を見つけ出す。 (事後) 発見したことをまとめる。
第4回	フィールドワーク 事後学習	(学修内容) フィールドワークで発見したことや関心の持ったことをまとめて発表します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 発表用のレジューメを作成 (事後) 発表で指摘された事を踏まえレポート作成。
第5回	仏教伝来について	(学修内容) 日本への仏教伝来の過程について概説します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す。ノートを整理する。
第6回	仏教東漸について	(学修内容) 仏教はインドで生まれ、シルクロードを通し、中国、朝鮮半島を経由し日本に伝来しました。仏教東漸について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す。ノートを整理する。
第7回	アジア文化交流史	(学修内容) シルクロードを通して、中国へは世界の様々な文化が伝来しました。シルクロードを通じた文化交流史を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す。ノートを整理する。
第8回	日中交流史ー遣隋使と遣唐使	(学修内容) 隋の誕生と遣隋使、唐の誕生と遣唐使について学びます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す。ノートを整理する。
第9回	フィールドワーク 事前学習	(学修内容) フィールドワーク先について調べ発表します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) レジューメを作成 (事後) 配布したプリントを読み返す。ノートを整理する。
第10回	フィールドワーク 日中交流に関連のある場所	(学修内容) 日中交流史に関連のある場所にフィールドワークに行きます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 調べた内容を読み込み関心のあることをまとめる。 (事後) フィールドワークで得た知見をまとめてください。
第11回	フィールドワーク 事後学習	(学修内容) フィールドワークで発見した内容を発表します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) レジューメを作成する (事後) 発表で指摘されたことを踏まえレポートを作成
第12回	唐滅亡後の東アジア文化	(学修内容) 唐滅亡後の東アジア文化を学びます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 前回の内容を振り返りまとめておく (事後) 配布したプリントを読み返す。ノートを整理する。
第13回	フィールドワーク 事前学習	(学修内容) フィールドワーク先について調べ発表します。 (事前事後学修課題の内容) (事前) レジューメを作成 (事後) 配布したプリントを読み返す。ノートを整理する。
第14回	フィールドワーク 国風文化に関連のある場所	(学修内容) 国風文化に関連のある場所にフィールドワークに行きます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) 興味、関心のあることをみつける。 (事後) フィールドワークで得た知見をまとめる
第15回	フィールドワーク 事後学習、授業の総括	(学修内容) フィールドワークについて発見したことを発表します。またこれまでの授業の内容をまとめます。 (事前事後学修課題の内容) (事前) レジューメの作成 (事後) 発表で指摘されたことを踏まえレポートを作成。

授 業 名	多文化共生を考える			開講 学年	1回生	単位数	2単位	科目 コード	IC1205
英 文 名	Intercultural Cohesion			開講 時期	春学期		必修 選択	必修	
担 当 者	松尾 章子			対象 学生	総合文化1回生				
授業の概要	総務省（2006）は、「多文化共生」を「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」としている。交通手段や通信の飛躍的な発展に伴い、日本と世界との距離はとても近くなり、日本社会で暮らす外国人も増えている。本授業では、主に異文化コミュニケーションの基礎知識を学び、それを毎日の生活に活用するという視点から多文化共生を考えていく。周りの日本人とのコミュニケーション自体が異文化であることにも気づいてもらいたい。								
学修成果 到達目標	1）多文化共生・異文化コミュニケーションの基礎概念について簡単に説明できる。 2）多文化共生社会を目指す日本の課題を指摘することができる。 3）多文化共生を目指す地域社会のあり方や課題について意見を述べることができる。								
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 （1回の授業の事前・事後学修時間の計 4時間）								
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解				汎用的技能			
	○	態度・志向性				総合的な学習経験と創造的思考力			
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☒ ディスカッション・ディベート ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☒ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用（双方向型授業） ☐ I C T 活用（自主学習支援）								
評価方法	定期試験 （50%） ☐ 筆記試験 ☒ レポート ☐ 制作物 								

授 業 名	多文化共生を考える	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	日本のグローバル化と多文化共生	(学修内容) 授業の進め方・到達目標の説明・自己紹介 人の移動と文化・社会の多様性 (事前事後学修課題の内容) 事前: シラバスを読み、テキストに目を通して、興味のある部分を抽出 事後: 授業内容を自身に関連付けて考え、振り返りとしてまとめて提出
第2回	文化・異文化・多文化とは	(学修内容) 氷山モデル、トータルカルチャーとサブカルチャー (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストの第2,3章を読み、質問事項をまとめる 事後: 授業内容を自身に関連付けて考え、振り返りとしてまとめて提出
第3回	異文化適応	(学修内容) カルチャーショック、U字・W字曲線 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストの第4章を読み、質問事項をまとめる 事後: 授業内容を自身に関連付けて考え、振り返りとしてまとめて提出
第4回	シミュレーション	(学修内容) バーンガ体験 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストの第5章を読み、質問事項をまとめる 事後: 授業内容を自身に関連付けて考え、振り返りとしてまとめて提出
第5回	違いに気づく	(学修内容) 自文化中心主義、文化相対主義 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストの第6章を読み、質問事項をまとめる 事後: 授業内容を自身に関連付けて考え、振り返りとしてまとめて提出
第6回	異文化の認識	(学修内容) 固定概念、ステレオタイプ (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストの第7章を読み、質問事項をまとめる 事後: 授業内容を自身に関連付けて考え、振り返りとしてまとめて提出
第7回	差別を考える	(学修内容) イメージ、ステレオタイプ、偏見 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストの第8章を読み、質問事項をまとめる 事後: 授業内容を自身に関連付けて考え、振り返りとしてまとめて提出
第8回	世界の価値観	(学修内容) 価値観、対立 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストの第9章を読み、質問事項をまとめる 事後: 授業内容を自身に関連付けて考え、振り返りとしてまとめて提出
第9回	異文化トレーニング	(学修内容) ケースステディ、ロールプレイ他 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストの第10章を読み、質問事項をまとめる 事後: 授業内容を自身に関連付けて考え、振り返りとしてまとめて提出
第10回	異文化受容	(学修内容) 異文化受容の5つのステージ (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストの第11章を読み、質問事項をまとめる 事後: 授業内容を自身に関連付けて考え、振り返りとしてまとめて提出
第11回	自分を知る	(学修内容) アイデンティティ、ジョハリの窓 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストの第12章を読み、質問事項をまとめる 事後: 授業内容を自身に関連付けて考え、振り返りとしてまとめて提出
第12回	コミュニケーション	(学修内容) 非言語コミュニケーション、高コンテクスト文化・低コンテクスト文化 (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストの第13章を読み、質問事項をまとめる 事後: 授業内容を自身に関連付けて考え、振り返りとしてまとめて提出
第13回	アサーティブ・コミュニケーション	(学修内容) グループワーク (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストの第14章を読み、質問事項をまとめる 事後: 授業内容を自身に関連付けて考え、振り返りとしてまとめて提出
第14回	「やさしい日本語」	(学修内容) 「やさしい日本語」の内容と表現 (事前事後学修課題の内容) 事前: 「やさしい日本語」について調べてまとめる 事後: やさしい日本語の練習、振り返り提出
第15回	多文化共生社会の実現に向けて	(学修内容) 授業で学んで内容を振り返り、多文化共生社会の実現に向けて考える (事前事後学修課題の内容) 事前: テキストの第15章を読み、質問事項をまとめる 事後: レポート試験に向けてじゅんびする

授 業 名	世界の食文化		開講 学年	2回生	単位数	2単位	科目 コード	
英 文 名	Food Culture in the World		開講 時期	春学期		必修 選択	選択	
担 当 者	細辻 珠紀		対象 学生	総合文化2回生				
授業の概要	グローバル化が進む現代社会において、世界各国の多様な食文化を理解することは、重要なことである。 諸外国の食文化にふれることで、世界各国に興味を馳せていける人材の形成に役立てる。 更に、それらを踏まえて和食の伝統的文化を再認識することを目的とする。 パワーポイントを作成してプレゼンテーションし、各国の食文化について意見交換をして、授業を進めていく。							
学修成果 到達目標	1) 世界各国をアジア、オセアニア、中東、アフリカ、北米、中南米、ヨーロッパ、ロシアの各地域に分けて、代表的な国の食文化を理解する。 2) 歴史的な背景・地域の風土・食材・食事と食習慣等を知り、食文化についての理解を深める。 3) 世界の食文化を理解し、日本の和食文化を見直し、和食文化のの継承についての問題点と取り組みを考える。							
事前事後学修 について	各授業回に記載の「事前事後学修課題の内容」について取り組むこと。 (1 回の授業の事前・事後学修時間の計 4 時間)							
学 位 授 与 の 方針との関連		知識・理解		汎用的技能				
	○	態度・志向性	○	総合的な学習経験と創造的思考力				
アクティブ・ ラーニング 対象授業	☐ P B L ☐ ディスカッション・ディベート ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 実習・フィールドワーク ☐ I C T 活用 (双方向型授業) ☐ I C T 活用 (自主学習支援)							
評価方法	定期試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技			平常試験 (50%) ☐ 筆記試験 ☐ レポート ☐ 制作物 ☐ 口述 ☐ 実習 ☐ 実技				
評価基準	主たる評価 観点	☐ 知識・理解 ☐ コミュニケーション能力 ☐ プレゼンテーション能力 ☐ 課題発見・解決能力 ☐ 授業態度・参加意欲 ☐ (						

授 業 名	世界の食文化	
授 業 計 画	学修項目	学修内容・課題
第1回	オリエンテーション	(学修内容) 授業の進め方、世界の食文化について考える (事前事後学修課題の内容) 韓国の食文化を調べパワーポイントにまとめる
第2回	アジアの食文化 韓国の食文化	(学修内容) 作成したパワーポイントで発表する。韓国の食文化を歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 中国の食文化を調べパワーポイントにまとめる
第3回	アジアの食文化 中国・モンゴルの食文化	(学修内容) 作成したパワーポイントで発表する。中国・モンゴルの食文化を歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 東南アジアの食文化を調べパワーポイントにまとめる
第4回	アジアの食文化 東南アジアの食文化	(学修内容) 作成したパワーポイントで発表する。東南アジアの食文化を歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容) オーストラリア・ニュージーランドの食文化を調べパワーポイントにまとめる
第5回	オセアニアの食文化 オーストラリアの食文化 ニュージーランドの食文化	(学修内容) 作成したパワーポイントで発表する。オセアニアの食文化を歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容) インドの食文化、トルコの食文化について調べパワーポイントにまとめる
第6回	中東の食文化 インドの食文化 トルコの食文化	(学修内容) 作成したパワーポイントで発表する。トルコとインドの食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容) アフリカの食文化について調べパワーポイントにまとめる
第7回	アフリカの食文化	(学修内容) 作成したパワーポイントで発表する。アフリカの食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 北米の食文化について調べパワーポイントにまとめる
第8回	北米の食文化 アメリカの食文化	(学修内容) 作成したパワーポイントで発表する。北米の食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 中南米の食文化について調べパワーポイントにまとめる
第9回	中南米の食文化	(学修内容) 作成したパワーポイントで発表する。中南米の食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容) イタリアの食文化について調べパワーポイントにまとめる
第10回	ヨーロッパの食文化 イタリアの食文化	(学修内容) 作成したパワーポイントで発表する。イタリアの食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容) フランスの食文化について調べパワーポイントにまとめる
第11回	ヨーロッパの食文化 フランスの食文化	(学修内容) 作成したパワーポイントで発表する。フランスの食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容) スペインの食文化について調べパワーポイントにまとめる
第12回	ヨーロッパの食文化 スペインの食文化	(学修内容) 作成したパワーポイントで発表する。スペインの食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容) イギリス・ドイツの食文化について調べパワーポイントにまとめる
第13回	ヨーロッパの食文化 イギリスの食文化 ドイツの食文化	(学修内容) 作成したパワーポイントで発表する。イギリス・ドイツの食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容) ロシアの食文化について調べパワーポイントにまとめる
第14回	ロシア・極北の食文化	(学修内容) 作成したパワーポイントで発表する。ロシア・極北の食文化について歴史・風土・地域性等から考え、食材・料理・食習慣について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 和食文化についてパワーポイントにまとめる
第15回	世界から見た和食文化	(学修内容) 作成したパワーポイントで発表する 世界の食文化を土台として和食文化を継承の課題について学ぶ (事前事後学修課題の内容) 今、なぜ、和食文化の継承に危機感がもたれているか、われわれが今後なすべきことは何かを考える